

Fig.118 SD388-2~4区・土層ベルト出土土器 (1/4)

**SD471** (Fig.94, PL.58) 高所部O-24区で検出した小溝。長さ7m、最大幅1.5m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色粘土で地山ブロックを含む。

**出土遺物** (Fig.120・131・133) 弥生時代前期前半の土器や黒曜石剥片・石胞丁片などが出土。

349は突帯文の深鉢で、外面貝殻条痕、内面はI具ナデかケズリ調整。夜白IIb期のもの。350は上げ底の底部で中期前半の城ノ越期もの。ナデ調整で外面指押え痕が残る。

451は管状土鍾片。残存長2.6cm、径1.9cm、孔径0.6cmを測る。ナデ調整で、孔は植物の茎などで開けたものか、孔がやや曲がる。

S16は石廬丁未製品片。粗割加工段階の厚み7mmの薄板で、直径約1cmの未開通の孔が残る。泥岩か砂岩系の変成岩か。

**SD481** O-23区で検出した東西方向の小溝。長さ10m、幅1m、深さは最大20cmを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.120-134, PL.106) 弥生土器や古墳時代土師器、黒曜石剥片などが出土している。

351は古墳時代前期の上師器鉢。外面ハケ目後ナデ、内面はナデ調整。

S30は凹基の石蓋。鎌身長2.9cm、幅1.9cm、厚み0.2cmを測る。両側に細かい二次調整が入る。石材はサヌカイト。

SD482(PL.58) SD481の北側で東西方向に平行する溝。長さ9m、幅0.8~1.8m、深さ0.35mを測る。埋土は黒色粘土である。SD471・481と平行しており第3面と同じように重機のキャタピラ痕の可能性がる。前期の土坑SK517と重複する。

出土遺物(Fig.121, PL.92) 弥生時代前期から中期の上器や黒曜石の剥片が出土している。前期の遺物はSK517からの可能性がある。

352~354は前期板付I式期の壺。352は小型壺。口縁部は肥厚する。内外面ヘラミガキ調整。353・354は中型の壺で、別々の破片であるが、同形態と思われる。頸部と胴部に段を持つ。外面ヘラミガキ、内面はナデ又は板ナデ調整。355は壺か甕の円盤貼り付けの底部。外面には木の薪圧痕が残る。356・357は甕。356は板付I式期の小型甕。口端部にはヘラによる刻目が付く。内外面の調整はナデ。357は板付II式期の甕。口端部は平坦で、下端に刻目が付く。358~361は突帯文土器の夜白IIb期の甕。358は口縁部に刻目突帯が付く。外面貝殻条痕、内面はナデ調整。359は口縁部と胴部に1条ずつ刻目突帯を巡らす。胴部外面はハケ目、内面はナデ調整。いずれも刻目はハケ目工具による。360は内傾する口縁部に刻目突帯が付く。外面貝殻条痕、内面はナデ調整。361は内側に屈曲する胴部で復元調整は19.5cmを測る。屈曲部には刻目突帯が1条走る。外面は貝殻条痕、内面はナデ調整。刻目はハケ目工具によるものが358・359、ヘラによるものが360・361である。362は口縁部が肥厚する小型の浅鉢。外面はヘラミガキと板ナデ、内面はナデとミガキ調整。363は高坏。口縁部が底部から段をつけて外反して開く。内外面ヘラミガキ。364は裾端部が外反する脚部。外面ハケ目、内面ナデ調整。

SD493(PL.58) 調査区P-24区で検出した小溝。全長6m、最大幅1m、最大深さ0.2mを測る。埋土は黒色シルトで、下層に灰オリーブ粘土を混入する。

出土遺物(Fig.121) 弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器が出土するが、前期のものが多い。

365は土師器の高坏脚部。やや摩滅するが内外面はヘラミガキ調整。366は突帯文土器の夜白IIb式の深鉢。口縁の突帯はハケ目工具による刻み。内外面ハケ目調整。367は甕の底部。外面ハケ目、内面はナデ調整。368は甕の胴部片。屈曲部にヘラによる刻目が付く。外面ハケ目でススが付着し、内面ハケ後ナデ調整。

SD497 P-Q-24区で検出した小溝。SD444の延長上にあるので、同一の遺構の可能性がる。SK496に切られる。規模は幅12m、幅0.4~1.2mを測り、深さは浅く最大で5cmである。埋土は黒褐色粘土である。

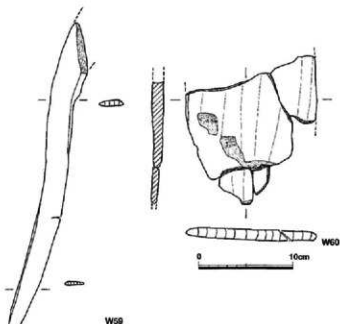


Fig.119 SD388出土木製品 (1/4)

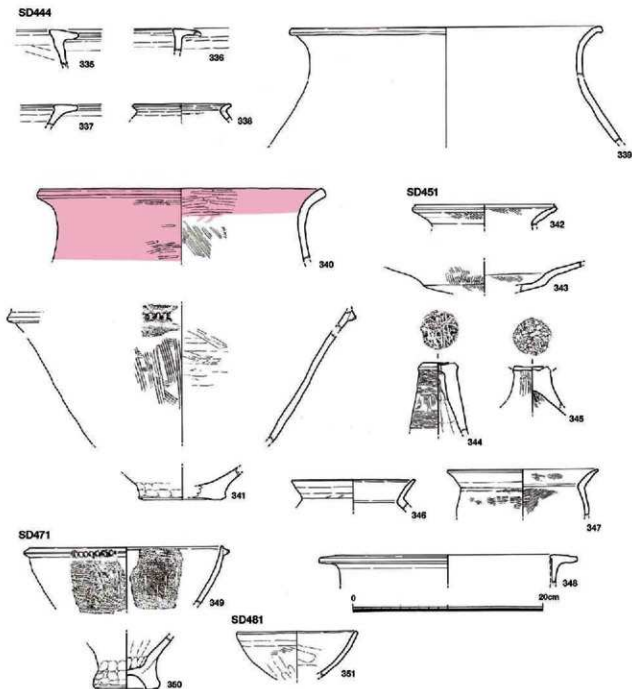


Fig.120 SD444・451・471・481出土土器 (1/4)

出土遺物(図121, PL.92) 弥生時代前期から中期にかけての土器が出土。出土量は少ない。

369・370は甕の底部。369は底部が厚手で平底。369はやや上げ底。調整は外面ハケ目、内面はナデ。370の外面にはへら刻みで文様が入る。

SD506 Q-23~R-23区で検出した略北方向に延びる小溝。高所部周辺を巡る溝で、西側はSD369に切られ、また柱穴と切り合う。確認長は12.5m以上、幅は0.3~0.5m、深さは最大で5cm位である。埋土は黒褐色粘土である。SD507と合流するが、切り合い関係はわからなかった。SD506がSD510につながる可能性が強いことや、遺物がSD507より新しい時期のものを含むことから、SD507より新しいと考える。

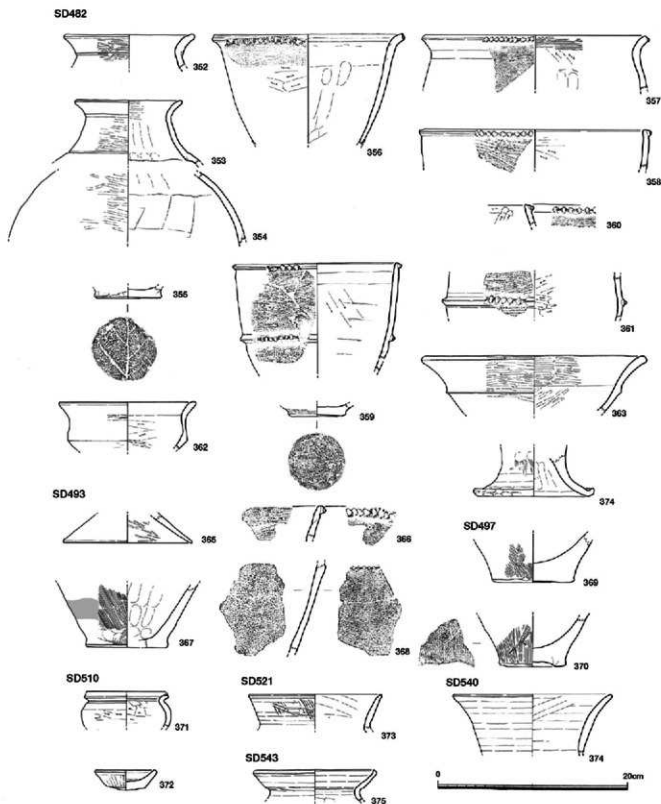


Fig.121 SD482・493・497・510・521・540・543出土土器 (1/4)

出土遺物(Fig.122・133・134, PL.92・107) 弥生時代前期から後期、古墳時代前期の土器や、石廬丁、黒曜石剥片や図示していないが袋状鉄斧と思われる鉄片が出土している。

376～379は、刻目突帯文土器の夜白IIb式の甕。いずれも口縁部に棒状工具による刻目突帯が付

く。口縁部は375が直立、377・379がやや内傾する。378は胴部片で、屈曲部には刻目突帯が付く。外面調整は376・378はハケ目で、377・379は貝殻条痕。内面調整はナデ。380・381は板付1式の甕口縁部。如意形の口縁端部には刻目が付く。内外面ハケ目後ナデ調整。外面下半は摩滅する。382～385は前期の高杯。382は口縁部で、口縁部外面は細かなハケ目、体外面と口縁内面はヘラミガキ、体内面はナデ調整。383・384は大型の脚部で、外面ヘラミガキ、内面はハケ目後ナデとナデ調整。いずれも外面に黒斑がある。385は杯と脚の接合部。三角突帯が巡る。ヘラミガキとナデ調整。386は古墳時代前期の二重口縁壺。口縁部内外面はヘラミガキ調整。387は弥生時代後期中頃の複合口縁壺口縁部。口縁部はヨコナデ、頸部外面は粗いハケ目、内面はハケ目後ナデ調整。388は土師器の小型の鉢。内外面摩滅が進むがヘラミガキ調整。

S24は扁平な隅丸長方形形状の磨石である。縦長12.7cm、横長8.2cm、最大厚4.5cmを測る。全面使用などで摩滅し、上面は使用擦痕、底面と下小口部には敲打痕が残る。S25は石鎌片。残存長8.2cm、幅4.4cm、厚み0.4cmを測る。表面の剥落はひどい。石材は砂岩。S32は半月形を呈す小型の不明石器。縦長1.2cm、横長2.0cm、厚み0.3cmを測る。全面丁寧な調整を加える。黒曜石で、何かの組み合わせ石器か。突帯文期以前のもの。

SD507(Fig.123, PL.56) 調査区中央部SD505の南西側で、SD506に北側で接する北西から南東方向に主軸を取る、長方形プランの溝状遺構である。規模は長さ6.84m(SD506との合流部迄では約9m)、幅は1.17m、深さ最大0.21mを測る。遺構は3ヶ所柱穴で切られる。埋土は西側壁際に粘性を持つ褐色土色が流れ込んだ後、下層の黒褐色土、上層のややしまりが弱い黒色土の順に堆積している。

出土遺物(Fig.124・125・131・133, PL.92・93・95) 底面付近からまとまって刻目突帯文甕を中心に多くの遺物が出土した。主な遺物の出土位置は遺構図上に示した。

389～403は刻目突帯文土器の甕。389～395・398・402は屈曲型二条突帯文甕、397・399・400は小型の1条突帯文甕、396は1条突帯文甕、403は突帯文甕底部である。二条突帯文甕は器形が屈曲部からやや内湾気味に垂直方向に立ち上がるもの(389～391)、ほとんど屈曲せず口縁部に至るもの(391・392・394)、屈曲部から口縁部まではほぼ垂直に立ち上がるもの(393・394・402)など若干違いがある。しかし、口縁端部に接するように突帯を貼り付け、突帯やや深めから中程の深さに棒状工具を押し付けて刻目をつける点で共通性が高い。また、基本的に外面横方向の貝殻条痕調整を施し、軽く上からナデを加え、内面は横方向の貝殻条痕調整後、丁寧にナデを加える。屈曲部内面には粘土紐接合の痕跡が残る、屈曲部まで一旦成形・調整をした後、それより上部が成形されたことが分かる。突帯の貼り付け位置と調整の特徴は他の突帯文甕にも共通する。このように共通の特徴を持つものが多いが、中には393・397・399のように調整・胎土等で他と異なるものも少量存在する。393は他の突帯文土器が貝殻条痕によって調整されるのと同じ手法で横方向にハケ目調整を連続的につける。397は外面縦方向のハケ目調整、内面横方向のハケ目調整調整を施し、突帯の刻目突帯貝殻条痕を押し当ててつける。色調も他より黄色み少し強く、弥生土器的な色調を呈す。399は胎土が緻密で、白っぽく堅緻に焼き上げられ他と比べ異質な土器である。底部から口縁部まで直線的に開き、口縁端部外面に非常に薄く突帯を貼り付け、内側を強くヨコナデして外反口縁のような形状を作る。内外面貝殻条痕調整後、胴下部以外丁寧なヨコナデにより条痕がきれいに消される。外面口縁部下は上から下に板状工具によるナデが加えられ、工具の当たり痕が残る。磨津市の栗畑遺跡でこれに近い土器が一定量出土しており、その方面からの搬入品の可能性がある。404は完形の如意形口縁の甕。面取りしない薄い口縁部に端部全面に刻目を付け、胴があまり張らず板付1式甕の範疇でとらえられよう。外面は右下から左上へのハケ目調整を連続的につけ、内面は斜め方向

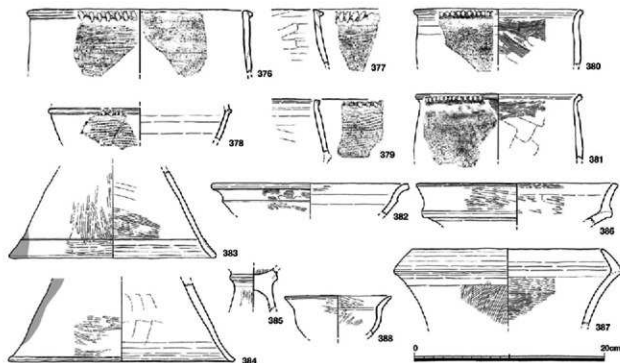


Fig.122 SD506 出土土器 (1/4)

のハケ目調整後ナデを加える。口縁部内面はヨコナデによって調整される。器面が薄く、色調も黄褐色で、胎土に石粒を多く含み、同じ遺構から出土した突帯文土器とはかなり異なる。405は如意形口縁甕の口縁部の破片であり、厚減が激しい。口縁端部全面にヘラにより丁寧に深く刻目を施す。406は大型の精製深鉢で、胴上部で屈曲させ、外反しながら口縁部に至る。口縁部外側に粘土を薄く貼り付け肥厚させ、下に段を付ける。口縁部外面はヨコハケ、それ以下はナデ後粗くヘラミガキ、内面は丁寧な横方向のヘラミガキを施す。407は完形の丹塗り大型壺。口縁部は外反させて、端部を丸く取って肥厚させない。頸・胴部間には薄く段が付けられ、胴部は大きく外面に張り出す。外面はハケ目調整後ヘラミガキを施され、底部付近は縦方向のハケ目調整が残る。外面全面及び内面口縁部3cm程に丹塗りが施される。408は大型壺の底部で、円盤貼付形に成形する。409は精製小型壺の口縁部で、口縁・頸部間に横方向の沈線を施す。内外面横方向のヘラミガキを施す。410は精製小型壺の底部から胴下部で、底部は円盤貼付形に成形する。411は高坏。坏部上部で屈曲し、口縁部にかけて外反する。坏部と脚部の間に三角突帯を貼り付ける。外面ハケ目後ナデ消し、上から横方向のヘラミガキを施す。坏部内面はナデ後ヘラミガキ。脚部内面は指でナデ上げる。412は高坏の脚部で外面は縦方向のナデ、内面は横方向のナデ。脚部先端部は内外強いヨコナデが加えられる。脚部と坏部間は指押え痕が残り、411のような突帯は付けられない。413は丹塗りの大型壺の胴部で、頸・胴部間に薄く段があり、胴部は丸みを持って外側に張る。外面は横方向のハケ目後ナデ消し、粗く横方向のミガキを加える。内面は頸部が横方向のハケ目、胴部が横から斜め方向のハケ目で、部分的にナデ消される。内外面共に頸・胴部間で調整の方向が変わっており、胴部まで成形・調整後に頸部の成形を行ったことが分かる。(所)

452は土製紡錘車で、直径5.5cm、厚さ1.5cm、孔径は0.45cmを測る。丁寧なミガキ仕上げである。

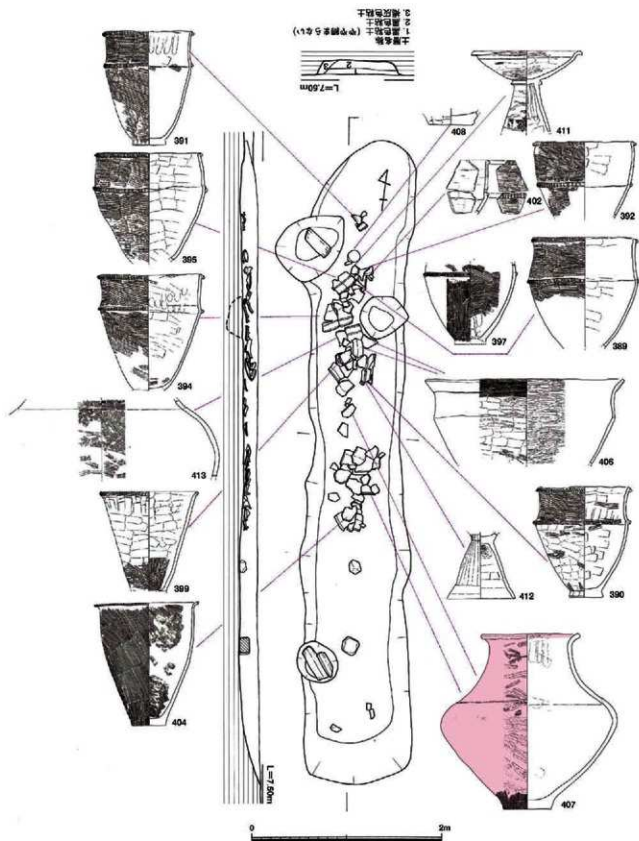


Fig.123 SD507 (1/40)

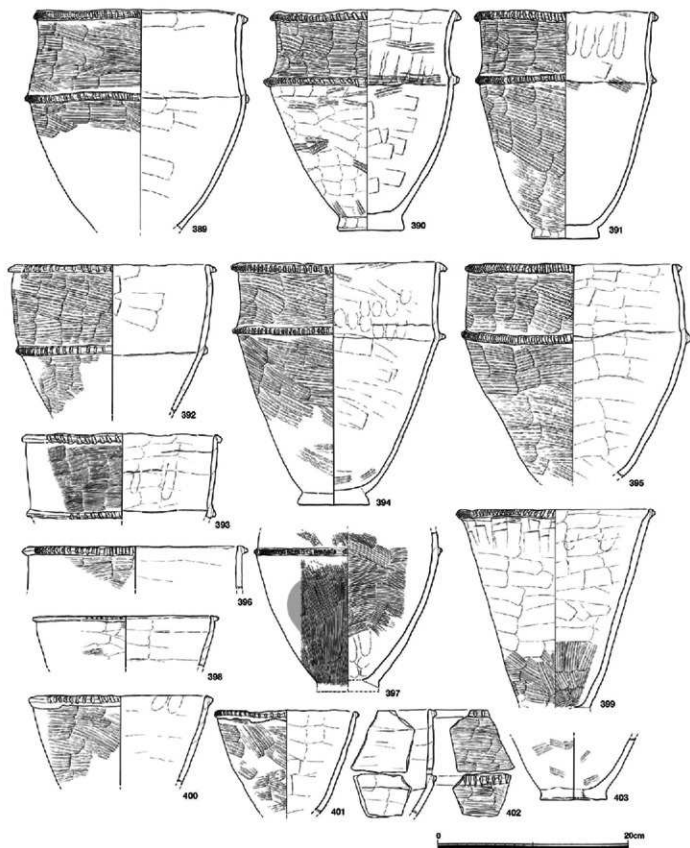


Fig.124 SD507出土土器 ① (1/4)



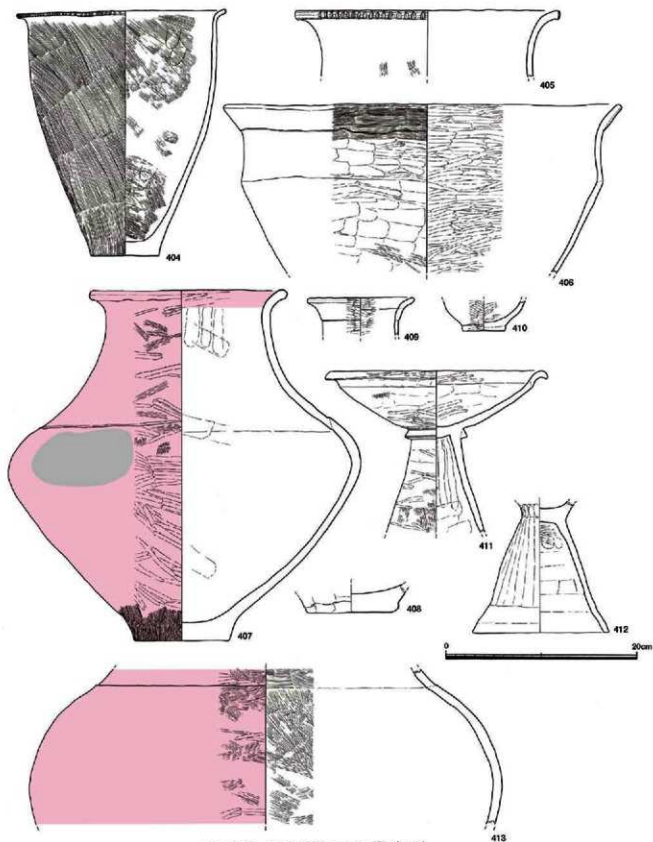
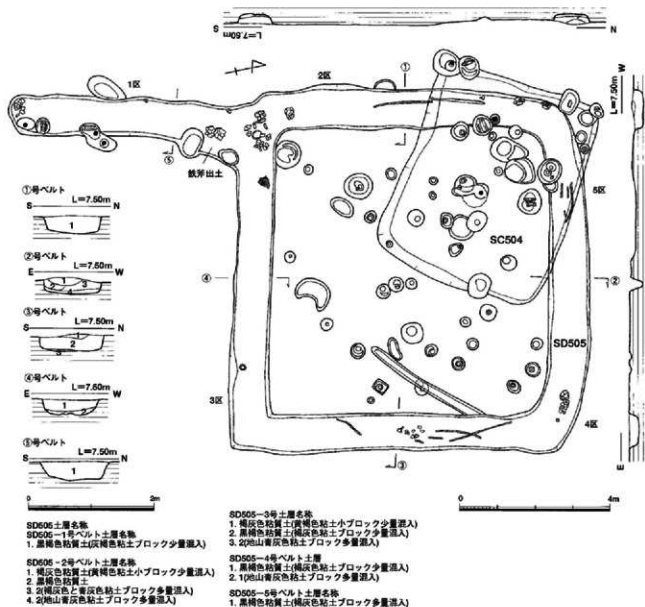


Fig.125 SD507出土土器② (1/4)

S33は上部が丸く、下部が尖る剥片。断面三角を呈す。全長3.9cm、幅2.9cm、厚さ1.1cmを測る。剥離面はかなり風化が進んでおり、時的には古いか。



SD510(PL.58) S-21区～R-19区上で検出した蛇行する南北方向の小溝。北はSD369に切られる。規模は幅0.4m前後、深さは浅く7cm前後である。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(FIG.121) 弥生時代中期から古墳時代前期の土器が出土した。

371は古墳時代前期の土師器壺。瀬戸内系と思われる、口縁部は屈折して上方に立ち上がる形態。外面から口縁部内面はヨコナデ、内面はヘラケズリ調整。372は弥生時代後期と思われるの小型鉢。口縁部外面はヘラミガキ、内面はナデ調整。

SD521 SD369南西端から南西方向に延びる小溝。確認規模は9m、幅は0.3～0.8m、深さは浅く2～7cmを測る。埋土は黒灰色粘土で下部に砂を含む。

出土遺物(FIG.121) 弥生時代中期から後期の土器が出土している。

373は後期の甕口縁部。外面ハケ目後ヨコナデ、内面ヨコナデ調整。

SD540出土遺物(FIG.121) 弥生時代後期から古墳時代初めの土器が出土。

374は弥生時代後期の壺。調整はヨコナデ。

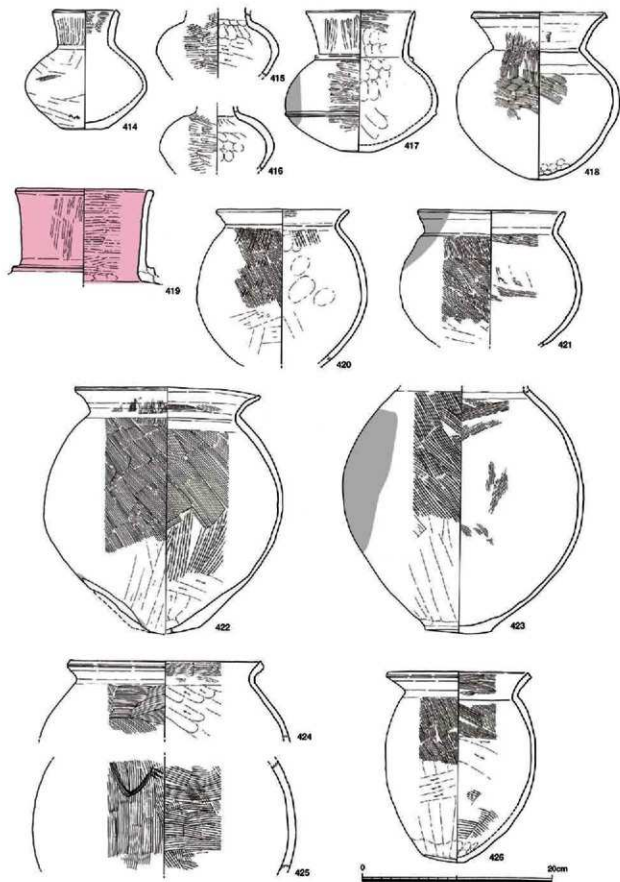


Fig.127 SD505出土土器 ① (1/4)

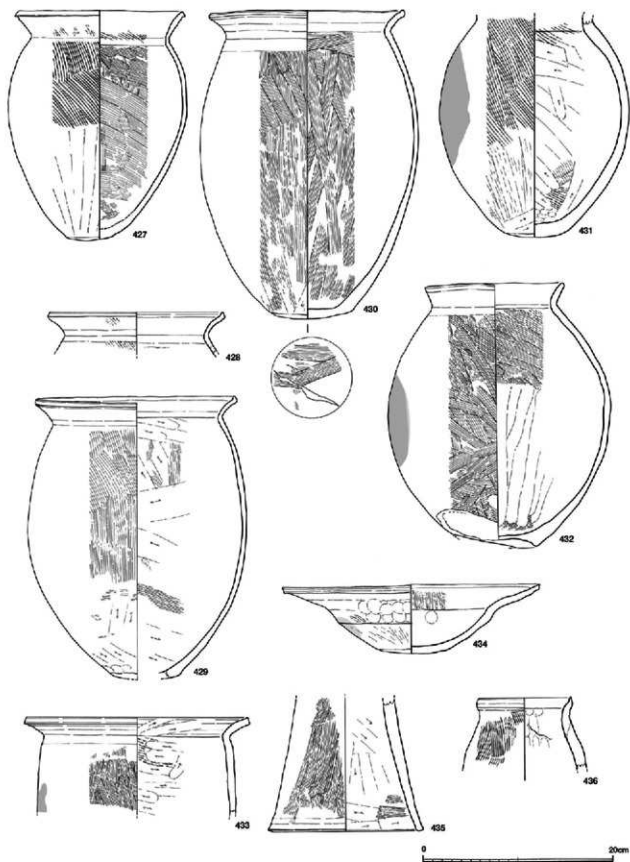


Fig.128 SD505出土土器 ② (1/4)

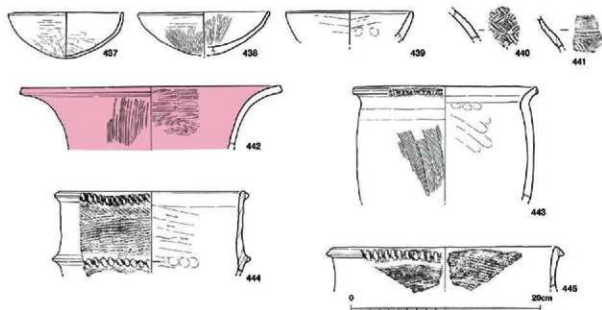


Fig.129 SD505出土土器 ③ (1/4)

SD543出土遺物 (Fig.121) 弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土。

375は前期の布留式土器の小型甕。調整はヨコナデ。

SD602出土遺物 (Fig.133) S26は叩き石で長方形を呈する。縦長13.8cm、横長8.6cm、最大厚4.0cmを測る。上底面と上下小口面に使用による敲打痕が残る。石材は砂岩。

#### 方形周溝状遺構

SD505 (Fig.126, PL.57・58) 高所部のP-23・Q-23区で検出した遺構で、一辺が8.5~9.5mを測る方形に囲む溝とその西隅から6m程延びる溝で構成される。溝幅と深さは方形部で0.85~1mと0.2~0.25m、張り出し溝で1.1mと0.4mを測る。溝の断面形は箱型もしくは逆台形で、底面はほぼ平坦である。北東隅でSC504に切られる。方形溝内には明確にそれに伴う遺構などは確認出来なかったが、柱穴などが検出された。埋土は黒褐色粘質土が主体で、下層部分は地山粘土ブロックを混入する。特に南東側溝底には小枝や藁などを含む植物層が薄く堆積していた。

#### 出土遺物 (Fig.127~130・133・

134, PL.94・95・106・107) 弥生時代後期の完形品を含む土器や鉄製品・石製品などが、四隅を中心にまとまって出土した。遺物から遺構の時期は弥生時代後後半か。

414~419は甕である。419以外は小型壺。414はほぼ完形で、算盤形の胴部から直立気味に開く形態。調整は口縁部外面はヘラミガキ、胴部上半はハケ後ナデ、下半から底部はナデで、口縁部内面はハケ目後ナデ。415・

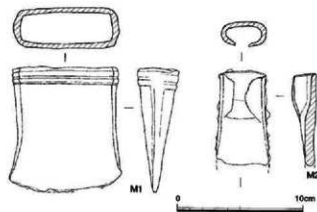


Fig.130 SD505出土鉄製品 (1/3)

416は414と同形態の胴部片。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整である。417も413とほぼ同形態であるが、頸部と胴部中央下部に1条ずつヘラによる貼付の刻目突帯が巡る。調整は、外面は口縁部から胴部下半上部まではヘラミガキ、下半から底部はナデ、内面は口縁部ハケ目後ヨコナデ、胴部はナデ。胎土に金雲母粒をわずかに含む。418はやや長胴の胴部から「く」字状に外反する口縁、底部は丸底気味。調整は外面は口縁部ヨコナデで、下半から頸胴部上半は細かいタテハケ目、胴部中央はヨコハケ、胴部下半は丁寧なナデ。内面は口縁部から胴上半はヨコハケ後ナデ、胴部下半はナデ。外底部黒斑がある。419は頸部に三角突帯が付く直口壺の口縁部。内外面丁寧なヘラミガキ。胴部内面はナデ調整。赤色顔料が内外塗布されていたが、口縁内面に残る。420~433は甕。420・421は胴部が丸い小型甕。外面の調整は420が口縁部ヨコナデ、胴部上半タタキ後ナナメハケ目、下半がナデ。内面は口縁部ヨコハケ後ナデ、頸部内面タテハケ目後ナデ、胴部内面は丁寧なナデで当て具痕の窪みが残る。421は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面はタテ・ナナメハケ目、胴部内面はハケ目後ナデ。420の外面はススが附着し、421には黒斑がある。422・423は中型で胴部が張る形態。422は口縁部が外反するが、歪みが有る。調整は口縁部内外面ハケ目後ヨコナデ、胴部上半はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、底部はナデ。胴部内面はハケ目で、下半部のハケ目は粗い、内底部はナデ。423の調整は外面上半ハケ目、下半は板ナデ、内面はハケ目かハケ目後ナデ。黒斑がある。424は口縁部で口端部は平坦。調整は口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケ目。口縁部内面はハケ目後ヨコナデ、内面はナ

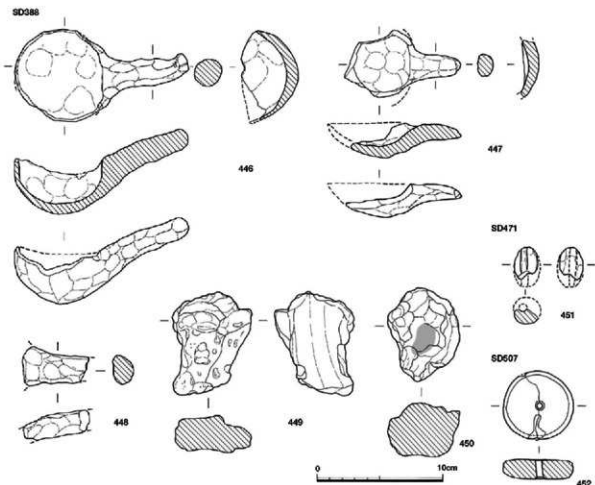


Fig.131 SD388・471・507出土土製品 (1/3)

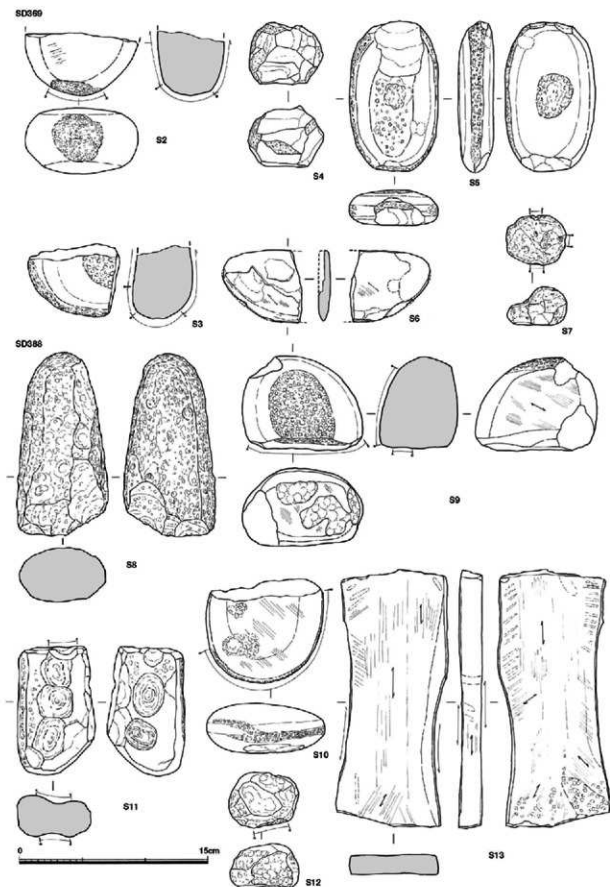


Fig.132 SD369・388出土石器・石製品 (1/3)

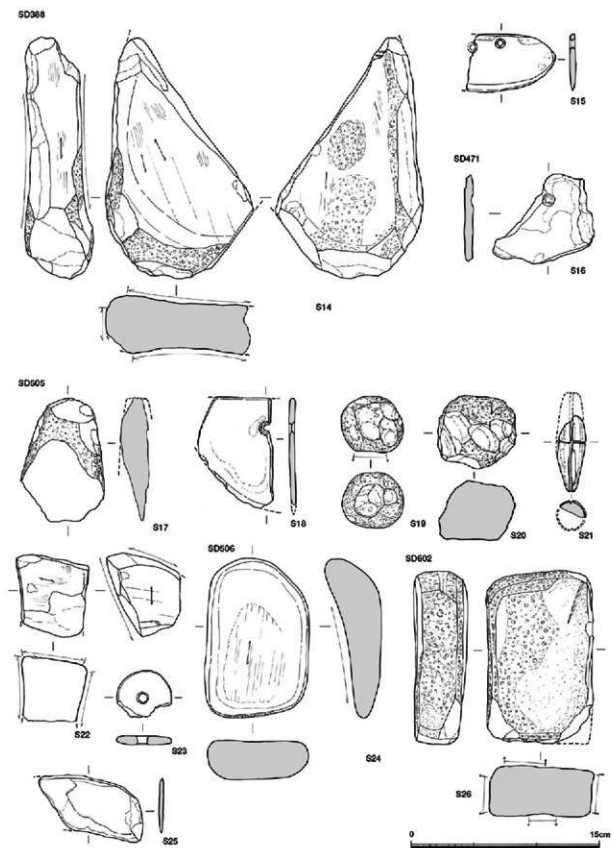


Fig.133 SD388・471・505・506・602出土石器 (1/3)



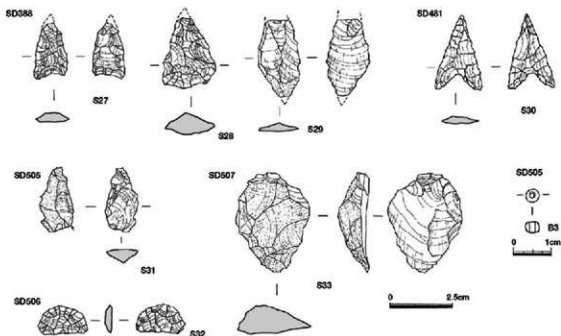


Fig.134 SD388・481・505～507出土石器(2/3)・出土玉(1/1)

デ。425は胴部片。内外面ハケ目調整で、外面には鉤状の平行沈線と3本並行する稜刻がある。426～434は長胴型で凸レンズ状の底部を持つ。426～428は小型型。426・427はほぼ完形。いずれも調整は外面は口縁部ハケ目後ナデ、胴部上半はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、内面は口縁部ハケ目後ナデ、胴部は426の上半がハケ目、下半がハケ目後ナデ、427がハケ目で軽くナデる。外面上半にはススが付着する。428は口縁部で、口縁端部が上方に内屈する。外面ハケ目後ナデ。内面はナデ調整。429・430は中型で長胴型である。429の口縁は428と同形態。調整は外面口縁部はヨコナデ、頭部から胴部中頃まではハケ目後ナデ、下半はタタキ後ナデ、底部はナデ、内面は口縁から頭部までがヨコナデ、胴部下半迄がハケ後丁寧なナデ、下半から内底がナデである。430はやや歪むがほぼ完形。調整は口縁部内外面はヨコナデ、胴部から底部内外面はハケ目後ナデ。外面ススが付着する。431は口縁を欠くが器壁が厚手である。外面は胴部中央迄粗いハケ目後ナデ、下半迄は粗いハケ目後板ナデ、外底はナデ、内面頭部は粗いハケ目、胴部内面はナデ、下半はハケ目後ナデ。432は底部を欠く。調整は口縁内外面ヨコナデ、胴部外面はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、タタキ痕が残る。胴部内面上半はハケ目、中央から下半はハケ目後板ナデ。底にはハケ目が残る。431・432共外面に黒斑がある。433は口縁部。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ目後ナデ、胴部内面上半はハケ目後ナデ、その下はナデ。外面黒斑がある。434は鉞。丸味を持った底部から屈曲して口縁部が開く形態。調整は外面は口縁から底部迄ナデ、内面はナデで、口縁部はヨコナデ後ヘラミガキ。外面黒斑とタタキ痕が残るか。435・436は器台。435は胴脚部で、外面はハケ目、内面はナデ調整で、脚裾にはハケ目が残る。436は口縁部。口縁部内外面はヨコナデ、外面はハケ目、内面はナデでシボリ痕が残る。437～439は同形態の腕形の鉞。437の口縁部内外面はヨコナデ調整。438・439の内外面はナデ調整。440・441は前期の壺の胴肩部細片。440はナデ調整で無軸の羽状文を施す。441は3本の平行沈線と山形文が入る。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。442は須玖Ⅱ式の丹塗りの広口壺口縁部。外面丁寧

卑なナデ、内面はヘラミガキ。外面の赤色顔料はほとんど剥落する。443は前期板付Ⅱ式の甕で、口縁部内外面はナデ、胴部外面はハケ目後ナデ、内面はナデ調整。444・445は夜臼Ⅱb式期の刻目凸帯文土器の壺口縁部。444は口縁部と胴屈曲部に2条、445は口縁部に1条の貼付刻目突帯が巡る。444の外面は貝殻条痕で、内面はナデ調整。445は内外面貝殻条痕で、外面は条痕後ナデを加える。

S17は磨製石斧の欠損品。残存長9.75cm、最大幅6.5cmを測る。表面の欠損は著しい。S18は三角形を呈する大型の石砲丁片。厚みは0.4cmを測る。研磨仕上げであるが欠損風化が著しい。石材は泥岩か。S19は礫石又は石弾。直径5cm弱の石材を叩き使用し、敲打痕が残る。石材は緑泥片岩。S20は石弾か。打表面と使用による敲打痕が残る。石材は頁岩である。S21は有溝石錘片。残存長6cm、残存径2.1cmを測る。表面は丁寧な削り。S22は砥石片。上・底面、左右両側面と上小口面が砥面。S23は1/3が欠けた紡錘車である。直径4.3cm、孔径0.9cmを測る。表面は平滑に仕上げる。S31は二次調整が加えられた剥片。全長2.5cm、幅1.4cm、厚み0.6cmを測る。片面は風化の古い剥離面である。腰岳産と思われる黒曜石である。

M1・2は袋状鉄斧。M1は鑄造鉄斧で、刃部がやや欠損するがまさかり形を呈す。全長10cm、刃幅8.8cmを測る。基部には2条の突帯が巡り、断面は両端が稜を持つ長方形を呈す。M2は錆がひどく刃部は欠損する。袋部は折り曲げて作り出す。全長7.5cm、刃幅は4.1cm、袋部の幅は3.6cm、高さ1.9cmを測る。

B3は上層から出土したガラス小玉。直径3.5mm、高さ3mm、孔形1.5mmを測る。色調はスカイブルーを呈す。

#### ④ 土坑(SK)

SK384(PL.59) M・N-22・23区で調査区東壁にかかる土坑。東から西方向に主軸を取る不整楕円形プランの土坑で、規模は長軸長6.4m以上、短軸長3.6m、深さは最大で約1.6mを測る。湧水が激しく底面は軟弱である。南隅をSD388に切られる。遺構は第Ⅲ面で検出した。上面は黄褐色粗砂礫に暗灰色粘土ブロックを含み、下層は湧水でグライ化した灰色粘土で、壁の崩落土を混入していた。

出土遺物(図.136・155・156、PL.97・107・108) 上層から最下層まで弥生時代前期から古墳時代前期にかけての遺物を含み、古墳時代前期のものが中心である。土器の他に黒曜石剥片2点が出土した。

453・457は高坏の脚部。454・455は器台の脚部で、いずれも脚部中程に焼成前穿孔が施される。古墳時代前期に位置づけられる。456は弥生時代前期の高坏脚部。458は古墳時代前期の鉢。459は古墳時代前期の壺口縁部で、内外横ナデ調整。460・461は古墳時代前期の椀。460は外面丁寧な横ナデ、内面細かいハケメ調整。461は外面ナデ、内面丁寧なナデ。462は手捏ねの小型の鉢完形品。外面は指で押さええられた後、工具によりナデられる。463は古墳時代前期の鉢で、外面胴部上半は斜め方向のハケメ調整、胴部下半は下から上へのヘラケズリ。内面胴部は細かい斜め方向のハケメ。頸部がすばまり、口縁部外面横ナデ調整、内面横方向ハケメ調整により、口縁部が外反するように成形される。464は古墳時代前期の壺で、外面胴部下半はナデ、胴部上半は斜め方向のハケメ、頸部は上から下へのハケメ調整を施す。内面胴部はハケメ後ナデ調整。頸部ですばまり、「く」の字形に屈曲して口縁部は外反する。口縁部外面は横ナデ調整、内面は横方向ハケメ後ナデ調整。465は古墳時代前期の甕の口縁部で、頸部がすばまり、「く」の字形に屈曲し口縁部が外反する。内外横ナデ調整。

S34は砥石。一部欠損するが楕円形を呈す形態。縦長23.25cm、最大幅は14.4cm、厚みは1.9～3cmを測る。上・底面と左右側面は砥面として使用。上下両小口面は粗潤調整面。使用擦痕が明瞭に残

る。石材は目の細かい砂岩である。仕上げ砥石か。

B4はガラス小玉片。直径4mm、高さ0.4mm、孔径は1mmである。

**SK448**(Fig.135, PL.59) N-25区で検出した土坑。南北長1.16m、東西長1.08mを測る隅丸方形プランで、深さは最大0.32mを測る。埋土は上層が明緑灰色地山粘土ブロックを混入した黒色粘土、中層が黒色粘土と明緑灰色地山粘土の混合、下層が明緑灰色地山粘土に黒褐色粘土ブロックが混じる。北側一部は上層まで堆積後、掘削され黒褐色粘土層と黒色粘土と黒褐色粘土の混合層が入る。貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物**(Fig.136) 弥生時代前期から中期までの土器小片が少量出土した。

466は円盤貼付形の小型壺の底部。外面底に木葉圧痕がつく。弥生時代前期のものである。

**SK459** M-25区調査区東壁で検出され、東側の調査区外に続く。主軸は北東から南西方向に取り、楕円形状プランを呈する。規模は長軸長1.12m、短軸長0.46mを、深さは最大で0.39mを測る。埋土は黒色腐植粘土である。

**出土遺物**(Fig.136) 弥生前期の土器小片が少量出土。

467は弥生前期の壺の破片。二本の横走する沈線の下に三本の沈線からなる山形文を施す。摩滅するが丹塗磨研を施したようである。

**SK460**(Fig.137, PL.59) M・N-25・26区で検出した土坑。主軸をほぼ北から南に取り、平面形は長軸方向に長い、不整楕円形を呈す。規模は長軸長7.48m、短軸長1.54mを測る。深さは最大0.24mを測る。南北がテラス状にやや高くなる。埋土は上層が黒色粘土、下層が炭化物を含む黒色粘土、最下層が暗オリーブ灰色粘土。土器は大部分上層の中程からまとも出土した。出土地点がはっきりしているものについては、図面上で示した。

**出土遺物**(Fig.138・139・154・155・156, PL.97・108) 刻目突帯文期・弥生前期前半～中葉の土器が多量に出土し、刻目突帯文甕と如意型口縁甕が共に出土している。他に黒曜石剥片なども出土した。

468～470は屈曲型二突突帯文甕で、全て屈曲部内面に粘土紐の接合痕が残る。468は屈曲部でほとんど屈曲せず、わずかに外側に開きながら口縁部に至る。外面は横方向の貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整後、横方向にナデる。刻目は棒状工具を押しつけ深く刻む。469・470は屈曲部からやや内湾しながら口縁部に至る。469は外面貝殻条痕調整、屈曲部以下は強い横方向のナデにより条痕が消される。内面はナデ調整。刻目は棒状工具を押しつけ深く刻む。470は内外面横方向のナデ調整。刻目は棒状工具を突帯中程まで押しつける。471は突帯文甕口縁部破片。外面貝殻条痕調整、内面ナデ調整。刻目ハケメ工具を押し付ける。472・473は如意型口縁の板付式甕。472は外面縦方向のハケメ調整後、横方向の丁寧なナデによってハケメを消す。内面は横方向の丁寧なナデ調整。刻目はヘラ状工具により密に口唇部全面に付けられる。473は外面縦から斜め方向のハケメ調整後、ナデにより大部分消される。内面は縦ハケメ後、丁寧なナデ消し。口縁外反部の内面には横方向の細かいハケメがはっきり残り、口縁先端部内面には強い横ナデが加えられる。横方向の強いハケメを一周させて口縁を外反させ、その後横ナデによって、口縁先端部の形を整えたと考えられる。471・472共に口唇部全面に刻目をつけ、口縁部の器面も比較的薄い。胴部が少し張るなど古式の板付I式甕よりは若干新しい特徴を持つ。474は胴上部に段を持つ如意型口縁甕で、段は粘土帯を外傾に接合した接合面を用いて作り、直下に縦方向のハケメを上から下に付けることで、段を強調する。外面はハケメ調整後、ナデ。内面はナデ調整。内外面の口縁先端部は強い横ナデにより整形される。刻目は口唇部全面にハケメ工具により密につけられる。475は板付式甕の底部～胴下部。外面ハケメ

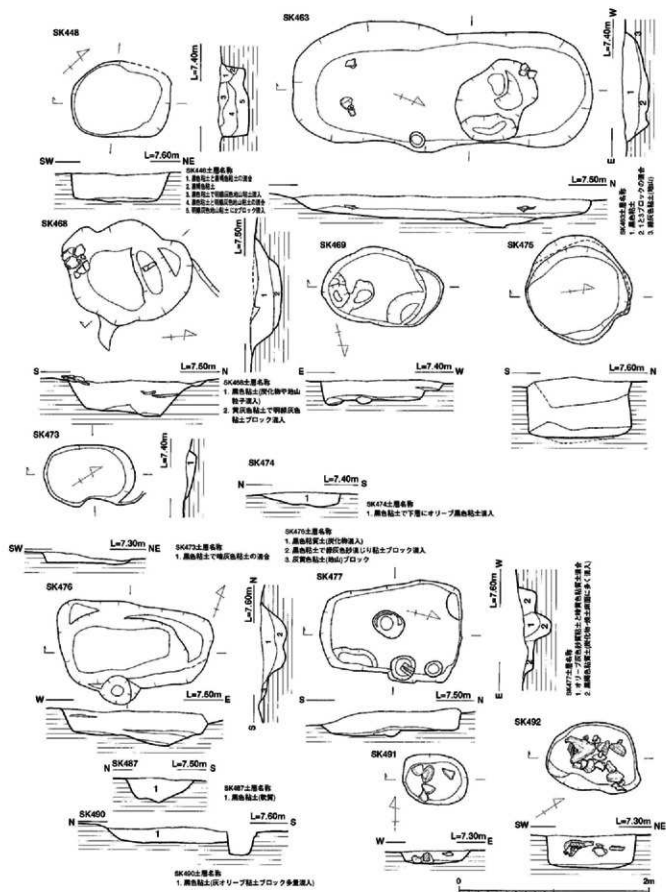


Fig.135 SK448・463・468・469・473~477・487・490~492 (1/40)

後ナデ、内面ナデ調整。476は大型の深鉢。外面は貝殻条痕調整を、ミガキに近い粗めのナデ調整。内面は粗くナデした後、横方向のミガキ調整。内外面口縁先端部3cm程横ナデにより整形。477は同一個体を考えられる弥生前期の高杯の坏部と脚部。坏部上部で屈曲し、外反しながら口縁先端に至る。外面ハケメ調整後、ミガキ調整。内面は坏部はミガキ、脚部はナデ。478は丹塗磨研の精製深鉢。口縁は外反し、胴部に屈曲部を設け、そこに細くて浅い刻目を密に施す。479は浅鉢あるいは高杯の口縁部。胴上部で屈曲させ、口縁部まで外反する。口唇部には横方向の一条の凹線が入る。内外面ミガキ調整。480は深鉢、胴上部に粘土帯を外側にかぶせることで段を成形。内外面ミガキ調整。481は深鉢口縁部。内外面ミガキ調整。482は精製小型壺の口縁部破片。口縁・頸部間に粘土帯の外傾接合面を用いて薄く段をつける。483は小型の精製の鉢。口縁部下の外面に上から下にハケメ工具で調整することで、口縁先端部をわずかに屈曲、外反させる。内外面ナデ後ミガキ調整。484は精製のミニチュア土器。内外面横方向のミガキ調整。内面底付近が赤っぽくなり、赤色顔料が付着した痕跡と考えられる。485は精製の小型壺口縁部破片。口縁・頸部間わずかに段状になる。内外面ヘラミガキ。486は中型壺の頸部間の破片。外面に4本の沈線が横走する。内面には粘土帯を内傾に接合した段が残る。487は黒色磨研の精製中型壺の胴上部。頸・胴部に4本、胴部最大径部付近に2本の沈線を横走させ、その間に4本の平行沈線による複線弧状文をつける。頸・胴部間の内面には粘土帯接合の段が残る。外面は丁寧な横方向のミガキ調整。内面は横方向のナデ、頸部は横方向のミガキが入る。488・489は弥生前期の中～大型の壺の底部。488は外面ハケメ後ミガキ、内面横方向のハケメ後ナデ調整。489は内外面粗いミガキ調整。

670は紡錘車片。丁寧な仕上げである。

S35は殿石又は石核。径6.5×7.9cm程の大きさの礫に打撃による剥離面がある。石材は火成岩系。S48・49は石鏃。S48は鏃身長2.7cm、幅2.2cm、厚み0.5cmを測る。全体に雑な調整。S49は鏃身長3.45cm、幅2cm、厚み0.4cmを測る。基部はやや凹気味である。いずれも石材は黒曜石である。

**SK462** O-24・25区にかかり、SK463の東側で検出した。柱穴SP95とSP151に切られる。主軸をほぼ北から南方向に取り、北側が狭くなる楕円形状を呈す。規模は長軸長1.48m、短軸長0.70mを測る。深さは最大9cm程である。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.140) 弥生時代前期から後期の土器が出土した。

490は弥生後期の鉢。外面縦方向ハケメ後ナデ調整。内面縦方向ハケメ後ナデ調整。頸部で屈曲させ、内外面を丁寧に横ナデすることで口縁部を外に開く。

**SK463**(Fig.135、PL.60) O-25・26区にかかって検出した。主軸はほぼ北西から南東方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長3.16m、短軸長1.34mを測る。北よりに直径0.85m程の不整形の凹みがあり、深さ0.32mを測り、他は深さ0.23m程である。埋土は上層が黒色粘土、前述の凹みを含む下層は黒色粘土と緑灰色地山粘土ブロックの混合層である。

**出土遺物**(Fig.140・154、PL.97) 弥生時代前期の土器が多く出土し、黒曜石片も少量出土した。491は刻目突帯文甕口縁部破片。内外面横方向にナデ、刻目は棒状工具を突帯中程の深さまで押しつける。492は小型の刻目突帯文の鉢で、内外ナデ調整、刻目はヘラにより突帯中程の深さまで刻む。493は如意型口縁甕で、外面縦方向ハケメ後ナデ、内面は横方向のナデ調整で、内外面口縁先端付近は横ナデにより整形される。刻目はハケメ工具を口唇全体に押し当てて連続的に押し引きしてつける。494は弥生前期の甕の底部。495は口縁を粘土帯の継目により肥厚させる鉢の口縁部破片。496は高杯の脚先端部で、先端部外面2.5cm程を粘土を貼り付けて肥厚させる。

671は棒状の土製品片。残存長3.0cm、断面は円形で径は0.9cm×0.85cmを測る。表面は傷みが

進むがナデか。把手などの一部か。

**SK468**(Fig.135) O-24区、SK463の南東側で検出した。南北方向にやや長い楕円形のプランで、長軸長1.38m、短軸長1.12m、深さ最大0.37mを測る。埋土は上層が炭化物や地山粒子を少量含む黒色粘土、下層が明緑灰色粘土ブロックを含む黄灰色粘土である。500は上層直上から、497は上層下部から出土した。

**出土遺物**(Fig.140・155、PL.107) 弥生時代前期を主体として前期から中期の土器片が大量に出土し、サヌカイト剥片や黒曜石剥片も出土した。

497は弥生時代前期の甕の口縁部破片。口縁外側に粘土の下部を指で押さえつけて貼り付け、肥厚させる。口唇全面に細い棒状工具を押しつけて刻目をつける。内外面横方向の細かいハケメ調整を施す。498は精製の浅鉢の口縁部で、内外丁寧に横方向のナデ調整を行う。499は大型の甕の口縁部で、口唇部に横方向の凹線を施す。内外ヘラミガキ調整。500は丹塗の大型甕の口縁部破片で、口唇部に横方向の凹線を施す。503と同一個体と考えられる。501は弥生時代前期の丹塗の大型甕の底部で、外面ヘラミガキ調整、内面ナデ調整。502は円盤貼付形の弥生時代前期の精製小型甕の底部である。外面横方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。503は丹塗りの大型甕の胴上部で、頸・胴部間の内外面に薄く稜がつく。外面は横方向のヘラミガキ、内面胴部は粗いハケメ後粗くナデ、頸・胴部間は丁寧にナデ、頸部が横方向の細かいハケメが施される。

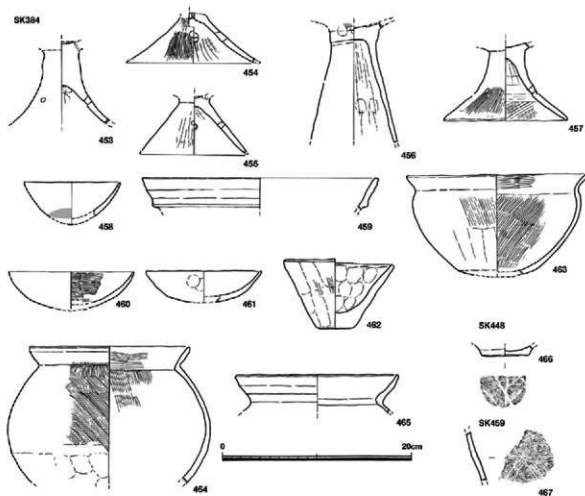


Fig.136 SK384・448・459出土土器 (1/4)

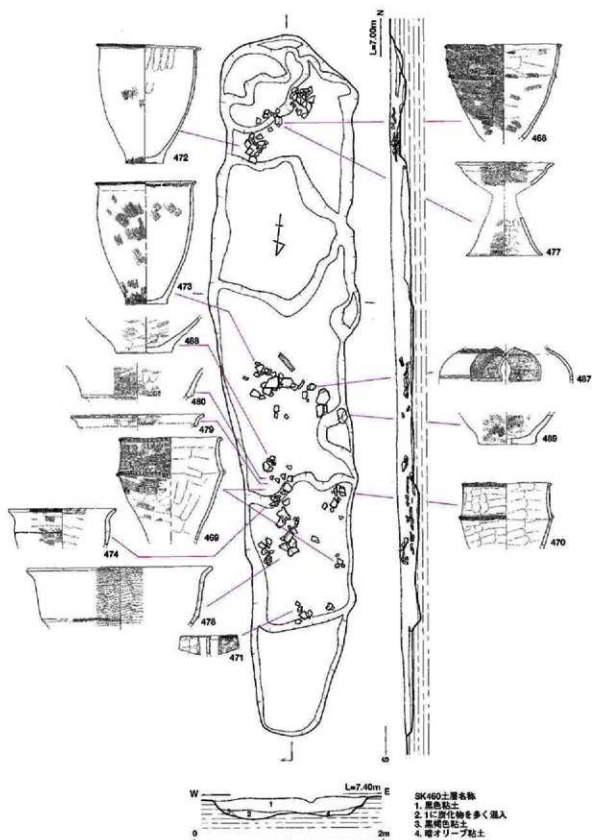


Fig.137 SK460 (1/40)

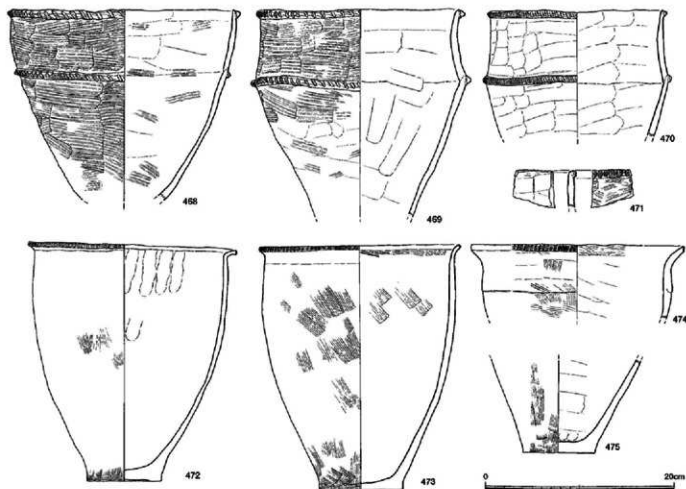


Fig.138 SK460出土土器 ① (1/4)

S36は挾入柱状片刃石斧片。欠損が著しい。成形の敲打痕が残るが、研磨仕上げ。石材は頁岩。

**SK469**(Fig.135, PL.60) O-P-25区にかかって、SK463の西側で検出した。主軸を北西から南東方向に取り、楕円形プランを呈し、規模は長軸長1.30m、短軸長0.83mを測る。北西側がテラス状に高くなり、南東側に三ヶ所程凹む部分がある。深さは最大0.25mを測る。埋土は上層が灰黄褐色地山粘上ブロックが少量混入した黒色粘上、下層が上層と暗オリーブ灰色粘上の混合層である。

**出土遺物** 突帯文甕口縁部破片、弥生時代前期の高坏、弥生前期の精製小型壺の口縁先端部破片など、弥生時代前期の土器が少量、黒曜石剥片が1点出土した。

**SK473**(Fig.135) P-25区東側、SK463の北側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈し、規模は長軸長0.96m、短軸長0.65m、深さ最大0.11mを測る。埋土は黒色粘土と暗灰色粘上の混合である。

**出土遺物** 糸痕調整の施された胴部破片が1点出土した。

**SK474**(Fig.135) N-25区、SK460によって切られる。主軸を東から西方向に取り、楕円形プランを呈す。規模は長軸長2.90m、短軸長0.84m、深さ最大0.14mを測る。埋土は黒色粘土で、最下層はオリーブ黒色粘土である。

**出土遺物** 糸痕調整の胴部破片が7点、弥生土器細片が少量出土した

**SK475**(Fig.135, PL.60) N-23区、SK488の北側、SK517の東側で検出した。直径1.15m程



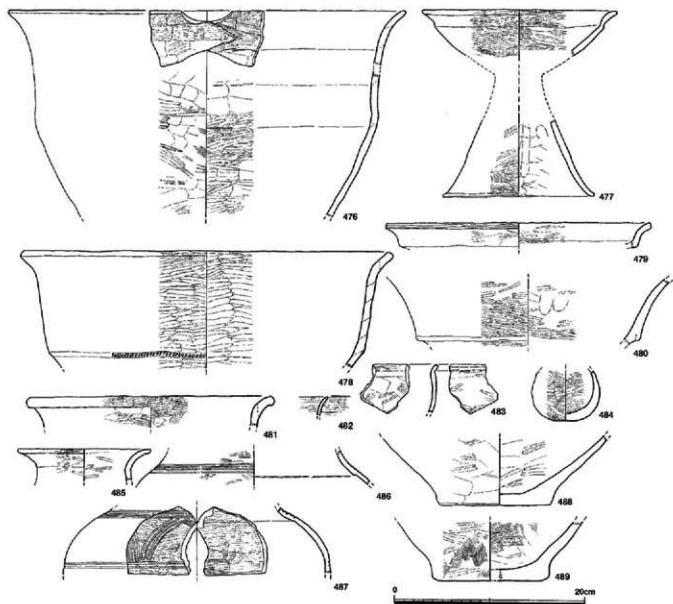


Fig.139 SK460出土土器② (1/4)

の円形プランを呈し、深さ最大0.63mを測る。埋土は黒色粘土ブロックと暗灰褐色粘土地山ブロックと緑灰色砂混じり粘土ブロックの混合で、一気に埋められたようである。壁は直または上が窄まり気味に立ち上がり、貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物**(Fig.155) 弥生時代後期の甕、中期の甕の底部、突帯文土器口縁部小片、丹塗磨研壺破片など、弥生時代前期～後期の上器破片が少量出上り、時期を判断できる上器はない。

S37は叩石。拳大の大きさで、縦長11.5cm、横幅7.5cm、高さ5.1cmを測る。上下両小口部と底面に使用による敲打痕が明瞭に残る。石材は花崗岩であるが質は脆い。

**SK476**(Fig.135) N-22区で検出した。主軸を北から南方向に取り、長方形プランを呈す。規模は長軸長1.63m、短軸長0.93m、深さは最大0.36mを測る。東側は柱穴によって切られる。埋土は上層が炭化物を含む黒色粘土、下層は緑灰色砂混じり粘土を含む暗めの黒色粘土層である。

**出土遺物** 弥生時代中期後半の広口壺口縁部破片や刻目突帯文土器破片、弥生土器破片などが少

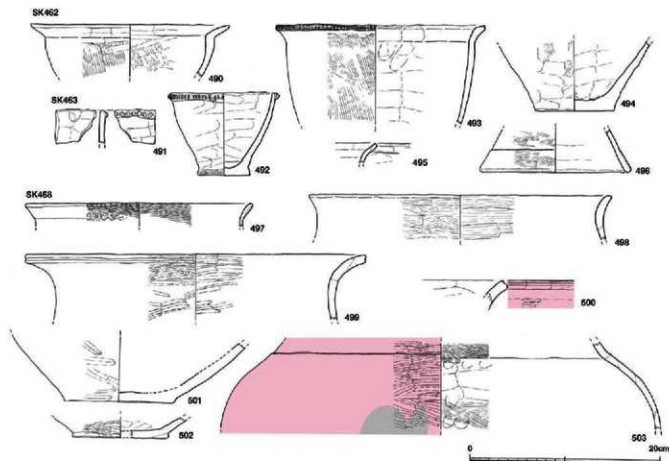


Fig.140 SK462・463・468出土土器 (1/4)

量出土した。他に砥石破片1点、黒曜石剥片1点が出土した。

**SK477**(Fig.136) O-20区、SK500の北東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈す。規模は長軸長1.50m、短軸長1.01mを測る。底面は複数の柱穴によって切られる。深さは0.21mを測る。埋土はオリーブ灰色砂混り粘土ブロックが混入した黒褐色粘土で、一部オリーブ灰色砂混り粘土と暗黄灰色粘土との混層が入る。床面近くに焦土、炭化物を多く含み、東側床面からは炭化米が出土している。

**出土遺物** 中期以降の弥生土器の小片が少量、黒曜石片1点が出土した。

**SK487**(Fig.135) N-27区で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、不整楕円形プランを呈す。規模は長軸長1.70m、短軸長0.62m、深き最大0.25mを測る。埋土は黒色粘土で、遺物は出土しなかった。

**SK488**(Fig.141, PL.60) O-23区、SK495の東側で検出した。主軸を東から西方向に取り、不整楕円形プランを呈する。規模は長軸長4.02m、短軸長0.98m、深きは最大0.44mを測る。埋土は黒色粘土である。内部から前期の甕を中心とする土器が多量出土した。廃棄土坑か。

**出土遺物**(Fig.142~144・156, PL.98・99・108) 刻目突帯文甕を主体として前期にかけての土器が多く出土し、完形に復元できるものも多い。また黒曜石剥片が多量に出土し、炭化物も少量出土した。

504~528は刻目突帯文甕で、504~515は屈曲型二条突帯文甕、516~518は砲弾型一条突帯文甕、519~526は突帯文土器口縁部破片、527・528は突帯文甕の底部である。屈曲型二条突帯文甕

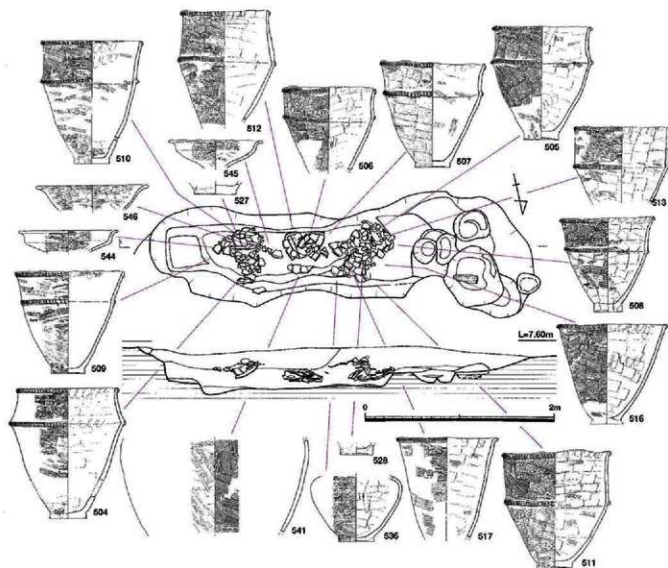


Fig.141 SK488 (1/40)

については、器形は屈曲部から内傾して口縁部に立ち上がるもの(520)、屈曲部からやや内湾気味に垂直方向に立ち上がるもの(505・506・507・514)、内湾しながら外に少し開くもの(508・509)、ほとんど屈曲せず口縁部に至るもの(510)、屈曲部から口縁部までほぼ垂直に立ち上がるもの(511・513・515)、屈曲部からやや内側に向けて口縁部まで立ち上がり、屈曲部から口縁部までの長さが長いもの(512)など、非常に器形がヴァリエーションに富む。突帯文深鉢の突帯は全て口縁部部に接するようにつけられ、棒状工具を押しつけて深くまたは突帯の中程の深さまで刻目をつけるものがほとんどである。517・522・524はヘラ状工具により鋭く浅い刻目をつける。基本的に外面は横方向の貝殻条痕調整を施し、胴下部には上からナデ調整が行われる。内面は貝殻条痕調整後丁寧にナデ消すか、横方向のナデ調整を施す。515の1点のみハケメ調整が施される突帯文土器があり、外面に縦方向のハケメ、内面に横方向のハケメ調整が行われる。2~3cm程の粘土紐を内傾に接合しながら積み上げた痕跡が内面や断面から確認できる。特に屈曲型二条突帯文深鉢の屈曲部内面にははつきりと粘土紐の継ぎ目の痕跡が残り、屈曲部で一度粘土紐の輪積みを止め、胴部の調整を行った後に

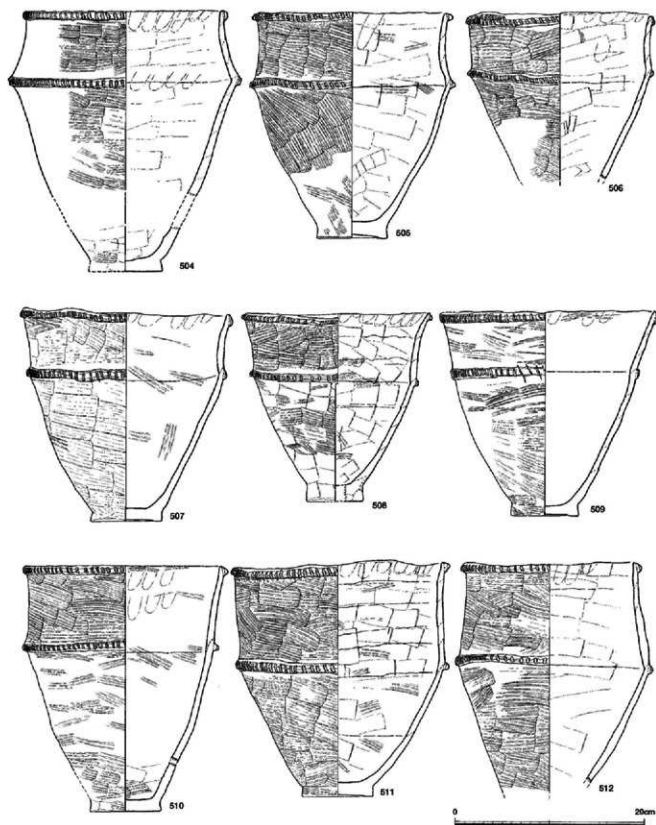


Fig.142 SK488出土土器① (1/4)

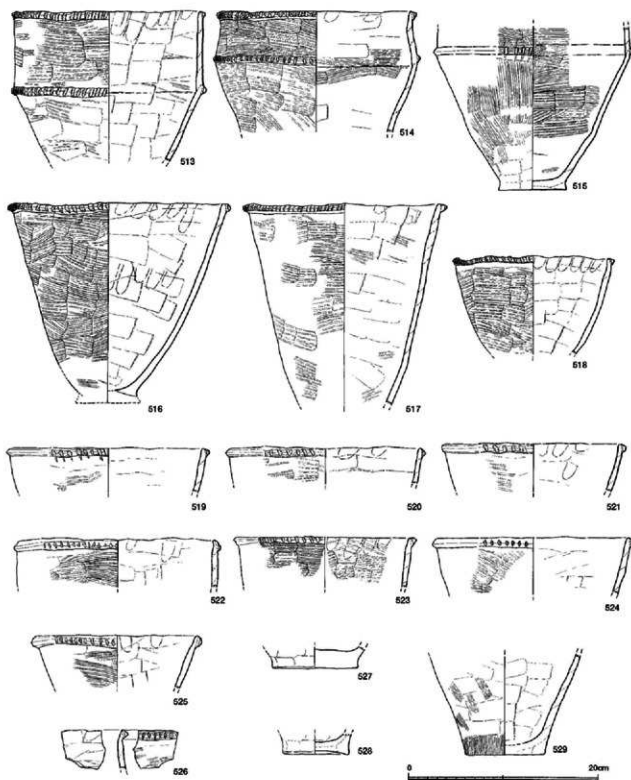


Fig.143 SK488出土土器② (1/4)

さらに上の粘土層を積み上げたと考えられる。529は弥生土器の甕の底部～胴下部で、弥生時代前期のものか。530～541は弥生時代前期の壺で、基本的に外面はヘラミガキを施す。530・531は粘土を貼り付けることにより肥厚させられた口縁部破片。532は丹塗の大型壺の口縁部破片で、口唇部に

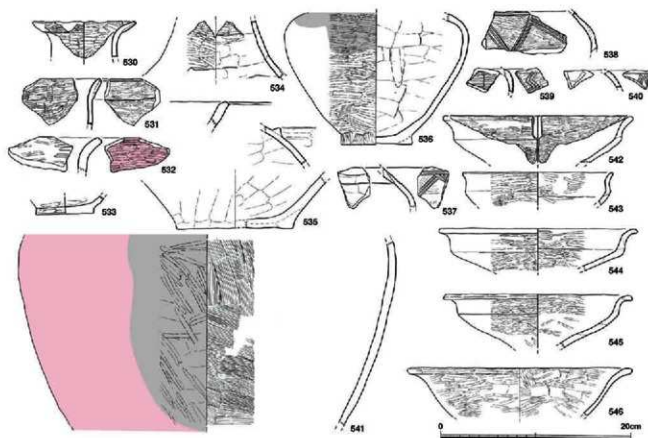


Fig.144 SK 488出土土器 ③ (1/4)

一条の凹線が入る。533は精製小型壺の底部で、円盤貼付形を呈する。534は精製の小型壺の頸部。535は同一個体と考えられる大型壺の口縁部破片、頸・胴部間破片、底部で、頸・胴部間に三角形の突帯を貼り付ける。時期は他の土器よりはやや新しい弥生時代前期後半である。536は小型壺の頸・胴部間から底部で、外面ヘラミガキ内面板状工具によるナメ調整。537～540は小型壺の胴上部破片で外面はヘラミガキ調整後、沈線による文様がつけられる。537は頸・胴部間内面に粘土帯接合時の段が残る。538は黒色磨研される。541は丹塗の大型壺の胴部で、外面は斜め方向のヘラミガキを施す。内面は下半は横方向のハケメ、上半は縦方向のハケメ調整で、大型壺がある程度の高さまで粘土帯を積み上げた後、器面調整を行い、さらに粘土帯を積み上げ器面調整を行うという工程を繰り返すことで製作されたことがわかる。542～546は弥生時代前期の浅鉢もしくは高杯の破片であるが、底部もしくは脚部まで残存するものはなく542・543はどちらの可能性もある。544～546は口縁部への立ち上がり方から高杯と判断される。542は精製の黒色磨研土器である。543は内外面ヘラミガキ調整が施される。544・545は胴上部で屈曲させ大きく外反しながら口縁部に立ち上がる弥生時代前期前半の高杯の特徴を持つ。両者とも内外面横方向のヘラミガキを施す。546は胴上部に屈曲部を持たず、口縁が分厚くなりながら外反するという544・545よりやや新しいとされる特徴を持ち、内外面ヘラミガキ調整が施される。

S50～52は石鉢。いずれも基部は平基。鉢身長は2.6cm～2.8cm、幅1.45～1.85cm、厚みは0.35～0.4cmを測る。いずれも剥片を両側から丁寧に二次調整を加える。S50・51の基部は一部欠損する。石材は黒曜石である。

**SK490** (Fig. 135) 0-21区で検出し、SK597により西側を切られる。主軸を北東から南西方向に取り、中央が少しくびれる不整楕円形プランを呈する。規模は長軸長4.4m以上、短軸長最大2.10m、深さ最大0.15mを測る。複数個の柱穴によって切られる。埋土は灰オリーブ粘土ブロックが混じった黒色粘土である。

**出土遺物** 弥生時代前期の甕口縁部、前期の壺口縁部及び胴部など、弥生時代前期中頃から後半の土器片が多く出土し、黒曜石やササカイト剥片が少量出土した。

**SK491** (Fig. 135, PL. 61) N-25区、SK468の東側で検出した。東西にわずかに長い楕円形プランで、長軸長0.69m、短軸長0.53m、深さ0.13mを測る。底にはこぶし大の礫石が2点出土。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物** 弥生時代前期後半の甕や壺などの破片が少量出土した。

**SK492** (Fig. 135, PL. 61) 調査区やや北より、SD505の西側で検出した。主軸を東北から南西方向に取り、楕円形プランを呈す。長軸長0.95m、短軸長0.72m、深さ0.33mを測る。埋土は黒色粘土が主体で、オリーブ灰色砂質粘土を混入する。貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物** (Fig. 146) 弥生時代中期及び後期の甕の口縁部や布留式土器の口縁部片など弥生時代中期から古墳時代前期の土器片が多く、黒曜石剥片・石核が少量出土した。

547は弥生時代後期の甕の口縁部。548は鉢の口縁部で、内外面とも横方向のナデ調整後、縦方向のミガキを施す。

**SK494** (PL. 61) 0-23区のSD505の東側で検出した。不整円形プランを呈し、柱穴や遺構が重複するようである。規模は1.56m×1.38m、深さは最大で0.3mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物** (Fig. 146) 弥生時代前期～中期の土器片が多量に、又黒曜石石核が少量出土した。

549は弥生時代前期の中型壺の口縁部破片で、外側に粘土を貼り付け口縁を肥厚させる。550は弥生時代前期の中型壺の底部破片。551・552は刻目突帯文深鉢口縁部破片。553は突帯文深鉢底部破片。554・555は弥生時代の甕の底部破片。

**SK495** (Fig. 145, PL. 61) 0-23区のSK494の北側で検出した。主軸を北から南方向に取り、隅丸長方形プランを呈する。底面は北側がテラス状で南側が一段深くなる。規模は長軸長3.16m、短軸長1.52m、深さ最大0.58mを測る。埋土は最上層が明緑灰色粘土ブロック地山、上層が黒色粘土、中層が暗い黒色粘土、下層は黒色粘土が砂っぽくなり灰を薄く含み、最下層は明緑灰色砂質粘土ブロックで黒色粘土と暗灰黄色地山粘土ブロックを混入する。さらにその下に東側から明緑灰色地山粘土を薄く編状に挟む黒色粘土が入り込む。

**出土遺物** (Fig. 146・154・155, PL. 99・108) 弥生時代前期から後期迄の土器が出土するが、時期は中期であろう。

556～565は刻目突帯文甕で、556は屈曲型二条突帯文甕口縁部破片、563・565は同じく胴部破片、557～562・564は突帯文甕口縁部破片である。突帯は口縁端部に接するように貼り付け、刻目は棒状工具を押つけてつける。内外面、貝殻条痕またはナデ調整が基本である。558のみ内面に横方向のハケメ調整を施す。566～568は如意型口縁部甕の口縁部である。566はハケメ状工具により口唇全面に刻目をつける。外面上から下へのハケメ、内面横方向のハケメ後口縁部は丁寧に横ナデを加える。外反も緩く、板付I古式甕の特徴を示す。567は口唇全面、568は口唇やや下気味にヘラによる刻目をつけ、口縁付近内外から横ナデを加える。569・570は弥生時代前期前半の甕である。569は黒色磨研の精製小型壺の胴部破片。頸・胴部間に二本、胴中部に一本以上の平行沈線を描走させ、その間に三本の沈線からなる複雑弧状山形文を施す。頸・胴部間の内面には粘土帯接

合時にできた段が残される。570は丹塗の大型壺の頸部である。外面全面と内面の口縁部から頸部中程まで丹塗が施されたよう。外面は横方向のヘラミガキ調整。内面は頸部中程以下横方向のハケメ調整、その上部は横方向のハケメ後横方向のヘラミガキ調整である。571～574は弥生時代中期の甕であり、571は「く」字形口縁、572・574は逆L字形口縁で574は口縁先端が下に垂れ下がる。571・572は中期前半、574は中期後半に位置づけられる。573は中期の甕底部である。575は高坏の坏部と脚部の連結部、576は弥生時代後期の甕の底部である。

673は焼けた粘土塊。縦幅4.5cm、横長9.3cm、厚さ3.85cmを測る。指押え仕上げで、ヘラによる切込みや、焼けた黒化した部分がある。

S38は刃部が三角形を呈す石庖丁片。残存長9.5cm、最大幅5.1cm、厚さ0.4cmを測る。径0.7cmの孔が1ヶ所残る。S39は大型の剥片。縦長13.6cm、横最大幅6.05cmを測る。明瞭な使用痕や二次調整は認められない。石材はササカイトである。S40はスクレーパーか。縦長7.95cm、横幅3.6cmを測る。断面三角を呈する長方形の剥片の側面に二次調整を加え、刃部を作り出す。石材は硯岩。

**SK496**(Fig.145, PL.61) 調査区やや北より、SD505の西側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長0.98m、短軸長0.64m、深さ0.34mを測る。埋土は黒色粘土と青灰色シルト粘土ブロックの混合である。貯蔵穴と考えられる。

**出土遺物**(Fig.146・155) 弥生時代中期の甕小片が少量出土した。

577は弥生時代中期前半の逆L字形の甕口縁部で、578は弥生時代中期初頭から前半の甕の底部である。

S41は礫石で、丸みを持つ円礫を利用したもの。径は6.6cm×4.9cm、高さは4.3cmを測る。叩き使用痕が明瞭に残る。石材は緑泥片岩か。

**SK500**(Fig.145, PL.62) P-21区のSC532の南東側で検出した。主軸を北から南方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長4.55m、短軸長1.17m、深さ最大0.22mを測る。埋土は上層が淡黄色粘質土、下層が黒色粘質土で、下層の直上から出土する土器が多い。中央部から北部は柱穴に切られる。

**出土遺物**(Fig.147・148・154・155, PL.99・100・108) 突帯文期・弥生時代前期前半の土器片が多量出土した他、黒曜石及びササカイトの剥片・石核が少量出土した。

579～592は刻目突帯文の甕で、全て屈曲形二条突帯文甕になる。器形は屈曲部からあまり内湾せずあるいはわずかに内湾しながら垂直方向に立ち上がるものがほとんどで、583のみ屈曲部から口縁部にかけて外側に開く。基本的に外面は横方向の貝殻調整を施した後、ナデを加え、内面は貝殻調整後ナデか、直接ナデ調整を加える。584のみ屈曲部以下に縦方向のハケメを施し、屈曲部上部及び内面には横方向の貝殻調整を施す。口縁部突帯は全て口縁端部に接するように貼り付けられ、刻目は全て棒状工具により突帯中程の深さ又は深く刻まれる。内面に粘土紐の接合痕を残すものも多く、2～3cmの粘土紐を内傾接合で積み上げながら成形されたことがわかる。特に屈曲部内面にははつきりと粘土紐の接合痕が残る。屈曲部までの成形後器面調整を行い、さらに口縁部までの成形を行ったことがわかる。いずれも夜白IIb式以降に位置づけられる。593は口縁がわずかに外反する甕で、口唇全面にヘラ状工具により刻目が付けられる。外面は下から上のハケメで口唇直下に強い横ナデが加えられる。内面は右下から左上への粗いハケメ後口縁先端部付近は目の細かい横方向のハケメ調整が施される。口縁が外反気味の板付型甕か。594～598は突帯文甕の底部と考えられ、台形状に下部が外側に張り出す。599～604は弥生時代前期の壺である。599は小型壺の口縁部で外面に粘土を貼り付けて肥厚させる。600は小型壺の頸部から胴上部の破片で、頸部内面には1cm強の粘土紐を積み



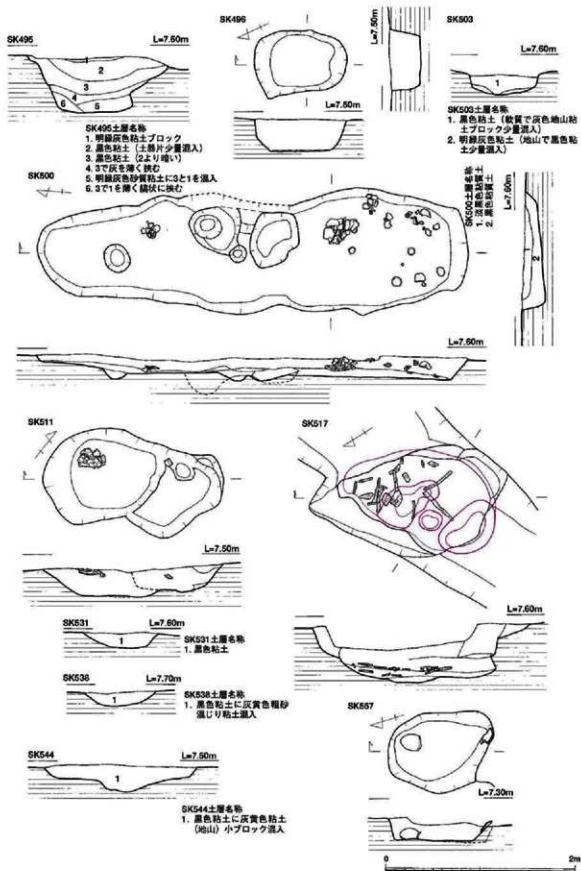


Fig.145 SK495・496・500・503・511・517・531・538・544・557 (1/40)

上げた痕跡が残り、特に頸・胴部間内面には粘土紐接合時の強い段が残る。601は小型壺の口縁部から頸部。602は小型壺の胴部で、前期に少量存在する算盤玉胴部の形態である。頸・胴部間内面に粘土紐接合の段が残る。頸部～胴上部には三本の平行沈線による複線山形文を施す。603は中型、604は小型壺の底部で、共に円盤貼付形である。605は精製深鉢の口縁部破片で、口縁先端部外側に薄く粘土を貼り付ける。内外面横方向のヘラミガキを施す。606は深鉢の口縁部破片で、内外面に黒色磨研を施す。607は黒色磨研の精製高坏で、内外面ストロークの短いミガキ調整を丁寧に施して仕上げる。晩期の黒色磨研の浅鉢に脚部を付けた形態で、浅鉢から高坏への変化の過程を示す資料である。

672は2ヶ所孔のある前期の壺の胴部片利用した上製品。外面はヘラミガキ、内面はナデ。孔は両側からの穿孔である。

S42は石鏝を再利用した駄石か。横長7.45cm、縦幅4.9cm、厚み1cm以上を測る。左側面に叩の使用痕が残る。石材は泥岩か。

**SK501** O-24区、SK468を切る。直径約1.3m、深さは最大0.32mを測る円形プランの土坑である。埋上は黒色粘土である。

**出土遺物**(図148) 608は弥生時代中期の中型壺の底部である。遺物の出土はこれのみである。

**SK502** P-21区、SK500の東側で検出された。主軸を北から南に取る楕円形プランの土坑であ

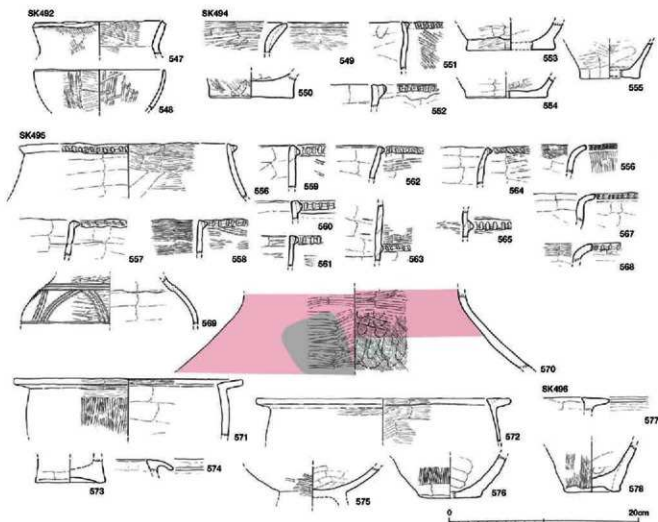


Fig.146 SK492・494～496出土土器 (1/4)

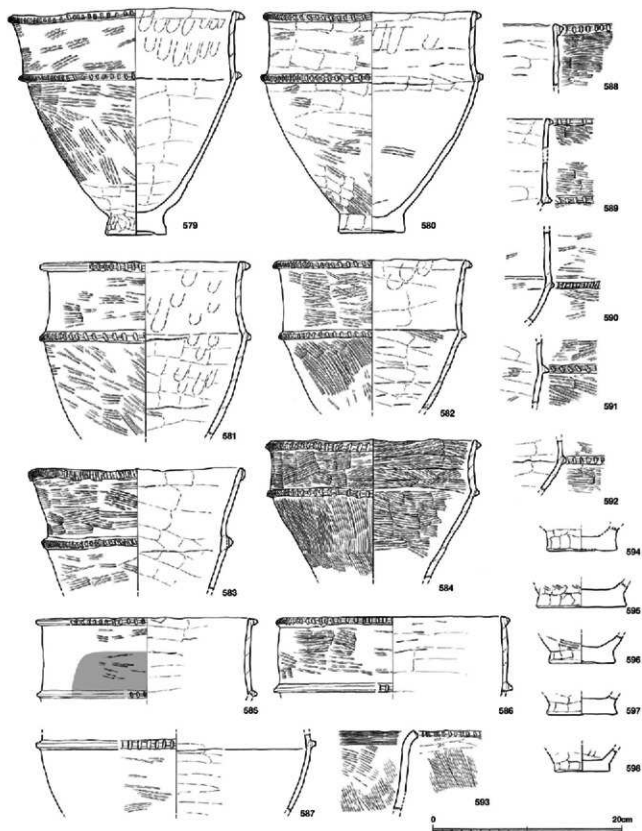


Fig.147 SK500出土土器 (1/4)

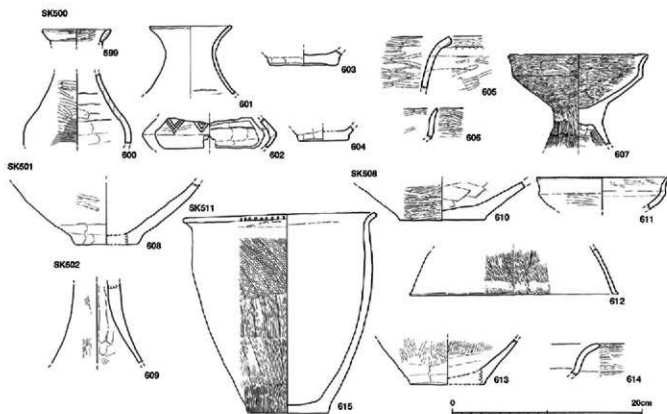


Fig.148 SK500～502・508・511出土土器 (1/4)

る。規模は長軸長1.66m、短軸長0.84mを測る。深さは浅く0.1m程である。埋土は黒褐色粘土である。

**出土遺物**(Fig.148) 弥生時代後期の甕の口縁部、胴部、底部の小片が出土した。

609は弥生時代後期の高坏の脚部である。

**SK503**(Fig.145) O-23区、SD505の南東側で検出し、SK494に切られる。主軸を北東から南東方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長1.24m、短軸長0.8m、深さ最大0.21mを測る。埋土は軟質で灰黄色地山粘土ブロックを少量含む黒色粘土で、最下層に薄く黒色粘土が少量混じる明緑灰色地山粘土ブロック層が入る。

**出土遺物** 突帯文土器片、丹塗磨研土器片、甕胴部など弥生時代前期の土器小片が少量、黒曜石片が1点出土した。

**SK508** Q-22区、SD505の南西側で検出した。SX529を切る。主軸は北東から南西方向に取り、不整楕円形状プランを呈する。規模は長軸長2.86m、短軸長0.76mを測る。深さは最大で0.7mを測る。埋土は黒色粘土である。底面の形状などから見て風倒木痕か。

**出土遺物**(Fig.148) 弥生時代前期～後期の土器小片が多量に出土した。

610は弥生時代前期の中型壺の底部で、外面黒色磨研を施す。611は弥生時代前期の高坏の坏部である。612は高坏の脚部先端で、内外縦方向のハケメ調整。613は弥生時代後期の甕の底部。614は弥生時代後期の高坏の口縁部破片。

**SK511**(Fig.145、PL.62) M-25区、SK460の東側で検出され、SK596によって切られる。主軸は北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈す。規模は長軸長1.25m以上、短軸長0.96m、深

さ最大0.28mを測る。埋土は暗灰黄色地山粘土ブロックが混じる黒色粘土で、土器は上面から出土するものが多い。

**出土遺物**(Fig.148、PL.100) 弥生時代前期の土器片及び黒曜石片が少量出土した。

615は如意形口縁の甕で、口唇下部から下端にヘラ状工具により浅く刻目をつける。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のナデ調整で、口縁部付近は内外横方向の強いナデを加え口縁を外反させる。時期は弥生時代前期後半である。

**SK517**(Fig.145、PL.62) O-24区、SD505の北東側で検出され、SD482と重複する土坑である。主軸を北東から南西方向に取り、北東側が細くなる楕円形プランを呈する。規模は長軸長2.05m、短軸長1.16m、深さは最大0.65mを測る。埋土は黒色粘土で青灰色の地山ブロックを多く含む。また埋土中には多くの自然木が埋まり、炭化米が出土している。

**出土遺物**(Fig.149) 刻目を持つ甕の口縁部・胴部破片、丹塗甕の口縁部片などが弥生時代前期の土器が多量に出土した。他には黒曜石片及び磨石が一点出土した。

616は弥生時代前期の壺の肩部で赤色顔料により有軸羽状文が描かれる。617は弥生時代前期の甕の底部である。

**SK519** P-20区で検出した土坑で、主軸を北から南方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長1.8m、短軸長0.94mを測る。深さは最大で0.3mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.149) 弥生土器の甕の胴部小片が少量出土した。

618は弥生時代中期の甕の底部である。

**SK530** P-22区、SD505の南側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長1.76m、短軸長1.26mを測る。深さは浅く5～6cm程である。埋土は黒色粘土であるが、焼土ブロックが部分的に集中する。

**出土遺物**(Fig.149) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土した。甕・壺・鉢・高杯の破片など弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が多い。他には蛇紋岩系の石片が少量出土している。

619は弥生時代後期の甕の口縁部。620は古墳時代前期の甕の頸部から胴上部。621は弥生土器の高杯の杯部と脚部の連結部。622は弥生土器の小型の鉢である。

**SK531**(Fig.145) 調査区中央付近、SK530のすぐ北東側で検出した。直径1.2mの円形に近い平面プランを呈し、深さ最大0.14mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物** 逆L字口縁の甕の口縁部や、複合口縁壺片など、弥生時代中期から後期の土器片が少量、黒曜石薄片1点が出土した。

**SK538**(Fig.145) Q-21区、SC532の南西側で検出した。主軸を北から南方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長2.16m、短軸長0.82m、深さ最大0.14mを測る。埋土は灰黄褐色粗砂混じり粘土が混入した黒色粘土である。遺物は出土しなかった。

**SK539** 調査区南側P-20区で検出した。主軸を西から東方向に取り、楕円形プランを呈する。規模は長軸長3.16m、短軸長1.16mを測る。深さは最大で12cm程である。埋土は黒褐色粘上地山ブロックを混入する。

**出土遺物**(Fig.149) 古墳時代前期の壺や甕の口縁部、胴部小片が少量、粘土塊1点が出土した。

土器623は古墳時代前期の小型丸底壺である。

**SK544**(Fig.145、PL.62) P-22・23区ライン境界上、SD505の東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.7m、短軸長1.2m、深さ最大0.28mを測る。埋土は灰黄褐色地山粘土小ブロックが混入した黒色粘土である。

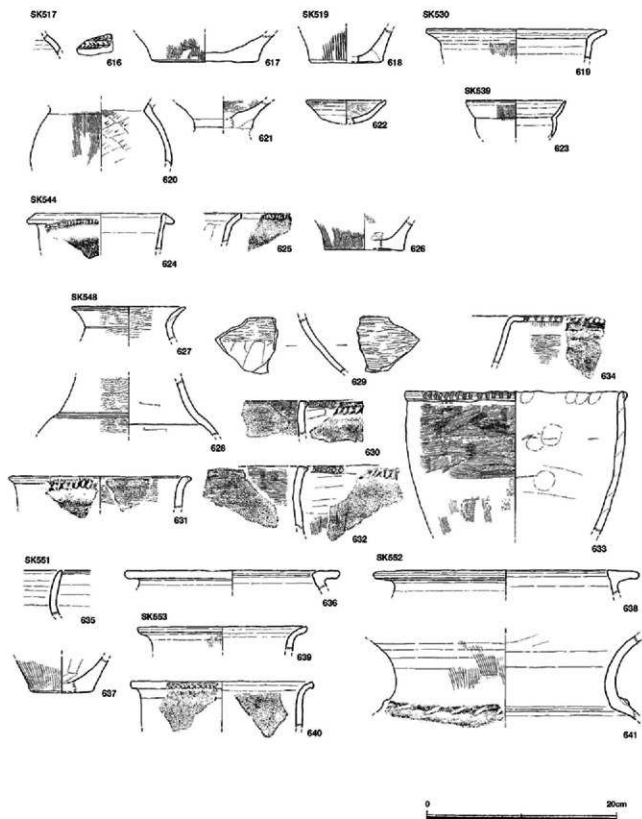


Fig.149 SK517・519・530・539・544・548・551・552出土土器 (1/4)

出土遺物(図149) 弥生時代前期後半から中期前半の土器片が多量に出土し、黒曜石剥片・石核、粘土塊も少量出土した。

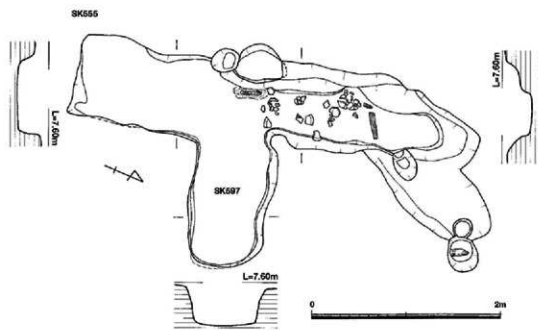


Fig.150 SK555・597 (1/40)

624は弥生時代中期初頭の甕で、口縁にやや垂れ下がり気味の突帯を付け先端に浅い刻目を入れる。625は弥生時代前期の如意形口縁甕で、口唇やや下気味にへらにより浅めの刻目を密につける。口縁付近は内外横ナデを加える。626は弥生土器の甕の底部で、外面に縦方向のハケメを施す。

**SK548** P-23区、SD505のすぐ北側で検出した。主軸を北西から南東方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.66m、短軸長0.72mを測る。深さは最大で0.2m程である。

**出土遺物**(Fig.149) 突帯文期から弥生時代前期の土器が出土している。他に黒曜石剥片なども出土。

627・628・629は弥生時代前期の壺の破片である。627は精製の小型壺の口縁部で頸・胴部間に沈線を入れる。628は小型壺の肩部で、頸・胴部間愛面に三本の沈線を横走させ、内面には粘土紐接合の段が残る。629は中型壺の頸部破片で、外面へらミガキ調整、内面下部はナデ、内面上部はへらミガキ調整が施される。630～633は刻目突帯文土器である。630・631は外面横ナデ、内面横方向のハケメ調整、632は外面口縁付近は横ナデ、胴上部以下縦方向のハケメ、内面横方向のハケメ調整である。633は砲弾型一条突帯文甕で、外面胴上部横方向のハケメ、胴下部縦方向のハケメ、内面ナデ調整である。以上のように4点の突帯文土器全てが条痕調整ではなくハケメ調整が用いられる。突帯及び口縁部の形態についても、口縁部に接するように突帯を貼り付けた後、口縁端部と突帯上面を一緒に横方向に丁寧になることで、水平に近い面ができるという特徴を持つ。SK460やSK488の突帯文土器よりもやや新しく位置づけられようか。634は弥生時代前期の如意形口縁甕の口縁部破片で、口唇全面にへらによる刻目を施す。外面は口縁直下に上から下へのハケメを施し、強い横ナデを加え、外反を強くする。それより下は横方向のハケメ調整を施す。内面はナデ調整である。

**SK551** O-22区、SD505の北東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、楕円形プランを

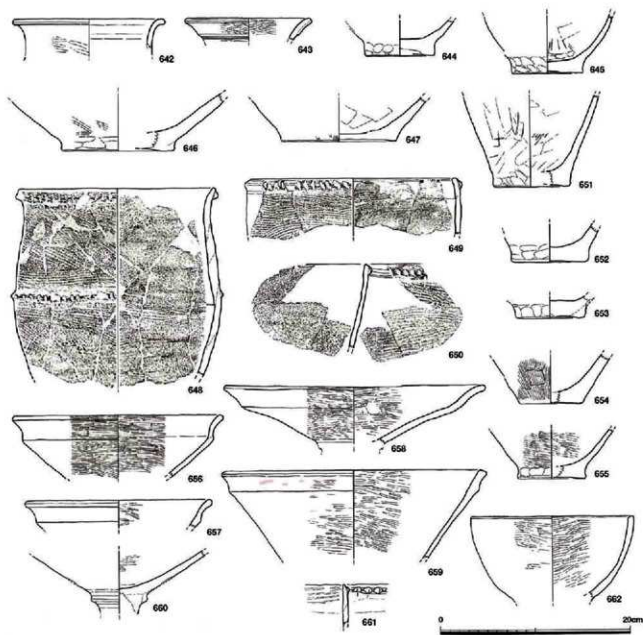


Fig.151 SK555出土土器 (1/4)

呈する。規模は長軸長2.16m、短軸長1.16m、深さは最大で0.14m程を測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(図149) 弥生時代中期後半頃から後期までの甕・壺の破片が多く出土した。

635は弥生中期の直口壺口縁部破片。636は弥生時代中期の甕口縁。637は弥生時代中期の甕の底部で、外面ハケメ調整を施す。

**SK552** 0-22区、SD481の西側で検出した。SD481と重複するので正確な形状は不明であるが、不整形プランで、規模は1.6m×1.0m、深さは0.28mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(図149) 弥生時代中期中頃～後半の甕・器台などの小片が少量、砂岩片1点出土した。

638は弥生時代中期の甕口縁部。

**SK553** 0-22区、SK597に西側を切られる。中央部が括れる楕円形を呈し、規模は長軸長4.4m、



短軸長最大2.2mを測る。深さは最大で0.15m程である。北壁沿いに焼土が集中する部分があった。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.149) 弥生時代前期を中心に、後期までの甕、壺の破片が大量出土した。また、黒曜石剥片、石核、硅化木片などが少量出土した。

639は弥生時代前期後半の無刻目甕の如意形口縁。640は弥生時代前期後半の甕の如意形口縁で、口唇下端部にヘラによる刻目を施す。口縁内外に横ナデを施し、外面胴上部と内面口縁部のナデ直下に斜め方向のハケメを施す。641は弥生時代後期後半の甕の頸部で、頸・胴部間に突帯を貼り付け、上からハケメ工具による刻目を施す。

**SK555**(Fig.150, PL.62) P-22区、SD505の南東側で検出された。主軸を北西から南東方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長5.45m、短軸長1.08m、深さ最大0.3mを測る。東側と北側で他の土坑と切り合うが、そちらからの遺物も一緒に取り上げたので、SK555の遺物としてまとめて報告する。埋土は黒色粘土で、オリブ灰色地山粘土ブロックを混入する。

**出土遺物**(Fig.151・152・154, PL.100) 突帯文土器・弥生時代前期の甕・壺・鉢などの破片が多く出土し、黒曜石剥片や焼成粘土塊、炭化物も出土した。

642～647は弥生時代前期の壺である。642は刻目突帯文期～弥生時代前期前半の壺の口縁部。643は黒色磨研の小型壺の口縁部で、口縁外面に粘土を貼り付けることにより肥厚させ段をつけ、その下に一条の沈線を施す。644・645は小～中型壺の底部、646・647は大型壺の底部である。648～650は刻目突帯文の甕である。648は二条突帯文甕で、屈曲部からわずかに内湾気味に立ち上がり、屈曲部から口縁部が非常に長い。口縁部と屈曲部に突帯を貼り付け、棒状工具による刻目を施す。屈曲部内面には粘土紐接合痕が明瞭に残る。いずれも外面は横方向の貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整後ナデもしくは直接ナデを施す。649・650はいずれもヘラにより口縁部突帯に刻目をほどこす。661は口縁端部よりやや下がった位置に細い突帯を貼り付け、それをつぶすように指による刻目をつける古手の様相を示すものである。651～654は弥生時代前期の甕の底部で、654は外面縦方向のハケメ調整を施す。655～659は弥生時代前期の高坏もしくは浅鉢で、いずれも精良な胎土で黒色磨研される精製土器である。655は浅鉢の底部で、内外面横方向のヘラミガキを施す。656・657は精製の浅鉢もしくは高坏で、胴部に屈曲部を持つ。658は高坏で、胴上部で緩く屈曲し外反しながら口縁部に至る。659は浅鉢で、外面口縁付近には赤色顔料の痕跡がわずかに残る。

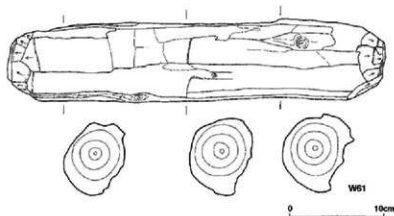


Fig.152 SK555出土木製品 (1/4)

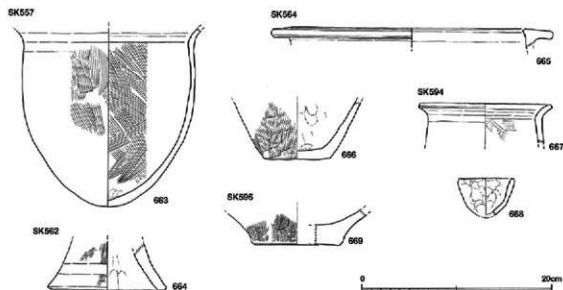


Fig.153 SK557・562・564・594・596出土土器 (1/4)

660は弥生時代前期の高坏の坏部と脚部の境で、境に突帯を貼り付ける。662は弥生時代前期の鉢で、内外ヘラミガキを施す。

674は紡錘形の土製投擲。全長4.6cm、最大径は2.3cm×2.4cmを測る。表面の欠損傷みがひどい。焼成はやや不良。

W61は罫端と側面に削り加工を加えた丸太状の加工材。建物柱穴の礎板と思われる。

**SK557** (Fig.145, PL.63) S-22区、SX560の西側で検出した。南北方向にやや長い楕円形プランを呈し、規模は長軸長1.12m、短軸長0.87m、深さ0.23mを測る。底面は平坦で断面台形状を呈する。埋土は暗灰褐色粘土である。北壁沿いに完形の甕が横位で出土している。

**出土遺物** (Fig.153, PL.100) 弥生時代後期の土器が出土している。

663は底面直上から出土した弥生時代後期後半の甕で、内外ハケメ調整が施され、底部は丸底を呈す。他に、弥生時代後期の壺の胴部片が1点出土した。

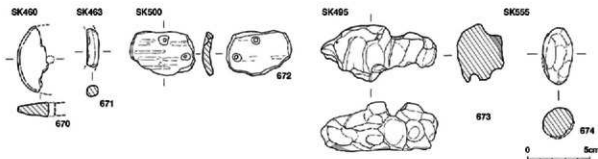


Fig.154 SK460・463・495・500・555出土土製品 (1/3)

**SK562** Q-21区、SK538の西側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.16m、短軸長0.68m、深さは10cmを測る。底面4隅で柱穴と考えられるピ

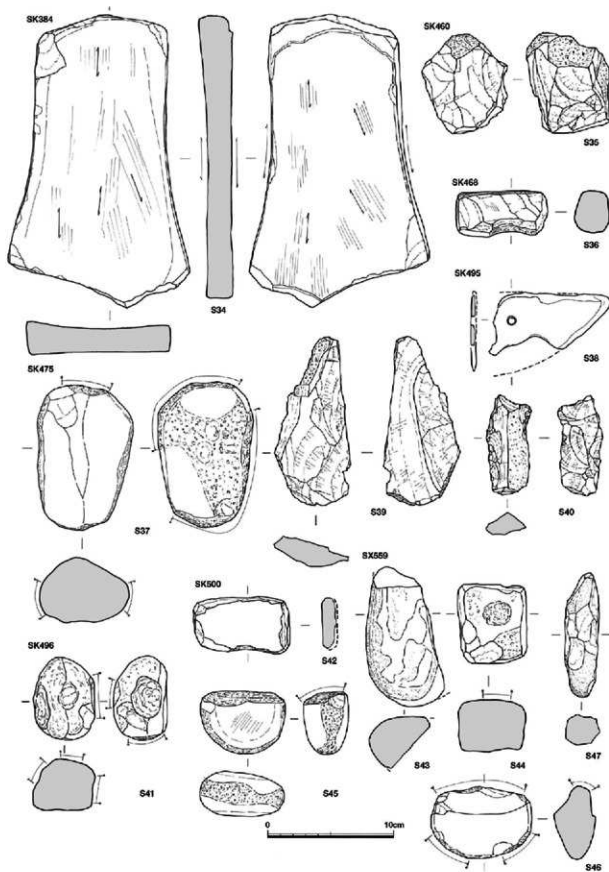


Fig.155 SK384・460・468・475・495・496・500 SX559出土石器 (1/3)

ットが検出された。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.153) 弥生時代中期～後期の土器小片が少量、黒曜石剥片1点が出土した。664は弥生土器の臺台脚部片。

**SK564** O-20区、SD388の北西側で検出した。平面楕円形プランを呈し、主軸は北西から南東方向に取る。規模は長軸長1.7m、短軸長1.1m、深さは0.3mを測る。埋土は黒色粘土で暗緑灰色地山粘土ブロックを含む。

**出土遺物**(Fig.153) 弥生時代中期から後期の土器片が少量出土。

665は弥生時代中期の甕の口縁部。666は弥生時代後期の甕の底部で、外面に縦方向のハケ目調整を行う。

**SK594**(PL.63) Q-23区、SD505の南西側で検出された不定形土坑である。主軸は南東から北西方向に取り、規模は長軸長5.8m、短軸長2.6m、深さは最大で約1mを測る。底面は狭く挿鉢状を呈す。建物柱穴を切っている。埋土は黒褐色粘土である。

**出土遺物**(Fig.153) 上層・下層両方から弥生時代後期を主体として前期後半から後期までの弥生土器片を多量に出土した。また下層からは黒曜石剥片が1点出土した。

667は上層から出土した「く」の字形を呈する弥生時代後期後半の甕の口縁部。668は下層から出土した小型の手捏ね土器で、内外に指頭圧痕が残る。

**SK596**(PL.62) M-25区、SK460の東側で検出され、SK511を切る。長方形プランを呈し、主軸を北から南方向に取る。規模は長軸長0.97m、短軸長0.79m、深さは最大0.27mを測る。埋土は黒色粘土である。

**出土遺物**(Fig.153) 669は弥生時代前期の丹塗り甕の底部。外面縦方向のハケ目後ナデを施す。他に遺物は出土しなかった。

## ⑥ その他の遺構(SX)

**SX434出土遺物**(Fig.157・166・168, PL.101・108) 遺構はN・O-20区にかけての浅い落込みで包含層の一部か。遺物としては弥生時代初めの突帯文土器から古墳時代前期迄の遺物が出た。

675～677は古墳時代前期の甕。675は小型甕口縁から胴部片。胴部外面は叩き後ヨコナデ、口縁部はヨコナデ、胴内面はヨコハケ調整。676は布留系の甕頸胴部。外面細かいハケ目後ヨコナデ、内面ヘラケズリ調整。677は庄内系の河内型とタタキ方向が似る。胴外面タタキ後ハケ目、口縁部内外はヨコナデ、内面はヘラケズリ調整。678は弥生時代後期中頃の甕。外面ハケ目、口縁部内外面はナデでハケ目が残る。内面はヨコナデ調整。679は後期前半の小型壺。内外面粗いハケ目。外底部にもハケ目とナデ調整。外面下半に黒斑がある。

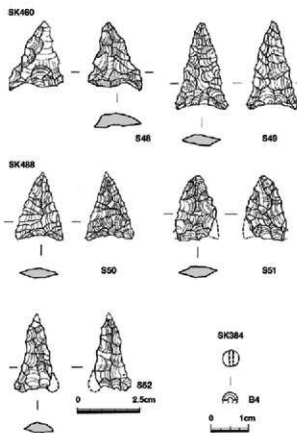


Fig.156 SK460・488出土土器(2/3)  
SK384出土土(1/1)

810は土製投弾。一部欠損するが全長3.7cm、最大径は2.4cmを測る。断面は円形で、やや摩滅するが丁寧なナテ仕上げ。

S53は小型の扁平片刃石斧。刃部は欠損するが、残存長3.7cm、幅1.65cm、厚み0.9cmを測る。表面は研磨仕上げ。石材は砂岩か。

**SX435・436(PL.63)** 調査区南東隅で検出した大型の不定形土坑。東壁にかかり全形は不明であるが、南北二ヶ所の落込みがあり、北側をSX436、南側をSX435とする。両遺構全体の確認規模は長軸長20m、短軸長9mで、最大深さはSX435で約0.86m、SX436で0.9mを測る。埋土は黄白色粗砂が主体である。第3面SD190の基盤下であり、流路の一部の可能性もある。

**SX435出土遺物(Fig.157・158・167・168, PL.100・101・108)** 上層から下層迄、弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器が出土している。時期的には後期のものが多く、遺構時期もその時期である。他に黒曜石剥片や紡錘車などが出土。古墳時代の遺物は上の遺構からの混入と考える。

680～689は上層出土。680は古墳時代前期の鉢口縁部断片。内外面ナテ調整。681～684は弥生土器の壺。681は後期前半の直口壺口縁部。頸部に三角突帯を貼り付ける。口縁部内外は指ナテ調整。682も後期前半の袋状口縁壺。頸部に貼り付けの三角突帯が巡る。外面ハケ目、口頸部内面上半にヨコハケ目調整。683・684は丹塗壺。683は須玖Ⅱ式中期後半の広口壺上半部。口頸部外面はナテ後ヘラによる縦方向の暗文風のミガキ。胴部はヨコヘラミガキ調整。口頸部内面は指ナテ後ヨコヘラミガキ。胴内面はナテ調整。684は底部である。別個体であるが、同形態のものである。胴外面はヘラミガキ、内面はナテ調整。683は外面から口頸部迄丹塗り、684の外面は丹塗り。685は後期の小型甕。胴部外面はハケ目後ナテ消し、その他はヨコナテ調整である。686は後期前半の鉢。口縁部はやや内傾し、凹凸がある。体部外面はタテハケ目、口縁部内外面はヨコナテ、体内面はナテ調整。687は弥生時代後期中頃の高坏坏部。内外面は丁寧なヘラミガキ調整で、内面には工具痕が残る。688・689は刻目突帯文土器甕の底部で木葉痕が残る。690は中期の広口壺頸部断片。内外面はナテ調整。691は中期壺の底部。底部はやや上底で、外面ヘラミガキ、内面はナテ調整。

S54は砥石片。残存長7.55cm、最大幅3.8cm、最大厚1.4cmを測る。全面砥面として使用。石材は新板岩。S55は外湾刃半月形の石薙丁片。残存長6.1cm、幅4.2cm、最大厚0.6cmを測る。やや欠損するが研磨仕上げである。円孔は径0.7cmを測る。石材は輝緑凝灰岩。S56は紡錘車の破片。復元直径は5.8cm、孔径は0.8cm、最大厚0.7cmか。表面研磨仕上げ。石材は滑石。S57は軽石の浮子。全長7.7cm、最大幅4.4cmを測る。左側面中央に紐掛けのノッチがある。S58は大型の石鎌。石材は滑石である。長軸径13.5cm、最大厚5.9cmを測る。表面は粗い削り仕上げ。中央部にノミ状工具による穿孔がある。S59は各面剥離目面の石核。下小口面には二次調整痕がある。石材は頁岩か。

692～701は下層出土。692は弥生時代中期中頃の鉢。外面はナテでハケ目が僅かに残る。内面はナテ。693・694は弥生時代中期の須玖Ⅰ式の壺。693は勸先状口縁壺口縁部。694は口が窄まる短頸壺。いずれも器表面の摩滅はひどいがヨコナテ調整か。695～697は逆L字形の口縁を持つ中型甕で、須玖Ⅰ式期のもの。697の頸部には三角突帯が1条貼り付く。胴部外面はハケ目とナテ、口縁部外面から内面はヨコナテ調整。698・699は中期の甕底部。いずれも外面はタテハケ目、内面はナテ調整で指押え痕が残る。外底部はナテ。700は後期前半の鉢。上層の破片と接合している。口縁部は内傾し、凹凸がある。外面タテハケで、口縁部外面から内面はナテ調整。701は突帯文土器の壺口縁部か。外面は摩滅し調整は不明、内面は板ナテ調整。

W62・63は板材。縦長16.0cm・17.7cm、横幅6.0cm・5.7cm、厚み0.8cm・0.9cmを測る。表面は丁寧な削り仕上げで、両小口は使用によるのか磨滅が著しい。スギの柱目材である。W64は斜めに加工さ

れたヘラ状の薄い板材。全長17.9cm、最大幅2.2cm、厚み0.2cmを測る。W65は先端を四面から削り込んだ棒状の製品。断面楕円形の芯持材。残存長15.4cm、径は2.7cm×1.8cmを測る。頂部は欠損が著しいが斜めの削り。

**SX436出土遺物** (Fig.157~159・166~169, PL.101・109) 702~713は上層出土。702・703は須恵器。702は甕口縁部で下層と接合。口縁部内外面回転ヨコナデ、体外面はタテ平行タタキ、内面はナデ調整。5世紀のもの。703は胴部頸部片。回転ヨコナデ調整で、外面灰カブリする。704~706は土師器。704は古墳時代初めの小型器台。内外面ヘラミガキ調整。705は高坏胴部。ナデ調整で外面ハケ目が残る。706は小型の甕。胴部内外面はハケ目。口縁部はヨコナデ調整。707は後期前半の甕口縁部。胴部外面はハケ目、口縁部内外面はハケ目後ナデ、胴部内面はナデ。708・709は中期の甕で口縁部は逆L形を呈す。胴部外面はハケ目、口縁部内外面はヨコナデ、胴部内面はナデ上げ。709は大型甕で、頸部に1条の三角突帯が付く。胴部外面はハケ目で、口縁部外面から胴部内面にかけてはヨコナデ調整で、内面ススが付着する。710は後期前半の高坏坏部。内外面の調整はヘラミガキ。内面屈曲部はハケ目後ミガキ調整。711・712は中期後半の鉢で、いずれも口縁部は平坦を呈す。711の口縁部は内外ヨコナデ調整で、体部内外面はハケ目が残る。712は大型で復元口径は22.8cmを測る。内外面調整はヨコナデから板ナデやナデ。713は中期後半の丹塗りの蓋。直径0.5cmの円孔が両側2個1対で穿たれる。外面ヘラミガキ、口縁部外面から内面はナデ調整で、裏には指押え痕が残る。

714~725はSX436下層出土。714~716は壺。714は後期前半の袋状口縁壺。頸部に1条の三角突帯が付く。頸部外面はタテハケ目、口縁外面から内面にかけてはナデ調整。715は小型壺胴部片。下膨れで最大口径は13.8cmを測る。外面剥落がひどいが粗いハケ目、内面もハケ目調整で、頸部に粘土帯接合面が残る。外面黒斑がある。716は無頸壺。胴部には二条の突帯が巡る。外面突帯下はタテハケ目、内面は強いハケ目調整。口縁部外面に黒斑がある。717・718は後期中~後半の中型甕。717は内外面ハケ目調整。718は口縁から胴部片。胴部外面はハケ目、口縁部外面はハケ目後ナデ、内面は板ナデ調整で、工具痕が残る。外面ススが付着する。719・720は後期前半の底部片。719は壺。内外面粗いハケ目。底部はナデ調整。720の胴部外面はタテハケ目、内面はナデ上げ。外底部はナデ調整。外面黒斑がある。721~723は鉢。721は丸みを持った体部で平底。外面の調整はナデ上げ、内面は粗いハケ目調整。外面には焼成前剥落がある。722・723は手製のミニチュアの鉢。722はナデ調整で指押え痕が残る。723は外底に黒斑がある。724は後期前半の大型の甕で頸部に突帯が巡る。内外面ハケ目調整。725は支脚で、復元底径は8cmを測る。内外面指ナデ調整。

811は紡錘車。完形で、径5.2cm×5.3cm、厚み0.7cmを測る。中央に0.6cmの円孔が空く。812は土器片を打ち欠いて利用した土製円板。径は4.2cm×5.2cm、厚み0.8cmを測る。ナデ調整である。813・814は不明粘土塊。813はハケ目調整痕がある焼成粘土塊。814は手捏ねの焼成粘土塊。

S60は上層出土、他は下層出土である。S60は大型の石廬丁未製品片。両側に穿孔痕が残る。残存長は9.9cm、最大幅7.2cm、最大厚0.4cmを測る。石材は粘板岩か。S61は小型の扁平片刃石斧。全長7.1cm、幅2.6cm、最大厚0.9cmを測る。全面研磨仕上げ。刃部は使用で一部欠損する。S62は磨製石斧片。基部のみ欠損品で残存長6.85cmを測る。雑な研磨仕上げで、敲打痕が全面に残る。石材は安山岩。S63は外湾刃半月形の石廬丁片。残存長9.4cm、幅5.8cm、最大厚0.8cmを測る。円孔は2ヶ所で径は1.3cmを測る。丁寧な研磨仕上げ。石材は輝綠糜炭岩である。S64は石斧の基部片を再利用した敲石。全長5.6cm、幅6.65cm、最大厚3.7cmを測る。表面には敲打調整痕が残るが、下小口面は使用痕である。石材は砂岩。S65は紡錘車で、直径5.1cm、最大厚0.65cm、孔径0.7cmを測る。

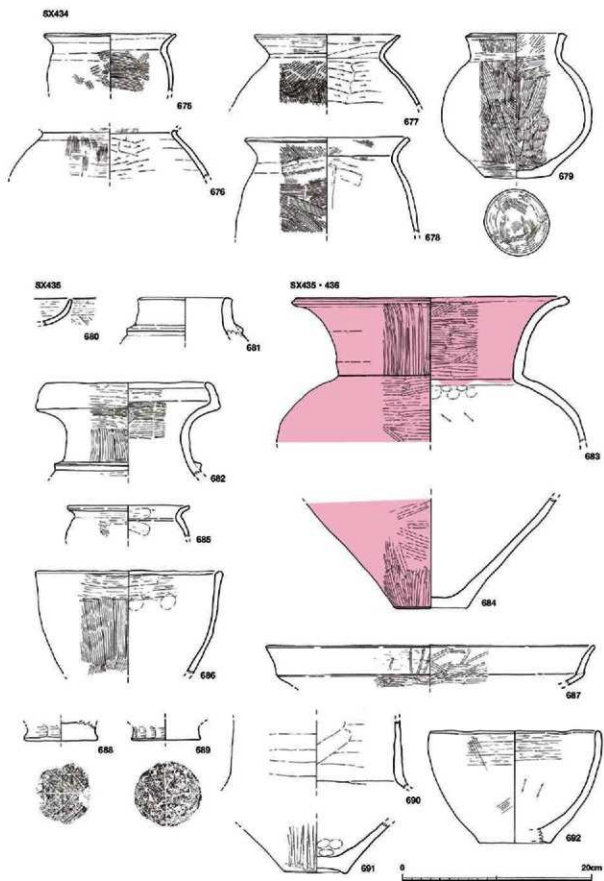


Fig.157 SX434~436出土土器 (1/4)

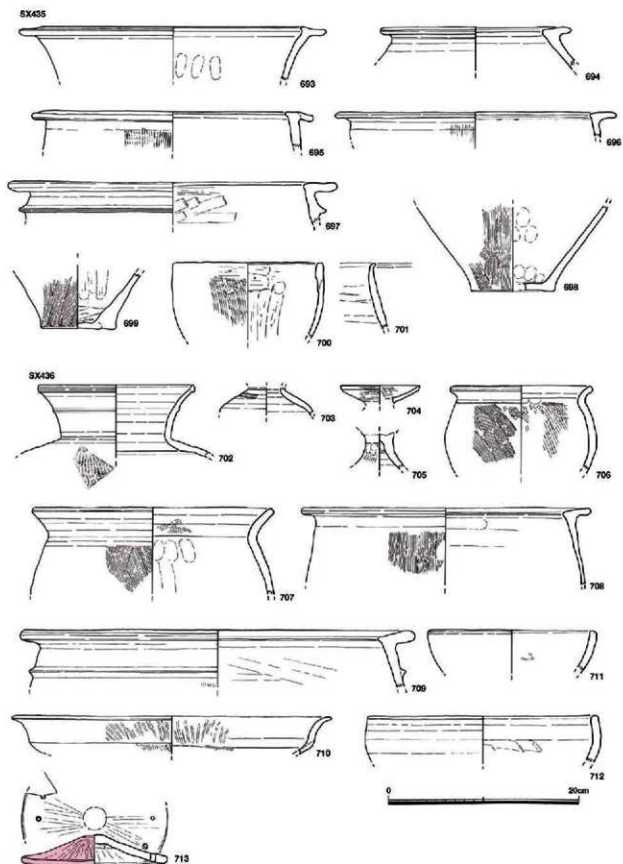


Fig.158 SX435・436出土土器 (1/4)



表面丁寧な研磨仕上。石材は蛇紋岩。S66は扁平な石錐片。左と下側面に抉りがある。石材は滑石か。S67は砥石で上端を欠損する。全長13.9cm、幅9.3cm、最大厚2.2cmを測る。上・底面、左右側面は使用面で擦痕が残る。表面には夾雑物が取れたのか窪みが多い。石材は粘板岩か。

W66は反りを持った板材で容器の一部か。残存長20.1cm、最大幅7.9cm、最大厚1.1cmを測る。樹種がムクロジの板目材である。

**SX443出土遺物** (Fig.159) 弥生時代前期後半の遺物が出土。

726は板付Ⅱ式の如意形口縁罍片。口端部にはハケ目工具による刻目が付く。外面ハケ目後ナデ、内面はナデ調整。

**SX445出土遺物** (Fig.159) 弥生時代前期の遺物が出土。

727は板付Ⅱ式の如意形口縁罍片。口端部にはヘラ状工具による刻目が付く。内外面はナデ調整。

**SX458出土遺物** (Fig.159) 弥生時代前期から中期前半までの土器が出土している。

728は板付Ⅰ式の甕口縁部細片。口端部にヘラ状工具による刻目が入る。内外面はハケ目後ナデ調整。729は突帯文土器夜白Ⅱb式の甕。口縁部に工具による刻目突帯が貼り付く。内外面貝殻条痕後ナデ消し。730・731は弥生時代前期の板付式土器底部片。730は円盤貼付気味の底部で、胴部外面タテハケ目、底部と内面はナデ調整。731は小型壺の底部。円盤貼付で、外面丁寧なミガキ、内面はナデ調整。外底接合痕が見える。

**SX472出土遺物** (Fig.159) 弥生時代前期の土器が出土している。

732は小型鉢の胴底部。外面ヘラミガキ、内面ナデ調整で丁寧な作り。内面に黒斑がある。

**SX484出土遺物** (Fig.159) 弥生時代前期から古墳時代前期の土器や片刃石斧片などが出土。

733は古墳時代前期の小型丸底壺片。外面丁寧なナデ、口縁内面は口縁ハケ目、内面はナデ調整。734・735は弥生土器。734は壺で、頸部に三角突帯が巡る。調整は丁寧なナデ。外面に黒斑がある。735は碗形の鉢。外面はハケ目をナデ消し、内面はナデ調整。

**SX523** (Fig.160, PL.64) R-20区包含層中で検出した土器群。本来何らかの遺構に伴うものと思われるが、掘り込みは確認出来なかった。弥生時代後期中頃から終末の土器が多く、また完形の小型壺が多いことから祭祀遺構の可能性がある。

**出土遺物** (Fig.162・163, PL.102・103) 738～751は壺。738～740は小型壺でほぼ同形態。直口する口縁で、胴部はやや張り後を持ち、底部は平底気味。738は完形。外面ヘラミガキ、内面と外底部はナデ調整。739は胴部から底部片。外面はやや摩滅するがナデで底部近くはハケ目が残る。内面はナデ調整。740は口縁から胴部片。口縁部は僅かに開き、胴部最大径は下に下がる。741・742は広口の壺で、口縁部は「く」字状で短く開く。741は完形で、底部に径2cmの孔が穿孔される。胴外部はヘラミガキ、口縁部はヨコナデ、内面はハケ目。底部はナデ調整で、内面には指押え痕が残る。742の胴部外面はヘラミガキ、口縁部内外面はヨコナデ、内面はナデで胴部下半はハケ目後ナデ調整。いずれも外面には黒斑がある。743は細頸壺の口縁部。頸部径は6cmを測る。外面タテハケ目後ナデ、内面はナデ調整でシボリ痕が残る。744・745は中期後半の広口壺。744は頸部に1条の三角突帯が付く。器表面は摩滅するがナデ調整で、内面には指押え痕とハケ目が残る。745は口縁部が外反し、口端部が跳ね上がる。頸部には2条の三角突帯が巡る。外面は口端部と突帯部がヨコナデでその他はタテ・ヨコ・ナメのハケ目、内面もナデとナメハケ目調整である。746～750は後期中頃の袋状口縁壺。746は復元完形。頸部と胴部中央に突帯が1条ずつ巡る。調整は外面頸部から胴部上半はハケ目、胴部下半は板ナデ、内面はハケ目後ナデ消し。外底部はハケ目後ナデ消しで、十字のヘラ記号が入る。747は口縁部。口縁内外面はナデで、外面には櫛目工具に

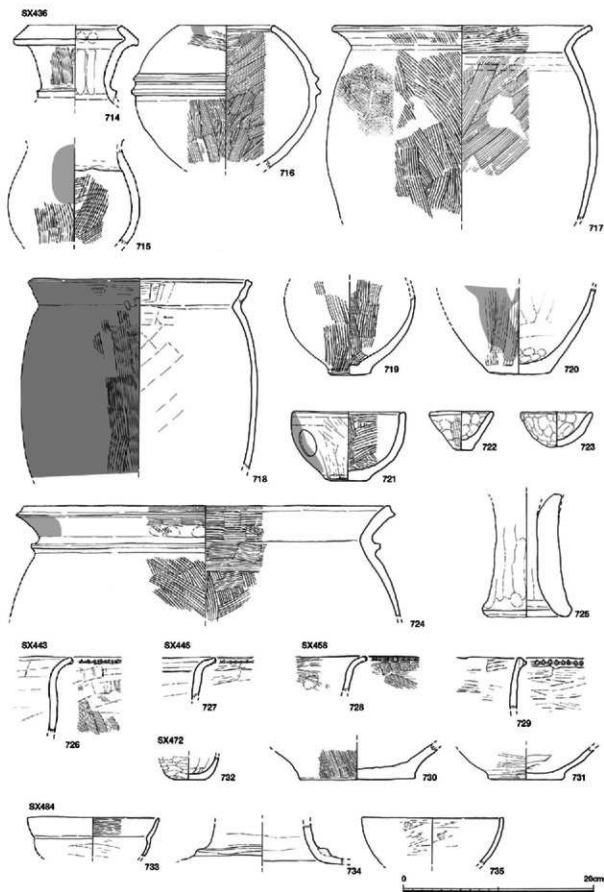


Fig.159 SX436・443・445・458・472・484出土土器(1/4)

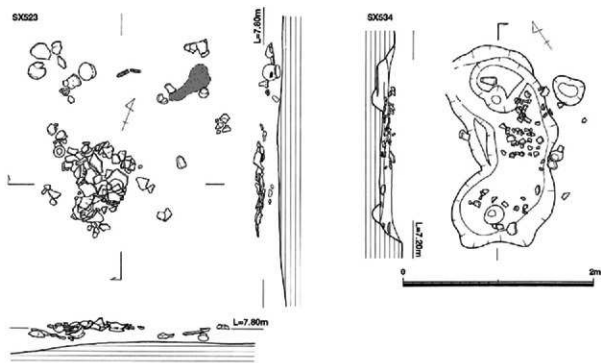


Fig.160 SX523・534 (1/40)

よる円弧状の連続文が入る。748は口頸部片。頸部に1条の三角突帯が巡る。厚減がひどいが、ハケ目後ナデ調整か。749・750は頸胴部片で、頸部と胴部に突帯が1条ずつ巡る。胴部突帯は刻目が付く。749の調整は外面胴部突帯上半はハケ目、下半は板ナデ。内面上半はハケ目後ナデ、下半はナデ。底部も板ナデ。750は調整が胴部突帯下半ハケ目後ナデ、内面は粗いハケ目後ナデ、底部内外面はナデ。751は後期の大型壺又は甕の底部。調整は外面タタキ後ハケ目後ナデ、外底部にかけてナデと板ナデ、内面は板ナデで、内底には粗いハケ目が残る。752は後期後半から終末の甕。調整は外面は口縁部が粗いたテハケ目、胴部は目の細かいナメハケ目、内面は粗いハケ目。胴部外面には内容は不明だが細い線刻絵画文様が入る。又黒斑がある。753は底部。外面はハケ目とナデ、

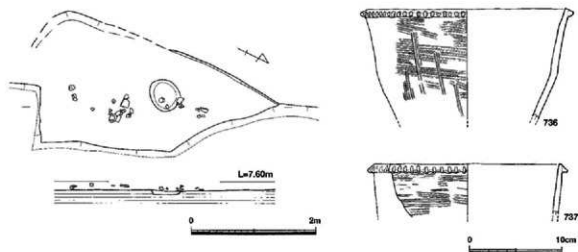


Fig.161 SX528及び出土土器 (1/60・1/4)

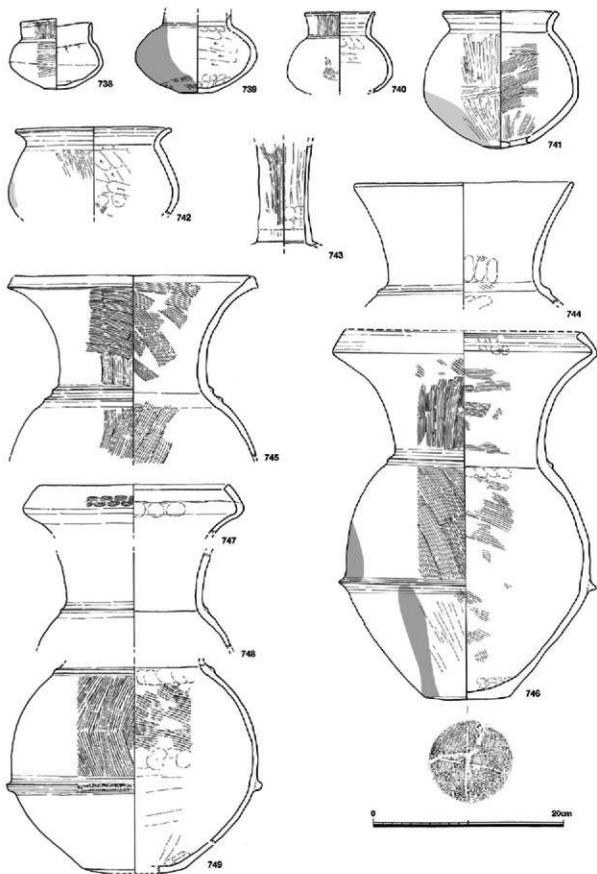


Fig.162 SX523出土土器① (1/4)

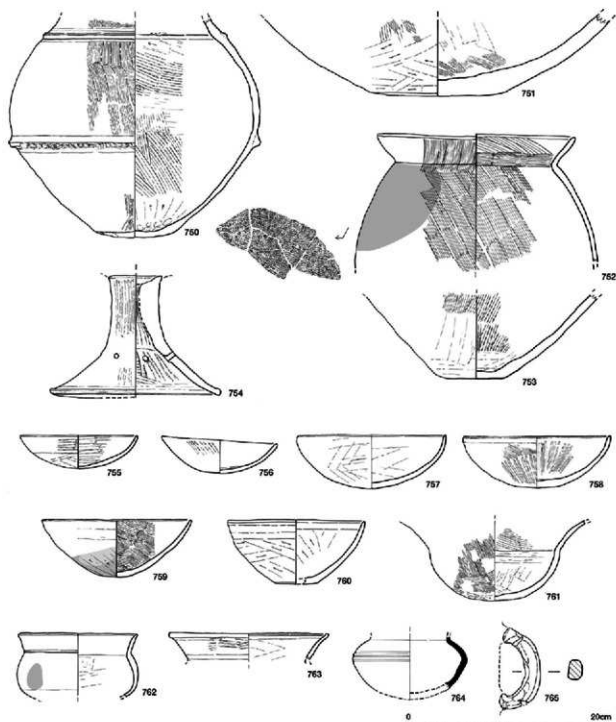


Fig.163 SX523出土土器② (1/4)

内面はハケ目後ナデ。外底はナデ調整。754は高環脚部。裾部には4ヶ所直径5mmの円形透孔がある。外面ヘラミガキ、内面ハケ目後ナデ調整。755～761は鉢で弥生時代終末頃のものか。755・757は丸底のもの。755の口縁部外面から内面はヘラミガキ、外底部はナデ調整。756はナデ調整で、外面上半は粗いハケ目が残る。757は器表面の厚減はあるがナデか。758・759はやや平底気味の底部のもの。758の調整は内外面ヘラミガキであるが、口縁部外面は細かいハケ目。759の外面上半はナデで底部はケズリ後ナデ、内面は細かいハケ目調整。外面には黒斑がある。760は平底の鉢。内

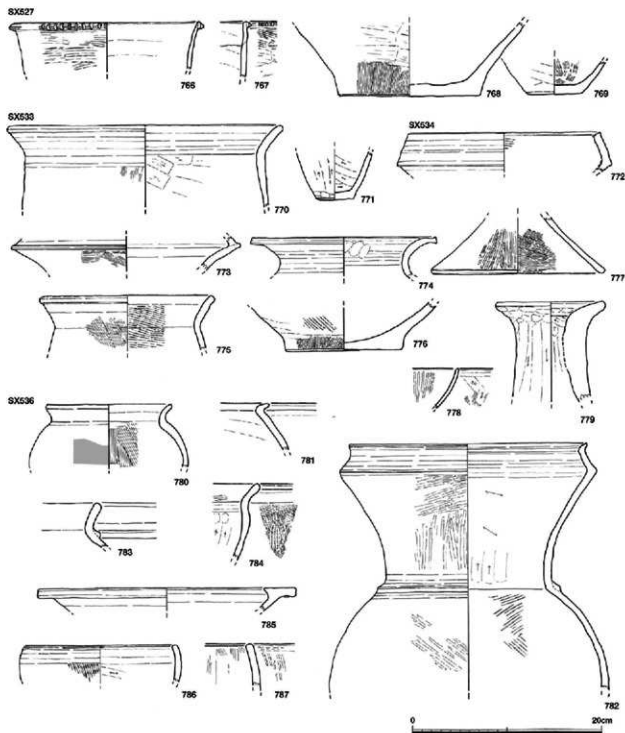


Fig.164 SX527・533・534・536出土土器 (1/4)

外面板ナデ調整。761は口縁部が体部から屈折して外に開く形態。調整は外面細かいハケ目、内面は口縁部がハケ目、底部がナデ。外底部は板ナデ。762は小型丸底蓋。内外面調整はナデで、外面黒斑がある。763は口端部を上部に短く屈折させる口縁部の裏口縁部片。調整は口縁部外面はタタキ後ナデ消し。内面はナデ。筑前型の庄内甕か。764は須恵器の埴又は甕の体部片。中央に3条の沈線が巡り、内外面の調整はナデである。混入品か。765は弥生時代終末期の山陰系土器の把手か。断面は楕円形を呈し、指ナデで仕上げである。

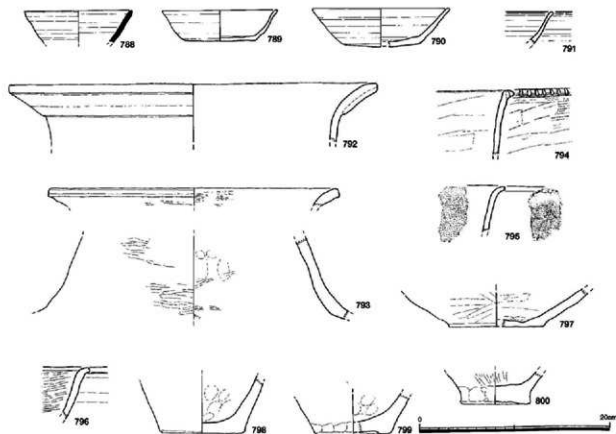


Fig.165 SX559 出土土器 (1/4)

**SX527出土遺物** (Fig.164) 弥生時代前期から古代にかけての遺物が出土した。

766・767は突帯文土器の甕口縁部。いずれも口縁部突帯に棒状工具による刻目が付く。調整は外面貝殻条痕後ナデ、内面はナデで、767には粘土接合痕が残る。768・769は底部。768は前期の大型壺底部。外面はハケ目とナデ、内面は剥落がひどいがナデか。769は後期の甕底部。調整は外面はナデで黒痕がある。内面は粗いハケ目後ナデ。他にも前期土器細片が出土している。

**SX528** (Fig.161, PL.64) R-21区で検出した。別の遺構に切られ全体の形状は不明。遺構の残りは悪く、確認規模は長軸長で約5mを測る。埋土は黒色粘土である。当初弥生時代前期の竪穴住居といたが、他に当該期の明確な住居がなく、他に細長い土坑がいくつか検出されているだけで、それらとはほぼ同じ主軸を取るので、住居跡よりは土坑に近い性格のものとし、この項で報告する。

**出土遺物** (Fig.161, PL.103) 736・737は刻目突帯文土器の甕である。口縁部に1条の刻目突帯を貼付、胴部外面には貝殻条痕を施す。刻目は736が角張った木口状の道具で施文しているのに対し、737は先端が丸い道具で施文している。

**SX533** (PL.53) R-24・25区で検出した大型の溝状の土坑で、SD369と合流する。切り合いも不明で、埋土も変わらないので、その一部かもしれない。規模は長軸長12m、短軸長5.3m、最大深さ1.3mを測る。底面は砂層に達し湧水がひどい。

**出土遺物** (Fig.164・169) 弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器片や磨石が1点出土。時期は古墳時代前期頃であろう。

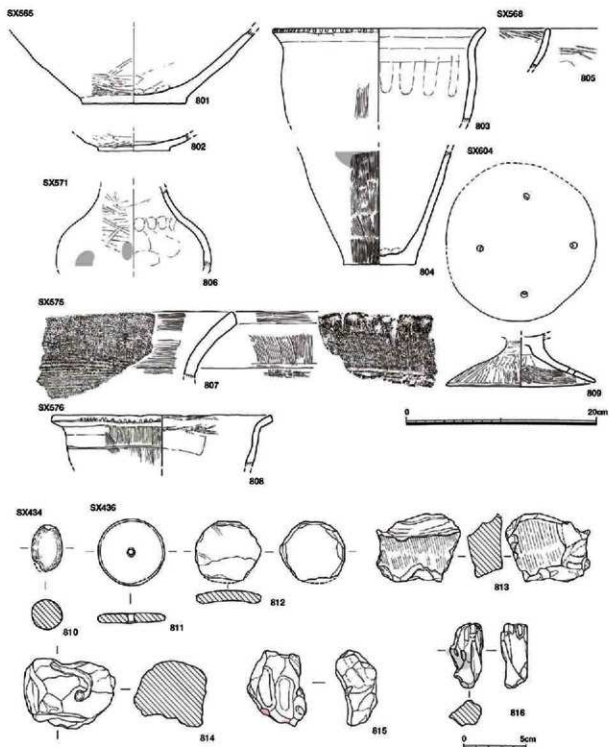


Fig.166 SX565・568・571・575・576・604出土土器 (1/4)、SX434・436出土土製品 (1/3)

770は土師器の甕口縁部。外面は胴部ハケ目、口縁部はヨコナデ、内面はナデ調整である。771は小型の平底の鉢か。外面板ナデ、内面はナデ調整。

S72は方形形状を呈す不明石製品の一部。残存縦長2.6cm、横幅4.35cm、最大厚1.2cmを測る。全面丁寧な磨りで、赤みを帯び二次的被熱を受ける。石材は砂岩か。

**SX534** (Fig.160, Pl.64) S-23区で検出した、平面形が不定形状の浅い黒色粘土の落ち込



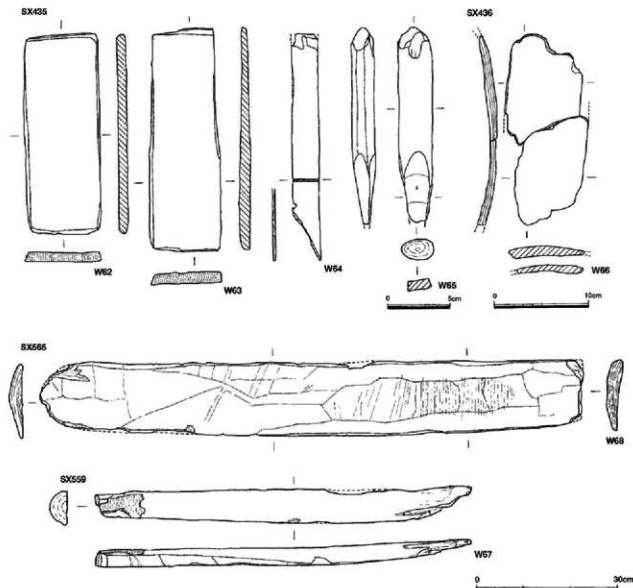


Fig.167 SX435・436・565・599 出土木製品 (1/3・1/4・1/8)

み。その両側で更に一段落ち込む。落ち込み部分で土器細片がまとまって出土した。規模は上面で長軸長6.3m、短軸長3m、深さ0.1~0.15mを測り、下層落ち込みでの規模は長軸長2.05m、短軸長0.95m、最大深さ0.32mを測る。埋土は上層は黒褐色砂質土と黒色土の混合、下層は黄灰色粘質砂、落ち込み部分は青灰色粘土ブロック混じりとなる。図は下層落ち込み部分の土器出土の状況である。

**出土遺物**(Fig.164・168, PL.103・109) 弥生後期~古墳時代初め迄の遺物が多い。他に黒曜石剥片や石斧・巖石片なども出土している。

772・773は後期の複合口縁壺。内外面ハケ目後ナデ。772は外面ハケ目後ナデ、内面はヨコナデ調整。774は口端部が跳ね上げ状の壺。ヨコナデ調整で、内面には指押え痕が残る。775は後期の寛口縁部で、外面は口縁部が粗いハケ目後ナデ、胴部はハケ目、内面は粗いハケ目後ナデ調整。外面ススが付着。776は壺か甕の底部片。外面ハケ目後ナデ消し、底部近くはハケ目調整、内面は摩滅で調整不明。777は高坏脚部。外面はハケ目後ヘラミガキ、内面はハケ目調整。778は鉢口縁部。

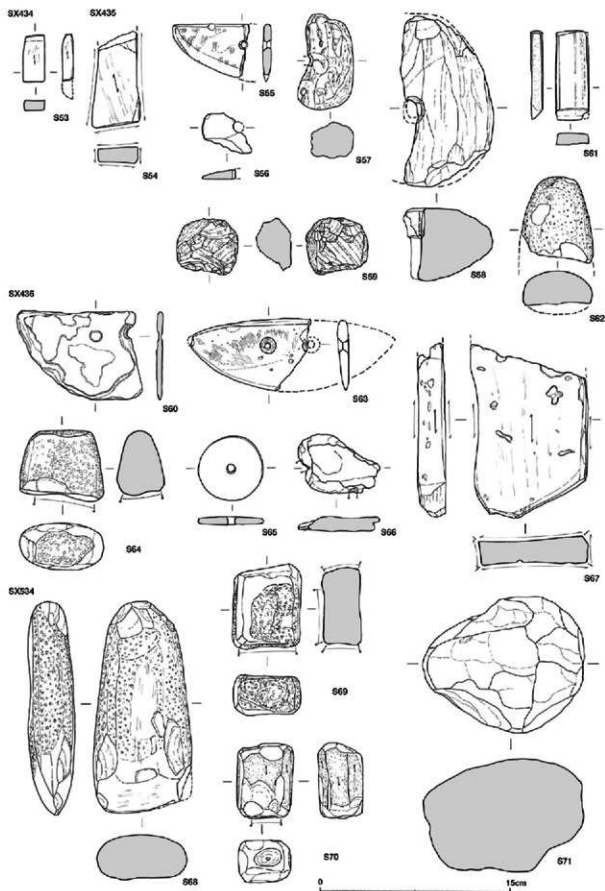


Fig.168 SX434・435・436・534 出土石器・石製品 (1/3)

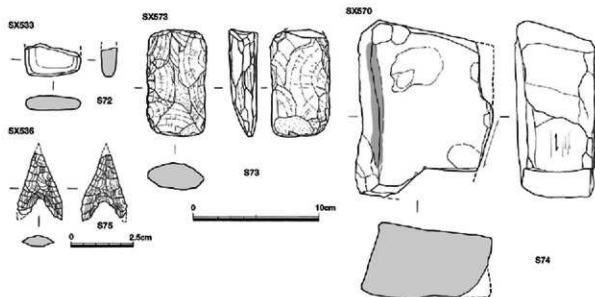


Fig.169 SX533・536・570・573 出土石器 (1/3・2/3)

外面ハケ目後ナデ、内面はヘラムガキ調整。779は筒形の器台で、口縁部は外反する。外面は板ナデ、口縁外面から内面はナデ調整。

S68は磨製石斧。全長16.9cm、最大幅7.8cm、最大厚3.7cmを測る。基部は敲打調整後研磨、刃部は研磨で、使用による摩耗・欠損が目立つ。石材は玄武岩。S69・70は方形の叩き石。S69は上面と上下両小口、左側面には使用痕が残る。S70は両小口が使用面で、各側面は擦られている。石材はS69は花崗岩、S70は砂岩である。S71は大型の円礫を雑に打ち割って成形した石弾か敲石。縦長10.8cm、横長12.85cm、最大厚9.0cmを測る部分的に使用痕が残る。石材は緑泥片岩か。

**SX536出土遺物**(Fig.164・169, PL.110) 弥生時代前期から後期迄の遺物が出土するが、後期のものが多い。他に黒曜石剥片や叩き石なども出土。

780は後期後半の短頸壺口縁部片。外面から口縁部内面はヨコナデ、胴部内面は粗いハケ目調整。781は中期後半の短頸壺口縁部小片。内外面ナデ調整。782は後期後半の複合口縁壺で、頭部に1条の三角突帯が巡る。783は後期前半の甕口縁部細片。頭部に三角突帯が付く。調整はナデ。784は甕か鉢の口縁部片。胴部外面はタタキ、口縁外面はヨコナデ、内面は粗いハケ目後ヨコナデとナデ調整である。785は中期後半の高坏部片。調整はナデ。786・787は鉢口縁部片。786は外面ハケ目後ナデ、口縁部はヨコナデ、内面はナデ調整。787は外面タタキ後ハケ後ナデ消し、内面はハケ目後ナデ調整。

816は焼けた粘土塊。

S75は黒曜石の石鏃。凹基で挟りは深い。基部と先端が欠損する。鏃身長2.65cm、幅1.8cm、最大厚0.4cmを測る。全面綿密な剥離調整である。

**SX559**(PL.65) S-23・24～T-24区にかけて検出した大型の不定形土坑である。主軸を北東から南西方向に取り、規模は長軸長8.7m、短軸長3.8mを測る。底面は一定しないが、深さは0.8m前後である。埋土は下層が砂層で、上層が黒色粘土層である。湧水があり、木質遺物なども出土している。下層から788～791のような古代の土器が出土しており、上の面から掘り込まれた遺構と考えられる。

**出土遺物**(Fig.155・165・167, PL.110) 下層からは弥生時代中期から古代前半迄の土器が、上層からは弥生時代前期の甕・甌の破片が出土。他に磨製石斧片・敲石・黒曜石剥片なども少量出土。

788は下層から出土した須恵器の坏破片。789・790土師器の坏。いずれも外底部はヘラ切り、体部外面から内底はナデ。791は最下層から出土した土師器の碗で、体部途中以下に回転ヘラケズリを施す。792・793は弥生時代前期の大型甕口縁部片。口縁部は肥厚する。792はココナデ、793はヘラミガキ調整である。794は刻目突帯文土器の甕口縁部片。口縁部の突帯には棒状工具の刻目が付く。内外面ココナデ。795は如意形口縁の甕口縁部で、口唇下端部にヘラによる刻目を付ける。796は外反する鉢の口縁部で、外側ナデ調整、内面ヘラミガキ調整である。797は前期壺の底部。円盤貼付か。調整はナデ。798・799は甕底部。800は台形状にやや唇が外側に開く底部で、突帯文土器の甕底部と考えられる。

S43は石斧片。研磨成形であるが、表面の剥落は進む。変成を受けた粘板岩系の堆積岩か。S44～46は礫石。S44は長方形で、縦長6.35cm、横長5.5cm、厚み4.2cmを測る。上面、右側面、下小口面に敲打使用痕が残る。石材は砂岩。S45は扁平な半円形で、縦長5.0cm、横長6.5cm、厚さ3.7cmを測る。上下面は擦りで摩滅し、上小口と周縁部は敲打使用面で使用痕が残る。石材は花崗岩。S46は磨石片の刃部片を転用したもの。刃部と破損部に再使用痕が残る。S47は磨石片を再加工した棒状の錘か。欠損面には粗割調整である。縦長9.9cm、横幅2.7cm、厚みは2.4cm程である。

W67は加工材で全長79.4cm、最大幅7.2cm、厚み3.2cmを測る。

**SX565出土遺物**(Fig.166・167, PL.65・103) 弥生時代前期の土器と黒曜石剥片が少量出土した。801・802は前期の壺底部片。801は大型壺で、外面はヘラミガキ、内面はナデ調整。802は板付I式で底部は円盤貼付。調整は丁寧なナデ。803・804は甕。803は板付II a式のもので、口縁部には刻目が粗く入る。外面ススが厚く付着するかハケ目後ナデ、内面もナデで仕上げる。804は底部片。調整は外面タテの細かいハケ目、内面はナデ。

W68は刃材使用の板材。全長111.4cm、最大幅15.7cm、最大厚2.6cmを測る。

**SX566**(PL.66) T-24区で検出した溝状の浅い土坑。長軸長5.1m、短軸長1.15m、最大深さ0.17mを測る。流木や刻目突帯口縁部や黒色磨石土器片や磨石片などが出土した。弥生時代前期の時期か。

**SX568出土遺物**(Fig.166) 弥生時代中期から後期土器片と、黒曜石片が出土した。

805は後期後半から終末の鉢口縁片。内外面ナデでタタキ痕が残る。

**SX570出土遺物**(Fig.169, PL.66) S74は粗礫石。一部欠損するが、縦長14.1cm、横長10.9cm、最大厚6.3cmを測る。上面と底面は粗い擦り、右側面は砥面として使用。左側面上半にはススが付着する。石材は砂岩。他に弥生時代中期から後期の土器片が少量出土。

**SX571出土遺物**(Fig.166, PL.65) 弥生時代後期の遺物が出土した。

806は後期前半の袋状口縁部胴部片か。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。外面黒斑がある。

**SX573出土遺物**(Fig.169, PL.65・110) S73は小型の石斧未製品か。基部を欠損か。残存長8.5cm、幅4.8cm、最大厚2.3cmを測る。各面剥離面が残る。刃部は部分的に研磨を加える。他には弥生時代前期から中期の土器片が出土している。

**SX575出土遺物**(Fig.166, PL.65) 807は後期の大型甕口縁部で、同一個体の胴部もある。頸部には退化した三角突帯が付く。口縁内外面ハケ目調整。黒斑がある。

**SX576出土遺物**(Fig.166) 弥生時代前期後半から後期の土器が少量出土した。

808は板付II b式期の甕口縁部。口唇部下端には刻目が付く。胴部上半には沈線が入る。外面はハケ目、口縁内面はハケ目、内面はナデ調整。

**SX604出土遺物**(Fig.166, PL.103) 弥生土器から古墳時代前期の土器や、石鎌片が出土。

809は土師器の高杯脚部。調整は外面ヘラミガキ、内面はハケ目。直径0.7cmの円孔が4ヶ所入る。

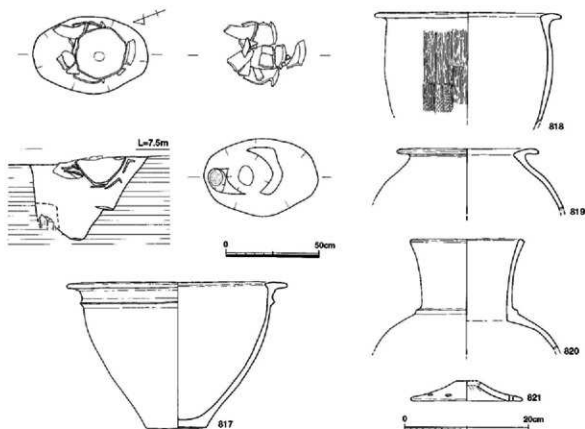


Fig.170 SP467及び出土土器 (1/20・1/6)

穿孔は焼成前で、内面黒斑がある。

⑦ ピット (SP)

**SP467** (Fig.170, PL.104) N-23区で検出した。検出面で長さ0.6m、幅0.4mの楕円形プランを呈する。甕 (818) の半身を横位に寝かせた上に浅く広口の甕 (817) を正置していた。土器 819~821はこの遺構近くの直上包含層から出土したもので、確実に本遺構に伴うものかは不明である。上器をはずして掘り下げると深さ45cmで底面に達し、柱根を確認した。817~819は甕である。820は壺、821は蓋である。

**ピット出土遺物** (Fig.171・172, PL.104) W69は木鏝である。残存長6.0cm、最大幅1.2cmで断面三角形に加工する。822~824は弥生前期初頭の甕である。822の口縁部は1条の刻目突帯を貼り付ける。823は底面に木の葉痕跡が残る。825は壺底部である。826は丹塗の蓋で2箇所穿孔し、外面を磨く。827は器台。828~831は鉢。832は脚付鉢の脚部か。833・834は弥生後期の甕である。835・836は高坏の坏部。837・838は蓋。839~841は弥生中期の鋤先口縁の甕である。842~845は弥生後期の甕の口縁部。846・847は弥生後期の複合口縁壺の口縁部である。

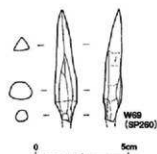


Fig.171 ピット出土木製品 (1/2)

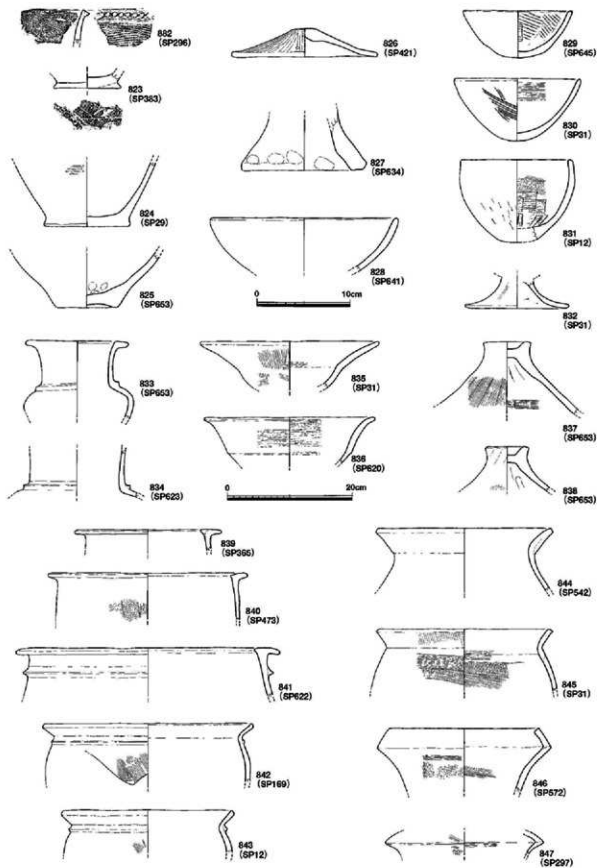


Fig.172 ビット出土土器 (1/4・1/6) ※822～832は1/4、833～847は1/6

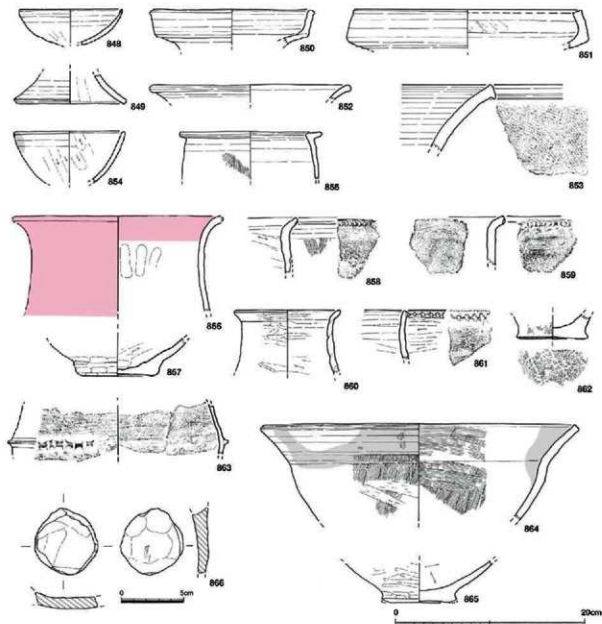


Fig.173 遺構面、攪乱出土土器 (1/4)・土製品 (1/3)

## ⑧ 遺構面出土遺物 (Fig.173~175)

遺構検出時や調査中に出土した遺物で重要と思われるものについて述べる。

848・849は土師器。848はO-20区出土の鉢で古墳時代前期。調整は丁寧なナデ。849はO-24区出土の高坏脚部。調整はナデである。850~854は弥生時代後期の土器。850・851は複合口縁壺の口縁部片。850はM-20区出土。口縁部はヨコナデ、頸部外面はハケ目調整。851はS-22区出土。外面はヨコナデ、内面はナデ調整でハケ目が残る。852はN-20区出土の口縁部片。調整はヨコナデでスガが付着する。853はS-22区出土。大型寛口縁部粗片。口縁部外面は粗いハケ目、内面はヨコナデ調整。854はM-20区出土の弥生時代終末期の鉢。外面板ナデ、内面はナデ調整で、外面に黒斑がある。855はO-23区出土の弥生時代中期初頭の甕口縁部。調整は胴部外面は細かいハケ目、口縁部外面から胴内面にかけてはヨコナデ。856・857は壺。856はQ-21区出土の板付1式の丹塗り壺

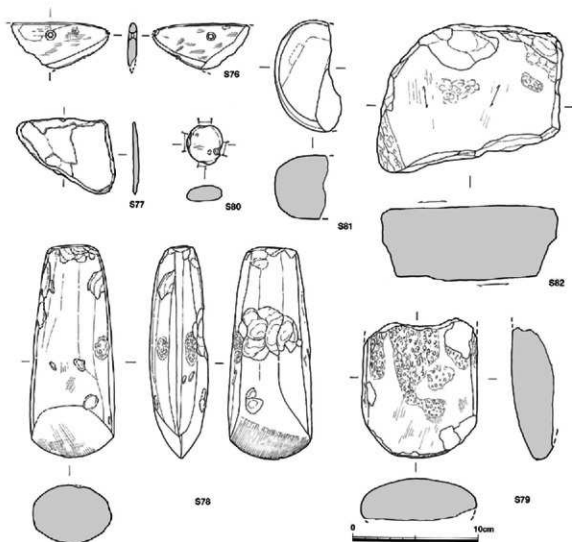


Fig.174 遺構面 出土石器 ① (1/3)

口縁部片。全体に摩滅が著しいが、外面はヘラミガキ、内面はナデ調整か。外面から口縁部内面まで丹塗りである。857はS-24区出土の壺の底部片。ナデ調整である。858-859は板付式Ⅱ式土器の壺口縁部片。858はO-24区出土で、口縁部下端に刻目が付く。外面細かいハケ目、内面はナデ。859はP-22区出土。口縁部下端に刻目が付く、内外面ナデとハケ目。860はO-22区出土の刻目突帯文期の壺口縁部。復元口径は10.8cmを測る。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。861はO-24区出土。壺の口縁部片。口縁部の突帯の刻目はヘラ状工具による。胴部内外面の調整はナデ。862はN-20区出土。底部に木葉の圧痕が残る壺の底部。胴部外面はハケ目、内面はナデ調整。863はP-21区出土。屈曲部に貼付刻目突帯を持つ壺。胴部の調整は貝殻条痕である。外面スガが付着する。864はP-20区出土。後期後半の大型の鉢。口縁部から胴部内外面はハケ目調整。口縁部内外面黒斑がある。865はQ-21区出土。前期の壺底部。調整は胴部外面はヘラミガキ、内面はナデで、外底部はヘラナデである。866はN-24区出土の底部に近い胴部片を利用した土製円板。径は5.0cm×5.3cm、最大厚1.1cmを測る。表面の調整はナデで、縁辺は打欠いて成形している。

S76-77は石彫丁片。S76はN-20区出土。残存長7.6cm、残存幅3.6cm、厚み0.7cm、孔径は0.7cmを測る。偏みはひどいが研磨仕上げである。S77はQ-23区出土。刃部三角形を呈す未製品である。



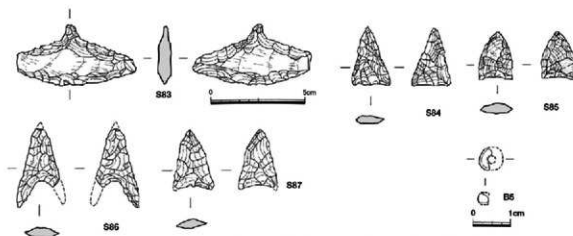


Fig.175 遺構面出土石器②(1/2・2/3)・出土玉(1/1)

全体に風化磨滅が著しい。前期の時期か。石材は粘板岩か。S78・79は磨製石斧。S78はP-22区出土。今山産の玄武岩の太形始刃磨製石斧でほぼ完形。全長16.8cm、最大幅6.7cm、厚み4.7cmを測る。表面の欠損は著しいが、研磨仕上げである。S79はQ-21区出土。刃部片で残存長11.1cm、幅9.2cmを測る。研磨成形であるが、叩打調整痕が残る。石材は玄武岩か。S80はR-20区出土の扁平な円礫の凹隅を打ち欠いた鏟。径2.9cm×3.1cm、厚み1.3cmを測る。表面は磨かれたのかツルツルする。S81は磨石片。風化がひどく使用痕は明瞭でないが、稜線が残る。石材は火成岩か。S82はP-22区出土。側面を粗潤り成形した砥石または台石。縦長14.6cm、横長11.8cm、最大厚5.8cmを測る。上面と底面は使用面か磨滅し滑らかで、擦痕が残る。S83はS-25区出土の石匙。横長6.25cm、幅3.2cm、最大厚0.7cmを測る。剥片を利用したもので、二次調整を加えて縁辺を整えている。石材はサスカイトか。S84～87は石鏃。S84はQ-21区出土で鏃身長2.35cm、幅1.5cm、厚み0.3cmを測る。石材は黒曜石である。S85は基部が平基の五角形を呈すもの。鏃身長1.9cm、幅1.3cm、厚み0.4cmを測る。剥片の周縁に丁寧な二次調整を加えている。S86はP-20区出土。挟りの深い凹基の基部。先端と基部が欠損する。鏃身残長3.15cm、幅1.7cm、厚み0.35cmを測る。石材はサスカイトである。S87は平基でS85に近い形態。鏃身長2.55cm、幅1.6cm、厚み0.3cmを測る。両面丁寧な二次調整を加えるが、風化がひどい。縄文晩期末から古墳時代前期のもの。石材はサスカイトである。

B5はP-23区出土のガラス小玉1/2片。直径6mm以上、厚み2mm以上、孔径は2mmを測る。色調はコバルトブルーを呈す。

### ⑨ 遺構面下確認調査

第IV面南東側高所部の調査が終了後、遺構面がシルト、又は粘土層であったので、遺構面下に遺構存在の可能性を考えて、重機で部分的に試掘トレンチを入れ、遺構のため押し確認を行った。平均としては20～30cm程掘下げた。結果として、小ビットを若干数確認したが、いずれも第IV面で掘り残したものであり、新たに下面で検出した遺構ではなかった。また更に2.3mほど深掘りした部分では、砂礫層となり、湧水もひどくなり、それ以上の掘下げは断念した。以上のことから、第IV面下には遺構面は存在しないと判断し、調査を終了した。

### ⑩ SK491・492追加資料(図176)

SK491と492出土遺物で報告書作成時に新たに追加資料があったので、文末ではあるが、報告す

る。遺構の概要については④土坑での記述を参照にされたい。

867はSK491出土で、弥生時代前期の深鉢。調整は口縁部から内面はヨコナデ後ミガキ、胴部外面はハケ目である。胴外面黒斑がある。板付Ⅱ式古段階のものか。

868～872はSK492出土。弥生時代終末から古墳時代前期前半のものである。868は古墳時代前期初頭の二重口縁壺。調整は口縁部ハケ目後ヨコナデで、外面下部に櫛描波状文が入り、頸部はタテ・ナナメハケ目、頸部にハケ目工具による刻目突帯が付く。胴部外面はヘラミガキ、内面はヨコハケ目である。869も古墳時代初頭の小型甕である。調整は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目後ナデ、内面はハケ目である。870は前半の布留式甕口縁部。調整は口縁部ヨコナデ、胴部外面はハケ目、内面はヘラケズリである。870・871の胴部外面には炭化物が付着する。871は初頭の高坏脚部。脚筒外面はミガキ、筒部内面はケズリ、裾部外面はハケ目後ミガキ、内面ハケ目後ナデで円孔が開く。872は弥生時代終末期の臺台。調整は外面ナデ後タテハケ目、内面はナデである。

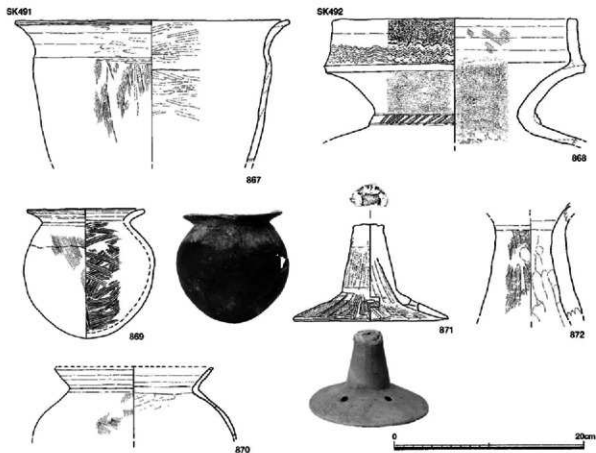


Fig.176 SK491・492追加出土遺物 (1/4)

## 第四章 自然科学分析

### 1. 第6次調査出土のイネ種子およびその他の植物遺体の分析

佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所）

柴内佐知子（岐阜大学大学院）

那須 浩郎（国際日本文化研究センター）

#### 1. はじめに

下月隈C遺跡出土のイネ種子について形態およびDNA分析を行い、あわせて出土したその他の植物遺体について種の同定を行った。

本遺跡は御笠川の東岸、標高9~10mを潤る沖積地に位置し、弥生時代から中世にわたり人の活動が認められていることが、これまでの発掘調査により明らかになっている。本報告で用いた試料は第6次調査・第4面で確認された7箇所の遺構から出土したものであり、弥生時代前期前半から古墳時代後期に対応する。これらの試料は、現地発掘担当者によって採取された試料であり、洗浄処理後、乾燥した状態で送付されてきた。

本報告では、これらの植物遺体試料のうち、量的に多く出土したイネ種子について、まず長幅比の計測を行うことで形態的な特徴を調べた。さらに、DNA分析を実施することで遺伝的特徴を明らかにした。最後に随伴して出土した植物遺体についての知見を加え、既存の報告と比較することで、本遺跡における稲作の特徴を考察した。

なお、本報告では、炭化したイネの穎果について「イネ種子」という用語を用いた。これは、従来から言われている「炭化米」のことであるが、「炭化」という燃えたものという意味があるため、ここではこの語を用いないことにする。

#### 2. 分析試料および分析方法

試料の一覧を表1に示す。イネ種子は遺構ごとに、光学顕微鏡下で完形のをランダムに50粒（規定数に満たない場合は完形のものすべて）選抜した。ここでいう完形とは、破損がまったく見られないもの、または一部が破損していても長さや幅の計測に支障がないものをいう。選抜したイネ種子は遺構ごとに、スケールとともにデジタルカメラで写真撮影した。撮影した画像はパブリックドメインソフトのNIH Image (<http://rsb.info.nih.gov/ni-image/>) を使い、長さ (L; mm) と幅 (W; mm) の計測を行った。また、その計測値から長幅比 (L/W) を求めた。加えて、各項目の平均値および標準偏差を求めた。

次に、各遺構から選抜したイネ種子1粒ずつからNaOH法によって全DNAの抽出を行った。ただし、SP-329については完形の種子が1粒のみであったため、今回はDNA抽出を見送った。抽出した全DNAは希釈せずそのままPCR (Polymerase chain reaction) 増幅のテンプレートに使用した。PCR増幅は2回行い、2回目のPCR増幅のテンプレートには、1回目のPCR産物を使用した。プライマーは、葉緑体DNA中のPS-ID (plastid subtype-ID, Nakamura et al. 1997) 領域を増幅するPS-IDプライマーを用いた。1回目のPCRにA4Sプライマー (5'-ATTTCCATAGCTGCCAGCAAAATG-3'、柴内ら2003) およびBプライマー (5'-ATCTGGAGCATTTAAAAGGGTCTGAGGTTGAATCAT-3'、Nakamura et al. 1997)、A4Lプライマー (5'-ATTTCCATAGCTGCCAGCAAAATGCCATACGA-3'、柴内ら 2003) およびB

プライマーを用いた。PCR産物は電気泳動を行い、エチジウムブロマイドで染色後、UVトランスイルミネーターを通して視覚化し、バンドの有無を確認した。バンドが確認されたPCR産物については、サイクルシーケン法によるダイレクトシーケン法を行い、その配列を決定した。

イネ以外の植物遺体は、SK517遺構から19個体、SK477遺構から3個体、SP329遺構から7個体、SK559遺構から62個体の合計91個体が含まれていた。これらは実体顕微鏡下で形態の観察を行い、種子図鑑や現生植物標本と参照しながら、種類の同定を行い、計数した。

### 3. 結果

#### (1) イネ種子の形態分析について

本実験で用いたイネ種子には糊殻を伴ったものは確認されず、すべてが玄米であった。6つの調査区から出土したイネ種子の長さや幅の平均値、標準偏差および変動係数を表2に示す。ただしSP-329については完形のイネ種子が1粒のみであったためその計測値を示した。イネ種子の長さ・幅・長幅比の平均値はそれぞれ4.29mm~4.54mm・2.79mm~2.93mm・1.54~1.65にわたって変異した。同様に、粒長の標準偏差は0.18~0.34、粒幅の標準偏差は0.14~0.28にわたって変異した。なお、イネ種子が出土した遺構の年代は弥生時代前期~古墳時代後期の範囲に渡るが、粒の大きさや形状およびばらつきが時代とともに一定の方向に動く傾向は認められなかった。

#### (2) イネ種子のDNA分析について

イネ種子のDNA分析結果を表3に示す。各遺構（SP-329は除く）から出土したイネ種子のうち、弥生時代前期の遺構であるSK-517および弥生時代後期~古墳時代前期の遺構であるSX-484から出土したイネ種子各1粒ずつについてPS-ID領域の配列を決定することができた。イネのPS-ID領域の最上流部分には特定数のシトシン（C）の繰り返しとアデニン（A）の繰り返し配列が確認できる。これらCとAの繰り返し数の組み合わせにより、イネ品種はjaponicaとindicaに区別することができる（Nakamura et al. 1997, 1998）。またjaponicaの場合、その配列によっては温帯japonicaと熱帯japonicaに区別することもできる。今回、配列を決定できた二つのイネ種子はどちらもjaponica品種に固有の6C7A（CCCCCCAAAAAA）の配列を示した。

#### (3) その他の植物遺体

イネ以外の植物遺体の同定結果および出土数を表4に示す。合計91個体のうち、栽培植物が2種類4個体、木本が8種類13個体、水田・水湿地雑草が1種類1個体、畦畔・路傍・畑地雑草が8種類51個体、田畑共通雑草が2種類10個体、炭化植物片が1個体出土した。なお、分類不可能な植物遺体が11個体あった。以下に遺構ごとの出土結果を時代順に記す。

弥生時代前期前半の遺構SK517からは、エノコログサ属の外穎が1個体、カナムグラの種子が2個体、オドリコソウ属の果実が5個体、シソ科の1種の果実が7個体の合計4種類15個体が出土した。なお、分類不可能な植物遺体が4個体あった。

アワに近いと考えられるエノコログサ属の果実が産出している。正確に同定するには、電子顕微鏡による表面形態の観察を行う必要があるが、現時点では栽培アワに近いと考えられる。路傍・畑地雑草のカナムグラ、オドリコソウ属などが産出している。

弥生時代中期の遺構SK477からは、アカザ科かヒユ科の1種の種子が1個体、シソ科の1種の果実が1個体、ナス属の種子が1個体の合計3種類3個体が出土した。シソ科、ナス属の畑地・路傍雑草が産出した。

弥生時代後期末~古墳時代初期の遺構SP329からは、エノコログサ属の炭化して膨らんだ穎果が

1個体、ブナ科の1種の殻斗が1個体、セリ科の1種の果実が1個体、アカネ科の1種の果実が1個体の合計4種類4個体が出土した。なお、炭化植物片が1個体、分類群の不明な植物遺体が2個体あった。ほかに炭化米と炭化したエノコログサ属の穎果が産出した。このエノコログサ属の穎果も弥生時代前期前半のものと同様にアワの可能性はあるが、炭化して著しく膨らんでおり、サイズだけでの同定は難しい。電子顕微鏡での観察が必要である。ツブラジイに近いと思われるブナ科の殻斗やセリ科、アカネ科の畑地・路傍雑草も産出している。

古代前期の遺構SX559からは、ザッソウメロンの種子が2個体、ヤマグワの核が2個体、カラスザンショウの種子が2個体、イヌザンショウの種子が1個体、エゴノキの核が1個体、チシャノキの核が3個体、キイチゴ属の1種の核が1個体、ブドウ属の1種の核が2個体、ホタルイ属の1種の果実が1個体、カナムグラの種子が30個体、アキノタムラソウの果実が1個体、シソ科の1種の果実が1個体、カヤツリグサ科の1種のうちAタイプと分類したものが4個体、同じくカヤツリグサ科の1種のうちBタイプと分類したものが6個体の合計14種類57個体が出土した。なお、ここでも分類群の不明な植物遺体が5個体あった。またザッソウメロンの種子が2粒産出した。ここでは木本が多く、ヤマグワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、エゴノキ、チシャノキ、キイチゴ属、ブドウ属が産出した。水田雑草はホタルイ属が1個体だけ産出した。畑地・路傍の雑草が多く、とくにカナムグラが30個体と多かった。アキノタムラソウやシソ科、田畑に共通して見られるカヤツリグサ科が産出した。

弥生時代前期前半の遺構SK517、弥生時代中期の遺構SK477および弥生時代後期末～古墳時代初期の遺構SP329の3箇所での遺構から出た植物遺体は、種類、量ともに少なかった。この出土量から遺構や遺構周辺の環境を推定することはできないが、どの遺構でも路傍や畑地などの雑草が多い傾向は認められる。

とくに、SK517とSP329の遺構では、エノコログサ属の果実外穎と炭化穎果が見つかったが、その丸みを帯びた形状からは、栽培種のアワに近いと考えられる。しかしながら、アワと祖先野生種のエノコログサとを果実の形態から識別するのは難しく、電子顕微鏡を利用した外穎の表面形態の詳細な観察が必要である。また、そのためには、より多くの果実が出土することが望まれる。今後の発掘調査では、フローテーション法なども併用した微小種実分析を行う必要がある。周辺遺跡の状況を見ると、佐賀県唐津市の菜畑遺跡では縄文時代晩期からアワの出土例がある(笠原 1982)。本遺跡でも弥生時代前期前半からアワの栽培があった可能性は高い。

古代前期の遺構SX559では、木本の出土数が多かった。構成種を見ると、ヤマグワ、カラスザンショウ、チシャノキなどの陽地に生える落葉樹が多い。畑地・路傍雑草のカナムグラも多く出しており、遺構周辺には、このような開けた敷か荒地のような環境があったことが伺える。栽培か自生かは不明であるが、ザッソウメロンの種子も出土しており、開けた畑地のような環境もあったのかも知れない。

#### 4. 考察

下月隈C遺跡をはじめとする御笠川周辺の遺跡は北部九州の稲作を伴った遺跡として代表的な遺跡が多く、多くの水田跡およびイネ種子の出土が確認されている。特に、土坑からまとまった量のイネ種子が出土していることから、この時期この地域の稲作がすでに近代日本列島の水田稲作社会の原型をなしていたとの推定を裏付けるものと考えられた。しかし佐藤(2002)は、弥生時代から古墳時代にかけての日本列島の稲作が雑穀で休耕を伴ういわば「縄文稲作」を引き継いだものであり、単作的、常畑的な現代の稲作とは大きく異なるスタイルを伴っていたと考えた。実際今回の分

析でも、当時の遺跡周辺が前面の水田であるというよりは木本を含む多様な植物が生息していた可能性を強く示唆しており、佐藤（2002）の主張はある程度当を得ているものと考えたい。ただしこの2つの相矛盾する見解のどちらがより事実に近いかはまだ今後の検討を要する研究課題である。

イネの粒の大きさおよび形の変異に関しては、和佐野（1993）や高橋ら（2002）の研究がある。和佐野は縄文時代晩期から弥生時代後期の九州北部に分布する12遺跡出土イネ種子の粒特性を比較している。遺跡はその分布地域により、九州北西岸域、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域の3つの群域に分けられており、イネ種子の長さについては、九州北西岸域のものは「短粒群（3.93mm～4.19mm）」、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域のものは「やや長粒の円粒性長粒群（4.46mm～4.70mm）」の2群に大別できるとしている。これに照らし合わせると、本遺跡は九州北西岸域にあたるが、出土したイネ種子の長さの平均値は4.29～4.54mm（弥生時代のデータのみ抽出）と、「やや長粒の円粒性長粒群」よりおさまリ、和佐野の見解とは合致しなかった。また、本遺跡から北西へ約1kmの地点に雀居遺跡が立地する。雀居遺跡も本遺跡同様、御堂川東岸の低湿地にあり、弥生から中世に渡り集落や水田跡が確認されている。その雀居遺跡から出土したイネ種子の長さの平均値は4.11～4.24mm（表5、弥生時代のデータのみ抽出）であった。弥生時代の御堂川東岸の低湿地におけるイネ種子の長さの平均値は4.11mm～4.54mmとなり、和佐野が述べている「短粒群」と「やや長粒の円粒性長粒群」のほぼ中央におさまる結果となった。この地域の値だけをみてもイネ種子の長さの値が多様であるということがうかがえる。このように出土するイネ種子の大きさに関してはまだまだ多くのデータを収集し、比較する必要があると考えられる。

また、本遺跡出土のイネ種子のばらつきに関しては、同時期の他の遺跡から出土したものと同程度であるが（表2、表6）、現在の品種における値を大きく超えていたことが明らかとなり、栽培されていたイネに遺伝的な多様性が保たれていたことがわかった。また、当時の人びとに「品種」の概念があったかどうかはわからないが、もし品種の概念があったとしても今のそれに比べてはるかに雑取なものであったように思われる。

イネ種子のDNA分析の結果、下月隈C遺跡から出土したイネは二点とも6C7A型を示したが、これは出土したイネ種子のほとんどが*japonica*に属するというこれまでの見解と一致する。ただし、6C7A型は温帯*japonica*と熱帯*japonica*の両者に確認できる型であり、今回の結果からこれらがどちらの*japonica*に属するかの判定にまではいたらなかった。抽出したDNAは凍結保存が可能であるので、熱帯*japonica*と温帯*japonica*に細分化できるマーカーを開発し、詳細に確認することが今後の検討課題といえる。

#### 引用・参考文献

- 笠原安次（1982）英知遺跡の埋蔵稲実の分析・同定研究—古代栽培と植生の復元—『英知遺跡』唐津市教育委員会 pp.354-379
- Nakamura, I., N. Kameya, Y. Kato, S. Yamanaka, H. Jomori and Y.I. Sato (1997) A Proposal for Identifying the Short ID Sequence Which Addresses the Plastid Subtype of Higher Plants. *Breeding Science* 47: 385-388
- 佐藤洋一郎（2002）稲の日本史 角川書店: 197pp.
- 柴内佐知子・大角石介・村野研一・中村郁郎・佐藤洋一郎（2003）DNAレベルでのイネ遺存体における品種群判定の効率性 日本文化財科学会第20回大会発表要旨集 日本文化財科学会第20回大会実行委員会・編 pp.18-19
- 高橋光介・岡村勝・佐藤洋一郎（2002）亞州遺跡から出土したイネ籾の形態的遺伝的変異 育種学研究4（別1）: 119
- 和佐野久生（1993）九州北部古代稲の炭化米の粒特性変異に関する考古・遺伝学的研究 育種学雑誌43: 589-60







## 2. 第6次調査出土の大型植物化石

新山 雅広 (パレオ・ラボ)

### 1. 試料

大型植物化石の検討は、No.1～No.33の合計33試料について行った。これらは、既に洗い出し後(取り上げ済み)の試料であり、タッパーに水付きないし乾燥状態で保管された試料である。ここでは、これら大型植物化石を検討し、弥生時代から中世にかけての古植生および栽培状況を推定することを試みた。

### 2. 出土した大型植物化石

出土した大型植物化石の一覧を表1に示した。なお、試料中には、大型植物化石以外にも炭化材、籾などが含まれており、これらは、その他・不明の欄に示した(No.18、20、22、25、26などのその他・不明は、全て炭化材である)。以下に、時代ごとに出土した大型植物化石を記載する。

#### 1) 弥生時代(～古墳時代)

前期前半(No.19、21～23)は、No.19で草本のウキヤガラ、No.21で木本のブドウ属、草本のイネ、No.22でイネ、No.23で草本のイネ、ホタルイ属、カナムグラが出土した。

前期(No.18)は、炭化材のみであった。

中期(No.20)は、イネ炭化胚乳が出土し、塊状になったものも含まれていた。

中期～後期(No.26)は、炭化材のみであった。

後期(No.13、15、16)は、No.13で草本のイネ、アサ、No.15で木本のモモ、草本のカナムグラ、シロザ近似種、No.16でモモが出土した。

弥生時代後期～古墳時代初期(No.27、28)は、No.27でバラ科、No.28でモモが出土した。

弥生時代後期末～古墳時代前期(No.28、30)は、炭化材(草本?)の断片であった。

弥生時代後期?(No.31)は、モモが出土した。

弥生時代(No.32)は、木本のイチイガシが出土した。

弥生時代?(No.29)は、モモが出土した。

#### 2) 古墳時代

前期(No.17、25)は、No.17でモモ、No.25でブナが出土した。

前期～中期(No.14)は、木本のオニグルミが出土した。

後期(No.24)は、木本のツブラジイが出土した。

#### 3) 古代

古代(No.6、7)および古代後期(No.8～12)は、いずれもモモのみであった。

#### 4) 中世

前期試料(No.1～5)のみであり、No.1で木本のセンダン、No.2で木本のムクノキ、センダン、ブドウ属、草本のイシミカワ、ハスノハカズラ、ノブドウ、カラスウリ、No.4でモモ、No.5で木本のコナラ属、ブナ科、草本のイネ、オオムギ、キビ・ヒエ、ウキヤガラ、ホタルイ属、ツクサ属、サナエタテ近似種、ポントクタテ、タテ属、シロザ近似種、ヒユ属、ナデシコ科、ノブドウが出土した。

#### 5) 不明

時期不明のNo.33でオニグルミが出土した。

表1 大型植物化石一覧表 (その1) 数字は種数、0 内は観力の数を示す

分類群名・部位/No.・遺 跡名・遺跡名・遺跡種別・ 時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	第1層 中世前期	第1層 中世前期	第1層 中世前期	第1層 中世前期	第1層 土城 中世前期	第1層 水田 古代	第1層 不明土坑 古代	第1層 磨崖坑列 古代後期	第1層 磨崖坑列 古代後期	第1層 磨崖坑列 古代後期	第1層 磨崖坑列 古代後期
コナラ属					(2)						
アナ科					(4)						
ムタノキ		(1)									
モモ											
セングン	6(14)	1				1	1	1	1	1	1
ブドウ属		13									
イネ					15(3)						
オオムギ					1						
炭化野乳					1						
炭化野乳					1						
ウキヤガラ					2						
ホタルイ属					1						
ワユクサ属					1						
イタズカワ	1										
サナエタマ子近縁属					2(2)						
サナエタマ子					1						
タデ属					(3)						
クロササ近縁種					1						
ヒユ属					1						
ナタシコ科					1						
ハスノハカスラ		15									
アブトウ		9(12)									
カラスドリ		1(2)			2(3)						
その他・不明											
炭化材など											

(計7)



### 3. 考察

#### 1) 弥生時代

出土したもののうち、栽培植物と考えられるものは、モモ、イネ、アサであり、モモは後期(No.15、16、28)、イネは前期前半(No.21、22、23)、アサは後期(No.13)には既に利用されていたと言える。また、No.21(SK488下層; 廃棄土坑)でイネと共に炭化して出土したブドウ属は、果実が生食可能な漿果であるが、何らかの形で利用されていた可能性が考えられる。なお、中期のNo.20(SK477; 貯蔵穴)では、イネが出土したが、一部穎が張り付いた状態で現状になったものが含まれており、その状態からイネ類ごと貯蔵されていたのではないと思われる。

付近の植物群については、試料別にみると、前期前半のNo.19(SK460-2区; 廃棄土坑)でウキヤガラ、No.23(SK500; 廃棄土坑)でホタルイ属といった湿地性草本が出土しており、水位の低い渇地的環境の存在が予想される。また、No.23では、蔓性草本のカナムグラが出土しており、付近の開けた場所に生育していたであろう。後期のNo.15(SD388東壁土層下層; 溝)では、カナムグラ、シロザ近似種が出土しており、溝付近の乾き気味の場所に生育していたと予想される。

弥生時代のNo.32(T-24区; 遺構面)では、常緑広葉樹のイチイガシが出土し、付近にイチイガシを含む照葉樹林が成立していた可能性が考えられる。

#### 2) 古墳時代

栽培植物と考えられるものは、初期(No.17)のモモのみである。また、前期～中期(No.14)のオニグルミも食用可能な有用植物である。

付近の植物群としては、後期のNo.24で常緑広葉樹のツブラジイが出土しており、ツブラジイを含む照葉樹林が成立していた可能性が考えられる。

#### 3) 古代

出土したのは、モモのみであり、弥生時代後期以降利用され続けられたのであろう。

#### 4) 中世

栽培植物と考えられるものは、No.4のモモ、No.5のイネ、オオムギ、キビヒエである。オオムギ、キビヒエの利用(栽培)開始時期については、明らかではないが、古代以前の試料では出土しないので、中世に入って栽培植物が多様化した可能性が考えられる。

付近の植物群については、樹木では、暖地に生育する落葉広葉樹のセンダン(No.1、2)や同じく落葉のムクノキ、蔓性のブドウ属(No.2)、落葉が常緑か不明のコナラ属、ブナ科(No.5)がみられたであろう。草本類については、No.2(SD326; 溝)で湿地性草本のイシミカワが出土しており、溝内ないし溝付近の湿った場所に生育していたであろう。また、溝付近の樹木類には、ハスノハカズラ、ノブドウ、カラスウリといった蔓植物が絡み付いていたであろう。No.5(SK317; 土坑)では、ウキヤガラ、ホタルイ属、ツユクサ属、サナエタデ近似種、ポントクタデといった湿地性草本とシロザ近似種、ヒユ属といった路傍ないし畑地の雑草が出土しており、土坑周辺には、幾分湿った場所と乾き気味の場所とがみられたであろう。

### 4. 主な大型植物化石の形態記載

**イチイガシ** *Quercus gilva* Blume 果実

花柱・柱頭は、欠損しているが、輪状紋のある首の立ち上がり具合からイチイガシとした。

**ツブラジイ** *Castanopsis cuspidata* var. *cuspidata* (Thunb.) Schottky 果実

果実は、卵形でやや光沢のある黒褐色。上・下端が潰れているが、果実長は11mm前後と推定され

る。

#### コナラ属 *Quercus* 果実

破片であるが、尻(底部)が残っており、その形態からコナラ属とした。常緑か落葉かは不明である。

#### ブナ科 *Fagaceae* 果実

細かな破片であり、ブナ科としか判らない。コナラ属やシイノキ属が含まれていると思われるが、クリが含まれている可能性も否定できない。

#### モモ *Prunus persica* Batsch 核

全体としては、長さ約18~29mmで平均約23mm。時代別でのおよその長さは、弥生時代が18~27mm(平均23mm)、古墳時代(1個体のみ)が26mm、古代が22~29mm(平均25mm)、中世(1個体)が24mm。弥生時代と古代を比較すると、古代の方がやや大きい傾向はあるが、出土核をみる限りでは、必ずしも時代が下るにつれて大きくなるとは言えないようである。なお、No.15出土核のうち1個体は、げっ歯類による食害痕が認められた。

#### イネ *Oryza sativa* Linn. 炭化胚乳

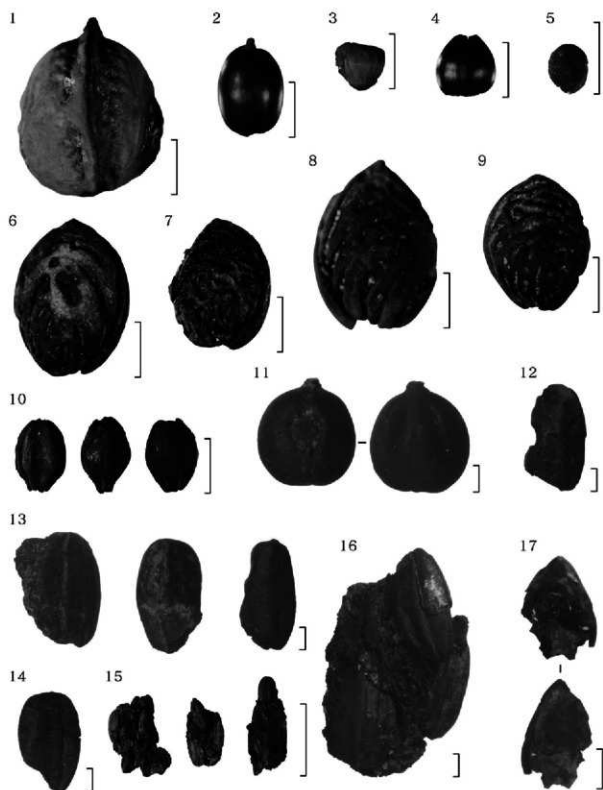
No.20で出土したイネは、単粒のものが88個と塊状になったものが3個であった。塊状のものは、1塊が10粒位集合したものであり、一覧表中には全体で約120個とした。穎(籾殻)が残っているものも多くみられ、おそらく元は、穎果(籾)の状態であり、それがばらばらになったと思われる。

#### キビーヒエ *Panicum miliaceum* Linn.-*Echinochloa crus-galli* P.Beauv. var. *fumentacea* Trin. 炭化胚乳

先端は尖り気味で背面には滑らかで光沢のある穎が残っており、胚部分は確認できない。下端は若干欠損しているが、腹面にうちわ型の臍が確認できる。

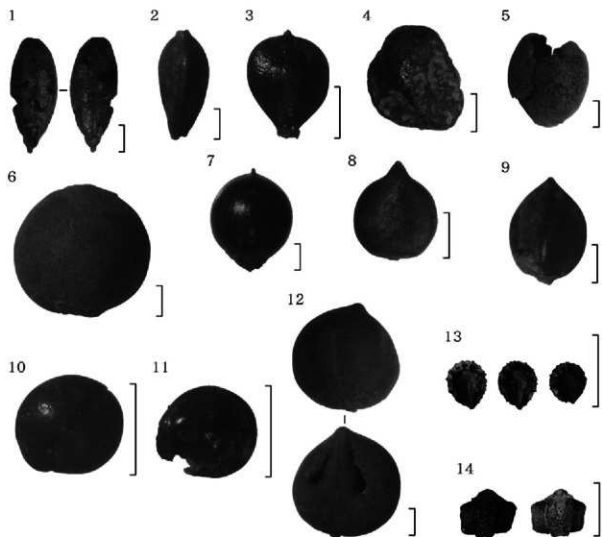
#### 虫えい(虫こぶ)

昆虫が産卵寄生した結果、異常発育した部分で絮などにみられる。黒色で大きさ・形は、様々である。



図版1 出土した大型植物化石 (スケールは1~10, 15が1cm, 11~14, 16, 17が1mm)

1.オニグルミ、核、No.14 2.イチイガシ、果実、No.32 3.コナラ属、果実、No.5 4.ツ  
 ブラジイ、果実、No.24 5.ムクノキ、核、No.2 6.モモ、核、No.7 7.モモ、核、No.9  
 8.モモ、核、No.10 9.モモ、核、No.11 10.センダン、核、No.1 11.ブドウ属、種子、  
 No.2 12.イネ、炭化胚乳、No.13 13.イネ、炭化胚乳、No.5 14.イネ、炭化胚乳、  
 No.21 15.イネ、炭化胚乳(塊)、No.20 16.イネ、炭化胚乳(塊、15.中央の拡大)、  
 No.20 17.キビーヒエ、炭化胚乳、No.5



図版2 出上した大型植物化石 (スケールは1~12が1mm、13、14が1cm)

- 1.オオムギ、炭化胚乳、No.5    2.ウキヤガラ、果実、No.5    3.ホタルイ属、果実、No.5  
 4.ツユクサ属、種子、No.5    5.アサ、炭化種子、No.13    6.カナムグラ、種子、No.23    7.  
 イシミカワ、果実、No.2    8.サナエタデ近似種、果実、No.5    9.ポントクタデ、果実、No.5  
 10.シロザ近似種、種子、No.15    11.ヒユ属、種子、No.5    12.ノブドウ、種子、No.5  
 13.ハスノハカズラ、種子、No.2    14.カラスウリ、種子、No.2

### 3. 第6次調査出土骨片について

黒澤 一男 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

下月限C遺跡の発掘調査において動物遺体が出土した。それらの動物遺体について分類・同定を行なった。しかし取り上げられた試料のすべてが破片であること、また焼骨であることから多くのものは同定することが不可能であった。表1に分類・同定をおこなった試料およびその内容を示す。

表1 地点別出土骨片部位観察表

試料名	種名	部位	左右	備考
SK460 (廣重土坑)	魚類 (魚種不明)	腹椎骨		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK488 (廣重土坑)	クロダイ属	前上顎骨	左	
	クロダイ属	歯骨	左	
	クロダイ属	角骨	右	
	ナマズ目ギギ科	担鰭骨		
	小型哺乳類 食肉類	中手骨	不明	チンより大
	魚類 (魚種不明)	担鰭骨		
	魚類 (魚種不明)	歯		タイ科?
	魚類 (魚種不明)	尾椎骨		タイ科?
	魚類 (魚種不明)	鰓蓋骨		
	魚類 (魚種不明)	椎骨		
	鳥類	骨片		
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK517 (土坑)	タイ科	前上顎骨	右	
	魚類 (魚種不明)	腹椎骨		
	魚類 (魚種不明)	椎骨		
	魚類 (魚種不明)	歯		タイ科?
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK544 (土坑)	小型哺乳類	椎骨		ドブネズミサイズ
	小型哺乳類	椎骨		
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		

#### 2. 魚類

本遺跡からは軟骨魚類 (真骨類) 3分類群が同定された。以下に各分類群について記載する。

##### ナマズ目ギギ科

担鰭骨が検出されている。ギギ科には3種が生息しているが、出土試料から種の同定は困難である。

本科は本州から九州の河川や湖沼に生息する。

##### クロダイ属

前上顎骨、歯骨、角骨が各1点の計3点が検出されている。多くが体長33cmの現生標本とほぼ同じ大きさである。本属は全国の遺跡から多く出土しており、遺跡出土の魚類として代表的なものである。本属は北海道以南の沿岸域などに生息する。

##### タイ科

タイ科魚類の前上顎骨が検出されている。これらも上記のクロダイ属を含むヘダイ亜科か、マダ



イ亜科のものと考えられるが、種の同定は困難である。なお他にタイ類に類似した椎骨や歯などが見られるが、類似した分類群が存在するため同定することは困難であり、ここでは魚種不明として扱っている。先にも述べているが、クロダイ属やマダイ亜科などのタイ科の魚類は日本の遺跡出土魚類の代表的なものである。

また分類群は不明であるが椎骨、歯や肋骨などの骨片が検出されている。椎骨はその径が6mmのものから1mm程度の小さなものまでであるが、それらはすべて破片であり、同定に有効である棘や突起が残っていないため魚種不明として扱う。歯は、先に記したクロダイ属やタイ科の前上顎骨に残っていないため、おそらくタイ科のものであると考えられるが、形態的には同定が困難であるためここでは魚種は不明としている。

### 3. 鳥類・小型哺乳類

鳥類・小型哺乳類の骨片はいくつか見られるが、そのほとんどが骨端部を残していない為、同定および部位の特定は困難である。その中で、テンよりひとまわり大きな中手骨と、ドブネズミと同じ大きさの椎骨が検出されている。

### 4. まとめ

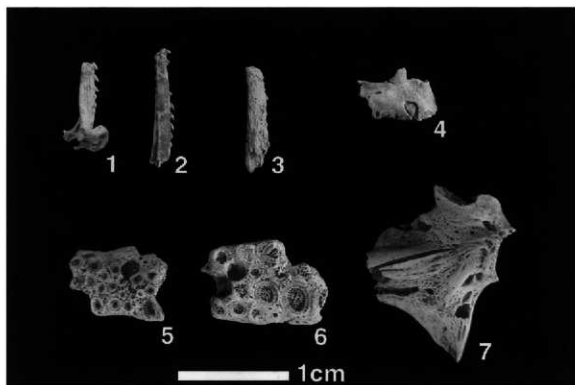
福岡市下月隈C遺跡第6次調査の動物遺体を検討した結果、その多くが骨片であるため多くは同定にいたらなかった。しかしながら、日本全国の遺跡での代表的な魚種であるクロダイ属とタイ科の骨片が検出された。それと淡水のギギ科の骨片も検出されている。これらのことから博多湾や那珂川などの周辺河川で漁をしていたことが推測される。

#### 謝辞

同定用の現生骨格標本は、国立歴史民族博物館西本研究室の所蔵標本を観察させていただいた。同定には国立歴史民族博物館の西本豊弘教授、早稲田大学の種泉岳二博士にご教授いただいた。ここに感謝の意を表する。

#### 参考文献

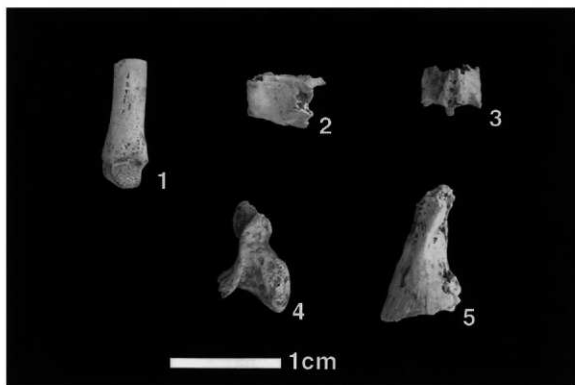
- 藤田一・肥田邦夫・荒賀忠一・上野理樹・吉野哲夫（1988）『日本産魚大図鑑（第2巻）』。東海大学出版会、pp.498 + pl.370。  
種泉岳二（1994）遺跡産魚骨同定の手引き（I）。動物考古学、2、p.23-38。  
種泉岳二（1995）遺跡産魚骨同定の手引き（II）。動物考古学、5、p.11-38。



図版1

1~3.ナマズ目ギギ科 担鰓骨 (SK488) 4.タイ科 前上顎骨 右 (SK517)

5~7.クロダイ属 (SK488) 5.歯骨 左 6.前上顎骨 左 7.角骨 右



図版2

1.小型哺乳類食肉類 中手骨 (SK488) 2.小型哺乳類 椎骨 (SK544)

3.小型哺乳類 椎骨 (SK544) 4.鳥類・哺乳類骨片 (SK488) 5.鳥類骨片 (SK488)

## 4. 第6次調査出土材の樹種からみた木材利用

三村 昌史 (熊パレオ・ラボ) ・高橋 敦 (バリノ・サーヴェイ(株))

### 1. はじめに

第6次調査に伴う出土材のうち、建物建築材144点・土木材854点・流木10点・木製品類231点の、合わせて1239点についての樹種同定結果を報告する。このうち、建物建築材は弥生時代中期～後期にあたる竪立柱建物やピット出土の柱材・礎板が中心となり、土木材には護岸杭材・矢板があるがそのほとんどが古墳および古代の護岸杭材である。また、木製品には弥生時代後期から中世に至るまで各面の試料があり、鎌・鋤・羅錘などの農具類、槽・曲物・盤・皿などの容器類、甞串・人形・鳥形・剣形などの祭祀具のほか、井戸枠・下駄・篋状・弓・修羅などの様々な製品が含まれる。ここでは、これらの出土材に使用された樹種を同定し、各器種の用材の特徴を明らかにするとともに、用材選択の背景にある材質をはじめとした木材特性と製作・使用法との関連性について調査を行った。

なお、この報告は熊パレオ・ラボ及びバリノ・サーヴェイ(株)にそれぞれ委託された別個の樹種同定報告をまとめたものである。紙面が限られているため、写真図版については一般に同定困難な部類の散孔材を中心に示し、個別の同定リストや木材組織の記載については割愛した。これらについては保管されたプレバート試料とともに必要に応じて公開されることになっている。

### 2. 方法

出土木材から剃刀を用いて横断面・放射断面・接線断面の3方向の切片を作成し、ガムクロラールで封入してプレバートを作成した。検鏡は生物用の光学顕微鏡を用いて現生標本との対照により同定を行った。

### 3. 結果および考察

樹種同定の結果、全体で見出されたのは針葉樹が7分類群、広葉樹が64分類群の計71分類群であった。このたびの分析対象試料は時代別に見た場合に必ずしも種別の比較試料がすべて揃っているわけではないので、以下では建物関連の建築材・土木材・流木・木製品というように、性格の異なる種別ごとにまとめ、その用材傾向と選択の背景について検討する。

#### (1) 建物建築材の用材

##### a. 弥生中期～後期

弥生時代中期～後期に該当する第IV面の竪立柱建物群、堅穴住居、およびピット群から出土した建物を構成していたと考えられる出土材を表1に示す。

柱材に用いられていた樹種は、針葉樹材のマキ属・ヒノキ、および広葉樹材のクリ・スダジイ・ツブラジイ・コナラ節・クスギ節・アカガシ亜属・クワ属・タブノキ属・クロモジ属・ツバキ属・サカキ・ヤマビワ・カキノキ属・チシャノキであり、全体として様々な樹種が見出されていることがわかる。これらの樹種はいずれも小高木あるいは高木にまで生長するので、柱材の法量に見合うだけの径長が得られる。特に用材の中心になっているのが51点中19点と多用されているクリであるが、クリは全国的にもこうした建築材にしばしば見出される材で、材は硬く丈夫であり耐朽性が高いことから、ことさら嗜好されて用いられたようである。そのほかの樹種もやはり硬質な材質なものが多いが、中にはタブノキ属のように硬さ中庸程度の材や、耐朽性のあまりないスダジイ・ツブ

表1. 発生中期～後期の建物建築材の用材

種類/樹種	柱	礎板	組合せ礎板	柱	取用材?	板	木片	本片用途?	計
針葉樹	スギ	1	-	-	-	-	-	-	1
	ヒノキ	-	-	-	-	-	-	-	1
	マキ属	1	-	-	-	-	-	-	1
	針葉樹	1	-	-	-	-	-	-	1
広葉樹	クリ	10	33	5	-	-	1	1	50
	スダジイ	1	6	2	-	-	-	-	8
	ツブツライ	4	6	-	-	1	-	-	11
	ツブツライorコナラ類	1	-	-	-	-	-	-	4
	コナラ類	3	1	-	-	-	-	-	4
	クスノキ類	1	-	-	-	-	-	-	1
	アカガシ類	5	2	1	-	-	1	-	9
	ムクノキ	-	1	-	-	-	-	-	1
	クワ属	2	-	-	-	-	-	-	6
	タブノキ属	3	7	-	3	1	-	-	10
	クロモジ属	1	-	-	-	-	-	-	1
	クスノキ科	1	1	-	-	-	-	-	2
	ツバキ属	2	-	-	-	-	-	-	2
	サカキ	1	-	-	-	-	-	-	1
	モモ	-	1	-	-	-	-	-	1
	ウメ	-	1	1	-	-	-	-	2
	ナシ亜科	-	1	-	-	-	-	-	1
	サクラ属	-	1	-	-	-	-	-	1
	ムクロジ	-	3	-	-	2	-	-	6
	ヤマビロ	2	1	-	-	-	-	-	3
	アツブキ属	-	-	-	1	2	-	-	3
	カキノキ属	1	-	-	-	-	-	-	1
	イボタノキ属	-	1	-	-	-	-	-	1
	チシヤノキ	1	-	-	-	-	-	-	1
	広葉樹	-	-	-	-	-	1	-	1
	礎板	-	-	-	-	-	-	-	1
	計	51	68	9	4	3	4	3	141

\* 便宜上?でも一語して示したものがあつた。

礎板には、最も多用されている樹種がクリであることを含め、基本的に柱材の用材の中心になっている樹種が共通して用いられている。ただし、柱材に見出されていないスギ・ムクノキ・クスノキ科・モモ・ウメ・ナシ亜科・サクラ属・ムクロジ・イボタノキ属といった樹種も用いられている。全体として硬く丈夫な部類の材が多く、柱材と同様に材質への着目が窺える結果である。注目されるのは中国大陸原産で栽培される樹木のモモやウメの材が礎板に利用されていることである。栽培されていたものが枯死や収量の低下などにより活用された可能性が想起されるが、周辺に豊富に見られたであろう他の様々な樹種ではなくモ

表2. 建物別にみた柱・礎板の用材

建物種類・番号	SB												SC		計					
	579	580	581	582	584	586	589	592	593	598	606	607	595							
ビット数	6	6	6	[4]	6	6	6	[4]	6	6	6	4	-							
種類/樹種	柱	礎	柱	礎	柱	礎	柱	礎	柱	礎	柱	礎	柱							
広葉樹	3	6	-	2	4	1	-	5	6	6	-	2	3	1	-	2	41			
	スダジイ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	1	4		
	ツブツライ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2		
	ツブツライorコナラ類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1		
	コナラ類	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2		
	アカガシ類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2		
	ムクノキ	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1			
	タブノキ属	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7			
	クスノキ属	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2			
	モモ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
	ウメ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
	ムクロジ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
	ヤマビロ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
	チシヤノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1			
	計	2	6	2	1	6	4	4	6	7	5	7	2	2	2	5	2	1	3	67

\* SB582の組み合せ礎板3点については1点として集計した。ビット数の [] は部分的な欠損を示す。なお、礎板については最終的に残存したと推定されるもの中複数枚数かかれていたものもあるため、ビット数と点数が一致しない箇所もある。

モ・ウメの材がわざわざ選択されていることを考慮すると、何らかの祭祀的な意図により利用されたのかも知れない。

また、建物ごとに柱材の用材の傾向をみてみると、比較的試料が揃っているものではひとつの建物に同一の樹種を用いる傾向が強いことがわかる(表2)。こうした傾向は他地域においても確認さ

ラジイなども用いられている上、樹種が多様であることを考慮すると、材質に配慮した樹種選択が窺えるものの、適度な径長が得られれば材質にはそれほど拘らずに選択されることもあったものと考えられる。全体として針葉樹材はほとんど利用されていないが、福岡市内での花粉分析結果(中村・畑中 1976; 鈴木 2000)や第5次調査の花粉分析結果を参照すると、本遺跡周辺の照葉樹林中には針葉樹種が少なかったとみられ、木材資源量を反映した結果と示唆される。

礎板には、最も多用されている

れており（例えば、パリオ・サーヴェイ株式会社 2000）、建物の構築の際になるべく同じ材質のものでそろえようとした結果であろう。さらに、柱と礎板との関係においても、SB579,584,589などは柱材と共通する樹種が礎板にも用いられている傾向にある。礎板には板目・柃目・追柃などの板材を利用したもの以外にも比較的小径の半成材を利用したものも含まれていることを考慮すると、礎板には柱材に利用した原木の余材を効率的に活用した可能性も想定される。

#### b. 古墳前期～中期・古墳後期～奈良時代

表3. 古墳前期～奈良時代の建物建築材の用材

樹種/部材	古墳前期～中		古墳後～奈良
	柱	礎板	柱
広葉樹	-	-	1
イヌシヤ	-	-	-
クリ	-	1	-
スダシ	1	-	-
計	1	1	1

古墳前期～中期の試料にSD369から出土した柱・礎板各1点、古墳後期～奈良時代の試料に谷底西出土の柱1点がある（表3）。点数が少ないので全体を把握することはできないが、選択された背景と樹種の傾向は弥生中期～後期の試料と同様であると推測される。

#### (2) 上木材の用材

表4. 遺構別にみた古墳時代頃の杭の用材

樹種/遺構	SD369	SD190	SX389	SX423	谷	部	層
広葉樹	-	2	3	1	-	-	6
スダシ	-	-	8	2	-	-	10
ツブツ	1	-	-	-	-	-	1
コナラ	3	2	2	-	-	-	7
クヌギ	-	-	1	-	-	-	1
アカガシ	-	-	1	-	-	-	1
エノキ	-	1	-	-	-	-	1
モクレン	-	1	-	-	-	-	1
シキミ	-	-	2	-	-	-	2
クスノキ	1	-	-	-	-	-	1
カボノキ	-	-	1	-	-	-	1
ハマビワ	-	-	1	-	-	-	1
ツバキ	1	-	1	-	-	-	1
モッコク	-	1	-	-	-	-	1
サカキ	-	1	1	-	-	-	2
ユズリハ	-	-	1	-	-	-	1
ヤマビワ	-	-	2	-	-	-	2
アツブキ	2	-	-	-	-	-	2
タイミンチバナ	-	-	-	-	1	-	1
クマノズク	-	-	1	-	-	-	1
ハイノキ	-	1	-	-	-	-	1
クロハシ	-	-	2	-	-	-	2
チシヤノキ	-	1	-	-	-	-	1
計	8	9	27	3	1	-	48

※SD369は古墳前期～中、SX423は古墳後～古代、それ以外は古墳後～奈良時代に該当する。

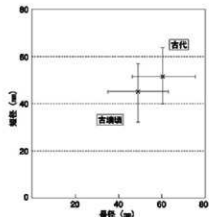


図1. 古墳・古代における丸木径の分布  
×は平均値、上下左右の棒線は平均値±標準偏差を示す  
対象点数は古墳期が28、古代が74である。

#### a. 流路・護岸杭材

旧流路護岸杭材や堰の護岸杭材は主に第Ⅲ・Ⅳ面の古墳時代前期～中期、第Ⅱ面の古墳時代後期～奈良時代頃、および第Ⅱ面の古代後期に該当するものがある。表4.5はおおまかに古墳時代頃と古代とに分け、遺構別に杭の用材をまとめたものである。

これを見ると明らかのように、各時代とも実に様々な樹種が用いられていることがわかる。また、点数の揃っているもののみを限り、ある遺構・グリッドで傾向が異なるということではなく、用いられている樹種の多少に大きな変化はない。樹種が多であるのは弥生中期～後期の柱材にも確認された傾向であるが、杭材の方ではイヌガヤ・ヒサカキ属・カマツカ・ネジキ・シャシャンボ・キブシ・ガマズミ属など、低木程度にしかならない樹種も利用されているのが特徴的な点である。全体としては柱材に確認されたように周辺植生を反映して針葉樹は少なく、広葉樹（常緑広葉樹が主）が用材の中心となっている。

木取りに着目すると、杭材のほとんどは樹皮付あるいは杭の打設時には樹皮が付いていたと推測される最外年輪の残存した丸木であるから、割製等の加工の手間を省くことのできる丸木がそのまま利用されていたといえる。その丸木杭について径の太さを測定した結果をみると、それぞれの時代において杭材の径は比較的揃っている



引いてもアカガシ亜属やシノキ属（スタジイ・ツブラジイ）の優占する植生が想定されるが、これらの樹種が木材資源量ほど杭材に用いられていないのは、高木層を中心に占めていたために杭材としては利用可能な径長の材が得にくかったためであろう。こうした樹種は、農具や建築材などの用材とされた際に生じた枝などの余材が利用されていたのかも知れない。

表6. 杭材の伐採時期

時代・遺構/季節	早春	春	夏	秋	冬	
古墳後～	SD190	-	1	-	-	
遺構	SX389	1	3	7	2	2
古代	SX360	1	1	-	3	-
	SX364	-	1	-	1	1
	SX396 K25	2	2	11	8	3
	SX396 K26	8	9	26	23	4
	SX396 K27	2	6	1	19	8
	SX396 K29	9	6	7	26	8
	SX396 S24	-	6	14	9	6
	SX385 T23-34	-	2	6	13	1
	SX386 T123	-	1	1	4	-
	SX403	2	5	-	4	1
計		25	43	73	112	34

\*季節の推定が可能であったもののみについて示した

表7. 矢板の用材

遺構/時代	古墳後～奈良	古代	
広葉樹	スタジイ ツブラジイ アカガシ亜属	- 1 -	1 - -
計	2	1	

### (3) 流木の樹種

表8. 流木の樹種

遺構/時代	弥生後～古墳前	古墳前～中	古代後期	計	
広葉樹	ヤナギ属 スタジイ ツブラジイ コナラ属 シキミ ヤブニツクイ ミズバヒ類似種	1 - - - - - -	1 2 1 1 1 - -	- 2 1 - 1 1 1	2 2 2 1 1 1 1
計	1	6	3	10	

流木については時代的に古代後期（SD362）・古墳時代前期～中期（SD369）・弥生時代後期～古墳前期（SD388-1）の試料がある（表8）。点数は少ないので本遺跡を取り巻いていた古植生について深く言及することはできないが、見出された樹種が河川や溝の近辺に生育していたものとみられる。特にこうした立地に生育するヤナギ属の材が弥生後期～前期・古墳前期～中期のものに見出されているのは周囲の環境と整合的な結果であるといえる。

### (4) 木製品の用材

木製品は各調査面の流路・溝から様々な器種が出土している。ここでは、第Ⅲ・Ⅳ面の古墳時代前期～中期と第Ⅳ面の弥生時代後期～古墳時代前期の各試料については時代が重なる部分があるので一括し、そのほか第Ⅲ面の古墳時代後期～奈良時代、第Ⅱ面の古代、第Ⅰ面の中世というように時代区分して器種別に用材の傾向と選択の背景について考察を加えていく。

#### a. 弥生後期～古墳中期の木製品

表9は、弥生後期～古墳前期（SX436,555,559,565, SD388,506, SK492）、古墳前期～中期（SD369）、および古墳後期～奈良時代（SD190,390,398, SX389）に該当する木製品をまとめたものである。

農具としては鋤（先）2点があるが、いずれもアカガシ亜属の材が用いられており、耕起に耐え得るよう硬く強靱な材が用いられている。農具の用材にアカガシ亜属、いわゆるカシの材を用いるのは西日本における一般的な特徴であって、周辺の諸遺跡の結果とも共通するものである（例えば、嶋倉 1976,1981；林・松本 1980；福岡市教育委員会 1983；伊東1989）。容器類には槽1点と容器？とされるものがある。槽に見出されているクリの材は硬く切削は困難な部類であるが、割裂は容易で板材を割り出しやすいことから用いられたとみられる。周辺の遺跡では槽の用材としてクリ

#### b. 矢板

矢板の試料は少ないので全体の傾向は把握できないが、3点の試料には硬く丈夫な広葉樹材が用いられている（表7）。

表9. 弥生後期～古墳中期の木製品の用材

製品/部材	産地	樹種	用途	板	杭	柱	加工材	計
針葉樹	ニヨウマツ属	-	1	-	-	-	-	1
	スギ	-	-	1	5	-	-	6
	マキ属	-	-	-	-	-	1	1
広葉樹	クリ	-	1	1	-	-	-	2
	スダジイ	-	-	-	-	-	2	2
	クスノキ	-	-	-	-	-	1	1
	アカガシ属	2	-	-	-	-	2	4
	シキミ	-	-	-	1	-	-	1
	クスノキ科	-	-	-	-	-	-	1
	キハダ	-	-	-	1	-	-	1
	ムクロジ	-	-	-	-	-	-	1
	アワブキ属	-	-	-	-	-	1	1
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	2
計	2	1	1	1	5	1	7	27

\*木製品については?付きであるが便宜上一括して示したのももある

が使用されている例もあり(福岡市教育委員会 1983)、地域的な特色であるのかも知れない。容器?にはやや軟らかく切削加工がしやすいムクロジの材が用いられている。甕車にはスギが用いられており、割裂・切削加工が容易で板材からその後の細工がしやすい針葉樹材が選択されている。そのほか、板材には同様にスギが6点中5点と多用

#### b. 古墳後期～奈良時代の木製品

表10. 古墳後期～奈良時代の木製品の用材

製品/部材	産地	樹種	用途	板	杭	柱	加工材	計
針葉樹	ニヨウマツ属	-	-	1	-	-	-	1
	スギ	-	-	-	1	-	1	2
	ヒノキ	-	1	-	1	-	-	2
広葉樹	クリ	-	-	-	2	-	1	3
	スダジイ	-	-	-	-	2	-	2
	アカガシ属	1	-	-	-	-	1	2
	クスノキ科	-	1	-	-	-	-	1
	チシャノキ	-	-	-	-	-	1	1
	桐	-	-	-	1	-	-	1
計	1	1	1	1	4	2	4	15

ノキが用いられ、3点の板材のうち1点にスギが用いられるなど、針葉樹材が用材とされている。3点のうちの残りの2点にはクリが見出されており、割裂容易な広葉樹材も用材とされているのは弥生後期～古墳前期のものと同様である。

#### c. 古代の木製品

表11-1,11-2は古代(SD362, SX364,395,403, SS349)に該当する木製品をまとめたものである。

農具未製品にはツブラジイが見出されており、農具の法量に見合う大径の得られる樹種のうち硬い部類の材が選択されたとみられる。弓にはスギが見出されている。一般に弓にはイヌガヤやカヤが用いられることが多いが、スギの材も粘りがあるので理にかなった使用方法であるといえる。挽物・朝物の類では、漆塗の皿・盤や白木の皿にスギ・ヒノキ科・ケヤキ・サクラ属が見出され、回転成形の際に表面を滑らかに仕上げることができ、また削り易い均質な部類の材が用材とされている。編鐘にはシキミの材が見出されている。一般に、編鐘にはこれといって決まった樹種が用いられるわけではないが、全体として重い材質のものが選択される傾向にあり、そうした意図のもとにシキミの材が利用されたのではないかと類推される。なお、周辺の遺跡においてもアカガシ属・シキミ・ヒサカキなどの重い材質のものが用いられている(福岡市教育委員会 1983,1989)。類例が少なく注目される修羅にはユズリハ属の材が見出されている。大径が得られ、また韌性がある丈夫な材であり、製品の法量や使用法に鑑みて納得のいく選択がなされている。

曲物では井戸枠の曲物と容器としての曲物(蓋・側・底)があり、全体としてモミ属・スギ・ヒノキがほぼまんべんなく見出されている。このような針葉樹は材・木理が通直なため割裂が容易で、板

が使われている例もあり(福岡市教育委員会 1983)、地域的な特色であるのかも知れない。容器?にはやや軟らかく切削加工がしやすいムクロジの材が用いられている。甕車にはスギが用いられており、割裂・切削加工が容易で板材からその後の細工がしやすい針葉樹材が選択されている。そのほか、板材には同様にスギが6点中5点と多用

表10は、および古墳後期～奈良時代(SD190,390,398, SX389)に該当する木製品をまとめたものである。

農具としては鎌が1点あり、やはり丈夫なアカガシ属の材が用いられている。農具(片)にはクスノキ科が用いられている。曲物側板にはヒ



表11-1. 古代の木製品の用材 (1)

樹種/部材	産品 木製品	弓	井戸枠 曲物	曲物				蓋板	蓋?*	蓋状	漆塗	漆物類	下敷			寄札 木屑	計
				蓋	側	底	底蓋						前	通前	後		
針葉樹	モミ属	-	-	1	4	4	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	16
	スギ	-	1	-	5	4	3	-	1	2	1	1	-	-	1	-	19
	ヒノキ	-	-	-	4	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
	ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
	針葉樹	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広葉樹	ツブラライ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	クヤキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	シキミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	サクラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	アカガシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	計	1	1	1	13	11	17	1	1	2	2	1	2	2	1	1	1

表11-2. 古代の木製品の用材 (2)

樹種/部材	部材	造器材		顔起具				角材/ 角板	板材	その他	計
		部材	部材	直形	人形	扇形	脚形?				
針葉樹	モミ属	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2
	スギ	-	-	2	2	1	-	1	2	5	14
	ヒノキ	-	1	1	1	-	1	1	-	9	14
	針葉樹	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	計	-	1	3	3	2	1	2	3	15	38
広葉樹	スダジイ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	ニレ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	クワ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	サカキ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	ユズリハ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
計	1	5	3	3	2	1	2	3	15	38	

材状の製品を製作するのに適している上、曲げやすいことから用材として選択されたとみられる。底板や蓋板では曲げる必要がないので広葉樹材が希に見出されることはあるが、そもそも曲物自体が針葉樹材あつての製品であり、曲物の用材

として針葉樹材が用いられることはごく一般的な傾向である。そのほか、底板・蓋?・籠状木製品・祭祀具・角材・板材など、割り出された材や板材・割材から細部の成形を行って製作される製品には、同様に割製性に優れ切削容易なモミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が用材の中心となっている。

#### d. 中世の木製品

中世の製品はSD322、SE303,304,305,306,309、315,318,320,321,324,334,409、SK317から出土したものがあり、大半は井戸に伴うものである(表12)。

井戸枠には板材を組んだ方形のものと曲物を利用した井筒のものがある。井筒にはモミ属・ヒノキといった針葉樹材が用いられ、古代のものと同様の傾向が窺える。方形井戸枠の板材は37点中30点とスギが多用され針葉樹材が用材の中心となつてはいるが、スダジイ・ツブラライ・アカガシ属・アワキ属といった硬く丈夫な部類の広葉樹材も利用されているのが特徴的である。また、方形井戸

表12. 中世の木製品の用材

樹種/部材	井戸枠			曲物				漆塗 下敷	板材	板	木片	加工材	計	
	板	板	曲物	蓋	側	底	扇形							
針葉樹	ニロクマツ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	モミ属	2	1	-	1	2	-	-	7	-	-	-	6	
	スギ	30	-	-	1	-	1	-	4	-	1	1	43	
	ヒノキ	-	4	2	-	4	5	-	-	-	-	-	19	
	ヒノキ科	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	
広葉樹	スダジイ	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
	ツブラライ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	
	アカガシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	クワ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	シキミ	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	
	クスノキ科	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
	ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	
	アワキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ミツハツツギ	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
	カブシ	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
カキノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
計	37	3	4	2	2	8	5	1	1	13	6	2	4	90

枠の隅柱と類推される杭にはスダジイ・シキミ・キブシと複数の樹種が見出されており、身近に見られる樹種で適度な径長の丸木が得られるものが選択されたのであろう。

井戸枠以外の曲物には、側板・底板・蓋板を問わずやはり

モミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が用材とされている。剣形やその他の板材（井戸枠の可能性もある）には器形・製作法を反映して同様にスギ・ヒノキが用いられている。男根状木製品にはミツバウツギの材が見出されているが、珍しい樹種でもなく小川の縁や林縁などにみられる低木であるので、目的とした製品の法量にかなう径長の材が採取された結果であるとみられる。

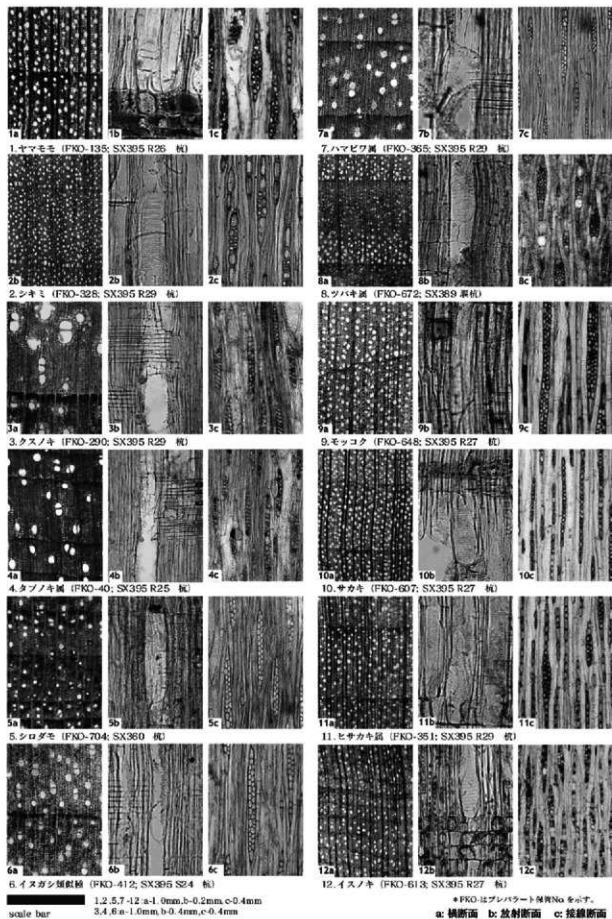
#### 4. まとめ

本稿では第6次調査出土建物建築材・土木材・木製品について、種別に用材傾向や選択の背景について検討した。その結果、弥生中期～後期の柱材・礎板にはクリを中心として硬く丈夫な材質の広葉樹材が用いられ、古墳時代や古代の渡岸杭材にはありとあらゆる樹種が網羅的に利用されていたことが明らかになった。さらに、柱材にはいずれも大径が得られる樹種が選択されているのに対し、杭材では低木～小高木程度でみられる樹種の割合が高く、周辺植生としての木材資源量だけでなく各樹種の森林の階層に占める位置も木材採取に影響を与えることが推察された。また、木製品では、板材や割材から製作される製品にモミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が多用され、使用や製作時に際してより特定の材質が要求される製品には、例えば瓣や楸のアカガシ亜属、皿や盤のサクラ属・ケヤキ、修羅のエズリハ属というように、それぞれに見合った材質を持つ広葉樹材も選択されていたことが明らかになった。花粉分析結果によれば遊跡周辺におけるモミ属・スギ・ヒノキの木材資源量は多くなかったが、木材資源が少なくても隔り出されることで効率的に製品の数量をまかなうことができたと推察される。

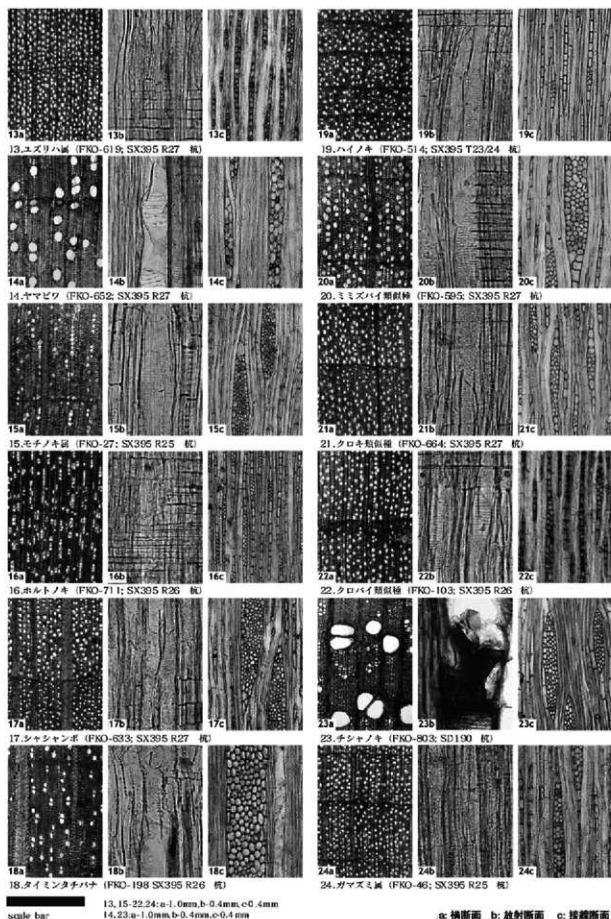
以上のように、木材利用全体としては周辺にみられた様々な樹種が利用されていたといえるが、各器種の器形・法量や製作法・使用法と樹種の材質・径長などの樹木特性との間には対応関係が認められ、周辺植生にみられる木材資源の中からそれぞれにおいて適材が使分けられていたことが確認された。

#### 〔引用文献〕

- 福岡市教育委員会（1983）「福岡市城原小学校建設地内遺跡調査報告書 拾六町ツイジ遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集」93-116
- 福岡市教育委員会（1989）「板付周辺遺跡調査報告書（15）－高嶺遺跡第12次調査地点－福岡市埋蔵文化財調査報告書第210集」80-85
- 林弘也・松本誠（1980）「鹿嶋遺跡から出土した木質遺物の樹種同定」『鹿嶋 福岡市比恵台地遺跡』209-216、日本住宅公団九州支社
- 伊東隆夫（1989）「西園遺跡群23次調査河川出土木材の樹種」『福岡市西園遺跡群第一第23次調査報告書－福岡市埋蔵文化財調査報告書第196集』35-38、福岡市教育委員会
- 中村純・畑中健一（1976）「板付遺跡の花粉分析学的研究」『板付－市営住宅建設にともなう発掘調査報告書1971～1974－福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集』29-44、福岡市教育委員会
- パリオ・サーヴェイ株式会社（2000）「樹種同定その他の分析」『新田東部遺跡群－新田東部工業団地造成に伴う発掘調査報告書－（第3分冊）』1147-1177、新田町教育委員会・群馬県企業局
- 嶋倉巳三郎（1976）「木材の材質」『板付－市営住宅建設にともなう発掘調査報告書1971～1974－福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集』67-75、福岡市教育委員会
- 嶋倉巳三郎（1981）「福岡市板付E-5・6地区出土の木質遺物の樹種」『板付－板付会館建設に伴う発掘調査報告書－福岡市埋蔵文化財調査報告書第73集』76-77、福岡市教育委員会
- 鈴木茂（2000）「博多遺跡群第112次調査土壌の花粉化石」『博多74－博多遺跡群第112次調査の報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書632集』17-27、福岡市教育委員会



写真図版：出土材・木材組織光学顕微鏡写真1



写真図版：出土材・木材組織光学顕微鏡写真2

## 5. 第6次調査出土炭化物の放射性炭素年代測定

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

下月隈C遺跡 (SHC-6) より検出された炭化物の加速器質量分析法 (AMS) による放射性炭素年代測定を実施した。

### 2. 試料と方法

試料は、SC532-1区、SK460、SK488下層、SK517、SK544、およびSP329の、それぞれ第IV面から採取した炭化物6点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨 (グラファイト) に調整した後、加速器質量分析計 (AMS) にて測定した。測定された $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した $^{14}\text{C}$ 濃度を用いて $^{14}\text{C}$ 年代を算出した。

### 3. 結果

表1に、各試料の同位体分別効果の補正值 (基準値-25.0%)、同位体分別効果による測定誤差を補正した $^{14}\text{C}$ 年代、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代を示す。

$^{14}\text{C}$ 年代値 (yrBP) の算出は、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$ 年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差 (One sigma) に相当する年代である。これは、試料の $^{14}\text{C}$ 年代が、その $^{14}\text{C}$ 年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

#### 暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された $^{14}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い (14Cの半減期5,730 $\pm$ 40年) を較正し、より正確な年代を求めるために、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較、および海成堆積物中の網状の堆積構造を用いて $^{14}\text{C}$ 年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代を算出する。

$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版) を使用した。なお、暦年代較正值は $^{14}\text{C}$ 年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1 $\sigma$ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された $^{14}\text{C}$ 年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1 $\sigma$ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしきの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

### 4. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしきの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲

として示された。

引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代. p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended 14C Database and Revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

表1. 放射性炭素年代測定および暦年代校正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}C_{\text{perm}}$ (‰)	$^{14}C$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}C$ 年代を暦年代に校正した年代	
				暦年代校正値	1 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-1756 (AMS)	炭化物 No.2 SC532-1区 第IV面	-26.2	1800 $\pm$ 35	cal AD 240	cal AD 135-160 (18.9%) cal AD 170-195 (19.8%) cal AD 210-255 (47.9%) cal AD 300-320 (13.4%)
PLD-1757 (AMS)	炭化物 No.3 SK460 第IV面	-25.3	2530 $\pm$ 35	cal BC 765	cal BC 790-760 (28.6%) cal BC 680-665 (14.0%) cal BC 640-590 (36.1%) cal BC 580-550 (21.3%)
PLD-1758 (AMS)	炭化物 No.4 SK488下層 第IV面	-26.6	2520 $\pm$ 35	cal BC 765 cal BC 675	cal BC 790-760 (19.7%) cal BC 685-660 (14.7%) cal BC 645-545 (65.6%)
PLD-1759 (AMS)	炭化物 No.5 SK517 第IV面	-26.2	2455 $\pm$ 35	cal BC 740 cal BC 725 cal BC 540 cal BC 530 cal BC 520	cal BC 760-685 (37.2%) cal BC 545-480 (30.2%) cal BC 440-415 (13.6%)
PLD-1760 (AMS)	炭化物 No.2 SK544 第IV面	-25.0	2280 $\pm$ 35	cal BC 385	cal BC 395-355 (60.1%) cal BC 285-260 (32.2%)
PLD-1761 (AMS)	炭化物 No.7 SP329 第IV面	-24.4	2005 $\pm$ 35	cal BC 15 cal AD 0	cal BC 40-cal AD 30 (90.5%)

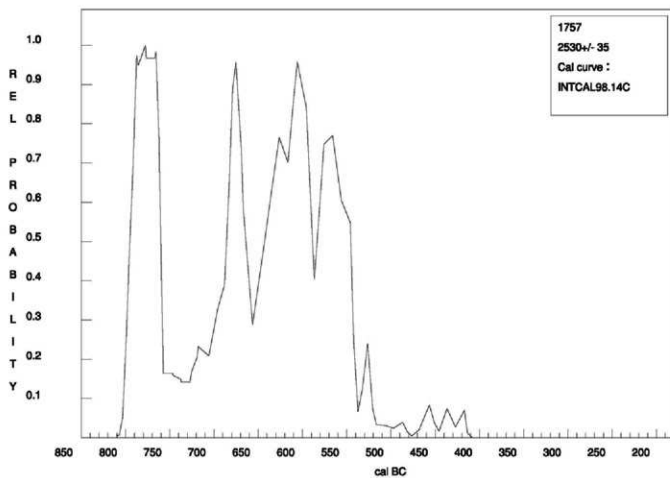
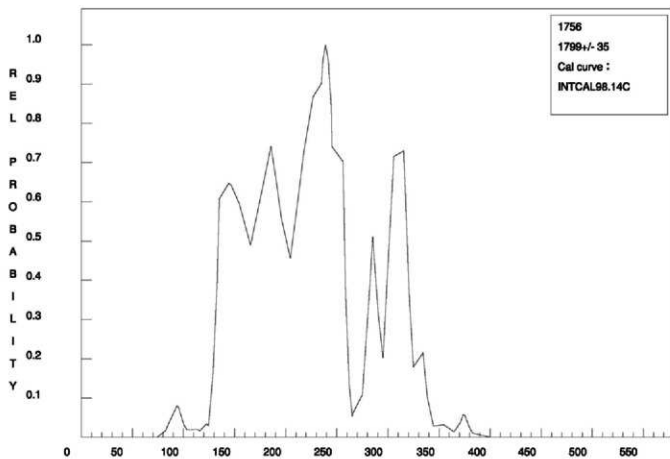


図1 暦年代較正グラフ1

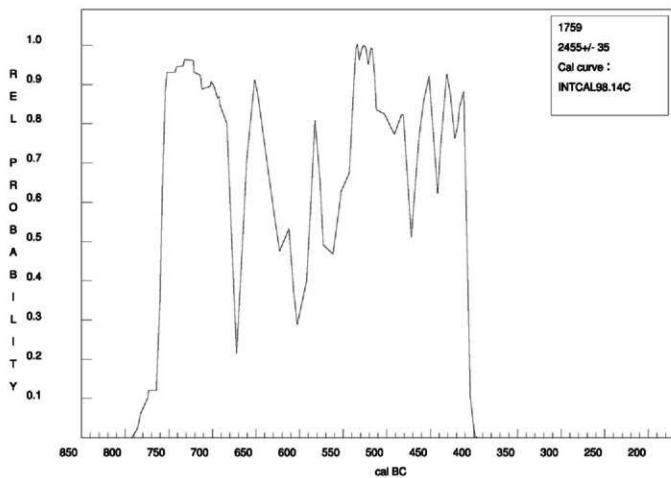
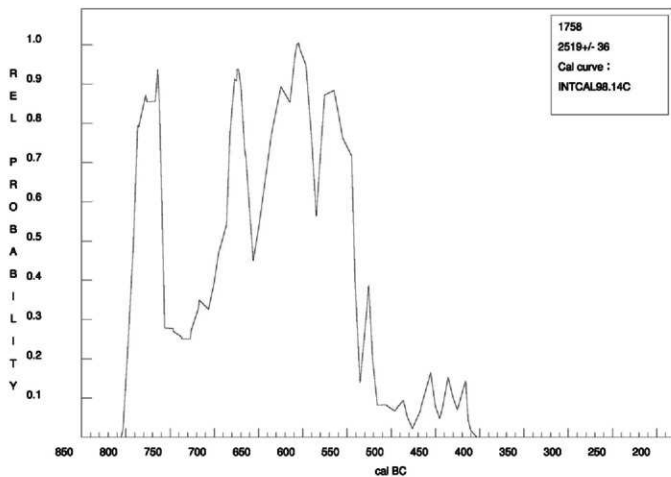


図2 暦年代較正グラフ



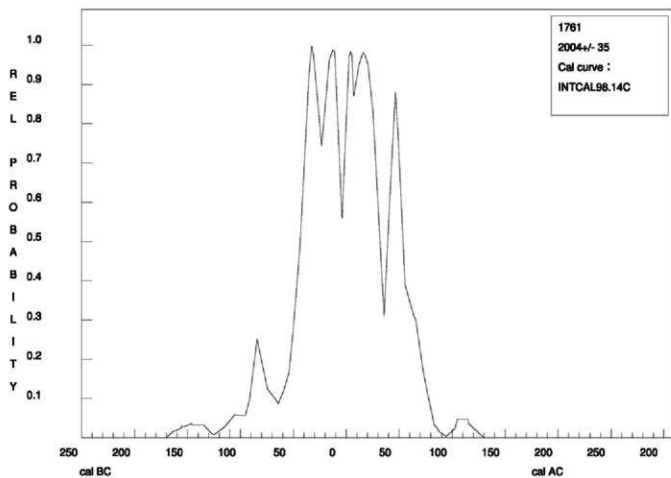
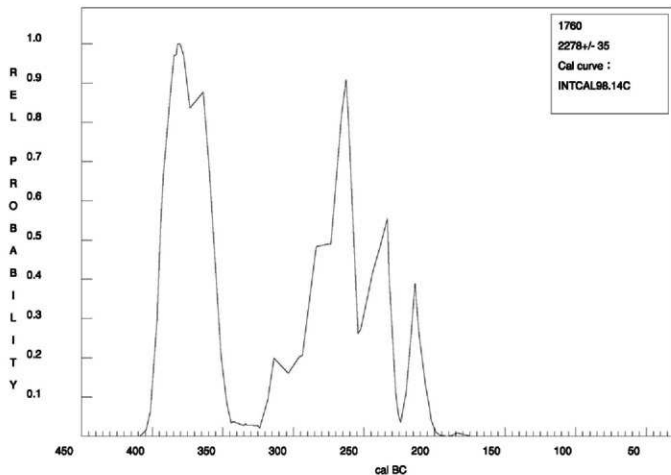


図3 暦年代較正グラフ3

## 6. 第6次調査出土柱根の放射性炭素年代測定

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

福岡市博多区に所在する下月隈C遺跡は、御笠川沿いの微高地上に立地する。本遺跡では、発掘調査により、縄文時代末～弥生時代前期の河川跡や土器・石器等の遺物、弥生時代の集落跡・河川跡・水田跡、古墳時代後期の水田跡、奈良時代の河川跡や水田跡、鎌倉時代の村落跡等が確認されている。今回の分析調査は、第6次調査で出土した柱根の加速器による放射性炭素年代測定(AMS法)を実施し、年代に関する情報を得る。

### 1. 試料

試料は、出土した柱根16点である。試料の詳細は結果と共に表1に示した。

### 2. 分析方法

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、暦年校正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。

### 3. 結果

結果を、表1・2に示す。試料の測定年代(補正年代)は、いずれも約1800～2100年前の弥生時代に相当する値を示す。この結果は、発掘調査所見と調和的である。

表1. 放射線炭素年代測定結果

試料番号	遺構名	柱礎番号	試料の質	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code.No.
1	SB579	SP480	木材	1890±40	-26.30±0.75	1910±30	IAAA-31799
2	SB579	SP594	木材	1820±40	-26.99±0.66	1285±30	IAAA-31800
3	SB581	SP413	木材	2000±40	-25.38±1.03	2010±30	IAAA-31801
4	SB584	SP377	木材	1950±40	-30.03±0.97	2030±30	IAAA-31802
5	SB584	SP380	木材	1810±30	-24.75±0.62	1810±30	IAAA-31803
6	SB584	SP582	木材	1870±30	-25.34±0.70	1870±30	IAAA-31804
7	SB589	SP2	木材	1930±30	-26.94±0.87	1960±30	IAAA-31805
8	SB589	SP6	木材	1950±30	-28.08±0.72	2000±30	IAAA-31806
9	SB589	SP10	木材	1890±30	-24.70±0.69	1880±30	IAAA-31807
10	SB593	SP37	木材	2120±40	-27.38±0.97	2130±30	IAAA-31808
11	SB593	SP154	木材	2120±40	-23.26±0.93	2100±30	IAAA-31809
12	SB598	SP127	木材	1770±30	-23.93±0.67	1750±30	IAAA-31810
15	SB598	SP605	木材	1910±30	-25.13±0.68	1910±30	IAAA-31811
14	SB606	SP289	木材	1990±40	-23.59±0.73	1960±30	IAAA-31812
15	SB606	SP339	木材	1950±40	-26.00±0.75	1970±30	IAAA-31813
16	SB607	SP41	木材	2140±40	-24.58±0.79	2140±40	IAAA-31814

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表2. 暦年較正結果

試料番号	遺構名	柱根番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.
				cal AD 70	cal AD 134	cal BP 1,880	cal AD 159	cal AD 171	cal BP 1,791		
1	SB579	SP480	1890±34	cal AD 196	cal AD 208	cal BP 1,754	cal AD 159	cal AD 171	cal BP 1,791	0.834	IAAA-31799
				cal AD 196	cal AD 208	cal BP 1,754	cal AD 159	cal AD 171	cal BP 1,791	0.080	
				cal AD 196	cal AD 208	cal BP 1,754	cal AD 159	cal AD 171	cal BP 1,791	0.087	
2	SB579	SP594	1820±34	cal AD 207	cal AD 239	cal BP 1,743	cal AD 169	cal AD 201	cal BP 1,781	0.299	IAAA-31800
				cal AD 207	cal AD 239	cal BP 1,743	cal AD 169	cal AD 201	cal BP 1,781	0.342	
				cal AD 207	cal AD 239	cal BP 1,743	cal AD 169	cal AD 201	cal BP 1,781	0.359	
3	SB581	SP413	2002±34	cal AD 41	cal AD 50	cal BP 1,909	cal BC 3	cal AD 28	cal BP 1,953	0.462	IAAA-31801
				cal AD 41	cal AD 50	cal BP 1,909	cal BC 3	cal AD 28	cal BP 1,953	0.438	
				cal AD 41	cal AD 50	cal BP 1,909	cal BC 3	cal AD 28	cal BP 1,953	0.100	
4	SB584	SP377	1945±35	cal AD 104	cal AD 118	cal BP 1,846	cal AD 23	cal AD 84	cal BP 1,927	0.851	IAAA-31802
				cal AD 104	cal AD 118	cal BP 1,846	cal AD 23	cal AD 84	cal BP 1,927	0.149	
				cal AD 104	cal AD 118	cal BP 1,846	cal AD 23	cal AD 84	cal BP 1,927	0.149	
5	SB584	SP380	1813±34	cal AD 207	cal AD 242	cal BP 1,743	cal AD 134	cal AD 162	cal BP 1,816	0.285	IAAA-31803
				cal AD 207	cal AD 242	cal BP 1,743	cal AD 134	cal AD 162	cal BP 1,816	0.328	
				cal AD 207	cal AD 242	cal BP 1,743	cal AD 134	cal AD 162	cal BP 1,816	0.388	
6	SB584	SP582	1867±32	cal AD 121	cal AD 178	cal BP 1,829	cal AD 85	cal AD 102	cal BP 1,865	0.183	IAAA-31804
				cal AD 121	cal AD 178	cal BP 1,829	cal AD 85	cal AD 102	cal BP 1,865	0.583	
				cal AD 121	cal AD 178	cal BP 1,829	cal AD 85	cal AD 102	cal BP 1,865	0.234	
7	SB589	SP2	1927±33	cal AD 99	cal AD 125	cal BP 1,851	cal AD 31	cal AD 38	cal BP 1,919	0.092	IAAA-31805
				cal AD 99	cal AD 125	cal BP 1,851	cal AD 31	cal AD 38	cal BP 1,919	0.550	
				cal AD 99	cal AD 125	cal BP 1,851	cal AD 31	cal AD 38	cal BP 1,919	0.358	
8	SB589	SP6	1952±32	cal AD 19	cal AD 82	cal BP 1,931	cal AD 4	cal AD 10	cal BP 1,946	0.057	IAAA-31806
				cal AD 19	cal AD 82	cal BP 1,931	cal AD 4	cal AD 10	cal BP 1,946	0.943	
				cal AD 19	cal AD 82	cal BP 1,931	cal AD 4	cal AD 10	cal BP 1,946	0.943	
9	SB589	SP10	1889±32	cal AD 197	cal AD 208	cal BP 1,753	cal AD 71	cal AD 134	cal BP 1,879	0.850	IAAA-31807
				cal AD 197	cal AD 208	cal BP 1,753	cal AD 71	cal AD 134	cal BP 1,879	0.074	
				cal AD 197	cal AD 208	cal BP 1,753	cal AD 71	cal AD 134	cal BP 1,879	0.075	
10	SB593	SP37	2123±36	cal AD 277	cal AD 336	cal BP 1,673	cal BC 199	cal AD 92	cal BP 2,149	0.987	IAAA-31808
				cal AD 277	cal AD 336	cal BP 1,673	cal BC 199	cal AD 92	cal BP 2,149	0.013	
				cal AD 277	cal AD 336	cal BP 1,673	cal BC 199	cal AD 92	cal BP 2,149	0.013	
11	SB593	SP154	2129±34	cal AD 231	cal AD 262	cal BP 1,719	cal AD 200	cal AD 95	cal BP 2,150	1.000	IAAA-31809
				cal AD 231	cal AD 262	cal BP 1,719	cal AD 200	cal AD 95	cal BP 2,150	0.377	
				cal AD 231	cal AD 262	cal BP 1,719	cal AD 200	cal AD 95	cal BP 2,150	0.623	
12	SB598	SP127	1771±31	cal AD 277	cal AD 336	cal BP 1,673	cal AD 231	cal AD 262	cal BP 1,719	0.377	IAAA-31810
				cal AD 277	cal AD 336	cal BP 1,673	cal AD 231	cal AD 262	cal BP 1,719	0.623	
				cal AD 277	cal AD 336	cal BP 1,673	cal AD 231	cal AD 262	cal BP 1,719	0.623	
13	SB598	SP605	1911±31	cal AD 1	cal AD 59	cal BP 1,951	cal AD 65	cal AD 128	cal BP 1,885	1.822	IAAA-31811
				cal AD 1	cal AD 59	cal BP 1,951	cal AD 65	cal AD 128	cal BP 1,885	0.081	
				cal AD 1	cal AD 59	cal BP 1,951	cal AD 65	cal AD 128	cal BP 1,885	0.122	
14	SB606	SP289	1985±34	cal AD 105	cal AD 116	cal BP 1,845	cal BC 38	cal AD 30	cal BP 1,988	0.081	IAAA-31812
				cal AD 105	cal AD 116	cal BP 1,845	cal BC 21	cal AD 11	cal BP 1,971	0.122	
				cal AD 105	cal AD 116	cal BP 1,845	cal BC 21	cal AD 11	cal BP 1,971	0.797	
15	SB606	SP339	1949±36	cal AD 227	cal AD 222	cal BP 2,177	cal AD 4	cal AD 8	cal BP 1,946	0.037	IAAA-31813
				cal AD 227	cal AD 222	cal BP 2,177	cal AD 4	cal AD 8	cal BP 1,946	0.856	
				cal AD 227	cal AD 222	cal BP 2,177	cal AD 4	cal AD 8	cal BP 1,946	0.107	
16	SB607	SP41	2143±40	cal AD 205	cal AD 106	cal BP 2,155	cal BC 348	cal AD 320	cal BP 2,298	2.270	IAAA-31814
				cal AD 205	cal AD 106	cal BP 2,155	cal BC 227	cal AD 222	cal BP 2,177	0.029	
				cal AD 205	cal AD 106	cal BP 2,155	cal BC 205	cal AD 106	cal BP 2,155	0.777	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

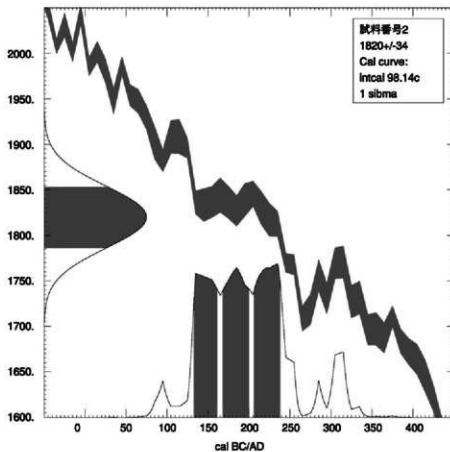
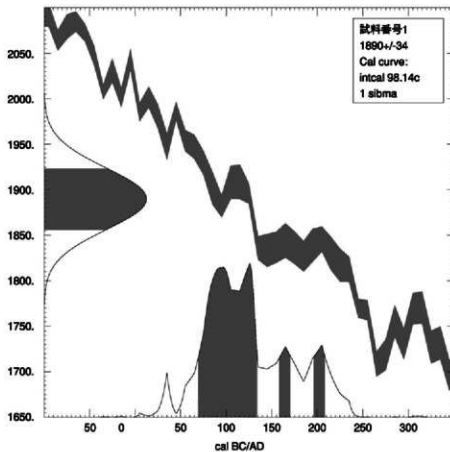


図1 暦年代較正グラフ1

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

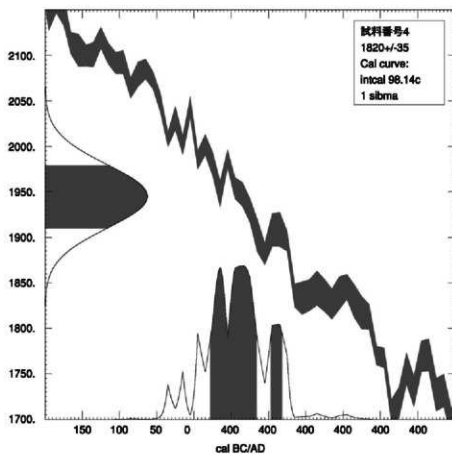
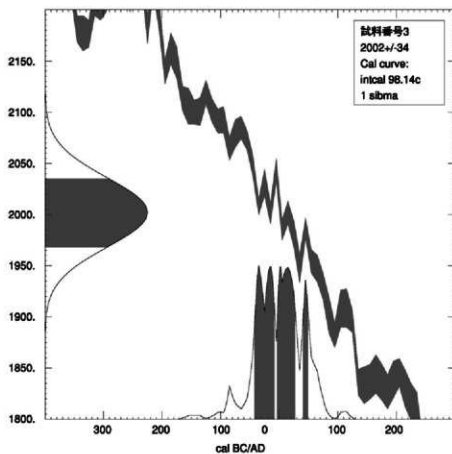


図2 暦年代校正グラフ2

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

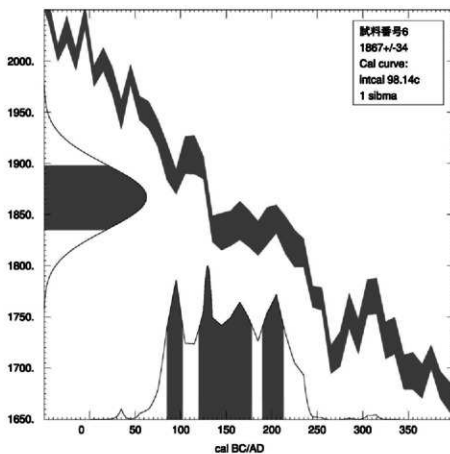
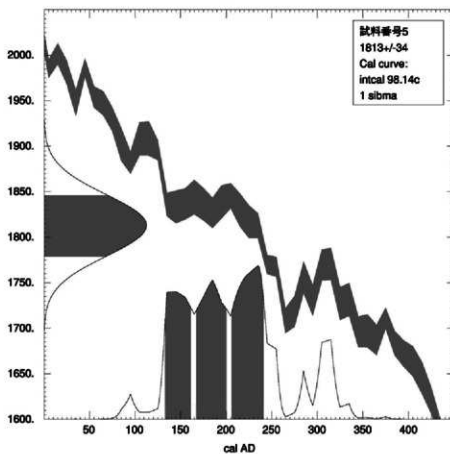


図3 暦年代校正グラフ3

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

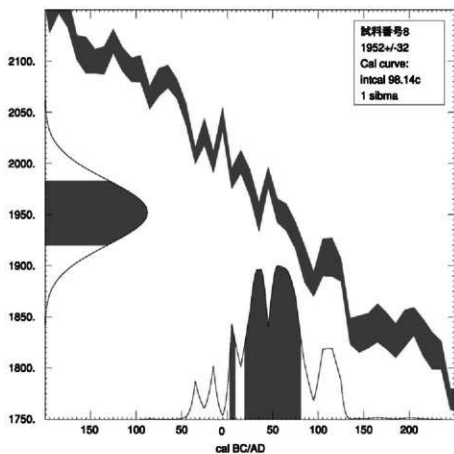
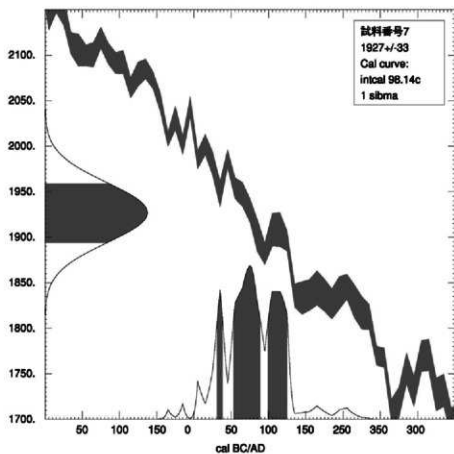


図4 暦年代校正グラフ4



Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

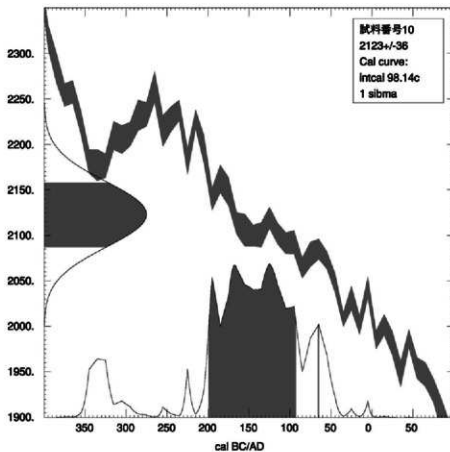
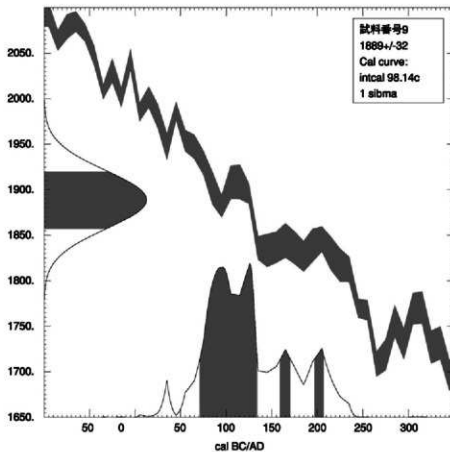


図5 暦年代較正グラフ5

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

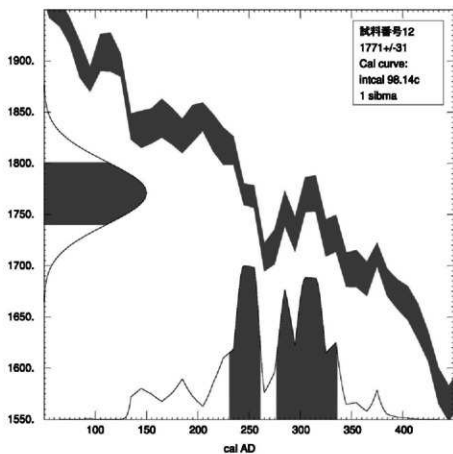
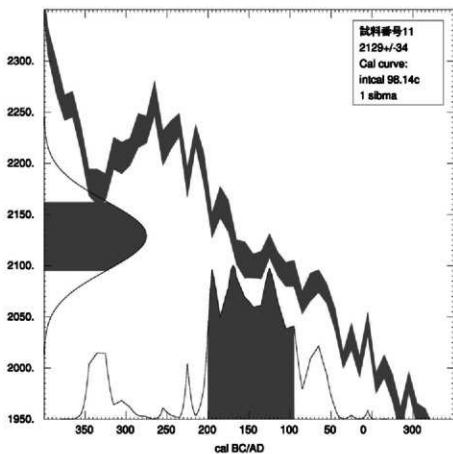


図6 暦年代較正グラフ6

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

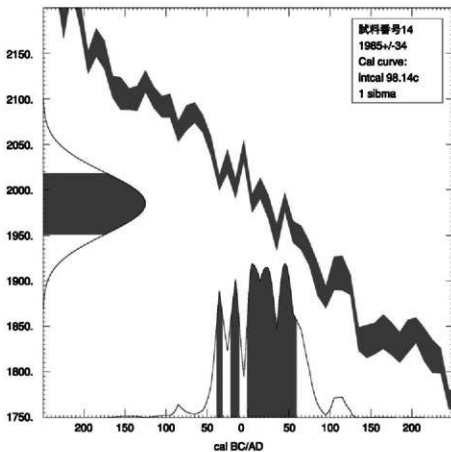
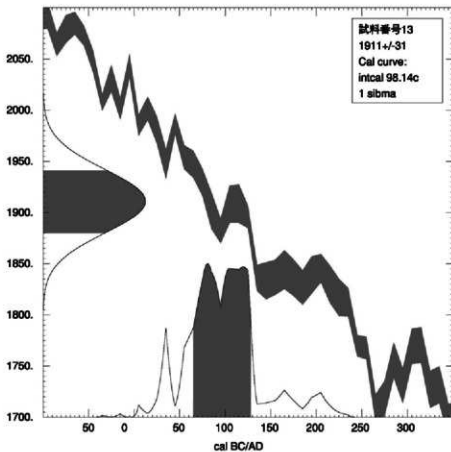


図7 暦年代較正グラフ

Radiocarbon Age vs. Calibrated Age

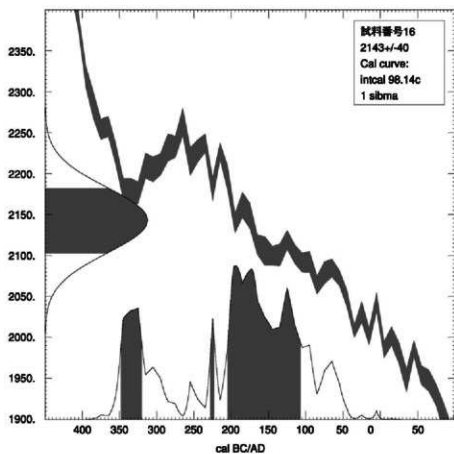
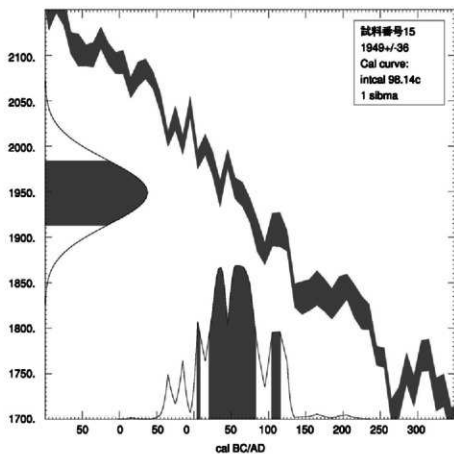


図8 暦年代較正グラフ8

## 第V章 総括

### 1. 下月隈C遺跡第6次調査出土刻目突帯文土器の位置付けについて

所 一男 (東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程)

#### (1) はじめに

本書で報告した下月隈C遺跡6次調査においては、第IV面で検出された遺構から、多量の刻目突帯文土器が出土した。特にSK460・SK488・SK500・SD507などにおいては、二条刻目突帯文甕を中心に上器がまとまって折り重なったような形で出土しており、その中には完形近くまで復元できるものも多い。このような出土状況から、短期間のうちに廃棄されたものがそのまま埋没した一括性の高い資料と言える。当遺跡は板付遺跡の西方約800mに位置し、弥生文化の成立・展開について研究する上で非常に重要な地域に位置している。また、遺構から出土する土器の中で主体となるのは刻目突帯文土器であり、それに少量の板付I式土器が共存するという構成を示し、刻目突帯文土器と板付式土器との関係を考える上でも貴重な資料である。本稿では、土器の様相を検討し、これまでの当該期の土器編年を参考にしつつ資料の編年の位置付けを行い、周囲の遺跡出土土器との比較等を通して弥生文化成立期における諸問題や当遺跡の特徴について考察したい。

#### (2) 研究略史

まず、これまでの当地域における刻目突帯文土器期から弥生時代前期にかけての土器編年の研究の流れをごく簡単に概観し、現在までの研究の到達点及びその課題を確認しておきたい。

刻目突帯文土器と板付I式土器の遺構からの共存が確認されたのは戦後の福岡市板付遺跡環壕の調査においてである(森・岡崎1961)。この成果を契機に1960年代には夜臼式土器の単純遺跡を探す作業が行われ、唐津市宇木段田遺跡の調査(九州大学考古学研究室1962)や島原半島における日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会による調査より、突帯文土器単純期の存在が確認される。

1970年代後半から80年代前半にかけての福岡市板付遺跡・唐津市菜畑遺跡・糸島郡曲り田遺跡等の調査成果に基づき、それぞれの遺跡を調査した山崎純男氏(山崎1980)、中島直幸氏(中島1982)、橋口運也氏(橋口1985)が刻目突帯文土器期～弥生時代前期の編年を発表し、当該期の編年研究の基礎が形作られる。

これらの成果に基づき、その後の遺跡の調査の進展に伴って、編年も細分化されていく(田崎1994、吉留1994、藤尾1999など)。田崎博之氏は突帯文期から弥生時代前期前半を山ノ寺式→夜臼式古段階→夜臼式新段階→板付I式古段階→板付I式新段階と編年し(田崎1994)、近年では同様に突帯文土器単純期を2時期ないしは3時期、板付I式を2時期に分けて議論することが主流となっている。

このような編年研究の深化に伴い、遺跡における突帯文土器と板付式土器との出土状況の違いから集団関係のあり方の復元に迫った研究も進められている(田崎1998、山崎1999、藤尾1999など)。また、家根祥多氏の一連の研究により朝鮮無文土器から板付I式土器が成立する過程も復元され、土器研究から弥生文化の成立過程、当該期の集団関係へと研究も深められてきた(家根1984、1987、1993、1997など)。

その一方で、土器編年や地域性の細分化・その併行関係に対する理解の仕方に研究者間の意見の相違や混乱が生じているのもまた事実である<sup>1)</sup>。西日本の地域ごとの当該期の編年、併行関係の構築から弥生文化の成立過程を明らかにすることを旨とした土器持寄会の一連の成果からも、研究者

間での見解の相違が大きいが見て取れる（土器持寄会論文集刊行会2000）。このような意見の相違に対し、地域ごと、遺跡ごとの土器の検討を積み重ね、遺跡間・地域間の関係性をより具体的に明らかにしていくことで、解決していけるものと考えている。

2004年2月に開催された埋蔵文化財研究会福岡大会「板付Ⅰ式期の再検討」においては、北部九州における、より細かい平野・小地域ごとの土器編年・文化様相・地域性がまとめられ、相互の併行関係についての議論も深められた（埋蔵文化財研究会福岡大会実行委員会2004）。今後は、その成果に基づき、地域差の発現する過程、地域間の影響関係などの認識を通して、より精緻な板付Ⅰ式土器の成立過程や実際の人・集団の動きといった点に検討を進める準備が整ってきていると言えよう。

以上見てきたように、現段階において当該期の土器編年は細分化が進み、玄海灘沿岸地域内においても平野単位での小地域差、さらには福岡平野内での遺跡差が指摘されてきている。それを基にしてより具体的な土器の地域間交流、地域間・遺跡間差の表出と解消の過程といった問題にアプローチが可能になってきていると言え、そこからより詳細な弥生文化・弥生土器の成立過程の具体像を推けるのではないかと考えられる。本稿において扱う下月限C遺跡6次調査の土器はこのような試みを行う上での貴重な一資料を提供してくれる。

### (3) 出土土器の概要とその編年の位置付け (Fig.177・178)

個々の土器に関しては、本報告書の第Ⅲ章や遺物観察表において説明したので、重複する部分もあるが、出土状況の良い遺構（SK460、SK488、SK500、SK548、SD507）の土器について簡単に概観し、その特徴を指摘した上で、これまでの編年研究の成果に基づいて位置付けを行いたい。

#### ①SK488出土土器

屈曲型の二条突帯文甕がまとめて出土し、完形近く復元できるものも多い。屈曲部からの立ちあがり方によって細分するとバリエーションに富むが、屈曲部から内傾して口縁部に立ち上がるもの（504・512）、屈曲部から垂直方向に近く立ち上がるもの（505・506・507・511・513・514・515）、外に少し開くもの（508・509・510）におおまかに分けられる。外面に横方向の貝殻条痕調整を施す点、口縁部突帯を口縁端部に接するように貼り付ける点、刻目は棒状工具によりやや深めにつける点、屈曲がそれほど強くない点などにおいて共通性が高い。529はハケ目調整が施され、板付式甕の胴下部～底部と考えられる。色調は赤っぽく、突帯文甕とは異なり、搬入品の可能性が高い。このような搬入品の影響を受けて515のような、ハケ目調整の技法が用いられる刻目突帯文甕が作られたことが想定できる。

また、壺については口縁外面を肥厚させるもの（530・531）、胴部の段や沈線文様（537～540）、円盤貼付形の底部（533）など板付式の特徴を持つものが多い。丹塗りの大型壺の胴部片（541）や口縁が外に開く浅鉢・高坏も出土している（542～546）。以上の様相から、板付Ⅰ式古段階に位置付けられる。

1 山ノ寺式の位置付けについては従来からの議論があるが、直接的には本稿に大きく関わらないので、ここでは触れない。

2 川原恵三氏(川原2000など)や豆谷和之氏(豆谷1995など)ら瀬戸内～畿内の研究者と北部九州の研究者との間で編年の併行関係や板付Ⅰ式土器の成立過程に見解の相違がある。その詳しい要点についてはここでは触れない。

3 紙面の都合上、本文中で触れた土器全てをFig.177・178に載せることはできなかった。また幅尺も小さく、図面が見にくくなってしまった。報告書第Ⅲ章の図面及び遺物観察表を御覧参照されたい。番号は報告書の図面の番号と対応している。

4 搬出元は板付Ⅰ式壺が想定通り多いとされ、赤みがかかった土器も多い板付遺跡が想定できる。ただし、板付遺跡においても刻目突帯文土器と色調・胎土が異なる状態が見られることから、さらに別の搬入元を想定すべきという意見もある(川原2000など)。筆者はこの点に関してまだ明確な結論に至っていないので、ここでは明言しない。

## ②SK500出土土器

屈曲型の二条突帯文甕が主体となり、上記のSK488出土土器と近い特徴を持つが、屈曲部から内傾するものがなく、屈曲部からほぼ垂直に立ちあがるもの(579・580・581・582・584・585・586・587など)や外側に開き気味のもの(583)が多く、より屈曲部が痕跡的になる傾向が強く、SK488よりわずかに時期が下るようである。584のように外面にハケ目調整を施す突帯文甕が1点出土している。また反外の弱いハケ目を施す板付系の甕(593)が1点出土している。胎土は灰黄橙～黄橙色系で、他の突帯文甕と近く、共に当遺跡で製作・焼成されたものと考えられる。壺は板付系(599・602～604)と夜白系(600・601)が併存する。また、黒色磨研の精製高坏(607)が出土している。

## ③SD507出土土器

屈曲型の二条突帯文甕が主体となり、上記のSK488・SK500出土土器と近い特徴を持つ。ただし、屈曲部における屈曲が痕跡的なものが目立ち(389・391・392・394・395など)、若干時期が下ると考えられる。また、ハケ目調整を用いる突帯文甕も少量存在する(393・397)。刻目突帯文甕の中で1点他と非常に顔つきの異なる土器が出土している(399)。砲弾型的一条突帯文甕であるが、口縁に非常に薄く突帯を貼り付けているため、突帯を貼り付けたのか口縁をつまみ出し突帯風に仕上げたのか見分けがつきにくい。外面調整も貝殻条痕調整後、板状工具で縦方向に丁寧にナデを加えて消している。胎土は白っぽく、他の土器とは大きく異なっている。このような土器は唐津の菜畑遺跡の8下層(夜白期)～8上層(夜白・板付I式共伴期)に特徴的に見られるもので、9～12層(山ノ寺式期)において受容した無文土器系の甕の影響を受けて、唐津地域の在地の刻目突帯文甕が形式変化したものであると考えている<sup>5</sup>。唐津地域からの搬入品である可能性が高いと指摘しておく。

また完形の板付式甕(404)が1点出土している。口縁端部全面に刻目をつけ、外面は下から上へと細かいハケ目を施す板付I式の甕である。色調は明るい黄橙色を呈し、灰黄橙～黄橙色系の他の刻目突帯文甕とは胎土において共通する。また、外面胴部中程に大きな瘤円形の黒斑がつき、その逆の外面に火色(葦葎料と焼成時に接触したことを示す)の痕跡も見られ、覆い型野焼きによって焼成されたことが想定される<sup>6</sup>(小林他2000、長友他2004)。刻目突帯文甕についてはススの付着が激しく、黒斑のつき方の全体像がつかめないが、部分的に接地面黒斑や火色が確認でき、同じように覆い型野焼きで焼かれた可能性が高い。一方口縁部のみ残る板付式甕(405)は色調が赤っぽく突帯文甕と大きく異なり、搬入品と考えられる。

壺は夜白系で胴部幅が広がった丹塗りの大型壺(407・413)と板付系の小壺(409・410)、他にも大型の鉢(406)、口縁部が大きく外に開く高坏(411)、高坏の脚部(412)が出土している。以上の様相からSK488・SK500よりはわずかに新しいが、板付I式古段階の範疇で取まる時期に位置付けておく。

## ④SK460出土土器

468～471のような刻目突帯文甕と472～475のような板付式甕が共伴している。二条刻目突帯文甕は、屈曲部からほぼ垂直方向に立ちあがるもの(469、470)と、ほとんど屈曲せずに外側に開

<sup>5</sup> 菜畑遺跡8下～8上層の突帯文土器は屈曲型二条突帯文甕が主体だが、399に近い砲弾型のものも存在する。いずれにせよ、口縁部内面をナデで円まして仕上げる点や胎土・調整が非常に近い。実見にあたり唐津市教育委員会の岩屋幸希氏、美瀬雅二氏のお世話になった。

<sup>6</sup> 覆い型野焼きと黒斑の関係については、北陸学院短期大学の小林正史先生のご指導いただき、小林先生を中心とした研究チームに参加させていただいたことで多くの知見を得た。

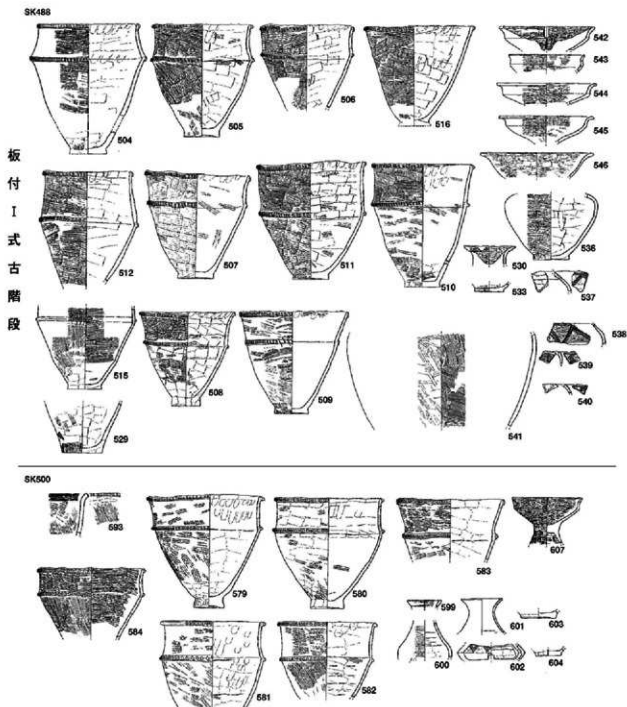


Fig.177 板付I式古階段の遺構 (SK488, SK500) 出土土器 (1/8)

くもの (468) があり、上記の遺構出上のものとそれ程大きくは変わらない。板付式甕はいずれも口唇全面に刻目を入れ、板付I式甕の範疇でとらえられるが、やや胴が張り、SD507の板付I式甕よりはわずかに時期が下ろう。また、色調は黄橙～鈍い褐色を呈し、焼成や胎土において突帯文甕と顕著な差は認められない。鉢 (476・478)、板付式の壺 (482・485～487)、高坏 (477) も出土しており、高坏の口縁部の開きが大きい点や壺の外面口縁部肥厚の段や頸胴部間外面の段が沈線に近づいている点からも板付I式の中でも新段階に位置付けられる。

⑤SK548出土土器



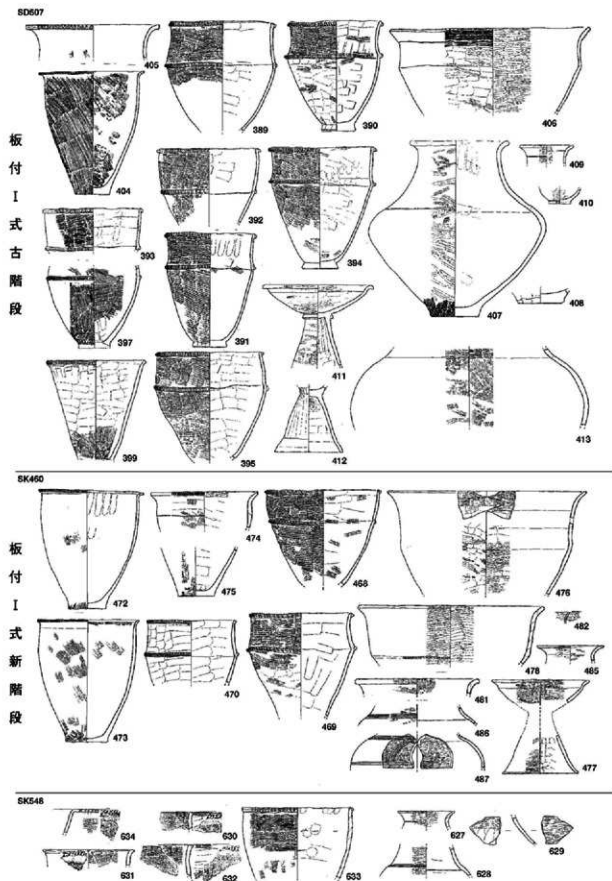


Fig.178 板付Ⅰ式古階段の遺構 (SD507)、新階段の遺構 (SK460, SK548) 出土土器 (1/8)

出土量もそれ程多くなく、破片資料中心であるが、興味深い土器の様相が見られるので、触れておく。4点の刻目突帯文甕が出土し、633は砲弾型の一条突帯文甕の胴中部以上残存で、630～632は口縁部の破片である。4点とも外面もしくは内面にハケ目調整が見られ、貝殻条痕調整が見られないという点、口縁上部外側に突帯を貼り付けた後、突帯上部と口縁端部を非常に丁寧に平らに整形し、貼り付けた痕跡を消すという点で共通点を持つ。このハケ目調整と口縁上部を丁寧に横でし平らに仕上げる技法は、板付式甕に共通するものであり、板付式甕との強い影響・折衷関係が想定できる。また、1点口縁部の外反の強い板付式甕の口縁部破片(634)も出土している。壺については口縁部破片627は口縁外面をわずかに肥厚させ、沈線状の段をつけ、頸胴間破片628は外面段はそれほどはっきりしないが、内面には粘土帯接合時の段が残るという板付I式の中でもやや新しい特徴を示す。

これらの特徴から、SK488・SK500・SD507よりは一段階新しい時期、壺・板付式甕の様相から板付I式新段階に位置付けられ、突帯文甕の様相からSK460出土土器よりも若干下層と考える。また、刻目突帯文甕が板付式甕との折衷により形式変化する様相も確認できた。

以上のように見てきたように、土器様相のわずかな違いから板付I式期という短い時間幅の中でSK488→SK500→SD507(以上、板付I式古段階)→SK460→SK548(以上、板付I式新段階)というように非常に漸移的な変化が追え、また、搬入・模倣・折衷といった現象がいくつか想定できた。

上で述べてきた形式変化の流れを編年表にして図177・178において示した。まとめると、SK488→SK500→SD507にかけては、刻目突帯文甕が圧倒的割合を占め、従来言われてきたように屈曲部が痕跡的になり、口縁が外側に広がる方向に形式変化する。それに伴って出土するごく少量の板付式甕は胎土・色調等大きく異なる搬入品と考えられるもの(529・405)と、胎土・焼成等が同じで、下月限C遺跡で製作されたと考えられるもの(593・404・472・473・634)の両者が存在する。後者も器形・製作技法等において板付I式そのものであり、単なる模倣というよりも板付I式甕の製作技法を体得した者が、下月限C遺跡で生活する集団に加わり、土器製作を行ったことが想定される。このようにして作られた板付I式甕や搬入された板付I式甕の技法を模倣することで、刻目突帯文甕の中にもわずかにハケ目調整を施すという折衷品が製作されたと考えられる。板付甕のように少量であるが絶えず搬入・製作され、在地の刻目突帯文土器の技法に影響を与えていく場合もあれば、唐津地域からの搬入を想定した刻目突帯文甕399のように単発的で他の土器への明確な技法の影響を見出せない事例もある。続くSK460→SK548にかけては板付式甕の量が増え、刻目突帯文甕と併存しつつ、突帯文甕のハケ目技法・口縁部の丁寧な横ナデ整形など板付式甕の模倣・折衷が顕著になっていく。

以上、変化を追ってきたが、これらは非常に漸移的な変化のあり方を示し、従来の編年をさらに細分しそれぞれを独立して様式(型式)として設定することは難しいが、土器の変化の方向性やその要因を考える上で有効であると考えられる。

#### (4) 小結及び今後の課題

本遺跡の土器を概観し、その位置付けを行なう中で、何点か新たな視点、これまでの議論を補強する事実等が浮かび上がってきた。これらを最後にまとめるとともに今後の課題を指摘しておきたい。

まず、良好な一括資料から、本遺跡における板付Ⅰ式期という短期間における土器様式の漸移的な変化の過程を追うことができ、その中ででの搬入・模倣・折衷のプロセスを想定することができた。刻目突帯文甕を主体とし、少量の板付Ⅰ式甕が伴うというのは、従来からの山崎純男氏の指摘通りである（山崎1980、1999）。その中で、板付Ⅰ式甕の搬入・模倣を通して、折衷タイプの刻目突帯文甕へと変化していく過程を確認した。

このような搬入、模倣、折衷の過程は、周囲の遺跡の様相と比較してみると必ずしも一様ではないようである。例えば、下月限C遺跡の北方に位置する雀居遺跡においては板付Ⅰ式古段階において板付式甕が下月限遺跡よりも多く認められ、5次調査SK188に示されるように板付Ⅰ式新段階には刻目突帯文甕がほぼ見られなくなる。また、板付遺跡においては、板付Ⅰ式甕が周囲の遺跡よりも多く出土することは従来から指摘されてきた（山崎1980、1999、藤尾1987）。これらの成果から板付式系の単純期として設定された板付Ⅰ式新段階においても、下月限C遺跡においては突帯文系が非常に多く残存する事実が確認でき、同じ福岡平野内でも遺跡差が大きいことが明らかになった点は重要である。今後、このような遺跡ごとの細かい搬入、模倣、折衷のあり方を分析し、詳細に比較していくことで、弥生文化成立期の地域間・遺跡間・集団間の関係のあり方により具体的に迫れるものと考えている。

当遺跡において出土した完形近く復元できる刻目突帯文甕の中で、屈曲型の二条突帯文甕が圧倒的割合を占めている。この点がかつて、藤尾慎一郎氏が板付Ⅰ式との共存期、福岡平野において刻目突帯文甕は屈曲型二条突帯文甕が主体を占めると指摘したことを補強する（藤尾1987、1991）。しかし、藤尾氏の論じるように砲弾型一条突帯文甕の代わりに板付Ⅰ式甕が広がり、屈曲型二条突帯文甕と板付Ⅰ式甕が補完関係をなすという事実は当遺跡では確認できない。屈曲型二条突帯文甕の増加と板付Ⅰ式甕の広がりは軌を一にするものではないと言えよう。いずれにせよ、福岡平野において夜白期から板付Ⅰ式期にかけて刻目突帯文甕の中で屈曲型二条突帯文甕が主体的になっていくという傾向は雀居遺跡や那珂遺跡などの様相と合わせても肯首できる。

壺と甕の出土様相を比較してみると、壺はSK488の段階ですでに板付系のもので出土しているが、板付系の甕は少ない。家根祥多氏は一連の研究の中で、朝鮮無文土器をセットとして受容したという点を強調し、縄文土器の器種のセットの中になく壺型土器のみを選択的に受容したとする下條信行氏（下條1989）や後藤直氏（後藤1991）らをはじめとするそれまで受け入れられてきた考えに批判を加えている（家根1987、1993、1997）。この家根氏の主張は、家根氏が朝鮮無文土器の一定の存在を指摘する糸島の曲り田遺跡や唐津の葉畑遺跡の出土土器についてはあてはまると言えよう。しかし、その周囲の地域を見ると、夜白期においては在地の系譜を引く刻目突帯文甕と無文土器の系譜を引く壺とがセットになっている遺跡がほとんどで、無文土器系の土器がセットとしては認められない。本稿で見えてきた下月限C遺跡の土器もそのような刻目突帯文甕と壺がセットになる状態を示し、周囲の板付・雀居・那珂遺跡でも無文土器系甕の出土はわずかであり、これに近い状況と言えるであろう。また、早くから壺が受容される佐賀平野の様相を見ても、壺は多く見られるが、無文土器系の甕はほとんど見られない。このような点から見ると、先に上げた選択的受容という側面も一概に否定できないのである。つまり、糸島・唐津地域にまず朝鮮系無文土器のセットが受容されるが、それがそのまま周囲に波及していくのではなく、壺・甕の波及には段階差があることが指摘できる。さらには板付Ⅰ式の壺と甕の広がる時期も必ずしも同時ではないと言えよう。また、このような段階差は一様ではなく、野多日遺跡のように無文土器系甕を夜白Ⅰ式期から一定量受容する遺跡が福岡平野内に存在するなど、かなり複雑な様相を示すようである。このような現象

の背景には甕と壺の使用される場の違いが想定され、必ずしも無文土器文化の総体がそのまま受容され広がっていたわけではないことがうかがえる。ここではその指摘に留め、具体的様相とその解釈については改めて詳細に論じたいと考えている。

まだ検討中の課題も多く、指摘にとどまる部分やまとまりのない部分も多くなってしまったが、今後それらの課題を深め、より具体的、包括的に論を組み立てていきたい。

本稿を書くにあたり、調査担当者の山崎龍雄氏には土器の実測から本稿を書くにあたるまで多くのご指導を受けた。福岡市での調査にあたり、福岡市教育委員会及び埋蔵文化財センターの荒牧宏之氏、池田祐司氏、加藤良彦氏、久住猛雄氏、菅波正人氏、瀧本正志氏、常松幹雄氏、山口譲治氏、山崎純男氏、横山邦雄氏、吉留秀敏氏、力武卓治氏、東京大学の後藤直先生にご指導・ご助言をいただき、資料の実見等で大変お世話になった。感謝いたします。本稿においてその成果の一部しかまとめることができなかったのは、筆者の努力・力量不足によるものであり、今後の課題としたい。

また、2004年の埋蔵文化財研究会においては多くの人に実際に土器を見ていただき、有意義なご助言を頂いた。一人一人御名を挙げきれないが、感謝の意を表したい。

#### 引用文献・主要参考文献

- 九州大学考古学研究室 1966 『北部九州（旧津市）先史集落遺跡の合同調査—昭和40年度「仏合同調査報告」』九州考古学 第29・30号 九州考古学会
- 藤巻直 1991 『弥生時代開始期の無文土器（二）日本への影響』小田富士雄・柳野三編『日韓交渉の考古学』六興出版
- 小林正史・北野博司・久保建二・小島俊彰 2000 『北部九州における縄文・弥生土器の野焼き方法の変化』『青丘学術論集 第17集』韓国文化研究懇話会
- 下藤信行 1989 『福島の国の成立—弥生農村の誕生—』古代史叢刊4 講談社
- 田嶋博之 1994 『夜白式土器から板付式土器へ』『半田裕二君追悼論集』半田裕二君追悼論集刊行会
- 田嶋博之 1998 『福岡地方における弥生時代の土地環境の利用と開発』『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会
- 川原恵三 2000 『四国における遠賀川式土器の成立』『突帯文と遠賀川』土器研究会論文集刊行会
- 土器研究会論文集刊行会 2000 『突帯文と遠賀川』
- 長友朋之・庄田慎久・斎 勇・久保建二・小林正史・松尾幸緒・中村大介・熊ヶ江賢二・渡辺誠 2004 『弥生時代における面白い野焼きの受容と展開—日本考古学協会2004年度発表要旨—』日本考古学協会
- 橋口建也 1985 『日本における稲作の開始と発展』『古輪曲り田遺跡 III』福岡県教育委員会
- 藤巻直 1987 『板付式土器の成立とその背景』『史叢』124 九州大学文学部
- 藤巻直 1991 『水稲農耕と突帯土器—日本における初期弥生文化の成立—』(横山浩 先生退官記念論文集)
- 藤巻直 1999 『福岡平野における弥生文化の成立過程—野焼き集民と農耕集民の集約関係—』甲立歴史民俗博物館報告 第77集 甲立歴史民俗博物館
- 埋蔵文化財研究会福岡大会実行委員会 2004 『埋蔵文化財研究会 板付式土器の再検討 発表要旨集』
- ひ谷和之 1995 『前期弥生土器出現』『古代』第99号
- 森貞次郎・岡崎敏 1961 『福岡県板付遺跡』『日本農耕文化の生成—日本考古学協会』
- 家根祥多 1984 『縄文土器から弥生土器へ—縄文から弥生へ—』『福岡考古学研究所』
- 家根祥多 1987 『弥生土器のはじまり—遠賀川式土器の系譜とその成立—』『季刊考古学』第19号 藤田園
- 家根祥多 1993 『遠賀川式土器の成立をめぐる—西日本における農耕社会の成立—』『福岡考古学』天山市
- 家根祥多 1997 『前期無文土器から弥生土器へ—』立命館大学考古学論集 I 立命館大学考古学論集編纂刊行会
- 山崎純男 1989 『弥生文化成立期における土器の編年の研究—藤山隆先生古希記念—』『古文化論叢』
- 山崎純男 1990 『福岡平野・早良平野における弥生時代前期の遺跡』『板付同遺跡調査報告』第20集 福岡市教育委員会
- 吉留秀敏 1994 『板付式土器成立期の土器編年』『古文化論叢』32
- ※ なお、紙数の都合により各遺跡の報告書については別愛した。

## 2. 調査のまとめ

月隈調節池の調査は平成10年から16年にかけての大規模な調査であったが、その全体の概括は今後委ねることとし、本報告書では、主に第6次調査で得られた成果を中心としたまとめとしたい。今回の調査で確認した遺構の時期は弥生時代前期から中世前期にかけてであり、調査はそれを四時期に分けて調査した。各時期の調査成果について述べる。

### ①第Ⅰ面のまとめ

第Ⅰ面は中世前期である。溝・建物・井戸・土坑などから構成される集落遺構であるが、調査の経緯から十分な調査は出来なかったため、遺構の全容については十分に把握出来たわけではない。古代の埋没した水田や川跡上に形成された集落である。井戸や溝、土坑など遺構の時期は11～12世紀のものが主体で、集落の継続期間はそれ程長くはない。集落の開始は井戸SE311が10世紀と先行する時期であり、第Ⅱ面の川や水田の埋没時期が9世紀頃と思われるので、その頃一度か数度かは分からないが、地形が変わるほどの洪水を受けて水田や川が埋没した後、当地が微高地化して水田として再利用されることなく、其処に集落が営まれていたことが考えられる。この時期の水田は東側の第7次・8次調査区で確認されているので、第6次調査区が自然堤防状に微高地化した結果、東側が低地化し、水田が営まれたものと思われる。地形が改変するほどの洪水が何時頃起きたのであろうか。残された数少ない古代の風水害記録を見ても（Tab.5）。中央部の京を主体とした記録なので、地方についての記録は少ない。風水害記録は9世紀34回、10世紀35回、11世紀18回残っているもので、9世紀・10世紀にかなりの洪水があったことが考えられる。九州についての記述は少なく9世紀天安2（858）年の『日本文徳天皇実録』の記録、貞観11（869）年の『三代実録』の記録と2回記録されているのみであるが、この2回の記録は中央の記録に残る程なので、かなり大規模な災害であったと思われる。全国的にみても九州は夏場の梅雨や台風で大雨が降る多雨地域であり、実際にはもっと多かったと思われる。度々洪水に見舞われていたのであろう。古代の周辺の歴史的状況を見ると、御笠川上流部では7世紀前半から始まる大宰府の造営や、大野城・水城の築造、大野城市牛頭地区での大規模な窯の操業など、平地部・山地部を問わず大規模な開発工事や生産活動によって自然破壊を行っており、その結果周辺山地部は森林が伐開され、自然破壊が進みかなり荒れていたと思われる。上流部で降った大雨は大洪水を引き起こし、それによって下流低地部に甚大な洪水被害をもたらしたことが推察される。最近の事例では平成11年と15年の梅雨時に起きた福岡大水害がその例であろう。

福岡市周辺の沖積地で検出された主要な中世前期村落遺跡は粕屋町の戸原麦尾遺跡や、早良区の田村遺跡、次郎丸遺跡、東区の多々良遺跡などがある。特に戸原麦尾遺跡や田村遺跡の開始時期が当遺跡と近く、戸原麦尾遺跡は菅崎宮の荘園、田村遺跡は能介荘と関係があり、席田郡にも席田荘があったことから、それに関わる集落と推定する。

### ②第Ⅱ面のまとめ

古代8～9世紀の条里水田とそれを切る河川流路跡と護岸遺構を検出した。河川流路跡については空中写真を見ると何条かの流路跡が認められ、度々洪水によって流路が変更していたことが読み取れる。条里水田は日野氏の席田地区の条里復元図にほぼ一致する（Fig.179）。しかも十字の交差する大畦による坪境が検出されたことが大きな成果である。坪内の地割方法（半折型か長地型）は内部の水田地割がかなり崩れていたことから不明確であったが、東側の第7次・8次調査区でも水田が確認されていることから、調査区内での地割の検討は今後の課題としたい。川跡内で検出された護



〔日野尚志氏作成桑里圖〕を転載

Fig.179 席田郡桑里・官道復元図

Tab.5 古代風水青年表

世紀	西暦年	年号	大 雨 災 害	
7世紀	601	推古9	5月より大雨河水氾濫宮廷に潰つ(日本書紀)	
	623	推古31	春より秋に亘るまで霖雨大水・五穀不登(日本書紀)	
	636	舎乎明8	5月霖雨大風(日本書紀)	
	652	白雉3	4月20日大雨9日洪水損壊宅屋(日本書紀)7月難波周辺大洪水	
	666	天智5	秋7月大水(日本書紀)	
	679	天武8	8月5日自是日雨三日、大水(日本書紀)	
	691	持統5	4~6月大和・近國霖雨	
	692	持統6	讃國大水、軍費遭災害(日本書紀)	
	8世紀	707	慶雲4	3月21日以來畿内霖雨(日本史小百科)
		709	和銅2	4月河内、摂津、山城、伊豆、甲斐諸國霖雨、苗を損ず
717		養老1	8月16日伊勢洪水(新日本紀)	
726		神龜3	12月24日遠江五郡水害	
728		神龜5	5月6日左右京水害、百姓被損七百餘烟(新日本紀)	
742		天平14	5月3日畿内水害、是日遭使檢校百姓產業(新日本紀)	
750		天平勝宝2	5月25日大和・河内霖雨洪水(新日本紀)	
754		天平勝宝6	8月9日畿内及陸奥一十風水、産業損傷(順天國史)	
769		神慶雲3	8月9日風強大雨(新日本紀)	
770		宝龜1	6月14日美濃國霖雨(新日本紀)	
772		宝龜3	8月霖雨洪水、河内溢決(新日本紀)	
775		宝龜6	8月22日岐阜・愛知・三重で暴風雨(新日本紀) 11月7日九州風雨(新日本紀)	
779		宝龜10	4月19日暴風雨 6月29日因幡暴風雨洪水 7月14日豊前國で霖雨(新日本紀・日本紀略)	
784		延暦3	9月5日京師及河内大雨水	
785		延暦4	9月10日河内洪水(新日本紀)	
796		延暦15	5月12日京都大雨洪水 8月6日大和霖雨、筑後水害(日本後紀)	
799		延暦18	4月9日山城河内大水湧(日本後紀) 11月淡路風水、京師及陸奥大飢饉(日本後紀)	
9世紀		804	延暦23	8月10日京都陸奥大暴風雨(日本後紀)
		806	大同1	畿内及播磨霖雨洪水、損害多(日本後紀)
		813	弘仁4	6月石見・安芸兩國大水(順天國史) 5~6月霖雨諸國洪水、多被其害(日本後紀)
	828	天長5	5月23日京都大雨、山崩水溢、櫻根人害(日本紀略・大日本史) 6月23日京都大雨、山崩水溢(大日本史)	
	832	天長9	8月20日河内摂津大風雨洪水、堤防決壊(日本紀略・大日本史)	
	834	承和1	7月12日京都洪水乳溢(新日本後紀)	
	841	承和8	9月朔日京都大雨洪水、…(新日本後紀) 出羽飢饉(新日本後紀)	
	848	嘉祥1	8月5日京畿大洪水(新日本紀)	
	850	嘉祥3	5月11日京中大雨洪水(文德実録) 7月24日京都大雨洪水(文德実録)	
	851	任寿1	5月8日京畿大雨洪水(三大実録)	
	854	齊実1	7月27日京都大雨洪水(文德実録)	
	858	天安2	5月11日大暴風雨いたり、九國二島(西海道11ヶ國)尽く損害を受けた(日本文德天皇実録) 5月14日京都陸奥洪水(文德実録) 5月22日京都大雨洪水氾濫…(文德実録) 秋加賀洪水、武藏水湧	
	859	貞観1	9月8日京都大風雨	
	860	貞観2	9月14日京都大風洪水(三大実録) 9月15日風雨未止、郡城東西四河洪水(三大実録)	
	861	貞観3	7月11日京都大風雨(三大実録)	
	862	貞観4	4月2日京都大雨、河川溢溢、行路難通(三大実録)	
	867	貞観9	5月4日京都大雨洪水、往還難通(三大実録)	
	869	貞観11	7月14日肥後國大風雨	
	870	貞観12	夏河内洪水、堤防決壊(三大実録)	
	871	貞観13	閏6月7日京都大雨洪水…(三大実録)	
	872	貞観14	秋大和因幡風雨洪水、(三大実録)	
	873	貞観15	8月13日伊勢大風洪水(魚鱗年序)	
	874	貞観16	8月24日京都大風雨、樹倒苑屋…(三大実録)	
	883	天慶7	9月7日京西京風水害、尤甚者、…(三大実録)	
	886	仁和2	3月27日大風雨水、嵐給東西飢民(三大実録) 5月10日京都自七日大雨(三大実録)	
	887	仁和3	8月7日自去四日霖雨、(三大実録)	
	897	寛平9	8月20日大風雨、鴨水害河汎溢、人馬不通(三大実録) 6月乃至7月京都霖雨洪水、両京飢死多(扶桑略記・大日本史・本朝年代記)	
	10世紀	907	延喜7	京都洪水、人多死(本朝年代記)
909		延喜9	5月19日洪水(日本紀略)。(大日本史) 6月5日大雨沙匂不止、京師垣塙皆倒(扶桑略記)	
910		延喜10	6月京都洪水(皇年代略記)	
914		延喜14	6月京都洪水人多く死す(本朝年代記)	

世紀	西暦年	年号	大 雨 災 害
	916	延喜16	5月21日京都大風雨、鴨川洪水(本朝年代記)
	918	延喜18	8月17日京都洪水、淀川大嵐、…(日本紀略)
	928	延長6	大和長谷川漲、民家多壞(扶桑略記)(大日本史)
	929	延長7	7月26日京都及陸奥大風雨洪水(大日本史) 8月15日京都雨水、惣殿棟、人多溺死(扶桑略記)
	938	天慶1	5月26日京都大雨、河邊(日本紀略・大日本史) 6月20日鴨河、民屋多壞(日本紀略・大日本史)
	940	天慶3	この秋風水年豊登らず、入鹿大嵐(扶桑略記)
	944	天慶7	9月11日大雨河漲(日本紀略)
	945	天慶8	7月27日大風雨洪水(大日本史)
	948	天曆2	この夏旱、秋風水、諸國災損多し
	961	応和1	5月29日京師洪水、鴨河決堤(日本紀略)
	962	応和2	5月29日鴨河洪水 8月30日大雨によって大和・近江領内の社寺多く破壊する
	963	応和3	8月19日京師洪水、民舍漂没(日本紀略)
	966	康保3	閏8月9日京都洪水
	968	安和1	5月20日洪水、26日河漲(日本紀略)
	969	安和2	7月22日大風雨(日本紀略)
	979	天元2	6月8日大雨河漲(日本紀略)
	980	天元3	7月16日大雨洪水京西京屋舎解潰す(日本紀略) 8月朔又洪水(日本紀略)
	988	永延2	8月13日京都及陸奥大風洪水(日本紀略・扶桑略記・大日本史)
	991	正暦2	8月28日大風洪水(日本紀略)(外記日記)
	992	正暦3	5月26日京西京洪水(日本紀略) 6月1日洪水(日本紀略) 6月2日大雨洪水(日本紀略)
	998	長徳4	延暦京都大水(分暦本朝年代記)
	1000	長保2	8月16日大水、鴨河漲、…(禮記)
11世紀	1003	長保1	6~7月洪水風塵(山鏡記)(大日本史) 京都大水(日本紀略・扶桑略記)
	1010	寛弘7	7月6日大雨洪水(日本紀略)
	1011	寛弘8	10月24日京都大風洪水(本朝年代記)
	1017	寛仁1	7月霖雨京師洪水悲田院病者三百余人漂没す(佐藤記)
	1020	寛仁4	7月22日京都大雨宮殿多く倒れる(大日本史)
	1022	治安2	この歳離中國霖雨大風す、人民多餓死(空川寺年代記)
	1027	万寿4	5月24日京都風雨洪水(日本紀略)
	1028	長元1	9月2日京都及諸國大風雨洪水、屋舎多倒(大日本史・日本紀略)
	1030	長元3	8月京都洪水(分暦本朝年代記)
	1033	長元6	正月乃至7月京都數雨、田畦多損(左藤記・大日本史)
	1034	長元7	8月9日京都大風洪水、社寺民屋倒れ人畜流失
	1046	永承1	5月27日京都龍水龍河院不運(扶桑略記)
	1059	康平2	7月12日京都大風洪水官舎民屋皆倒る(日本紀略)
	1069	延久1	9月7日京都大風雨
	1078	承暦2	5月5日京都大雨洪水
	1079	承暦3	6月27日洪水伊勢外院を覆す(扶桑略記)
	1080	承暦4	6月19日洪水(扶桑略記)
	1097	承暦1	8月4日京都及諸國洪水、大山崩太(分暦本朝年代記)
12世紀	1110	天永1	6~7月洪水風塵(山鏡記) 是歲夏秋之交洪水風塵
	1118	元永1	夏霖雨河水氾溢人多く溺死す(百鍊鈔) 6月霖雨河水泛溢、人多溺死(大日本史)
	1127	大治2	5月4日大雨霖雨河水氾溢(中右記) 7月19日大風雨河漲(中右記)
	1128	大治3	8月大風雨(百鍊鈔)
	1129	大治4	潤7月霖雨河水氾溢(中右記)
	1130	大治5	霖雨洪水、九月十二日京都大風樹を抜き屋を覆く(百鍊鈔)
	1133	長承2	この歳得夏旱し、秋霖雨洪水す(日本沿革史考)
	1134	長承3	是歲大水風塵(分暦本朝年代記)
	1139	保延5	今年、天下大水、京中飢亡、疾瘧大風塵(帝王通年記)
	1143	康治2	7月京都洪水(和漢合符)
	1145	久安1	5月5日大水(百鍊鈔)
	1146	久安2	6月2日洪水(台記)
	1146	久安2	5月12日京都大水(興福寺年代記)
	1150	久安5	2月晦日大雨賀茂川泛溢(台記) この歳風水、諸國飢荒す(本朝世紀)
	1151	仁平1	7月京都大水大風(百鍊鈔)
	1153	仁平3	9月23日京師大風雨樹を折り瓦を飛ばす(台記)
	1160	永暦1	6月22日洪水壇日吉二宮十輝御神殿(百鍊鈔)
	1172	承安2	5月20日長雨で洪水、六波羅の人家が壊失する(年表日本歴史)
	1175	安元1	6月7日長雨で諸國に被害甚大(年表日本歴史)
	1185	文治1	秋より冬諸國風雨洪水穀稼不登飢饉(大日本史)(源平盛衰記)
	1188	文治4	8月5日鎌倉雷雨、洪水(年表日本歴史)



世紀	西暦年	年号	大雨災害
	1190	建久1	7月17日暴風大雨、自噴更珠太、終日不止、實茂川、桂川、各以洪水、近年少比曇云々(玉葉) 諸国稼穡不登(東鑑・大日本史)
	1191	建久2	8月26日京都洪水(如是院年代記)
13世紀	1201	建仁1	8月11日京都及畿内大雨洪水、屋舎流蕩、人民先焼(分類本朝年代記)
	1214	建保2	8月7日京都洪水、鎌倉亦洪水、新御堂倒(分類本朝年代記)
	1216	建保4	8月28日諸国大風洪水、戦得損傷、人畜殞死(興福寺略年代記)
	1228	安貞2	7月20日京都大風雨洪水(百鍊抄・大日本史・皇極記抄)
	1230	寛喜2	8月6日關東大水、人多死(東鑑・大日本史) 是歲天下飢饉、人民餓死無算(年代記抄類)
	1242	仁治3	6月3日京都大雨洪水(皇年代略記) 6月17日~18日京都大雨洪水(皇年代略記)
	1244	寛元2	11月3日鎌倉洪水(東鑑)
	1256	康元1	8月6日鎌倉大風水、山崩人死(東鑑・大日本史)
	1258	正嘉2	8月2日京都洪水、人多死(分類本朝年代記)
	1260	文応1	6月朔日鎌倉大風雨、山崩人死(東鑑・大日本史)
1280	弘安3	5月16日長谷水暴漲、居民漂溺(一代要記・東鑑・大日本史)	
1286	弘安9	6月京都大雨風水(一代要記・大日本史)	
1287	弘安10	5月京都大雨風水(一代要記・大日本史)	

※以上は三浦幸一郎著「日本の災害史第一巻」(1987)と小堀島肇著「日本災異志」(思文閣 1973復刻版)を基に筆者が作成。

岸状遺構は長さ100mを超える大規模なものである。これを構築するにはかなりの労働力を必要としたであろう。杭内出土した須恵器などが、9世紀前半頃のものであることからそれ以前に構築されたものと考えられる。場所場所で築造法が異なるところもあるので、洪水に見舞われ破損する度に、改修されたものと思われる。使用杭材を見ると広葉樹が多く、樹種も雑多で周辺で容易に入手出来たものである。川跡内では塚跡も検出されているので、ある時期の流路では周辺水田に水を取り入れていたのであろう。また護岸遺構を中心に人形や斎巾などの木製祭祀具が出土しており、北側第7次調査区での遺構の続き部分でも同様の遺物が出土している。律令期での地方での木製祭祀具による水辺での戴い祭祀を考える上で、興味深い事例と考える。

### ③ 第Ⅲ面のまとめ

第Ⅲ面は古墳時代後期から古代前半期の時期の水田跡を検出した。この面で検出した高所部の水田SS410・424間の南北方向に延びる畔と溝は第Ⅱ面で検出された席田部の条里地割方向に近いものである。条里制は古代の班田制を支える土地管理システムであり、その起源は一般的には大化の改新(645年)頃とされるが明確でなく、福岡地区での始まりも不明である。当地周辺の地割は太宰府の水城大堤を基準とするものであり、水城は天智天皇三年(665)に築造されたことから、古くてもその時期を遡らないといわれている。SD396から8世紀前半の須恵器坏54が出土していることや、水田SS410・424などの埴砂から7世紀後半から8世紀前半の須恵器が出土しており、上限時期が想定できる。席田部の条里制地割の開始時期を考える上で一つの手がかりとなろう。第Ⅲ面検出時に中間層で上面に近い畔を取る水田が確認されており、水田面が複数あった可能性がある。しかし南側低地で検出された水田SS192や200は条里地割に沿わず、むしろ地形に規制された形態であるので、継続時期に時期差が考えられる。この水田面は東側をSD190で切られているので、量はそれ程多くはないがSD190が6世紀末頃までの須恵器、SX389が7世紀までの須恵器を含むので、特に下層水田はそれ以前となろう。第Ⅳ面は新しくても5世紀初め以前であり、水田の開始はそれ以後となる。

SX389は堰の可能性もあるが、SD190の水流を確定するための築造された護岸堤防と考えられる。同様の遺構は第Ⅱ面でも検出されたが、洪水が恒常的に、流路の変更が絶えなかった当時においては、水の管理が大切なことだったのであろう。杭中に7世紀後半の須恵器が少量ではあるが出土しており、構築時期に近いものか。

### ④ 第Ⅳ面のまとめ

この面は東側の微高地で検出した集落である。西側低地部では薄く粗砂が堆積し、僅かに畔状

に高まりを持ち、粗砂が入った小溝などもあり、水田があった可能性がある。

集落の時期は弥生時代前期初頭から古墳時代前期前半までの期間である。大きくI期、弥生時代前期初頭から前半まで、II期、中期から古墳時代前期までの二期間に分かれる。I期は突帯文土器の夜白IIbから板付I式併行期の時期が主体で、遺構としては土坑と溝がある。主な遺構としてはSD482・493・507、SK460・462・463・468・488・491・495・500・548・555、SX528などである。溝と土坑が主体で、土坑は廃棄土坑や貯蔵穴SK517などがある。明確な住居跡や建物は確認出来ず、後世の削平で消滅した可能性がある。またこの時期の土器については前節で詳しく論考を加えているので、それを参照にされたい。実年代としてはSK460・488・517について埋土内から出土した炭化物でAMS法とGPC法による放射性炭素年代測定を実施している。その結果によれば年代のピークはSK460・488がBC6-7世紀、SK517がBC7-8世紀にある。

II期は後期後半から古墳時代前期前半が中心となる。この期間の遺構としては竪立柱建物、竪穴住居跡、方形周溝状遺構SD505、溝、土坑、多数の柱穴である。

竪穴住居跡は4棟以上検出した、いずれも平面長方形・方形の住居である。これ以外にも各所で炉跡と思われる焼土面が確認されていたので、確認出来なかった住居があったと思われる。時期としては弥生時代後期から終末期である。SC504は弥生時代後期、SC522は弥生時代後期終末であろうか。竪立柱建物は20棟であるが、建物としてはまとまらなかったが、柱根が残る柱穴がまだ複数あったので、実際にはこれより多くの建物が存在した可能性がある。建物規模は1×2間のものが15棟と多い。1×2間建物は高床倉庫と思われ、沖積地の軟弱地盤で荷重による不同沈下を防ぐための工法として、雀居遺跡や佐賀平野での例のように基礎に礎板を置いていたと思われる。柱穴と礎板の樹種は同一の場合が多く、恐らく同じ原木から作られたものと思われる。資源の有効利用の結果であろう。台地部では腐蝕して残らないが、柱穴底面に礎板を置いて沈下を防ぐ技法は一般的なのであろう。建物の時期は弥生時代中期から終末期にかけてであろう。

方形周溝状遺構は当初墳墓の可能性を考えたが、明確な主体部は確認出来なかった。周溝内から完形のまとまった土器類や2点の鉄斧、ガラス玉が出土している。同種遺構は市内では比恵遺跡第2次調査、蒲田水ヶ元遺跡第Ⅲ地点、有田遺跡群第116調査などでも検出されている。この種の周溝状遺構については片岡宏二氏によって注目され集積されている。氏はこの遺構の性格について1.墓・墳墓、2.住居施設、3.祭祀遺構説に集約して検討している。本遺構は集落の中心にあり、格別な祭祀遺物はないが、完形が多く場所的にまとまって出土しているので、祭祀遺構的な性格である可能性がある。時期としては弥生時代後期後半頃である。SC522・532はこの遺構に主軸を揃える。溝はSD369と388があるが、SD369はこの面では下限の時期で古墳時代中期初め頃である。SD388は弥生時代後期後半から古墳時代前期前半までの時期で、多量の土器が廃棄されていた。集落に伴うものであろう。

限られた期間内、また低温地での調査に余り経験なかったので、十分な調査が行えなかったのが残念であるが、調査で得られた成果は多い。沖積地は一般に遺構・遺物の保存状況が良いので、市内での沖積地調査については今後も充分注意が必要であると考え。調査・整理にあたっては多くの方々へ協力と指導・助言を蒙った、末尾ではあるが感謝の意を表します。

#### 参考文献

- 註1 「比恵遺跡-第36次調査・遺構編」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第94集』1983年  
 註2 「蒲田・水ヶ元遺跡」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第91集』1986年  
 註3 片岡宏二「周溝状遺構」の検討(その1~4)『福岡考古』第14~17号 1989-91・94-96年

## 付表 遺物観察表

本表は第Ⅰ面からⅣ面の土器・石器・木器についての観察表である。本表の作成は担当者の他、上方高弘、木藤直子、澤玲子、所一男が主にあたった。

### 凡 例

1. 本表の遺物番号は、遺構面毎の土器・石器・木器についてのそれぞれ通し番号であり、実測図番号・写真番号と共通である。
2. 器種の突帯文土器は夜白式土器を指す。
3. 法量の口径については口縁部の頂部で計測している。
4. 色調については外面部分のみとし、内面などに特色があるものはそれについても記した。色調は客観性を保つため標準土色帖によっている。

Tab.1-1 I 面出土木器・土製品類表

品目 番号	Fig.	品名	土器	土器	容量 (cc) 出仕寸法				調製	胎土	外装色調	焼成	積存状況
					口径	高さ	底径	高さ					
1	8	S0206	土器-小皿	土器-小皿	(12.8)			3.8	打、巻上げ部、取部打	黒土	7.5YR7/2黄褐色	普通	底面2/3積存
2	8	S0210	土器-小皿	土器-小皿	(7.2)			4.0	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/1灰白色	普通	1/3積存
3	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	9.5			6.0	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	良好	底面1/2積存
4	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿				6.5	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	底面1/2積存
5	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	(15.0)			2.8	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
6	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	(14.0)			2.8	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	1/3積存
7	8	87 S0216	土器-小皿	土器-小皿	(14.0)			2.8	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	口縁部1/3積存
8	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	15.0			3.4	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	口縁部1/3積存
9	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	(15.4)			(11.0)	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	口縁部1/3積存
10	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	(17.0)			(3.0)	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	口縁部1/3積存
11	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿					打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	口縁部1/3積存
12	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	(15.0)			(5.0)	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	1/3積存
13	8	S0216	土器-小皿	土器-小皿	(15.7)			6.2	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	底面1/3積存
14	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿					打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	底面1/3積存
15	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿	(9.7)			7.4	打、外底面中央部打	黒土	6.7.5YR7/2灰白色	普通	3/4積存
16	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(9.8)			7.6	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	2/3積存
17	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(9.7)			1.3	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	良好	1/4積存
18	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿	(9.8)			7.3	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	良好	1/3積存
19	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿	10.0			7	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	2/3積存
20	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(10.0)			(6.4-8.4)	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	1/4積存
21	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(9.8)			(1.80)	打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	普通	底面1/3積存
22	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿	(9.8)			6.1-7.7	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	2/3積存
23	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(15.3)				打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	1/3積存
24	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿	15.0			3.7	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	1/3積存
25	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(15.7)			(4.0)	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	口縁部1/3積存
26	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿	(15.4)			(4.1)	打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	普通	1/3積存
27	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(13.8)			(3.8)	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
28	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(14.1)				打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
29	8	87 S0222	土器-小皿	土器-小皿				高合(7.0)	打、外底面中央部打	黒土	5YR7/2黄褐色	やや不具	底面1/3積存
30	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(15.0)			(3.5)	打、外底面中央部打	黒土	5YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
31	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(15.0)			(3.7)	打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	口縁部1/3積存
32	8	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(15.5)				打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	口縁部1/3積存
33	8	S0230	土器-小皿	土器-小皿	(15.0)				打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	良好	1/3積存
34	8	S0232	土器-小皿	土器-小皿	(14.0)				打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	口縁部1/3積存
35	8	S0232	土器-小皿	土器-小皿	(15.1)			(6.3)	打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	普通	1/3積存
36	10	S0222	土器-小皿	土器-小皿	(14.0)				打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	普通	口縁部1/4積存
37	10	87 S0232	土器-小皿	土器-小皿	(15.2)			(7.2)	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
38	10	87 S0232	土器-小皿	土器-小皿	(15.5)			7.8	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
39	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿	(14.2)			7.0	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
40	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿	(14.0)			(6.1)	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	口縁部1/4積存
41	10	87 S0232	土器-小皿	土器-小皿	(15.4)			6.8	打、外底面中央部打	黒土	5G7/1黄褐色	普通	1/3積存
42	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿	(14.2)				打、外底面中央部打	黒土	5G7/1黄褐色	普通	口縁部1/4積存
43	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿				(6.2)	打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	普通	底面1/3積存
44	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿				(6.5)	打、外底面中央部打	黒土	7G7/2黄褐色	普通	底面1/3積存
45	10	87 S0232	土器-小皿	土器-小皿	(14.0)			7.26	打、外底面中央部打	黒土	5YR7/2黄褐色	普通	1/3積存
46	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿	(14.0)				打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	口縁部1/4積存
47	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿	(15.2)				打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	普通	口縁部1/3積存
48	10	S0232	土器-小皿	土器-小皿				(7.4)	打、外底面中央部打	黒土	5YR7/2黄褐色	普通	底面1/3積存
49	10	S0236	土器-小皿	土器-小皿				(7.4)	打、外底面中央部打	黒土	5G7/1黄褐色	普通	1/3積存
50	10	S0244	土器-小皿	土器-小皿				(7.4)	打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	良好	底面1/3積存
51	14	8E304	土器-小皿	土器-小皿				(8.4)	打、外底面中央部打	黒土	5YR7/2黄褐色	やや不具	底面1/3積存
52	14	8E304	土器-小皿	土器-小皿				(8.0)	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	やや不具	底面1/3積存
53	14	8E306	土器-小皿	土器-小皿				(7.8)	打、外底面中央部打	黒土	10YR7/2黄褐色	普通	底面1/3積存
54	14	8E306	土器-小皿	土器-小皿					打、外底面中央部打	黒土	5YR7/2黄褐色	良好	底面1/3積存
55	14	8E308	土器-小皿	土器-小皿					打、外底面中央部打	黒土	2.5YR7/2灰白色	良好	口縁部1/3積存
56	14	8E311	土器-小皿	土器-小皿	(15.0)			5.5	打、外底面中央部打	黒土	7.5YR7/2灰白色	良好	口縁部1/3積存

個体番号	Fig	PL	山土産種	出土位置	群群-番号	産出 山土産種				産物	産土	外産産物	焼成	検出状況
						口徑	厚さ	重量	厚さ					
87	14	88311	黒色土層-B	瓦			6.7		内面磨削、縁部磨削、口縁部磨削	瓦	10YR11/1-7産色	普通	底層片、瓦	
88	14	88315	土層-B	小皿	(9.4)			(0.4)	内外面磨削、口縁部磨削、口縁部磨削	瓦	2.5Y8/2産色	普通	14焼成	
89	14	88315	土層-B	小皿	(9.4)			(1.4)	口縁部磨削、内面磨削、外縁部磨削	瓦	10YR10/2産色	普通	14焼成	
90	14	88315	土層-B	小皿	(9.4)		(7.4)	1.4	内面、底面磨削、口縁部磨削	瓦	2.5Y8/2産色	良好	14焼成	
91	14	88315	土層-B	平	(10.0)			0.5	内面丁字状、外縁部磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	2.5Y8/2産色	普通	底層片	
92	14	88315	土層-B	平	(14.8)				内外面磨削	瓦	10YR7/2産色、黄褐色	普通	口縁部14焼成	
93	14	88318	土層-B	椀			(6.4)		底面磨削、口縁部磨削	磁器少量含む	2.5Y8/2産色	普通	底層14焼成	
94	14	88315	土層-B	平			6.3		内外面磨削	瓦	2.5Y7/2産色	普通	底層破片	
95	14	87	88318	井筒裏	土層-B	椀		(8.2)	内面丁字、高台付	瓦	2.5Y8/2産色	普通	底層破片	
96	14	88318	上層	黒色土層-A	椀		(6.4)		内外面丁字、高台付	瓦	2.5Y7/2産色、上層黒化	普通	底層14焼成	
97	14	88318	井筒上層	粉砕層-遺					内面磨削、口縁部磨削、口縁部磨削	磁器少量含む	8Y4/1産色	良好	外に磨削小片、高台時代	
98	14	88318	井筒上層	粉砕層-遺			(26.4)		内面磨削、口縁部磨削、口縁部磨削	磁器少量含む	8Y4/1産色	良好	底層14焼成、高台時代	
99	14	88320	土層-B	小皿		9.3		1.7	口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	2.5Y8/2産色	普通	底層片	
100	14	88320	土層-B	小皿	(14.8)				内面丁字、口縁部磨削	磁器少量含む	2.5Y9/1産色	普通	口縁部14焼成	
71	14	88320	土層-B	小皿				高さ(7.0)	口縁部磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	2.5Y7/2産色	普通	底層14焼成	
72	14	88320	瓦器-小皿		(10.1)				内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦、灰白色	10Y4/1産色、内縁部磨削	良好	14焼成	
73	14	88320	白磁-皿						内面磨削、口縁部磨削	瓦、灰白色	8Y7/2産色	良好	14焼成	
74	14	88320	白磁-椀	(16.8)					内面磨削、内面磨削、外縁部磨削	瓦、灰白色	7.5Y8/2産色	良好	口縁部14焼成	
75	14	87	88320	白磁-椀					内面磨削、内面磨削、外縁部磨削	瓦、灰白色	7.5Y4/1産色	良好	底層14焼成	
76	14	87	88320	白磁-椀					内面磨削、口縁部磨削	磁器少量含む	7.5Y4/2産色、赤褐色	普通	14焼成、高台時代	
77	17	88334	土層-B	小皿	8.8			1.1	口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	2.5Y8/2産色	普通	34焼成	
78	17	88334	土層-B	平	(14.5)				口縁部磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	2.5Y8/2産色	普通	口縁部14焼成	
79	17	88334	井筒内	土層-B	平	(15.5)		3.4	内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	10YR10/2産色	普通	14焼成	
80	17	88334	土層-B	小皿		高さ(6.1)			内外面磨削、口縁部磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	10Y4.5/1産色	中々不良	底層14焼成	
81	17	88334	土層-B	小皿	18.7		6.4	5.3	内外面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	内10Y3/1-4/1産色	普通	口縁部	
82	17	88334	土層-B	小皿			(8.4)		内面、高台付、高台付	磁器少量含む	内10Y3/1-4/1産色	普通	底層14焼成	
83	17	88334	瓦器-椀	18.7		7.0	4.9-4.4		内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	7.5Y7/2産色	良好	底層片	
84	17	88334	瓦器-椀	18.7		6.9	5.3		内外面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	10Y3/1-7/1産色	良好	底層片	
85	17	88334	瓦器-椀	(14.0)					口縁部磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	10Y9/1産色	中々不良	口縁部14焼成	
86	17	88334	井筒内	瓦器-椀	15.8		6.4	5.3	内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	8Y6/2産色	良好	口縁部14焼成	
87	17	88334	白磁-皿	(10.2)		(3.8)	(2.8)		内面磨削、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦、灰白色	2.5Y9/1産色	良好	14焼成	
88	17	88334	白磁-椀	(10.7-8.8)					内面磨削、口縁部磨削	瓦、灰白色	2.5Y9/1産色	良好	底層破片	
89	21	88302	土層-A	小皿			(6.0)		内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	8Y6/2産色	普通	底層14焼成	
90	21	88314	土層-B	小皿	(8.1)		(7.4)	1.3	内外面磨削、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	10YR8/2産色	普通	14焼成	
91	21	88314	土層-B	皿	(18.2)		(19.0)	1.4	内外面磨削、外縁部磨削	瓦	7.5Y7/2産色	普通	14焼成	
92	21	88314	土層-B	平	(14.8)			(2.4)	内外面磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	2.5Y9/1産色	普通	14焼成	
93	21	88314	土層-B	平	(14.8)		(11.4)	3.1	内外面磨削、内面磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	10YR7/2産色	良好	14焼成、内面14焼成	
94	21	88314	土層-B	平	(14.4)			(3.8)	内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	10YR8/2産色	良好	口縁部14焼成	
95	21	88314	土層-B	平	(15.8)			3.7	内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	10YR7/2産色	良好	14焼成	
96	21	88314	土層-B	平				(3.8)	内外面磨削、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	2.5Y7/2産色	良好	口縁部14焼成	
97	21	88314	土層-B	椀	(17.4)				内外面磨削、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	2.5Y7/2産色	良好	口縁部14焼成	
98	21	88314	土層-B	椀	(15.4)		7.6	5.6	内外面磨削、高台付	瓦	10YR10/2産色	普通	底層と口縁部	
99	21	88314	土層-B	椀		(6.4)			内面丁字、高台付	瓦	2.5Y8/2産色	普通	高さ14焼成	
100	21	88319	黒文土層-B						内面丁字、高台付	磁器少量含む	8Y6/2産色	中々不良	口縁部破片	
101	21	88328	土層-B	小皿	(8.4)		(7.4)	1.1	内面磨削、口縁部磨削	瓦	2.5Y8/2産色	普通	14焼成	
102	21	88301	土層-B	小皿	(9.4)		(7.7)	(1.4)	内面磨削、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	2.5Y8/2産色	普通	14焼成	
103	21	88301	土層-B	小皿	(10.8)		(6.2)	1.3	内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	10YR10/2産色	良好	14焼成	
104	21	88302	土層-B	小皿	8.8-10.0			1.4	内面丁字、口縁部磨削、外縁部磨削	磁器少量含む	10YR7/2産色	良好	底層片	
105	21	88301	土層-B	小皿			7.8		内外面磨削、口縁部磨削、外縁部磨削	瓦	10Y4/1産色	10Y3/1-7/1産色	良好	底層片
106	21	88338	瓦器(土層内)	9.5-7.5					口縁部磨削、外縁部磨削	瓦、黄褐色	10Y3/1-7/1産色	普通	土層と黒文土層	

部品番号 名称	Fig.	PL	仕上通称	仕上仕様	部材・形状	寸法 (mm) 公差				調度	鋼土	外装色	焼成	検査状況
						口径	厚さ	長さ	高さ					
107	21		SK308		五式土製内筒	φ7.2				裏面打付文字	鋼土	10Y912黄褐色	良好	両側
108	21		SK308		砲丸土製内筒			(R.8)		高打付「YF」裏に「11」打付文字	鋼土	7.5Y912黄褐色	普通	裏面1/2鏡検
109	23		SK17	上蓋	土製部-小皿	(R.2)	3.4	0.9		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	普通	1面鏡検
110	23		SK17	上蓋	土製部-小皿	(R.8)	(R.8)	1.1		外底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	普通	1面鏡検
111	25		SK009	土製部	土製部-小皿	(R.2)	(7.4)	1.1		外底面打付、内底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	普通	1面鏡検
112	23		SK17	土製部	土製部-小皿	(R.2)	6.9	7.0	0.7	内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	7.5Y912黄褐色	良好	3面鏡検
113	25	69	SK17	土製部	土製部-小皿	9.5	7.9	1.0		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	3面鏡検
114	23		SK17	下蓋	土製部-小皿	(R.5)		1.0		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	2面鏡検
115	25		SK17	土製部	土製部-小皿	(R.8)	(R.4)	1.4		口縁部打付、内底面打付、外底面打付	鋼土	7.5Y912黄褐色	良好	1面鏡検
116	23	69	SK17	土製部	土製部-小皿	9.9	7.9	1.25		打付で裏面に「5」裏面に「6」	鋼土	2.5Y912灰白色	普通	裏面1/2鏡検
117	23	69	SK17	土製部	土製部-小皿	9.5	6.0	1.25		外底面打付、外底面打付、裏面に「5」	鋼土	2.5Y912灰白色	普通	1面鏡検
118	23		SK17	土製部	土製部-小皿	(R.9)	(7.8)	1.4		外底面打付、内底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	4面鏡検
119	23		SK17	土製部	土製部-小皿	(R.1)	(R.8)	1.3		内面打付、口縁部打付、内底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	1面鏡検
120	23	69	SK17	土製部	土製部-小皿	9.6	7.1	1.3		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	1面鏡検
121	23		SK17	土製部	土製部-小皿	(R.5)	(7.4)	1.3		外底面打付、内底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	普通	4面鏡検、3面鏡検
122	23		SK17	土製部	土製部-小皿	(R.8)	(7.8)	1.4		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	普通	1面鏡検
123	23	69	SK17	上蓋	土製部-小皿	9.4	7.7	1.8		内面打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	良好	1面鏡検
124	23		SK17	土製部	土製部-小皿	10.0	7.4	1.6		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	口縁部-一文
125	23	69	SK17	上蓋	土製部-小皿	9.7	8.1	1.6		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	普通	3面鏡検
126	23		SK17	土製部	土製部-小皿	9.9	7.1	1.55		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	2面鏡検
127	23	69	SK17	上蓋	土製部-小皿	(R.8)		1.7		口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	外2.5Y912灰白色	良好	1面鏡検
128	23		SK17	土製部	土製部-小皿	(R.8)	(R.4)	1.7		口縁部打付、内底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	普通	1面鏡検
129	23		SK17	土製部	土製部-小皿	9.6	7.0	1.6		内面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	普通	1面鏡検
130	23		SK17	上蓋	土製部-小皿	9.0	7.4	1.5		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	6Y912灰白色	良好	1面鏡検
131	23		SK17	土製部	土製部-小皿	9.9	6.6	1.4		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	口縁部1/4鏡検
132	23	69	SK17	上蓋	土製部-小皿	9.0	6.8	1.4		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	良好	1面鏡検
133	23	69	SK17	土製部	土製部-平	(14.0)		3.0		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y712灰白色	良好	1面鏡検
134	23	69	SK17	土製部	土製部-平	(14.8)		(R.3)		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	7.5Y912黄褐色	普通	1面鏡検
135	23		SK17	下蓋	土製部-平	(14.2)		2.4		内外面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	普通	1面鏡検
136	23		SK17	土製部	土製部-平	(14.4)		2.7		内面打付、口縁部打付、外底面打付	鋼土	2.5Y712灰白色	良好	口縁部1/4鏡検
137	23		SK17	土製部	土製部-平	(14.8)		2.9		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	1面鏡検
138	23		SK17	土製部	土製部-平	(16.1)		2.8		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	良好	1面鏡検
139	23		SK-217	上蓋	土製部-平	(15.0)		(R.5)		内外面打付、口縁部打付	鋼土	2.5Y712灰白色	普通	1面鏡検
140	23		SK17	上蓋	土製部-平	(16.3)				内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	良好	1面鏡検
141	23		SK17	上蓋	土製部-平	18.7				内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	7.5Y912黄褐色	99不品	1面鏡検
142	23		SK17	上蓋	土製部-平	(16.2)		(R.4)	(R.7)	内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	7.5Y912黄褐色	普通	1面鏡検
143	23	69	SK17	土製部	土製部-平	14.8		3.6		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y712灰白色	良好	1面鏡検
144	23		SK17	土製部	土製部-平	(15.8)		3.3		口縁部打付、外底面打付、外底面打付、外底面打付	鋼土-灰白色	2.5Y712灰白色	良好	両側
145	23		SK17	土製部	土製部-平	(16.1)		(R.3)		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土-灰白色	2.5Y712灰白色	良好	1面鏡検
146	23		SK17	土製部	土製部-平	(15.1)		(R.7)		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	1面鏡検
147	23		SK17	土製部	土製部-平	(16.0)		3.6		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	10Y912黄褐色	良好	1面鏡検
148	23	69	SK17	土製部	土製部-平	(16.2)		3.6		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	普通	1面鏡検
149	23		SK17	土製部	土製部-平	(15.2)		3.7		内面打付、口縁部打付、外底面打付、外底面打付	鋼土	2.5Y912灰白色	良好	1面鏡検



報告書番号	Flg.	Fl.	出土場所	出土位置	器物・形状	長さmm(口径×高さ)				調査	素材	外装・装飾	焼成	保存状況
						口径	高さ	口径	高さ					
186	24		5K17	上層	白磁-緑				陶器類	緑点、灰白色	97Y22灰白色	良好	口縁部小片	
187	24		5K17	上層	白磁-緑				陶器類	緑点、灰白色	7.5Y22灰白色	良好	口縁部小片	
188	24	70	5K17	上層	白磁-緑			(7.4)	内外面磨かれ、内面に"4"少欠入る	緑点、灰白色	2.5Y71灰白色	やや不良	口縁部小片	
189	24		5K17	上層	白磁-緑			(8.4)	内外面磨かれ、内面に"2"工具痕、高倉印あり	緑点、灰白色	97Y11灰白色	やや不良	底面1/4残存	
200	25		5K16	痕跡部-溝					内面に"7"で見て、内面に"3"あり	磁器類	10YR61灰白色、F1-7灰白色	やや不良	底面1/2残存	
201	25	70	5K17	痕跡部-溝				17.2~17.7 (18.8)	内面に"7"、見て見ると凹面で中心が浅く、口縁部破損、底面の中心に"2"工具印、内面に"4"の"4"と"4"の"4"あり	磁器類	10YR61灰白色、外周面緑色のF1-7灰白色	良好	底面中央に2枚半の破片あり、底面200以上欠け	
202	28		5P01	土師器-鉢				(7.1)	内面に"1"、高倉印	磁器少量含む	2.5Y62灰白色	普通	底面残存	
203	28		5P02	土師器-小皿	(9.8)			(8.8)	1.2	内外面磨かれ、外周面に"2"あり	磁器を含む	10YR62灰白色	普通	底面小片
204	28		5P02	茶色土師器-鉢	(15.4)					口縁部内面に"4"あり、外周に"5"あり	磁器	10YR11F1-7黒色	普通	1枚残存
205	28	70	5P03	土師器-小皿	(10.1)			(8.4)	(1.3)	口縁部破れ、外周面磨かれ、底面不明	磁器少量含む	7.5Y17F1-7黒色	普通	口縁部1枚残存
206	28	70	溝部西	土師器-小皿	9.6			7.3	1.4	口縁部破れ、内面磨かれ、外周面に"2"あり	磁器少量含む	2.5Y62灰白色	良好	1/7残存
207	28		包含層	土師器-小皿	(7.9)			(1.1)		内外面磨かれ、底面不明	緑点	10YR62灰白色	やや不良	底面
208	28		包含層	土師器-小皿	(9.8)			(8.7)	1.36	口縁部破れ、内面磨かれ、外周面に"2"あり	緑点	10YR62灰白色	良好	1/8残存
209	28		包含層	土師器-小皿	(9.9)			(5.1)	1.3	口縁部破れ、外周に"4"あり、内面に"2"あり、高倉印あり	緑点	2.5Y62灰白色	普通	1/8残存
210	28		包含層	土師器-小皿	(9.2)			(7.2)	1.0	底面に"6"、口縁部に"7"、外周面に"4"あり	緑点	9YR44褐色、二次的焼成	普通	口縁部5枚以上残存
211	28		包含層	土師器-小皿	(9.9)				1.3	口縁部破れ、内面に工具痕あり、外周面に"4"あり	磁器少量含む	2.5Y62灰白色	普通	1/4残存
212	28		溝部西	土師器-弁	(13.8)			(8.4)	(3.7)	内面に"7"、口縁部に"7"、外周面に"1"あり	緑点	10YR70緑い-黄褐色	普通	1/2残存
213	28	70	溝部西	土師器-弁	(14.8)			3.88		内外面磨かれ、内面に赤黒色の"4"あり、外周面に"2"あり	緑点	10YR62灰白色	良好	1/8残存
214	28		包含層	土師器-弁	(14.9)			4.8		底面に"6"、内面に"1"、口縁部少し外周に"2"あり	磁器少量含む	2.5Y62灰白色	やや不良	口縁部一文欠損
215	28		溝部西	土師器-鉢	15.6			8.3	5.8	内面に"4"あり、口縁部に"7"あり、外周面に"4"あり	緑点	2.5Y71-72灰白色	普通	1/8残存
216	28		包含層	土師器-鉢	(17.2)					内面に"7"あり、高倉印あり、口縁部に"7"あり、内面に"1"あり	磁器少量含む	2.5Y62灰白色	普通	1/8残存
217	28		包含層	茶色土師器-鉢				(8.3)		全体に"7"	磁器少量含む	10YR57F1-7黒色	普通	口縁部1枚残存
218	28		包含層	茶色土師器-鉢				(8.4)		内外面磨かれ、高倉印あり	磁器少量含む	9Y25YR10F1-7黒色	やや不良	底面1/2残存
219	28		包含層	茶色土師器-鉢				(8.4)		内外面磨かれ、高倉印あり	磁器少量含む	10YR57F1-7黒色	やや不良	底面1/4残存
230	28		包含層	茶色土師器-鉢				(8.2)		内面に"1"、高倉印あり	緑点	10YR57F1-7黒色	普通	底面1/2残存
221	28		溝部西	陶州系高倉印-鉢				(8.4)		内面に"1"、高倉印あり	緑点	2.5Y62灰白色、5YR57F1-7黒色	良好	底面1/2残存
222	28		包含層	陶州系高倉印-鉢				(4.8)		"1"で見て、高倉印あり、内面に"4"あり	緑点、灰白色	7.5Y62灰白色	良好	底面1/4残存
223	28		包含層	白磁-鉢						陶器類	緑点、灰白色	2.5Y61灰白色	良好	底面1/2残存
224	28		包含層	白磁-鉢						陶器類	緑点、灰白色	7.5Y61無彩色	良好	口縁部小片
225	28		包含層	白磁-鉢						陶器類	緑点、灰白色	2.5Y61灰白色	良好	口縁部小片
226	28		包含層	白磁-鉢						陶器類	緑点、灰白色	9YR2灰白色	良好	口縁部小片
227	28		包含層	白磁-黄白磁-鉢	(10.8)					陶器類	緑点、灰色	5B17少、黄褐色から灰白色	良好	口縁部小片
228	28		包含層	黄白磁器少				(5.1)		陶器類、高倉印あり、高倉印あり	緑点	7.5Y61無彩色から7.5Y61灰白色	良好	口縁部小片
229	28		溝部西	土師器-底弁	(15.5)					外周面磨かれ、内面に"7"あり	磁器少量含む	7.5Y17F1-7黒色	普通	底面1/2残存
230	28		溝部西	土師器-底弁	7.0/9.8			(8.4)		外周面に"4"あり、高倉印あり	磁器少量含む	2.5Y62無彩色	普通	底面1/4残存
231	28		溝部西	土師器-鉢	(14.2)					内外面磨かれ、内面に"4"あり、高倉印あり	非黄褐色少量含む	7.5Y17F1-7黒色	普通	1/2残存

Tab.1-2 I 陶出土土製品観摩表

報告書番号	Flg.	Fl.	出土場所	出土位置	器物・形状	長さmm(口径×高さ)			石材	色調	装飾・番号
						口径	高さ	厚			
51	28	71	5K17	上層	緑石の鏡片	8.6	3.8	2.4	緑石	N6緑褐色	工具によるヒビ割れ
52	28	71	5K17	上層	片状の鏡片の欠片	断面6.7~7.2		高2.8	緑石	10YR61灰白色	片割れ、仕上げ、入庫付録
53	28		5K17		片状の鏡片				緑石	10YR17緑褐色	片割れ、高倉印
54	28		5K17		片状の鏡片	(14)		(1.8~2.4)	緑石	7.5Y14緑褐色	外周に工具による"4"、内面に"1"あり、高倉印
55	28	71	S222	上層	緑石	14.4	13.4	2.2~2.3	緑石	7.5Y71灰白色	上・底面磨かれ、高倉印あり

Tab.1-3 I 陶出土土製品観摩表

報告書番号	Flg.	Fl.	出土場所	器物	長さmm(口径×高さ)			素材	本形?	装飾・番号
					口径	高さ	厚			
W1	13	71	5K215	非黄(南河内製)	高28.2	6.4	(8.8)	(射)黒色		底面、内面に"2"あり、"4"あり
W2	13	71	5K220	非黄(南河内製)			(21.5)	(灰)黒色	底面	内面に"5~6"あり、"4"あり
W3	13	71	5K238-9-1	非黄(南河内製)			高25	内面、底面	7.5黒色	内面、底面に"4"あり、"4"あり
W4	15		5K264	片状の鏡片(飯)	80.2		3.2~4.8	少くも	不明	高倉印あり
W5	15		5K264	片状の鏡片(飯)	(86.3)		4.8~6.8	少くも	不明	高倉印あり
W6	15		5K264	片状の鏡片(飯)	(88.5)		4.0~4.3	少くも	不明	高倉印あり
W7	15		5K264	片状の鏡片(飯)	84.2		3.4~3.8	少くも	不明	高倉印あり



組合番号 番号	Fig.	PL	山土種類	部種	質量(㎡)出取・算出				部種	水取り	説明・備考
					高	幅	厚	位			
W9	15	72	SE306	汚土砕材	(26.3)	(19.4)	2~2.2		セキ	方形のボリ(1箇所)を、縦断に 工員による削除	
W10	15		SE308	汚土砕材	(48.0)			4.8~5.2	(計測) 汚土砕材	縦断にボリが平準化する	
W11	15		SE309	汚土砕材	(38.5)			5.4~5.8	(計測) 汚土砕材	縦断に板状で砕きのあつた土が 多量	
W12	15		SE308	汚土砕材?	(40.0)	4.0	1.8		スズ	橋本取・項目 23H	細材
W13	15		SE308	汚土砕材?	(38.3)			2.75~3.0	アツクハ	橋本取・項目 23H	小石を有する先細部がある、高が低い
W14	15		SE306	汚土砕材?	(37.8)	4.8	3.7		スズ	橋本取・項目 23H	
W15	15		SE306	汚土砕材?	(31.4)	3.1	1.7		(計測)	橋本取・項目 23H	粗材
W16	15		SE306	汚土砕材?	(37.86)	4.5	3.2		スズ	橋本取・項目 23H	
W18	18		SE308	汚土砕材	61.8	18.4	1.5		(計測)	橋本取	表土は平準化仕上げ
W17	16		SE308	汚土砕材(保固)	(31.4)	11.7	0.8		(計測)	橋本取	うまい板材、下層は削り仕上げ
W18	16		SE308	汚土砕材(保固)	(33.8)	14.2	0.8		(計測)	橋本取	うまい板材、下層は削り仕上げ
W19	18	72	SE319	動物産物?	(24.4)		0.7~0.8	(30.4)	(計測)	板積	牛の小骨、縦断にボリが平準化 仕上げ、上面は刃巻
W20	16		SE319	動物産物?	(24.4)	(13.1)	0.4~0.7		ヒノキ		縦断にボリが平準化する、上下両面は 平準化仕上げ
W21	18		SE319	粗材	(19.5)	(6.0)	0.9		スズ	板積	
W22	18		SE319	動物産物	(17.4)	(4.1)	0.8		スズ	板積	
W23	18		SE319	動物産物	(13.8)	(8.4)	0.7		セキ	板積	
W24	16		SE321	汚土砕材	(86.1)	7.4	3.0		コナラ重アキ	ボリ	両端にのり、粗面及方形の粗材
W25	18		SE321	汚土砕材	(80.8)	5.9	3.2		スズ	板積	両端にのり、粗面及方形の粗材
W26	18		SE321	汚土砕材	(88.2)	4.8	2.0		アツクハ	板積	両端にのりを持つ
W27	16		SE321	汚土砕材	(57.4)	3.5	2.9		スズ	板積	両端にのりを持つ
W28	18		SE334	汚土砕材	(33)	27.8	2.8		スズ	板積	汚土砕材の混合
W28	18		SE334	汚土砕材	(33)				スズ	板積	汚土砕材の混合
W29	18	72	SE334	汚土砕材	(21.5)	14.8	0.7		スズ	板積	ボリが平準化、木釘が露出 一部に4mmの孔、表面は丁字が あり、平準化仕上げ
W30	18		SE334	不明粗材	(26.9)	2.3	0.5		(計測)	板積	両端に約2cmの切り込み
W31	18	72	SE334	汚土砕材	64.8	5	3		スズ	板積	両端に約1.5~2cmの切り込み
W32	18	72	SE334	汚土砕材	66.1	5.5~6	3.5		スズ	板積	両端に約1.5~2cmの切り込み
W33	18	72	SE334	汚土砕材	61	5.4~6.7	3割後		スズ	板積	両端に約1.5~2cmの切り込み、 表面は削り仕上げ、約13mm、 厚0.4cm前後
W34	18	72	SE334	汚土砕材	64.5	5.8~6.2	3割後		スズ	板積	両端に約1.5~2cmの切り込み、 表面は削り仕上げ、約13mm、 厚0.4cm前後
W35	18	72	SE334	汚土砕材 (保固)	(81.8)	28.7	4.0		スズ	板積	粗材を使用・外層を削りて下層を 平準化する
W36	18	72	SE334	汚土砕材 (保固)	(33.9)	21	3.8		スズ	板積	粗材使用
W37	19	72	SE334	汚土砕材 (保固)	(75.3)	22.7	2.3~0.8		スズ	板積	粗材使用・粗 土増加(保固)
W38	26		SO306	動物産物	(17.0)	動物糞2A	0.75		スズ	板積	本層は欠損、土層は削り出し 削り出し、表面は削り上げる
W39	26		SO322-2B区	粗材	(36.2)	(14.8)	1.4		スズ	板積	全体に粗材、土層欠損
W40	26		SO322-2B区	粗材	30.8	14.5	1.7		スズ	板積	同上層は欠損(土層あり)、表面は削 り上げ、削り上げた部分もあり、 多量(約10%)の粗材あり
W41	26	72	SK317	汚土砕材	17.5	3.0~4.6	2.25~3.3		ミツウツギ	汚土砕材	削り出し、丁字が露出(土層あり)
W42	26		SK317-上層	汚土砕材	(19.0)	(5.1)	3.1		アツクハ	汚土砕材	削り出し、丁字が露出(土層あり)
W43	26		SK317	粗材	(24)	0.8	0.3		ヒノキ	板積	断面長方形の多く長い粗材
W44	26		SK317	粗材	(19.9)	0.9	0.3		ヒノキ	板積	断面長方形の多く長い粗材
W45	26		SK317	動物産物?	12.8	(3.8)	0.8		(計測)	板積	断面長方形、表面は丁字に平準 仕上げ、中央に4mmの孔あり
W46	26	72	SK317	動物産物?			0.7	16.9	ヒノキ	板積	削り上げ
W47	26		SK317-上層	動物産物	(17.3)	(4.0)	0.8		ヒノキ	板積	汚土の多い部分に粗材が露出 する
W48	26		SK317-上層	動物産物	(25.8)	(4.2)	0.3		ヒノキ	板積	汚土の多い部分に粗材が露出 する
W49	26		SK317	動物産物	(108.5)	(10.5)	0.3~0.4		ヒノキ	板積	汚土の多い部分に粗材が露出 する、土層は削り出し、表面は削 り上げる
W50	27		SK324	汚土砕材	(72.4)	11.5	3.3		スズ	板積	断面長方形の多く長い粗材
W51	27		SK324	汚土砕材	(61.3)	12.8	3.0		スズ	板積	断面長方形の多く長い粗材
W52	27		SK324	汚土砕材	(88.2)	16	2.4		スズ	板積	断面長方形の多く長い粗材
W53	27		SK324	汚土砕材	(79.8)	19.9	3.7		スズ	板積	断面長方形の多く長い粗材
W54	27	72	SK317	粗材	194.3	4.3	0.1~0.3		ヒノキ	板積	断面長方形の多く長い粗材

Tab.2-1 展開土十種・土質品別表

組合番号 番号	Fig.	PL	山土種類	部種	部種	質量(㎡)出取・算出				部種	土質	外立面色	強度	操作状況
						口長	幅	厚	位					
001	30	SS349	①	表層部-混合材	(12.8)		8.2	3.4	内外両面ナテ	砂吹少シ土	10Y71灰白色	良好	14H	
002	30	SS349	②	表層部-混合材	(13.8)		9.0	3.8	内外両面ナテ	砂吹少シ土	M80灰色	良好	14H	
003	30	SS349	③	表層部-混合材			9.3		内面ナテ、外底面傾ヘラウ切り	砂吹少シ土	5YR7灰白色	やや軟質	15H	
004	30	SS349	④	表層部-混合材	(16.8)		9.5	6.0	内外両面ナテ	砂吹少シ土	M80灰色	良好	10H	
005	30	SS349	⑤	表層部-混合材	(12.8)		10.2		外底面傾ヘラウ切り	砂吹少シ土	M80灰色	良好	12H	
006	30	SS349	⑥	表層部-混	(11.8)				内面ナテ、外底面傾ヘラウ切り	粗土	N7.5灰白色	やや軟質	10H	
007	30	SS349	⑦	表層部-混	(23.0)		2.1		内外両面ナテ	砂吹少シ土	M80灰色	良好	18H	
008	30	SS351	①	表層部-混	(14.4)		12.0	2.0	内面ナテ、外底面傾ヘラウ切り ナテ	砂吹少シ土	M80灰色	良好	12H	
009	37	SS365	①	表層部-混	(14.6)		(1.3)		内面ナテ、外底面傾ヘラウ切り	砂吹少シ土	N7.5灰白色	良好	16H	
010	37	SS365	②	表層部-混					内外両面ナテ	砂吹少シ土	M80灰色	良好	12H	
011	37	SS365	③	表層部-混					内外両面ナテ	砂吹少シ土	N7.5灰白色	良好	16H	
012	37	SS365	R-1	表層部-混	18.3		9.4	8.4	内外両面ナテ、外底面傾ヘラウ切り	砂吹少シ土	N4.0	良好	12H	

種別 番号	No.	PL	山土濃縮	山土濃縮	肥料・資材	原産地 (出産地)			調剤	農土	外敵防除	焼成	積存状況
						口	原産	品質					
013	37	73	SO365	肥後県-高合村外	(14.0)	8.8	4.3	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	SP681(黄白色)	良好	3/5片	
014	37	73	SO365	肥後県-高合村外	(14.0)	7.0	5.3	内外両子ナ	砂粒少し含む	10771(灰白色)	良好	1/6片	
015	37	73	SO365	肥後県-高合村外	(14.0)	(8.4)		外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	N60(灰色)	良好	1/5片	
016	37	73	SO365	肥後県-高合村外	(8.4)			内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	SP681(黄白色)	良好	産品片	
017	37	73	SO365	肥後県-高合村外				内外両子ナ	砂粒少し含む	SP61(黄白色)	良好	1/6片	
018	37	73	SO365	肥後県-高合村外	(11.4)	7.0	3.1	内外両子ナ	砂粒少し含む	N60(灰色)	良好	1/6片	
019	37	73	SO365	肥後県-高合村外	(13.0)	(8.4)	4.0	内外両子ナ	砂粒少し含む	10771(灰白色)	良好	1/2片	
020	37	73	SO365	福岡県-五	(13.4)			内外両子ナ、産品	積炭	10762(白)・灰白色	積炭	口蓋部(灰白、黄門)	
021	37	73	SO365	熊本県-土居八幡	(9.4)			内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.377(灰黄色)	良好	1/5片	
022	37	73	SO365	熊本県-土居八幡	(8.4)			内産ナ	砂粒少し含む	2.377(灰黄色)	良好	1/4片	
023	37	73	SO365	熊本県-土居八幡				内外両子ナ	砂粒多く含む	N60(灰色)	良好	2/5片	
024	37	73	SO365	熊本県-高合村外	18.3	8.4	8.4	内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	産品片	
025	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(8.4)			内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	産品片	
026	37	73	SO365	熊本県-高合村外		8.0		内産ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(2C)・PA・黄白色	良好	産品片	
027	37	73	SO365	熊本県-高合村外		8.4		内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(2C)・PA・黄白色	良好	産品片	
028	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(8.2)			内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.377(2)・灰黄色	良好	産品片	
029	37	73	SO365	熊本県-高合村外		8.2		内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	7.377(2)・灰黄色	良好	産品片	
030	37	73	SO365	熊本県-高合村外		8.4		内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	産品片	
031	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(14.5)	7.4	3.8	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.377(2)・灰黄色	良好	3/5片	
032	37	73	SO365	熊本県-高合村外	13.0	8.1	3.5	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	砂粒多量	
033	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(15.0)	9.8	3.9	内外両子ナ、産品	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	(1/4)片	
034	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(15.0)	(8.4)	3.3	内外両子ナ、内産ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(2)・灰黄色	良好	3/5片	
035	37	73	SO365	熊本県-高合村外	12.5	7.2	3.8	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2)・灰白色	良好	ほぼ均等	
036	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(11.2)	7.4	3.9	外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	7.377(6)・黄白色	やや不良	1/2片	
037	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(12.0)	(7.8)	3.2	内外両子ナ、外産品	砂粒少し含む	2.376(2)・灰白色	やや不良	1/2片	
038	37	73	SO365	熊本県-高合村外	12.7	7.8	3.7	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.376(1)・灰白色	良好	均等	
039	37	73	SO365	熊本県-高合村外	12.8	8.0	3.4	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.377(2)・灰黄色	良好	1/5片	
040	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(13.0)	(7.2)	3.2	外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	7.377(6)・黄白色	良好	1/5片	
041	37	73	SO365	熊本県-高合村外	12.9	7.8	3.5	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(2)・灰白色	良好	3/4片	
042	37	73	SO365	熊本県-高合村外	13.0	7.1	3.5	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2)・黄白色	やや不良	均等	
043	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(13.0)	(7.2)	3.3	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2)・黄白色	良好	1/5片	
044	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(12.6)	(7.8)	3.2	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(4C)・PA・黄白色	良好	(1/3)片	
045	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(12.2)	(8.2)	3.8	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.376(2)・灰白色	良好	1/5片	
046	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(12.0)	(7.0)	3.7	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2)・黄白色	やや不良	1/2片	
047	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(13.8)	7.0	3.1	内外両子ナ	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/5片	
048	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(15.2)	(8.4)	3.5	内外両子ナ	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/4片	
049	37	73	SO365	熊本県-高合村外	12.6	7.4	4.0	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.377(2)・灰黄色	良好	3/4片	
050	37	73	SO365	熊本県-高合村外	13.7	7.8	3.8	内外両子ナ	積炭	10770(6)・黄白色	やや不良	4/5片	
051	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(14.6)	(10.7)	1.8	内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	7.377(4C)・PA・黄白色	良好	1/4片	
052	37	73	SO365	熊本県-高合村外	(15.4)	(12.2)	1.4	内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/4片	
053	38	73	SO365	熊本県-高合村外				外産品	砂粒少し含む	N70(灰白色)	良好	均等	
054	38	73	SO365	熊本県-高合村外	(18.2)			内外両子ナ	砂粒少し含む	SP681(黄白色)	良好	1/4片	
055	38	73	SO365	熊本県-高合村外	(20.8)			外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	SP681(黄白色)	良好	均等片	
056	38	73	SO365	熊本県-高合村外	(16.8)			ナ	砂粒少し含む	N40(灰色)	良好	口蓋部 1/6片	
057	38	73	SO365	熊本県-高合村外				産品	砂粒少し含む	2.376(1)・灰白色	良好	1/4片	
058	43	73	SO403	土佐県-高合村外	14.0	8.8	3.2	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	N70(灰白色)	良好	3/4片	
059	43	73	SO421	土佐県-高合村外	(16.0)	12.4	1.8	内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2)・黄白色	良好	均等	
060	43	73	SO421	土佐県-高合村外	(13.4)	(8.4)	4.9	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	2.376(1)・灰白色	良好	1/4片	
061	43	73	SO421	土佐県-高合村外	(13.4)	7.2	3.4	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/2片	
062	43	73	SO421	土佐県-高合村外	(13.8)	(8.0)	3.7	内外両子ナ、産品	砂粒少し含む	N60(灰色)	良好	1/2片	
063	43	73	SO421	土佐県-高合村外		8.4		内産ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	7.377(6)・黄白色	良好	産品片	
064	43	73	SO421	土佐県-高合村外	(22.4)			ナ	砂粒少し含む	7.377(6)・PA・黄白色	良好	1/4片	
065	46	73	SO362	熊本県-高合村外	15.2	8.4	3.3	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/2片	
066	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(14.0)	(8.0)	3.8	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(1)・黄白色	良好	1/4片	
067	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(13.8)	(8.7)	3.4	外産品	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/6片	
068	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(13.6)	(8.4)	4.0	内外両子ナ	積炭	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/4片	
069	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(13.8)			内外両子ナ	砂粒少し含む	2.377(2)・灰黄色	良好	1/6片	
070	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(13.2)	7.0	3.7	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(2)・黄白色	やや不良	1/5片	
071	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(13.2)	7.8	3.1	内外両子ナ	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/6片	
072	46	73	SO362	熊本県-高合村外	13.1	8.0	3.8	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	2.377(2)・灰黄色	良好	3/5片	
073	46	73	SO362	熊本県-高合村外	13.0	7.8	3.8	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(2C)・PA・黄白色	良好	産品片	
074	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(13.0)	(7.8)	3.2	内外両子ナ	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/6片	
075	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(12.8)	7.0	3.1	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	砂粒少し含む	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/6片	
076	46	73	SO362	熊本県-高合村外	(12.4)		3.4	内外両子ナ、外産品(ヘラウ)	積炭	10770(2C)・PA・黄白色	良好	1/5片	

報告書番号	Fl.	Fl.	出土位置	副葬・器種	器種・出目・出土状況				副葬	出土	外装色調	焼成	保存状況
					口径	高さ	重量	厚さ					
077	48	S0362	土層部-序					外装白磁へう切り	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	底面欠損	
078	48	S0363	土層部-序			8.0		外装白磁へう切り	砂物少し含む	7.5YR7/4C-3A1-黄褐色	良好	底面欠損	
079	48	S0362	土層部-序			8.0		内装白磁ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	口縁部破	
080	48	S0362	土層部-混合付片	(12.4)		(7.8)	4.1	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR8/2黄褐色	良好	1/2片	
081	48	S0362	土層部-混	(14.8)			2.6	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	1/2片	
082	48	S0362	黒色土層部-混				(8.8)	内装ナリ	焼物	N7/0灰白色	良好	底面1/2片	
083	48	73	S0362	灰層部-混合付片	15.8	8.0	6.5	内装ナリ、外装白磁へう切り	砂物少し含む	SP95/1灰白色	良好	1/2片 底面破	
084	48	S0367	灰層部-混合付片				(9.4)	外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	N6/0灰白色	良好	1/4片	
085	48	S0362	土層部-混					内面ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	良好	口縁部破	
086	48	S0362	丸瓦					凸部縁部、紐部、紐部	砂物少し含む	N5/0灰白色	良好		
087	48	S0362	平瓦					凸部縁部、紐部、紐部	砂物少し含む	2.5Y7/1灰白色	土層質		
088	47	S0402	土層部-序			9.0	4.3	内装丁字ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/4C-3A1-黄褐色	良好	2/3片	
089	47	S0402	土層部-序	(15.1)			3.5	内装ナリ、外装ナリ	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	3/5片	
090	47	S0402	土層部-序	(14.4)		(8.8)	3.3	内装ナリ	砂物少し含む	N7/0灰白色	やや軟質	1/4片	
091	47	S0402	土層部-序	(13.8)		(9.2)	3.7	内装丁字ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	焼物	2.5Y7/2灰白色	良好	1/4片	
092	47	S0402	土層部-序	(13.8)		(7.4)	3.9	内装ナリ	砂物少し含む	10YR8/2黄褐色	やや軟質	1/4片	
093	47	S0402	土層部-序	13.6			3.9	内装ナリ	砂物少し含む	7.5YR7/4C-3A1-褐色	良好	3/4片	
094	47	S0402	土層部-序	12.7		7.6	3.5	縁部で不明	細砂物少し含む	SP77/1灰白色	良好	3/5片	
095	47	S0402	土層部-序	(12.8)		(8.2)	3.5	内装ナリ	焼物	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	1/4片	
096	47	S0402	土層部-序	(12.4)			3.8	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	焼物	2.5Y7/2灰白色	やや軟質	2/5片	
097	47	S0402	土層部-序	12.2			3.3	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	焼物	10YR8/2黄褐色	良好	1/2片	
098	47	S0402	土層部-序				8.6	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	底面	
099	47	S0402	土層部-混	(17.4)			2.8	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	焼物	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	1/4片	
100	47	S0402	土層部-混	(16.3)		(13.0)	2.1	内装丁字ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	焼物	7.5YR6/2褐色	良好	1/2片	
101	47	S0402	土層部-混	(16.0)			2.0	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	焼物	2.5Y7/2灰白色	良好	1/6片	
102	47	S0402	土層部-混	14.8			1.9	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	縁部欠損	
103	47	S0402	土層部-混	(13.2)		(8.8)	2.3	内装ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	やや軟質	1/4片	
104	47	74	S0402	土層部-混	(17.2)			外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	1/4片	
105	47	S0402	黒色土層部-混	(14.4)				内装ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	良好	1/6片	
106	47	74	S0402	灰層部-序	(12.8)		7.6	3.5	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	7.5Y7/1灰白色	良好	1/4片
107	47	S0402	灰層部-序	(13.8)		(8.0)	3.3	内装ナリ、外装白磁へう切り	砂物少し含む	10Y71/1灰白色	良好	1/2片	
108	47	S0402	灰層部-混合付片	(13.4)		(10.9)	4.0	内装ナリ	砂物少し含む	10Y9/1灰白色	良好	1/4片	
109	47	74	S0402	灰層部-混	17.8	14.4	2.5	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	N6/0灰白色	良好	縁部欠損	
110	47	S0402	灰層部-混	(18.8)			1.6	内装ナリ、外装白磁へう切り	砂物少し含む	SP95/1灰白色	良好	1/4片	
111	47	S0402	灰層部-混	(19.0)				内装白磁ナリ	焼物	2.5Y7/1灰白色	瓦質	1/4片	
112	47	S0402	灰層部-混	(17.0)		(1.7)		内装ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/1灰白色	良好	1/4片	
113	47	S0402	丸瓦					凸部縁部、紐部、紐部	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	土層質		
114	48	74	S0404	土層部-序	13.8		8.4	3.2	内装ナリ、外装白磁へう切り	焼物	10YR7/4C-3A1-黄褐色	良好	底面
115	48	S0404	灰層部-混	(16.4)		(12.2)	3.3	内装ナリ	砂物少し含む	N7/0灰白色	やや軟質	1/6片	
116	48	S0404	灰層部-混	(17.2)		(12.0)	2.6	内装ナリ、外装白磁へう切り	砂物少し含む	N8/0灰白色	良好	1/2片	
117	48	S0404	土層部-混	(13.8)		(10.3)	1.8	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	やや軟質	1/4片	
118	48	74	S0411	土層部-序	15.9		8.5	3.6	内装丁字ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	10YR7/4C-3A1-黄褐色	良好	1/2片
119	48	S0411	土層部-混	(14.7)		(12.3)	2.2	内装ナリ、外装白磁へう切り	砂物少し含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	1/2片	
120	48	S0411	土層部-縁部欠損					内装ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	良好	底面	
121	48	74	S0411	灰層部-混合付片	12.6		8.6	4.5	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	N6/0灰白色	良好	1/2片
122	48	S0414	土層部-序	11.8		8.5	2.5	内装ナリ、外装白磁へう切り、内面ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	良好	縁部欠損	
123	48	75	S0385	土層部-小破損	(7.8)	(9.2)		8.8		砂物多含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	1/2片
124	48	75	S0385	土層部-小破損	(41.8)		11.5		ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	やや軟質	縁部欠損
125	48	75	S0398	土層部-大欠損	18.4				ナリ	砂物少し含む	2.5Y7/2灰白色	良好	口縁部-一部破
126	48	S0390	灰層部-混	(15.2)				縁部に塗紋文	砂物少し含む	N5/0灰白色	良好	口縁部-一部破	
127	48	S0412	灰生土層部-混	(14.8)					砂物多含む	2.5Y7/1灰白色	良好	口縁部 1/6片	
128	48	S0386	灰生土層部-混	(26.0)					砂物多含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	口縁部 1/6片	
129	48	S0389-1	灰生土層部-混	(29.4)					砂物多含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	口縁部 1/6片	
130	48	S0403	灰生土層部-混	(24.6)				縁部で不明	砂物多含む	2.5Y7/2灰白色	良好	口縁部 1/6片	
131	48	S0402	灰生土層部-混	(29.0)				縁部に縦方向の突帯	砂物多含む	7.5YR5/4C-3A1-褐色	良好	口縁部破	
132	48	75	S0411	灰生土層部-混	(23.0)			口縁部に縦目、内面縁部毛	砂物少し含む	7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部破	
133	48	75	S0402	灰生土層部-混		(7.4)		縦目	砂物多含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	底面	
134	48	75	S0382	灰生土層部-混		8.2		縁部	砂物多含む	10YR8/2黄褐色	良好	底面	
135	48	S0402	灰生土層部-混			6.2		縁部で不明	砂物多含む	2.5Y7/2灰白色	良好	底面	
136	48	75	S0415	灰生土層部-混		8.1		縁部丸	砂物多含む	2.5Y7/1灰白色	良好	底面	
137	48	S0389-1	灰生土層部-混			7.7		縁部毛、縁部	砂物多含む	10YR8/2黄褐色	良好	底面	
138	48	S0416	灰生土層部-混			7.6			砂物多含む	2.5Y7/1灰白色	良好	底面	
139	48	75	S0382	灰生土層部-混		10.4	8.4		砂物多含む	10YR7/2C-3A1-黄褐色	良好	底面	



積立番号	Fg	PL	山土油種	出土位置	跡群・遺物	遺物 出 品 目 録				遺物	出土	外装色調	焼成	保存状況		
						土器	陶器	瓦器	石器							
21	52	79	SD180	上層	ヒコシ土器-赤	3.6				3.2	内外装赤土仕上げ	磁器片多量含む	10YR5/1褐色	良好	保存	
22	52	79	SD180	上層	ヒコシ土器-赤	(8.0)				3.7	内外装赤土仕上げ、底面磨削痕跡あり	磁器片多量含む	2.5Y5/5黄褐色	普通	約1/2焼存	
23	52	79	SD190	下層	赤土器-赤	(19.6)				(5.6)	磨削ひびひび、片割	磁器片多量含む	5YR6/4黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
24	52	79	SD190	下層	赤土器-赤					(8.7)	磨削ひびひび、片割	磁器片多量含む	10YR5/4黄褐色	普通	口縁部小破片	
25	52	79	SD190	下層	赤土器-赤					(8.6)	内外装赤土仕上げ、底面磨削痕跡あり	磁器片多量含む	10YR7/4黄褐色	普通	口縁部破片	
26	52	79	SD190	下層	赤土器-赤	破損(28.5)				(8.4)	内外装赤土仕上げ、底面磨削痕跡あり	磁器片多量含む	2.5Y5/5黄褐色	普通	頸部-胴部1/8焼存	
27	52	79	SD190	下層	赤土器-赤					(11-11.2)	内外装赤土仕上げ、底面磨削痕跡あり	磁器片多量含む	10YR3/1褐色、黄白付	普通	底面破片	
28	52	79	SD190	下層	赤土器-赤					(7.8)	内外装赤土仕上げ、底面磨削痕跡あり	磁器片多量含む	10YR6/4黄褐色、赤土付	普通	底面破片	
29	52	79	SD190	下層	赤土器-高灰	(22.7)				(5.7)	全体に磨削、磨削不可、口縁部内外装あり	磁器片多量含む	7.5Y7/2褐色	やや不良	頸部1/8焼存	
30	54	80186	SD186	表層部-赤	(13.6)					(1.2)	磁器片	磁器片多量含む	8Y4/1灰色	良好	口縁部1/4焼存	
31	54	80186	SD186	表層部-赤						8.5	内外装赤土、片割、工具片	磁器片多量含む	10Y2/1黄-7.5YR4/1褐色	普通	底面破片	
32	54	80186	C&A-2	土器部-赤	(23.2)					(8.7)	磨削ひびひび、片割	磁器片多量含む	2.5Y5/1黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
33	54	80275	SD275	表層部-赤	(1.8)					(1.8)	全周磨削、内外装赤土	陶瓦	N7Z灰白色	良好	口縁部小破片	
34	54	80275	SD275	土器部-赤	(17.0)					(8.6)	内外装赤土仕上げ、片割	陶瓦	5YR6/4黄褐色、口縁部内外装あり	普通	約1/2焼存	
35	54	80276	C&A-2	土器部-赤	高(5.6)	幅(3.7)				2.1	全周磨削赤土仕上げ	磁器片多量含む	土5YR4/6黄褐色、土5YR3/4黄褐色	普通	約半部の小破片	
36	54	80276	SD276	表層部-赤						(11.4)	内外装赤土、高台外付、高台内付	陶瓦	N7Z灰白色	不良	高台部1/4焼存	
37	54	80283	SD283	土器部-赤	破損(11.6)						やや磨削、磨削不可、片割	磁器片多量含む	10Y7/2黄褐色、黒土付	普通	頸部-底面破片	
38	54	80287	SD287	赤土器-赤	(15.6)					(20.8)	内外装赤土、磨削下部黒土、底面内外装あり	磁器片多量含む	10Y2/1黄-7.5YR4/1褐色	普通	口縁部-底面破片	
39	54	79	SD287	赤土器-赤	(13.6)					(16.0)	内外装赤土、磨削下部黒土、口縁部内外装あり	磁器片多量含む	2.5Y7/2黄褐色	普通	口縁部破片	
40	54	79	SD290	1区	赤土器-赤					(4.2)	口縁部内外装あり、片割	磁器片少量含む	2.5YR6/4黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
41	54	80290	1区	赤土器-赤						(4.3)	内外装赤土、片割	磁器片多量含む	10YR5/2黄褐色	普通	頸部小破片	
42	54	80290	1区	土器部-赤	(12.0)					(3.8)	口縁部内外装あり、片割	磁器片多量含む	2.5Y7/2黄褐色	普通	口縁部-底面破片	
43	54	80290	1区	赤土器-赤	(15.0)						内外装赤土、片割	磁器片多量含む	2.5Y5/1黄褐色	普通	頸部-底面1/4焼存	
44	54	80290	1区	赤土器-赤	(16.0)					(8.3)	口縁部内外装あり、片割	磁器片少量含む	5Y2/2黄-7.5YR4/1褐色、灰土付	良好	口縁部1/5-底面1/2焼存	
45	54	80290	1区	赤土器-赤	(24.0)					(13.2)	内外装赤土、片割	磁器片多量含む	2.5Y5/1黄褐色、灰土付	やや不良	口縁部-底面1/5焼存	
46	54	80290	1区	赤土器-赤	(28.6)					(8.0)	内外装赤土、片割	磁器片多量含む	10YR6/4黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
47	54	80290	1区	赤土器-赤	(27.0)					(8.6)	内外装赤土、片割	磁器片多量含む	7.5YR7/4黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
48	55	80290	1区	赤土器-赤	(41.0)					(8.3)	口縁部内外装あり、片割	磁器片多量含む	10YR5/2黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
49	55	80290	1区	赤土器-高灰	(29.0)					(4.8)	内外装赤土	磁器片多量含む	10YR5/2黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
50	55	80290	1区	赤土器-高灰	(30)						内外装赤土	陶瓦	10YR6/4黄褐色	普通	口縁部-底面1/4以上	
51	55	80290	1区	土器部-灰	破損(5.6)					(8.4)	内外装赤土、片割	磁器片少量含む	7.5YR5/2黄褐色	普通	頸部1/2焼存	
52	55	80290	1区	土器部-赤						(3.0)	片割	陶瓦	7.5YR7/4黄褐色	良好	底面破片	
53	55	80290	1区	土器部-赤	(4.8)					(3.0)	片割	陶瓦	10YR6/4黄褐色	普通	約1/2焼存	
54	55	80290	1区	土器部-赤	14.2					10.8	内外装赤土、片割	磁器片多量含む	5YR2/1黄褐色	普通	1/6灰	
55	55	80290	1区	土器部-赤	(14.6)					(3.6)	磨削ひびひび、片割	陶瓦	2.5YR6/4黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
56	55	80290	1区	土器部-赤						(2.7)	口縁部内外装あり、片割	陶瓦	2.5YR6/4黄褐色	普通	口縁部小破片	
57	55	80290	1区	土器部-赤	(18.4)					(5.3)	内外装赤土、片割	陶瓦	10YR6/4黄褐色	普通	口縁部1/4焼存	
58	55	80433	SD433	表層部-赤	(11.0)					(3.7)	内外装赤土、片割	陶瓦	8P6/1黄褐色-8P3/1黄褐色	普通	1/4焼存	
59	55	80291	SD291	表層部-赤	(14.0)					(8.0)	内外装赤土	陶瓦	10Y5/1灰色	良好	口縁部1/4焼存	
60	56	SK-418	SK45 下層	土器部-赤	(16.4)					4.5	内外装赤土、片割	陶瓦	黒色褐色片多量含む	2.5Y7/2黄褐色	良好	1/2 磨削
61	57	80298	SD298	表層部-赤						(1.8)	片割	褐色片少量含む	10B8/4暗褐色	普通	口縁部小破片	
62	57	80298	SD298	表層部-赤						(3.2)	片割	陶瓦	N7Z灰白色	普通	口縁部小破片	
63	57	80298	SD298	表層部-赤						(0.8)	片割	磁器片少量含む	8P6/1黄褐色	普通	口縁部小破片	
64	57	80298	SD298	表層部-赤	(13.5)					(5.5)	内外装赤土	磁器片少量含む	10YR6/2黄褐色-N4/1灰色	良好	口縁部1/4焼存	
65	57	80298	SD298	表層部-赤	(15.2)					(5.7)	内外装赤土	磁器片多量含む	2.5Y5/2黄褐色	普通	頸部破片	
66	57	80298	SD298	表層部-赤						(4.7)	内外装赤土	磁器片多量含む	7.5YR5/2黄褐色	普通	口縁部小破片	
67	57	79	80298	表層部-赤						11-10	内外装赤土、片割	磁器片多量含む	5YR6/4黄褐色	普通	底面破片	
68	58	80298	SD298	表層部-赤						(3.1)	片割	磁器片少量含む	2.5Y5/1黄褐色	良好	口縁部小破片	
69	58	80298	SD298	表層部-赤						(4.7)	片割	陶瓦	N5Z灰白色	良好	口縁部小破片	
70	58	80298	SD298	表層部-赤	(12.6)					(7.3)	内外装赤土、片割	陶瓦	7.5YR6/4黄褐色	良好	1/2焼存	

報告番号	Fig.	PL	山土造層	山土造層	部類・群	厚さ (m) 出露の深さ				調査	崩土	外観的特徴	地況	残存状況
						入口	厚さ	長さ	高さ					
71	58	50368	土層部	土層部	土層部	(15.0)		(7.8)	3.7	内外面回転付、内面回転付、外面直線回転付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	良好	1/5残存
72	66	50368	土層部	土層部	土層部	(14.0)		(7.0)	3.8	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	良好	1/5残存
73	66	50368	褐色土層部	褐色土層部	褐色土層部	(14.4)		(8.6)	8.6	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	良好	1/5残存
74	66	50368	土層部	土層部	土層部	18.2	(18.6)	(10.3)		傾斜付、一部回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	普通	上半部のみ残存
75	66	50368	土層部	土層部	土層部	(15.8)		(7.7)		内外面回転付、外面直線回転付	傾斜	2.5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
76	66	50368	土層部	土層部	土層部			(4.8)		口縁部のみ回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
77	66	58182	土層部	土層部	土層部	(11.6)			(4.4)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	良好	口縁部のみ残存
78	66	58182	土層部	土層部	土層部			(5.7)		内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	6YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片
79	66	58200	土層部	土層部	土層部	(10.8)	突層 (10.8)	(2.8)		内外面回転付	傾斜	5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
80	66	58200	土層部	土層部	土層部			(1.4)		傾斜付のみ不明	傾斜	10YR7/2R黄褐色	不良	口縁部のみ残存
81	66	58200	土層部	土層部	土層部			(11.4)		内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	10R6/2R黄褐色	良好	壁一部のみ残存
82	66	58200	土層部	土層部	土層部			(3.8)		傾斜付のみ不明	傾斜	10R6/2R黄褐色	良好	壁一部のみ残存
83	66	58200	土層部	土層部	土層部			(10.8)		傾斜付	傾斜	赤褐色粘土色	普通	口縁部のみ残存
84	66	58200	土層部	土層部	土層部			(8.2)		傾斜付のみ不明	傾斜	赤褐色粘土色	やや不良	口縁部のみ残存
85	66	58200	土層部	土層部	土層部			(11.7)		内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
86	66	58200	土層部	土層部	土層部			(13.4)		内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	2.5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
87	66	58200	土層部	土層部	土層部			(12.7)		内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
88	66	58200	土層部	土層部	土層部			(12.4)		内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	5YR7/2R黄褐色	普通	壁一部のみ残存
89	66	58200	土層部	土層部	土層部			(7.8)		傾斜付のみ不明	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
90	66	58200	土層部	土層部	土層部			(13.4)		傾斜付	傾斜	2.5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
91	66	58200	土層部	土層部	土層部			(20.8)		傾斜付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
92	66	58200	土層部	土層部	土層部			(14.0)	(4.3)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	5YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
93	66	58200	土層部	土層部	土層部			(12.0)		傾斜付のみ不明	傾斜	5YR7/2R黄褐色	やや不良	崩壊片のみ残存
94	66	58200	土層部	土層部	土層部				(5.7)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片
95	66	58200	土層部	土層部	土層部			(16.0)	(8.4)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	10YR7/2R黄褐色	良好	崩壊片のみ残存
96	66	58200	土層部	土層部	土層部			(16.0)	(3.8)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	良好	口縁部のみ残存
97	66	58200	土層部	土層部	土層部			(17.8)	(3.8)	傾斜付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
98	66	58200	土層部	土層部	土層部			(19.8)	(3.8)	口縁部のみ不明	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
99	66	58200	土層部	土層部	土層部				(3.8)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
100	66	58200	土層部	土層部	土層部				(3.8)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
101	66	58200	土層部	土層部	土層部			(26.7)	(8.8)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	2.5Y4/2R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
102	66	58200	土層部	土層部	土層部				(8.8)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	2.5Y7/2R黄褐色	普通	壁一部のみ残存
103	66	58200	土層部	土層部	土層部			(28.0)	(12.2)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	2.5Y5/1R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
104	66	58200	土層部	土層部	土層部			(21.8)	(8.2)	内外面回転付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	良好	外壁のみ残存
105	66	58200	土層部	土層部	土層部			(13.7)	(13.7)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	良好	1/5残存
106	66	58200	土層部	土層部	土層部			7.4	高(4.6) 厚(8.1)	傾斜付	傾斜	5YR6/2R黄褐色	普通	崩壊片のみ残存
107	66	58200	土層部	土層部	土層部			高(1.8) 厚(2.8)		傾斜付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	壁一部のみ残存
108	66	58200	土層部	土層部	土層部			(4.8)	(3.8)	傾斜付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	1/5残存
109	66	58200	土層部	土層部	土層部			(5.8)	(3.8)	傾斜付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	普通	1/5残存
110	66	58418	土層部	土層部	土層部			(13.4)	(8.1)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	10R6/2R黄褐色	良好	1/5残存
111	66	58418	土層部	土層部	土層部			(15.4)	(3.8)	傾斜付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
112	66	58418	土層部	土層部	土層部			(12.2)	(3.6)	口縁部のみ不明	傾斜	5YR6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
113	66	58418	土層部	土層部	土層部			(24.4)	(25.8)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	10YR6/2R黄褐色	良好	1/5残存
114	66	58418	土層部	土層部	土層部			(16.8)	(14.7)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	赤褐色粘土色	良好	1/5残存
115	66	58418	土層部	土層部	土層部			(4.4)	(3.8)	内外面回転付	傾斜	5YR6/2R黄褐色	良好	崩壊片のみ残存
116	66	58424	土層部	土層部	土層部			(10.8)	(3.3)	内外面回転付、内面直線回転付	傾斜	2.5YR6/2R黄褐色	良好	口縁部のみ残存
117	66	58424	土層部	土層部	土層部			(10.8)	(2.8)	傾斜付	傾斜	7.5Y5/1R黄褐色	良好	口縁部のみ残存
118	66	58424	土層部	土層部	土層部			(10.8)	(3.6)	傾斜付	傾斜	10Y5/1R黄褐色	良好	口縁部のみ残存
119	66	58425	土層部	土層部	土層部			(11.5)	(4.0)	傾斜付	傾斜	7.5YR6/2R黄褐色	やや不良	口縁部のみ残存
120	67	58425	土層部	土層部	土層部			(13.7)	(1.4)	傾斜付	傾斜	10R6/2R黄褐色	普通	口縁部のみ残存
121	67	58425	土層部	土層部	土層部			(11.2)	(1.4)	傾斜付	傾斜	10R6/2R黄褐色	良好	崩壊片のみ残存
122	67	58425	土層部	土層部	土層部			(12.8)	(3.1)	内外面回転付	傾斜	2.5Y5/1R黄褐色	良好	口縁部のみ残存
123	67	58425	土層部	土層部	土層部			(15.1)	(3.2)	傾斜付	傾斜	2.5Y7/2R黄褐色	不良	口縁部のみ残存
124	67	58425	土層部	土層部	土層部			(2.8)	(2.8)	傾斜付	傾斜	5YR6/2R黄褐色	良好	口縁部のみ残存
125	67	58425	土層部	土層部	土層部			(11.4)	(1.8)	傾斜付	傾斜	10Y5/1R黄褐色	良好	口縁部のみ残存

報告番号 番号	Fp	PL	由土の種類	出土位置	器物・遺物	遺物 出 品 目 録				遺物	土質	外装色調	焼成	保存状況
						口径	高さ	重量	長さ					
106	87		遺構跡	灰層部・坪					20P、40P等あり	粘土	8YR7/0	良好	小破片	
127	87		遺構跡	土層部・坪				(8.0)	全体に凝縮、口縁部だけ少し、外周は1/2少	磁器多量含む	7.5YR7/0黄褐色	やや不具	口縁部1/2残存	
108	87		遺構跡	土層部・坪	(10.5)			(7.4)	全体2/3、外周部4/5だけ少	粘土	7.5YR7/0黄褐色	普通	約1/4残存	
109	87		遺構跡	土層部・坪	(10.5)			(8.4)	やや凝縮、1/2少	粘土	5YR7/0黄褐色	やや不具	口縁部1/4残存、口縁部1/2残存	
130	87		遺構跡	土層部・溝				(4.7)	口内面から外周部まで1/2だけ少	磁器含む	7.5YR7/0黄褐色	良好	口縁部小破片	
131	87		遺構跡	土層部・溝	(28.8)			(5.1)	口縁部だけ、口縁部内面だけ	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色、黒褐色	普通	口縁部1/4残存	
132	87		遺構跡	土層部・溝	(16.0)	(13.7)		(7.8)	胴部外周部で凝縮仕上げ、内面だけ	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	良好	口縁部胴部1/2残存	
133	87		遺構跡	土層部・溝	焼成なし	(8.4)		(4.3)	内面だけ、口縁部内面だけ、口縁部、内面周部だけ	磁器少量含む	1~2色の磁器多量含む	普通	胴部1/4残存	
134	87	80	遺構跡	土層部・溝	(17.8)			(10.2)	全体に凝縮、口縁部不明	磁器少量含む	8YR5/4黄褐色	普通	胴部1/4残存	
135	87		遺構跡	土層部・溝				(11.4)	内面だけ、外周部だけ	磁器少量含む	10YR7/0黄褐色	普通	胴部1/2残存	
136	87		遺構跡	土層部・溝				(10.3)	胴部外周部、1/2だけ、胴部、1/2、口縁部内面だけ	磁器少量含む	10YR7/0黄褐色	普通	胴部破片	
137	87		遺構跡	土層部・溝	焼成なし	(5.7)		(5.4)	胴部内面だけ、1/2だけ、外周部だけ、口縁部内面だけ	磁器多量含む	7.5YR7/0黄褐色	良好	胴部破片	
138	87	80	遺構跡	土層部・合付跡				(10.2)	内外面凝縮あり	赤褐色土・磁器少量含む	8YR7/4黄褐色	普通	胴部1/2残存	
139	87		遺構跡	土層部・赤	(12.8)			(4.0)	凝縮だけ、口縁部不明	赤褐色土多量含む	7.5YR7/0黄褐色	やや不具	口縁部胴部1/2残存	
140	87		遺構跡	土層部・赤	(18.7)			(6.7)	凝縮あるが内面だけ、外周部だけ	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/4残存	
141	87		遺構跡	粘土土層・溝	(11.8)	(17.6)		(9.8)	胴部内面凝縮あり	胴部少量含む	2.5YR7/0黄褐色	普通	口縁部胴部1/2残存	
142	87		遺構跡	土層部・赤				(5.7)	1/2、外周部凝縮あり	磁器多量含む	2.5YR7/0黄褐色、黒褐色	普通	口縁部破片	
143	87		遺構跡	土層部・赤	(15.0)			(5.7)	口縁部凝縮するだけ、胴部、1/2	磁器多量含む	7.5YR7/0黄褐色	良好	口縁部1/4残存	
144	87		遺構跡	土層部・赤	(17.8)			(2.3)	1/2	磁器多量含む	8YR5/4黄褐色	良好	口縁部1/4残存	
145	87		遺構跡	土層部・溝	(23.8)			(5.8)	口縁部外周部だけ、内面だけ、胴部外周部だけ	磁器多量含む	2.5YR7/0黄褐色	良好	口縁部1/4残存	
146	87		遺構跡	粘土土層・溝				(5.3)	内面凝縮あり、外周部凝縮あり	磁器多量含む	2.5YR7/0黄褐色	普通	胴部小破片	
147	88		遺構跡	灰層部・坪	(12.4)			(7.4)	外周部だけ、内面だけ	磁器少量含む	10YR6/1灰褐色	良好	1/2残存	
148	88		遺構跡	土層部・塩	(15.9)			(11.3)	全体凝縮あり、外周部凝縮あり	粘土、黒褐色土少量含む	7.5YR7/0黄褐色	良好	口縁部1/4残存	
149	88	80	遺構跡	灰層部・溝	(20.0)			(9.8)	口縁部凝縮あり、胴部平均だけ、内面だけ、外周部凝縮あり	粘土	7.5YR7/0黄褐色	良好	口縁部1/4残存	
150	88		遺構跡	土層部・溝	(27.2)			(8.3)	胴部外周部、胴部内面凝縮あり、内面凝縮あり	磁器少量含む	10YR6/1灰褐色	良好	口縁部1/4残存	
151	88		遺構跡	粘土土層・合付跡	(22.4)			(5.7)	凝縮だけ、口縁部不明	磁器多量含む	7.5YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/4残存	
152	88		遺構跡	粘土土層・合付	(13.5)			(11.0)	内面凝縮あり、仕上げ、外周部だけ	磁器多量含む、赤褐色土・磁器少量含む	2.5YR7/0黄褐色	良好	口縁部1/4残存	
153	88	80	遺構跡	粘土土層・赤	7.2			4.9	全体凝縮あり	粘土	8Y5/4黄褐色	普通	胴部破片	
154	88	80	遺構跡	粘土土層・赤	(9.4)			(5.8)	凝縮だけ、口縁部不明	赤褐色土少量含む	7.5YR7/0黄褐色	普通	1/2残存	
155	88	80	遺構跡	粘土土層・溝	(21.4)			(9.4)	全体に凝縮、口縁部、内面周部だけ	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/4残存	
156	88	80	遺構跡	粘土土層・溝				5.8	胴部外周部、1/2だけ、内面周部だけ	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	やや不具	胴部破片	
157	88	80	遺構跡	土層部・溝	焼成なし	(18.4)		(14.7)	内面だけ、外周部だけ	磁器多量含む	7.5YR7/0黄褐色、黒褐色	良好	胴部1/2残存	
158	88	80	遺構跡	土層部・溝	(7.8)			(16.0)	外周部凝縮あり、胴部内面凝縮あり、内面凝縮あり	磁器少量含む	7.5YR7/0黄褐色	普通	胴部破片	
159	88	80	遺構跡	土層部・溝	(10.2)			(8.4)	外周部凝縮あり、胴部内面凝縮あり、内面凝縮あり	粘土	8YR6/4黄褐色	良好	口縁部胴部1/4残存	
160	88	80	遺構跡	土層部・溝	(13.4)			(6.3)	凝縮あり、胴部、1/2	磁器少量含む	10YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/4残存	
161	88	80	遺構跡	土層部・溝	(16.0)			(3.7)	凝縮だけ、口縁部不明	粘土	2.5Y7/0灰褐色	やや不具	胴部1/2残存	
162	88	81	遺構跡	土層部・溝	(17.4)	(18.2)		(19.1)	胴部外周部、1/2だけ、内面凝縮あり	磁器多量含む	8YR4/4黄褐色、黒褐色	普通	約1/2残存	
163	88	81	遺構跡	土層部・溝	(19.8)	(28.8)		(20.0)	胴部外周部、1/2だけ、外周部凝縮あり、内面凝縮あり、内面凝縮あり	磁器多量含む	8YR4/4黄褐色	普通	約2/3残存、胴部欠損	
164	88	80	遺構跡	粘土土層・溝	(28.8)			(7.3)	口縁部外周部凝縮あり、胴部凝縮あり、内面凝縮あり	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/4残存	
165	88	80	遺構跡	粘土土層・溝	(9.8)			(10.8)	口縁部外周部凝縮あり、胴部凝縮あり	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/4残存、胴部欠損	
166	88	80	遺構跡	土層部・溝	(18.6)	(17.1)		(7.4)	全体に凝縮、胴部内面凝縮あり	磁器やや含む	10YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/2残存	
167	88	81	遺構跡	土層部・合付跡	(16.6)	(13.7)		(12.8)	胴部内面凝縮あり、胴部内面凝縮あり、胴部凝縮あり	粘土、磁器含む	8YR7/0黄褐色	普通	約2/3残存	
168	88	81	遺構跡	土層部・合付跡	11.2~12.0	10.8		(7.1)	胴部凝縮あり	磁器少量含む	7.5YR7/0黄褐色	普通	胴部凝縮あり、口縁部欠損	
169	70	81	遺構跡	土層部・溝	(13.4)	(16.2)		(12.0)	口縁部凝縮あり、胴部内面凝縮あり	磁器少量含む	10YR6/4黄褐色	良好	口縁部胴部1/2残存、口縁部欠損	
170	70	81	遺構跡	土層部・溝	(14.8)	(17.2)		(11.7)	胴部外周部凝縮あり、内面凝縮あり、口縁部凝縮あり	磁器多量含む	2.5YR7/0黄褐色	良好	口縁部胴部1/2残存	
171	70	80	遺構跡	土層部・溝	(13.4)			(4.4)	胴部内面凝縮あり	磁器少量含む	7.5YR7/0黄褐色	普通	口縁部胴部1/2残存	
172	70	80	遺構跡	土層部・溝	(13.2)			(3.1)	1/2、口縁部内面凝縮あり	磁器多量含む	10YR6/1灰褐色	良好	口縁部1/4残存	
173	70	80	遺構跡	土層部・溝	(17.8)			(8.4)	胴部外周部凝縮あり、内面凝縮あり、内面凝縮あり	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	やや不具	口縁部1/4残存	
174	70	80	遺構跡	土層部・溝	(20.6)			(11.8)	胴部外周部凝縮あり、内面凝縮あり	磁器多量含む	10YR7/0黄褐色	良好	胴部1/4残存	
175	70	80	遺構跡	土層部・溝	(10.8)	(18.7)		(8.3)	胴部外周部凝縮あり、内面凝縮あり、1/2だけ、外周部凝縮あり	粘土、磁器含む	2.5YR7/0灰褐色	良好	胴部1/2残存	
176	70	80	遺構跡	土層部・赤	(11.5)			5.9	内面凝縮あり、外周部凝縮あり、1/2だけ	磁器少量含む	10YR7/0黄褐色	普通	口縁部1/2残存	

検査番号	Fig.	PL	山土通称	山土位置	部様・形跡	位置 (m) 出所地点			調査	土質	外観的特徴	焼成	保存状況		
						入口	奥	奥							
177	70	5X421	土層部-砂			(13.8)		(3.4)	砂層直下の砂に付	磁砂多量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	約10個存		
178	70	5X421	土層部-泥平			(22.8)		(7.0)	口縁外周内周磁片・直線状の砂	磁砂多量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	併存14個存		
179	70	5X421	土層部-泥平			(30.3)		(7.0)	口縁外周内周磁片・直線状の砂	磁砂多量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	口縁部14個存		
180	70	81	5X421	土層部-泥平			(16.8)	(11)	内面付・5号・外周へ付	磁片・磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	併存磁片		
181	70	81	5X421	土層部-泥平				(10.7)	(7.0)	全体に磁片・溝線不明・内周内面付の磁	磁砂多量含む	7.5Y76/2黄褐色	やや不具	併存磁片	
182	70	5X421	土層部-泥平					(6.0)		磁砂多量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	併存磁片		
183	70	81	5X422	衛生土層-泥平			(34.2)	(18.4)	(24.2上)	灰褐色直下の砂・直線状の砂	磁砂少量含む	6Y76/2黄褐色	普通	12個存・内周1号直線状	
184	70	5X421	土層部-砂			(6.0)		(1.8)	直線状の砂	磁砂多量含む	6Y76/2黄褐色	やや不具	併存磁片		
185	70	5X421	土層部-砂			(16.8)		(3.3)	内面付の磁片・工器具・外周付の砂	磁砂多量含む	7.5Y76/2黄褐色	良好	併存磁片・山土直線状		
186	70	5X421	土層部-砂					(14.0)	(4.4)	外周付の砂・内周磁片	磁片	2.5Y/4黄褐色	普通	併存14個存	
187	70	81	5X421	衛生土層-砂			(10.8)	(11.3)	内面付の磁片・5号・外周付の砂	磁砂多量含む	7.5Y76/2黄褐色	良好	併存14個存		
188	70	5X421	衛生土層-砂					(15.2)	(16.8)	砂・直線状の砂・内周内面付の磁片	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	良好	併存10個存	
189	70	5X421	衛生土層-砂					(5.4)	(8.3)	砂・直線状の砂	磁片	2.5Y/2黄褐色	普通	併存14個存	
190	70	磁3下	粘土層	土層部-砂			(9.0)	(3.3)	厚(1.4)	磁砂と土直上げ	磁片	2.5Y/2黄褐色	普通	磁片直下の砂	
191	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(10.4)	(4.3)	磁砂・直線状の砂	磁片	N5灰土	良好	併存14個存	
192	71	磁3下	粘土層	土層部-砂			(10.0)		(5.2)	口縁内周付の砂・直線状の砂	磁砂少量含む	6Y76/2黄褐色	良好	口縁部14個存	
193	71	81	磁3下	粘土層	土層部-砂			(11.8)	(8.2)	口縁部付・直線状の砂	磁砂少量含む	7.5Y76/2黄褐色	良好	口縁部12個存	
194	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(14.8)	(4.4)	口縁部・直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	良好	口縁部12個存	
195	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(15.2)	(8.2)	全体に磁片・口縁・外周内面付の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	口縁部12個存	
196	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(15.0)	(18.8)	C口縁部付・直線状の砂	磁砂多量含む	10Y76/2黄褐色	良好	口縁部12個存	
197	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(16.2)	(8.0)	口縁部付・直線状の砂	磁砂多量含む	10Y76/2黄褐色	普通	口縁部14個存	
198	71	81	磁3下	粘土層	土層部-砂			(16.2)	(8.0)	外周付の砂・内周内面付の砂	磁砂多量含む	7.5Y/4灰土・2.5Y/2黄褐色	良好	併存12個存	
199	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(20.4)	(7.8)	直線状の砂・直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	口縁部12個存	
200	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(13.4)	(3.8)	直線状の砂・直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	併存14個存	
201	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(16.0)	(24.2)	(27.4)	口縁部付・直線状の砂	磁砂多量含む	10Y76/2黄褐色	良好	約10個存・直線状の砂
202	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(11.4)	(15.0)	(8.8)	直線状の砂・直線状の砂	磁砂多量含む	10Y76/2黄褐色	普通	併存14個存
203	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(6.0)	(6.6)	直線状の砂	磁片	5Y76/2黄褐色	不具	併存13個存	
204	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(13.0)	(15.3)	(18.7)	直線状の砂・直線状の砂	磁片	7.5Y76/2黄褐色	普通	約10個存・直線状の砂
205	71	82	磁3下	粘土層	土層部-砂			(11.4)		6.4	直線状の砂	磁片	7.5Y76/2黄褐色	良好	12個存
206	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(8.4)	(8.0)	直線状の砂	磁砂少量含む	6Y76/2黄褐色	良好	14個存	
207	71	磁3下	粘土層	土層部-砂				(15.4)	(4.0)	直線状の砂	磁砂少量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	口縁部14個存	
208	71	82	磁3下	粘土層	土層部-泥平			(24.0)	(8.1)	(8.1)	口縁内周付の砂・直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	併存25個存
209	71	82	磁3下	粘土層	土層部-泥平				(8.0)	(8.0)	直線状の砂・直線状の砂	磁片	2.5Y/2灰土	良好	併存
210	71	82	磁3下	粘土層	土層部-泥平				13.7	(8.3)	直線状の砂・直線状の砂	磁片	10Y76/2黄褐色	良好	併存
211	71	磁3下	粘土層	土層部-泥平				(12.8)	(5.4)	直線状の砂	磁砂少量含む	6Y76/2黄褐色	普通	併存14個存	
212	71	磁3下	粘土層	土層部-泥平				(16.2)	(2.8)	直線状の砂	磁片	10Y76/2黄褐色	不具	併存14個存	
213	72	82	磁3下	粘土層	土層部-砂			(9.8)	(12.0)	(8.5)	直線状の砂・直線状の砂	磁片	7.5Y76/2黄褐色	良好	12個存
214	72	磁3下	粘土層	土層部-砂				(14)	(3.2)	(3.2)	直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	良好	12個存
215	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(22.8)	(8.0)	(8.0)	直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	良好	約10個存
216	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(4.8)	(5.4)	(5.4)	直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	併存15個存
217	72	82	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(14.8)	(16.8)	直線状の砂	磁砂少量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	約10個存
218	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(14.7)	(18.0)	(18.0)	直線状の砂	磁砂少量含む	7.5Y76/2黄褐色	良好	約10個存・直線状の砂
219	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂					(11.7)	(11.7)	直線状の砂	磁砂少量含む	6Y76/2黄褐色	普通	口縁部12個存・直線状の砂
220	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(2.8)	(2.8)	(2.8)	直線状の砂	磁砂少量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	12個存
221	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(5.8)	(2.1)	(2.1)	直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	約10個存
222	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				6.6	3.7	3.7	直線状の砂	磁砂少量含む	2.5Y/2灰土	良好	15個存
223	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂					(3.4)	(3.4)	直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	口縁部小磁片
224	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂					(11.2)	(11.2)	直線状の砂	磁砂少量含む	10Y76/2黄褐色	普通	口縁部小磁片
225	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂					(8.2)	(8.2)	直線状の砂	磁砂少量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	225-226(1号)併存
226	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(20)	(14.4)	(14.4)	直線状の砂	磁砂少量含む	7.5Y76/2黄褐色	普通	併存13個存
227	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂					(7.4)	(7.4)	直線状の砂	磁砂少量含む	6Y76/2黄褐色	やや不具	併存14個存
228	72	82	磁3下	粘土層	衛生土層-泥平				(3.1)	(3.1)	直線状の砂	磁砂少量含む	6Y76/2黄褐色	普通	併存磁片
229	72	82	磁3下	粘土層	衛生土層-泥平				(10.2)	(10.2)	直線状の砂	磁片	7.5Y76/2黄褐色	やや不具	口縁部12個存
231	72	磁3下	粘土層	衛生土層-砂				(12.4)	(3.8)	(3.8)	直線状の砂	磁片	7.5Y76/2黄褐色	普通	口縁部12個存



調査番号	FNo	PL	出土位置	器種・形状	直径mm (口徑mm)				器種	土質	外装色	焼成	保存状況
					口	径	底	厚					
232	75	82	埋中	赤土土器-黄	(30.2)			(10.0)	磨滅するが口縁部のみ、裏面が平ら	磁砂多量含む	7.5YR7/2の黄褐色	中平灰	口縁部1/3残存
233	75	80	埋中	赤土土器-黄	(18.4)			(7.2)	内外面平滑、外縁部削り	磁砂少量含む	7.5YR7/2の黄褐色	黄灰	口縁部1/3残存
234	75	79	埋中	赤土土器-黄	(21.4)	(28.0)		(3.7)	口縁部不明、内外面平滑かつ平ら	磁砂多量含む	2.5Y5/2の黄褐色	黄灰	口縁部1/3、裏面1/4残存
235	75	78	埋中	赤土土器-黄	(33.8)			(24.0)	内外面平滑、器底全面の削り残存	磁砂多量含む	2.5Y5/2の黄褐色	黄灰	口縁部1/3残存
236	75	83	埋中	赤土土器-黄	14.1~14.3			9.9 0.7	内外面平滑、口縁部1/3、外装部平ら	焼成	2.5Y7/2の黄褐色	黄灰	完整
237	75	83	埋中	赤土土器-黄	(14.3)			8.0 0.6	内外面平滑、外縁部削り	磁砂多量含む	10YR7/6の黄褐色	良好	1/4残存
238	75	85	埋中	赤土土器-黄	不明	7.2		(6.4)	磨滅するが、手取れで残存	磁砂多量含む	8YR6/4の黄褐色	黄灰	口縁部欠損
239	75	83	埋中	赤土土器-黄	(18.8)			(8.8)	内外面平滑、外縁部削り	焼成、金剛砂を含む	10YR6/2の黄褐色	良好	口縁部1/3残存
240	75	埋中	赤土土器-黄	(11.2)	(17.2)			(10.2)	断面平、口縁部削り、内面平滑	磁砂少量含む	2.5Y9/2の黄褐色	黄灰	口縁部1/3残存
241	75	埋中	赤土土器-黄	(12.8)				(5.6)	断面平、外縁部削り、内面平滑	磁砂多量含む	8YR7/4の黄褐色	黄灰	口縁部1/3残存
242	75	埋中	赤土土器-黄	(18.8)				(8.1)	断面平、外縁部削り、内面平滑	磁砂少量含む	7.5YR7/2の黄褐色	黄灰	1/4残存
243	75	82	埋中	赤土土器-黄	(9.4)			(7.9)	内外面平滑、外縁部削り	磁砂多量含む	8YR6/4の黄褐色	黄灰	口縁部1/3残存
244	75	埋中	赤土土器-黄	(22.8)				(14.3)	断面平、外縁部削り、内面平滑	磁砂少量含む	10YR6/2の黄褐色	黄灰	口縁部1/2、底の大部分
245	75	83	埋中	赤土土器-黄	(13.8)			(15.8)	断面平、外縁部削り、内面平滑	磁砂多量含む	10YR6/2の黄褐色	良好	口縁部1/3残存
246	75	埋中	赤土土器-黄	不明	(24.8)			(12.5)	断面平、外縁部削り、内面平滑	磁砂少量含む	10YR6/2の黄褐色	良好	断面1/4残存
247	75	埋中	赤土土器-黄	(21.8)				(11.8)	断面平、外縁部削り、内面平滑	焼成	10YR6/2の黄褐色	黄灰	断面1/4残存
248	75	埋中	赤土土器-黄	(13.8)				(11.4)	断面平、外縁部削り、口縁部平ら	磁砂多量含む	7.5YR7/1の黄褐色	黄灰	口縁部1/3残存
249	75	83	埋中	赤土土器-黄	(11.2)			(12.0)	内外面平滑かつ平ら	磁砂多量含む	7.5YR7/4の黄褐色	黄灰	口縁部1/3残存
250	75	83	埋中	赤土土器-黄	(43.8)			(10.7)	口縁部内外面平滑かつ平ら	磁砂多量含む	10YR7/4の黄褐色	良好	口縁部1/3残存
251	75	埋中	赤土土器-黄			7.2		(4.4)	断面平、外縁部削り、内面平滑	磁砂多量含む	8YR6/4の黄褐色	良好	断面の大部分
252	74	83	埋中	赤土土器-黄	不明	3.4		1.9	断面平、外縁部削り、内面平滑	焼成	2.5Y9/1の黄褐色	良好	完整
253	74	83	埋中	赤土土器-黄	(3.7)			(3.8)	断面平、外縁部削り、内面平滑	磁砂多量含む	2.5Y9/1の黄褐色	良好	断面1/3残存
254	74	83	埋中	赤土土器-黄	6.4	3.3		2.4	断面平	磁砂少量含む	8YR6/2の黄褐色	黄灰	断面1/3残存
255	74	83	埋中	赤土土器-黄	(3.7)			(3.8)	断面平	焼成	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面1/3残存
256	74	83	埋中	赤土土器-黄	6.4	3.3		1.8	断面平	焼成	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面1/3残存
257	74	83	埋中	赤土土器-黄	6.4	3.3		1.8	断面平	焼成	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面1/3残存
258	74	83	埋中	赤土土器-黄	6.4	3.3		1.8	断面平	焼成	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面1/3残存
259	74	83	埋中	赤土土器-黄	6.4	3.3		1.8	断面平	焼成	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面1/3残存

Tab.3-2 Ⅱ面出土土製製品群表

調査番号	FNo	PL	出土位置	器種・形状	直径mm (口徑mm)				器種	土質	外装色	焼成	保存状況
					口	径	底	厚					
51	75	82	M-20区	石	12.8	12.7		7.8	黄褐色	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
52	75	83	O-21区	石	3.9	12.1		0.3	黄褐色	2.5YR7/2の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
53	75	83	O-21区	石	(9.0)	12.7		(8.2)	黄褐色	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
54	75	83	O-21区	石	(8.8)	(7.3)		(4.1)	黄褐色	10YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
55	75	83	O-21区	石	18.4	11.4		2.36	(8.2)	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
56	75	84	O-21区	石	16.8	10.7		1.8	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
57	75	84	O-21区	石	10.2	(8.8)		(8.2)	黄褐色	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
58	75	84	O-21区	石	12.4	8.8		1.8	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
910	75	84	O-21区	石	8.7	8.5		3.75	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
911	75	84	O-21区	石	9.8	7.25		0.6	(8.2)	2.5Y7/2の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
912	75	84	O-21区	石	(7.55)	4.25		0.6	(8.2)	2.5Y7/2の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
913	75	84	O-21区	石	(5.0)	4.45		0.5	(8.2)	2.5Y7/2の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
914	75	84	O-21区	石	(5.55)	4.45		0.6	(8.2)	2.5Y7/2の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
915	75	84	O-21区	石	11.5	8.0		0.8	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
916	75	84	O-21区	石	(6.1)	6.4		1.1	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
917	75	84	O-21区	石	13.6	4.5		0.8	(8.2)	7.5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
918	75	85	O-21区	石	(14.4)	8.4		0.8	(8.2)	8YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
919	75	埋中	石	8.85	(6.25)		0.8	(8.2)	7.5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか		
920	75	埋中	石	(6.5)	(5.1)		0.45	(8.2)	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか		
921	75	埋中	石	(4.75)	(3.8)		0.45	(8.2)	2.5Y9/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか		
922	75	85	O-24区	石	1.9	1.25		0.3	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
923	75	85	O-24区	石	(1.85)	1.7		0.3	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
924	75	85	O-24区	石	1.8	0.4		0.4	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	
925	75	85	O-24区	石	(1.95)	(1.45)		0.3	(8.2)	5YR7/1の黄褐色	黄灰	断面下部に使用感、各面に磨耗、表面が滑らか	

Tab. 3-3 互面出土木製品類表

発掘層番号	Fig.	PL.	出土遺物	種類	計測値 (単位: 長さ)				備考	木目	調査備考
					高	幅	厚	径			
W1	53		SD190, H-20区	二文銭	(97.5)	(14.2)	1.2		コナラ葉アカ コナラ葉	新瓦一破け	新瓦はく(下), 長方形の割つてある 瓦, 裏面は丁取もみり仕上げ
W2	53		SD390, O-21区	矢筈?	(40.8)	14.6	3.2		コナラ葉アカ コナラ葉	紐目	
W3	59	85	SD190-上層	杖	(148.6)			6.7-7.3	スダジイ	芯材材	
W4	59	85	SD190-上層+ 20区	杖	(141.1)			4.7	コナラ葉コナラ葉 葉ノコ	自然木	横皮が剥が
W5	59		SD190	杖材	144.9	19.2	1.9-1.5		黄皮		
W6	59	85	巻紙, H-19-20区	杖	148.8			8.3-8.5	タイシロギノキ?		板瓦は縦く棒状, 頂部は大(割)つて 加工
W7	59	85	SD389	矢筈	(120)	13.1	4-5.3		ツツナジイ	透け材	瓦割材に欠り, 頂部は平円状に 加工
W8	60		SD389	杖	(111.3)				コナラ葉コナラ葉 葉ノコ	自然木	頂部が欠
W9	60		SD389	杖	(108.3)		4-4.8		スダジイ	榫材	断面三角(2)に割
W10	60	85	SD389, M-21区	矢筈	(96.8)	14.4	2.9-3.2		ツツナジイ	外周部を数方 向へ割	榫部を数方 向へ割
W11	60	85	SD423, S-21区	杖	(137.2)		7.0	6.8	スダジイ		先端は四方から割つて尖らす
W12	60	85	SD423, S-21区	杖	(137.8)		8.2	3.8	ツツナジイ		先端は多方向から割つて尖らす

Tab. 4-1 互面出土土器・土製品類表

発掘層番号	Fig.	PL.	出土遺物	種類・形状	計測値 cm (単位: 長さ)				重量	土質	外面色調	断面	現状状態
					口径	胴径	高さ	底径					
1	85		SB570	SP480 高杯						外面黒色土質	磁製	14片	
2	85		SB582	SP483 土器 残片						磁製		10片	
3	85		SB582	SP483 土器 残片	(11.8)					外面赤褐色土質	磁製	15片	
4	85		SB592	SP200 土器						外面赤褐色土質	磁製	1片	
5	85		SB592	SP202 土器						外面赤褐色土質	磁製	10片	
6	85		SB598	SP393 土器						口縁部に粘り状物	磁製	10片	
7	85		SB592	SP393 土器	(23.8)					外面赤褐色土質	磁製	10片	
8	85		SB592	SP393 土器	(25.4)					外面赤褐色土質	磁製	10片	
9	91		SC504	小瓶蓋	(13.8)	(13.4)	(12.7)			外面赤褐色土質, 内面上半部黒 土, 下半部白	磁製	10片	
10	91		SC524	瓦	7.1	8.9	10.0			丁字, 榫部欠	磁製	10片	
11	91		SC524	瓦						丁字	磁製	10片	
12	91		SC504	瓦						外面赤褐色土質	磁製	10片	
13	91		SC504	瓦						外面に欠れ, 内側黒褐色土質	磁製	10片	
14	次巻												
15	次巻												
16	91		SC522			(23.0)				外面赤褐色土質	磁製	14片	
17	95	87	SD389	1区下層+ 下層	陶土器-小瓶 土質	(7.4)	(4.8)	(8.2)		片?	焼土	H4+ヤマト焼土の色, 灰汁カ 目	断面12割+1割 下部15割残存
18	95	87	SD389	1区	土器-小瓶 土質	7.8	8.8	8.2		外面赤褐色土質?	磁製	10片	
19	95	87	SD389	1区	土器-小瓶 土質	8.0	7.8	8.1		断面赤褐色土質, 多少欠れ, 内面 黒褐色	磁製	10片	
20	95	87	SD389	1区上層	土器-小瓶 土質	(8.4)	(8.1)	(7.36)		断面赤褐色土質	磁製	10片	
21	95		SD389	1区	土器-蓋	(13.4)				外面赤褐色土質, 内面赤褐色 土質	磁製	10片	
22	95		SD389	1区上層	土器-蓋	10.7				口縁部から外周部, 断面赤褐色 土質	磁製	10片	
23	95	87	SD389	1区	土器-蓋	(17.8)	25.9	28.8		外面赤褐色土質, 内面赤褐色 土質	磁製	10片	
24	95		SD389	1区	土器-蓋			3.8	(8.1)	外面赤褐色土質, 内面赤褐色 土質	磁製	10片	
25	95	87	SD389	1区下層	土器-蓋	(4.1)	(4.9)	3.4		断面赤褐色土質	磁製	10片	
26	95	87	SD389	1区	土器-蓋	5.9	6.7	3.9	5.4	断面赤褐色土質	磁製	10片	
27	95		SD389	2区	土器-蓋	(11.4)			(5.7)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
28	95		SD389	2区	土器-小瓶 土質		(10.8)	(4.78)		外面赤褐色土質, 内面赤褐色 土質	磁製	10片	
29	95		SD389	2区	土器-蓋			(4.3)		断面赤褐色土質	磁製	10片	
30	95		SD389	4区下層	土器-蓋	(17.8)			(14.2)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
31	95	87	SD389	4区下層	土器-蓋	(18.8)	(22.6)			断面赤褐色土質	磁製	10片	
32	95	87	SD389	4区下層	土器-蓋		(24.3)	(18.68)		断面赤褐色土質, 内面赤褐色 土質	磁製	10片	
33	95		SD389	4区下層	土器-小瓶 土質	(10)			(2.08)	片?	磁製	10片	
34	95		SD389	4区中層	土器-小瓶 土質	(8.3)			(8.1)	内外赤褐色土質	磁製	14割存	
35	95		SD389	4区上層	土器-小瓶 土質				(2.7)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
36	95		SD389	4区中層	土器-小瓶 土質	(23.3)			(8.36)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
37	95		SD389	4区下層	土器-小瓶 土質	(31.2)			(4.3)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
38	95		SD389	5区下層	土器-蓋	(15.8)			(8.1)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
39	95		SD389	5区下層	土器-蓋	(18.4)			(3.14)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
40	95	87	SD389	5区中層	土器-蓋	(12.8)			(3.4)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
41	96		SD389	3区上層	土器-小瓶 土質	8.0	7.8	3.0	8.8	断面赤褐色土質	磁製	10片	
42	96		SD389	5区下層	土器-蓋				(8.4)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
43	96		SD389	5区中層	土器-小瓶 土質				(12.8)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
44	96		SD389	5区下層	土器-小瓶 土質	(8.2)			(8.85)	断面赤褐色土質	磁製	10片	
45	96		SD389	5区	土器-小瓶 土質				(8.8)	断面赤褐色土質	磁製	10片	



報告番号	Fig.	PL	山土濃度	山土位置	標高・地形	雨量 cm (山頂・元)				標高	距離	地土	外観色調	性状	備考状況		
						10月	11月	12月	合計								
84	104	SD088	1区上層	粘土土層-砂					(8.2)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
95	104	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(20)				(15.7)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
96	104	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(21.2)				(8.5)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
97	104	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(20.3)				(20.1)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
98	104	SD088	1区上層	土層砂-砂	(16.8)				(8.8)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
100	104	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(16.3)				(8.6)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
101	104	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(29.8)				(18.25)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
102	104	SD088	1区上層 下層黒色 粘土	粘土土層-砂	(44.5)	(84)			10.2 - 10.7	(70.5)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
103	105	SD088	1区上層	土層砂-砂					調査値 4.7	(8.8)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
104	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂					調査値 3.2	(8.7)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
105	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(28)				(12.6)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
106	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂					調査値 5.5	(8.8)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
107	105	SD088	1区上層	土層砂-砂					2.9	(8.2)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
108	105	SD088	1区上層	土層砂-砂	(12.1)				(8.2)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
109	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(11.7)				(8.06)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
110	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(25)				(7.1)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
111	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(16.3)				(8.0)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
112	105	SD088	1区上層	土層砂-砂					調査値 3.7	(8.2)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
113	105	SD088	1区上層	土層砂-砂					8.8	(4.25)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
114	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(7.4)				(8.7)	14.8	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
115	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂					(8.2)	(10.4)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
116	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂					12.8	(17.7)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
117	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂					(16.12)	(18.15)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
118	105	SD088	1区上層	粘土土層-砂	(11.8)				(14.6)	17.18	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
119	105	SD088	1区中層	粘土土層-砂	(23.1)				(13.7)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
120	105	SD088	1区中層	粘土土層-砂	(22.9)				(9.5)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
121	106	SD088	1区中層	土層砂-砂					11.6	(3.76)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
122	106	SD088	1区中層	土層砂-砂	(11.4)				(8.2)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
123	106	SD088	1区中層	粘土土層-砂					30.6	(7.2)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
124	106	SD088	1区中層	粘土土層-砂	(23.5)				(8.7)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
125	106	SD088	1区中層	粘土土層-砂					(10.0)	(11.0)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
126	106	SD088	1区下層	土層砂-砂	15.9				(11.7)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
127	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂	(12)	(13.5)			(8.8)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
128	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂	(11.5)	(13.8)			(8.1)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
129	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂	(14.2)	(14.2)			(13.8)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
130	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂	(13)	15.35	5.8	15.8	0	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
131	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂					(8.3)	(12.8)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
132	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂					7.8	(5.36)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
133	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂					8.1	(8.8)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
134	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂					実測値 (42.8)	(17.1)	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
135	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂					(25.15)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
136	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂					8.65	4.8	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
137	106	SD088	1区下層	粘土土層-砂	(13)				(4.65)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
138	107	SD088	1区下層	粘土土層-砂	(23.2)	(24.8)			(8.1)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層
139	107	SD088	1区下層	粘土土層-砂	(19.4)				(4.4)	0	0	0	0	0	0	良好	調査14区層

調査番号	Fp	PL	出土遺物	出土位置	遺物・遺跡	位置 cm				調査	出土	分類品類	構成	保存状況
						口	底	奥	奥					
140	107	89	SD388	1区下層	粘土土器-壺	(12.5)		13.5	18.9	外周の付着部分、内周の付着部分による	磁石粉少量含む	10YR7/2褐色、黒灰質	良好	口縁20-30mm、1/3欠損
141	107	SD388	1区下層	粘土土器-壺	(11.8)			(7.1)	口縁部外周-内周付着部分、外周の内面付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR6/2灰黄褐色	良好	口縁部1/4欠損	
142	107	SD388	1区下層	粘土土器-壺				(14.8)	(8.0)	外周の内面付着部分、口縁部外周付着部分	磁石粉-赤褐色粘土-金銅等微量含む	7.5YR6/3淡黄褐色	良好	口縁部1/2欠損
143	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(19.8)			(5.3)	口縁部内内面付着部分、口縁部外周付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR6/2淡黄褐色	良好	口縁部1/4欠損	
144	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(14.8)			(8.2)	外周-口縁部内内面付着部分、口縁部外周付着部分	磁石粉少量含む	7.5YR6/3淡黄褐色	良好	口縁部-裏面1/3欠損	
145	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(24.0)			(11.2)	内外周面、付着	磁石粉多く、片状石磁石含む	5YR7/1灰色	良好	口縁部-裏面上半1/3欠損	
146	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(20.2)			(15.2)	内外周面、付着	磁石粉-内周付着部分多く含む	10YR6/2淡黄褐色、黒灰質	良好	口縁部-裏面1/4欠損	
147	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺			8.1	(8.7)	外周の内面付着部分、内周の付着部分、外周部内面付着部分	磁石粉わずかに含む	7.5YR6/2褐色、黒灰質	良好	口縁部1/2欠損	
148	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(21)	(23.4)		(18.0)	口縁部外周、内周付着部分、外周の内面付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR7/1灰白-10YR6/3淡黄褐色、土層質	良好	口縁部-裏面1/7欠損	
149	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(31.8)			(8.15)	外周の内面付着部分	粘土、磁石わずかに含む	5YR4/3黄赤-5YR6/4褐色(内周付着)	良好	口縁部1/4欠損	
150	107	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺		(40.8)		(18.7)	内外周面、付着	緑色の磁石-金銅等わずかに含む	10YR6/2灰白色	良好	口縁部1/12欠損	
151	108	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(24)			(8.2)	外周の内面付着部分、内周面付着部分	磁石粉少量含む	2.5Y7/2灰黄色、黒灰質	良好	口縁部-裏面1/3欠損	
152	108	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(30.4)			(8.2)	口縁部内内面付着部分、口縁部外周付着部分	磁石粉ごくわずかに含む	7.5YR6/3淡黄褐色	良好	口縁部-裏面1/4欠損	
153	108	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-壺	(42.4)			(8.45)	口縁部外周付着部分、外周の内面付着部分、口縁部-裏面内面付着部分	磁石粉-赤褐色粘土少量含む	7.5YR6/3淡黄褐色	良好	口縁部-裏面1/30欠損、小破片からの還元	
154	108	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-鉢	(15.5)			(4.8)	5.7	外周-底面付着部分、内周付着部分	磁石粉-金銅等わずかに含む	5YR6/4褐色	良好	口縁部1/12-底面1/4欠損
155	108	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-鉢	(15.8)			(7.3)	内外周面、付着	磁石粉少量含む	10Y7/2褐色、黄灰質	良好	口縁部-裏面1/2欠損	
156	108	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-鉢	(10.2)			(8.2)	外周面、付着、口縁部内内面付着部分	磁石粉-白磁石微量含む	10YR7/2褐色、黄褐色	良好	口縁部1/2欠損	
157	108	SD388	1区底面裏面付着	粘土土器-文	調査跡 5.0			(8.4)	付着、内周面付着	磁石粉多く含む	10YR7/2淡黄褐色	良好	上半部欠損	
158	108	SD388	1区土層部上層	土層部-壺	30			(10.2)	口縁部内内面付着部分、口縁部外周付着部分、内周付着部分	粘土、磁石粉-金銅等わずかに含む	7.5Y7/2褐色、黄褐色、黒灰質	良好	口縁部3/4欠損	
159	108	SD388	1区土層部上層	粘土土器-壺	(23.4)			(6.5)	外周付着部分、内周付着部分、口縁部外周付着部分	粘土、磁石粉少量含む	10YR6/4黄褐色	良好	口縁部1/4欠損	
160	108	SD388	1区土層部上層	粘土土器-壺	(28)			(8.2)	外周部外周付着部分、内周付着部分	磁石粉わずかに含む	2.5Y7/1灰白-7.5YR6/2褐色	良好	口縁部1/4欠損	
161	108	SD388	1区土層部上層	土層部-壺	(32.8)			(5.7)	外周部付着部分、内周部付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR7/2灰白-10YR6/3褐色、黄灰質	良好	口縁部1/4欠損、口縁部1/4欠損	
162	108	SD388	1区土層部上層	土層部-壺	(28)			(4.8)	外周部付着部分、内周部付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR7/2褐色、黄褐色、黒灰質	良好	口縁部1/10欠損	
163	108	SD388	1区土層部上層	粘土土器-高	調査跡 4.8			(16.8)	外周部付着部分、内周部付着部分、口縁部外周付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR7/1灰白-10YR6/1褐色	良好	口縁部1/10欠損	
164	108	SD388	1区土層部上層	粘土土器-鉢	(25.5)			(8.5)	外周部付着部分、外周部付着部分	磁石粉わずかに含む	10YR6/2淡黄褐色、黒灰質	良好	口縁部3/4欠損	
165	108	SD388	1区土層部上層	粘土土器-壺	(14)			15.8	21.5	外周部付着部分、口縁部外周付着部分、内周付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR6/2灰白色、口縁部一部5YR7/2褐色	良好	口縁部20-30mm、1/4欠損
166	108	SD388	1区土層部上層	粘土土器-壺	(19.7)			(8.25)	口縁部外周付着部分、口縁部内内面付着部分、内周付着部分、口縁部外周付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	7.5YR6/2褐色、褐色	良好	口縁部1/4欠損	
167	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(9.4)			(3.8)	内外周面付着	粘土、磁石粉少量含む	5YR6/2灰白-5YR4/4褐色、黄褐色	良好	口縁部1/3欠損	
168	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(13.9)			(8.4)	口縁部内内面付着部分	粘土、磁石粉-金銅等微量含む	5YR6/2褐色	良好	口縁部-裏面1/4欠損	
169	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(19.7)			(8.5)	口縁部付着部分、外周部付着部分	磁石粉-赤褐色粘土-金銅等微量含む	10YR6/3淡黄褐色-5YR4/4褐色	良好	口縁部-裏面破片	
170	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	16			(6.5)	口縁部付着部分、内周部付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	10YR6/4淡黄褐色	良好	口縁部-裏面1/2欠損	
171	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	調査跡 (10.0)			(5.4)	外周部付着部分、口縁部外周付着部分、口縁部内内面付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	7.5YR6/2褐色-7.5YR7/1褐色	良好	口縁部-裏面1/3欠損	
172	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(13.4)			(3.8)	口縁部付着部分	磁石粉-金銅等微量含む	7.5YR6/4褐色	良好	口縁部1/4欠損	
173	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(25.4)			(4.9)	口縁部付着部分	磁石粉-赤褐色粘土-金銅等微量含む	10YR6/3淡黄褐色	良好	口縁部1/12欠損	
174	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(31.2)			(7.3)	口縁部付着部分	粘土、磁石粉-赤褐色粘土わずかに含む	2.5Y7/1灰白色	良好	口縁部-裏面1/12欠損	
175	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	調査跡 最大径 (12.0)			(3.8)	口縁部付着部分、外周部付着部分	粘土、磁石粉わずかに含む	7.5YR6/2褐色、褐色	良好	口縁部1/4欠損、口縁部内内面付着部分	
176	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(21.2)			(3.7)	口縁部付着部分、外周部付着部分	磁石粉少量含む	10YR6/2灰白色	良好	口縁部1/4欠損、口縁部内内面付着部分	
177	108	SD388	1区土層部下層	土層部-壺	(8.0)	(2.1)		(5.4)	内外周付着部分、内周部付着部分、口縁部内内面付着部分	粘土、磁石粉微量含む	10YR6/2淡黄褐色、黒灰質	良好	口縁部1/2欠損	

報告書番号	Fig.	PL	山土濃度	山土位置	掘削・部材	深さ cm (掘削深・元)				調査	除去	外観色調	性状	備考状況
						上端	厚さ	長さ	高さ					
178	109	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(15.4)	(19.4)	5.0	15.8	口縁部229、胴部外周013、下半014、下半015、下半016、下半017、内周上半018、下半019	磁砂粒・赤褐色粘土少量含む	10YR7/2弱、黄褐色・黒黒あり	良好	口縁部の大平土質層(2区土層)有	
179	100	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘			(16.4)	5.0	(11.8)	胴部外周017、内周018磁砂粒	磁砂粒わずかに含む	10YR8/2灰青色・黒黒あり	良好	底部一鋼線層有
180	108	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘			(18.4)		(8.0)	胴部013、内周017	磁砂・金剛砂わずかに含む	7.5YR7/2弱、暗褐色	良好	胴部14磁層、内周に3磁層状の黒色物質付着
181	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(23.8)				(21.4)	内周017	磁砂粒・赤褐色粘土・黒色砂粒含む・金剛砂多量含む	7.5YR8/2灰青色・黒黒あり	良好	口縁一鋼線14磁層有
182	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(16.4)				(10.1)	内周017、内周018加工品	磁砂多量含む	10YR4/2灰青色	良好	口縁一鋼線層有
183	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(18.0)				(7.8)	口縁部229、胴部外周018、内周019、017	磁砂少量含む	10YR7/2弱、黄褐色	良好	口縁部19磁層有
184	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(21.4)				(12.3)	口縁部229、胴部外周018内周019、017	磁砂粒・赤褐色磁砂粒子少量含む	10YR6/2灰青色	良好	口縁部15磁層有
185	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(21)				(11.8)	口縁部229、胴部外周018、内周019、017	磁砂少量含む	10YR7/2灰白-10YR8/2灰青色	良好	口縁一鋼線14磁層有
186	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(20.0)				(11.3)	胴部外周017、内周018、019、017、018、019	磁砂粒わずかに含む・金剛砂少量含む	7.5YR7/2弱、暗褐色	良好	口縁一鋼線14磁層有
187	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(22.2)				(10.4)	胴部外周017、内周018	磁砂粒やや多く含む	10YR6/1黒褐色	良好	口縁部14磁層有
188	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	掘削13.3				(8.2)	胴部外周018、胴部外周019、胴部外周017、胴部外周018	磁砂粒少量含む	10YR6/1灰白-10YR8/2灰青色	良好	胴部12磁層有
189	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	掘削16.8				(10.0)	胴部一胴部外周018付着、内周019、018磁砂	磁砂粒わずかに含む	10YR7/2弱、黄褐色	良好	胴部14磁層有
190	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	掘削19.8				(8.8)	胴部017、胴部内周018付着	磁砂・金剛砂磁砂と粘土を少量含む	10YR6/2灰青色(一部5YR7/2褐色)あり	良好	胴部15磁層有
191	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(20.8)				(13.4)	胴部外周018付着	磁砂粒・赤褐色粘土少量含む・金剛砂磁砂粒わずかに含む	7.5YR8/2灰青色	良好	胴部14磁層有
192	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(20.5)				(11.4)	内周018磁砂粒	磁砂・金剛砂磁砂少量含む	7.5YR8/2灰青色	良好	胴部14磁層有
193	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘			6.7	(3.8)	胴部胴部一胴部外周018内周019	粘土、磁砂・赤褐色粘土わずかに含む	7.5YR8/2灰白-7.5YR7/2褐色あり	良好	底部12磁層有	
194	110	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘少量	(8.6)				(8.1)	胴部外周018、019磁砂粒、内周019、018、内周019磁砂	磁砂粒多量含む	10YR8/2弱、黄褐色・上部黒付着	良好	底部磁片
195	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(17.2)				(7.6)	胴部外周018、内周018磁砂粒	磁砂粒・金剛砂磁砂少量含む	7.5YR7/2弱-7.5YR4/2黒褐色	良好	口縁一鋼線上部1.5磁層有
196	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(12.8)				(8.2)	胴部外周018、内周018磁砂粒	磁砂粒わずかに含む	10YR8/2弱、灰青色・黒黒あり	良好	口縁一鋼線上部1.6磁層有
197	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(22.4)				(7.3)	口縁部外周018、019付着、内周019、018、胴部外周018	磁砂粒多量含む	7.5YR8/2弱、暗褐色、スチ付着	良好	口縁一鋼線上部1.5磁層有
198	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(20.8)				(8.8)	口縁部外周018、019付着、内周019、018、胴部外周018	粘土、磁砂・金剛砂磁砂粒わずかに含む	10YR8/1黒褐色、スチ付着・内周外周に黒化磁砂付着	良好	口縁部14磁層有
199	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(22.1)				(9.6)	口縁部外周018、019付着、内周019、018、胴部外周018	粘土・磁砂の磁砂粒わずかに含む	10YR8/2灰白-N1.5黒色(黒)	良好	口縁一鋼線上部1.8磁層有
200	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(22.3)				(12.8)	口縁部外周018、019付着、内周019、018、胴部外周018	磁砂粒を若干含む	80Y2/1灰白-7黒色	良好	口縁一鋼線13磁層有
201	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(27.2)				(18.0)	口縁部外周018、019付着、内周019、018、胴部外周018	磁砂・金剛砂磁砂少量含む	10YR7/1灰白-10YR8/2灰青色・黒黒あり	良好	口縁一鋼線上部1.6磁層有
202	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(29.3)				(10.0)	口縁部外周018、019付着、内周019、018、胴部外周018	磁砂粒・金剛砂磁砂少量含む	10YR7/2弱、黄褐色	良好	口縁部19磁層有
202	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(24.4)				(8.8)	口縁部内周018、内周018付着、胴部外周018	磁砂粒少量含む	2.5YR2/2灰白・黒黒あり	良好	口縁部14磁層有
204	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(23.7)				(8.8)	口縁部外周018付着、胴部外周018	磁砂・金剛砂磁砂粒わずかに含む	10YR8/2弱、黄褐色	良好	口縁部14磁層有
205	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(23.3)				(8.4)	口縁部内周018、外周018付着、胴部外周018	磁砂粒・金剛砂磁砂粒わずかに含む	7.5YR8/2灰青色	良好	口縁一鋼線14磁層有
206	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(28.8)				(13.7)	口縁部外周018、胴部内周018、外周018付着	磁砂粒やや多く含む	10YR7/2弱、黄褐色	良好	口縁一鋼線上部1.12磁層有
207	111	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(32.2)				(15.1)	口縁部外周018付着、胴部外周018	磁砂粒・赤褐色磁砂粒少量含む	10YR7/2弱、黄褐色	良好	口縁部14磁層有
208	112	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(27.4)				(8.3)	内外周018	磁砂粒わずかに含む	10YR7/2弱、黄褐色-10YR9/2灰青色	良好	口縁部17磁層有
209	112	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(42.8)				(13.4)	内外周018	磁砂粒多量含む	10YR8/2灰白-10YR8/2灰青色	やや不貞	口縁部19磁層有
210	112	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(28.3)				(7.1)	口縁下部胴部、外周018付着	磁砂粒・金剛砂磁砂粒わずかに含む	7.5YR7/2弱、暗褐色	良好	口縁部14磁層有
211	112	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	(42)				(10.0)	口縁部外周018、胴部外周018付着	磁砂粒・金剛砂磁砂粒多量含む	7.5YR8/2灰青色	良好	口縁一鋼線14磁層有
212	112	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	掘削22.9				(16.5)	胴部外周018、内周018付着	磁砂粒わずかに含む	7.5YR8/2灰白色	良好	胴部17磁層有
213	112	SD308	1区土層下層	土砂層-掘	掘削23.8				(12.7)	胴部外周018、内周018付着、019	粘土、磁砂粒わずかに含む	10YR8/1灰白色・黒黒あり	良好	胴部一鋼線上部1.4磁層有
214	112	SD308	1区土層下層	赤土土層-掘	掘削48.1				(11.2)	胴部外周018付着	磁砂粒少量・黒褐色粘土を少量含む	6YR7/2褐色	良好	胴部17磁層有

調査番号	Fig.	PL	出土遺物	出土位置	遺物・遺跡	位置 cm				調査	出土	外周位置	構成	保存状況
						中心	東	南	高さ					
218	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(19.8)		(11.8)	惣土土層群下 層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR4/6黄・褐色	良好	胴部欠	
218	115	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(20.6)		(8.1)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	5YR7/4黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部一息加積 存	
217	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	惣土土層下 層	14.4	8.0	(8.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	2.5YR2/2灰褐色	良好	胴部残片	
218	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	惣土土層下 層	5.6	(4.3)		惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部残片	
218	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	惣土土層下 層	7.7	(11.3)		惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴一割下層残存	
220	113	90	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	5.4	(8.1)		惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR4/6黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
221	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	惣土土層下 層	7.0	(4.7)		惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	2.5Y2/2灰褐色	良好	胴部残片	
222	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	惣土土層下 層		8.5以上 の埋 埋深	(10.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
222	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	惣土土層下 層	18.0	(14.4)		惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
224	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	惣土土層下 層	惣土土層 7.0		(16.4)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部残片	
225	113	90	SC088	1区土層群 下層	土層群下 層	(15.8)		(13.7)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色(北土土層 群より)	良好	胴一併部欠	
226	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層		(15.7)	(2.4)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色	良好	胴部欠	
227	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	埋深約 0.2	(3.4)		惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR2/2灰褐色	良好	胴部欠	
228	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(21.2)		(4.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR2/2灰褐色、黒灰あり	やや不	胴部欠	
228	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	埋深約 3.7		(8.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色、黒灰あり	やや不	胴部残片、胴部 三方欠	
229	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	埋深約 3.0		(8.7)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR4/6黄・褐色	良好	胴部欠	
230	113	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(17.4)		(3.4)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
231	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	埋深約 3.0		(5.4)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
232	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	埋深約 2.1		(8.0)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
233	114	90	SC088	1区土層群 下層	土層群下 層	埋深約 4.8		(15.4)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	2.5YR4/6黄・褐色	良好	胴部欠	
234	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(29.6)		(8.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
235	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(31.2)		(4.5)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
236	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(29.7)		(8.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
237	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(31.5)		(5.9)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
238	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(31.8)		(8.0)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
239	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	埋深約 (38.7)		(4.9)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
240	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(7.8)		3.3	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	2.5YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
241	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(10.8)		(3.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
242	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(19.2)		(5.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
243	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(18.4)		(4.9)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
244	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(8.2)		(2.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR4/2灰褐色	良好	胴部欠	
245	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(4.3)		(4.1)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
246	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(17.4)		(8.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	5YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
247	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(18.4)		(4.9)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	7.5YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
248	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(13.0)		(8.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR2/1黄～5YR2/4黄・褐色 (黒灰あり)	良好	胴部欠	
249	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(14.9)		(5.0)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	
250	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(15.2)		(3.8)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
251	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(14)		(5.4)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR4/2灰褐色、黒灰あり	良好	胴部欠	
252	114	SC088	1区土層群 下層	惣土土層下 層	土層群下 層	(20.4)		(8.0)	惣土土層群 下層	磁砂管・金線陶管等 や多く含む	10YR7/2黄・褐色	良好	胴部欠	

報告書 番号	Flg.	PL	出土遺構	出土位置	遺構・部材	位置 cm (北緯・東経)				用途	出土	外周色調		竣工	備考状況	
						中心	幅	奥行き	高さ			色	調			
263	114	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(29.5)				(8.6)	内外両方?	磁片・赤褐色粘土・赤褐色粘土・少量赤土	7.5YR7/4褐色、褐色	良好	口縁部1段残存	
264	114	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(29.4)				(8.2)	内外両方?	磁片・赤褐色粘土	10YR4/1灰褐色、又は付着	良好	口縁部1段残存	
265	114	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(29.2)				(8.4)	内外両方?	磁片・赤褐色粘土	10YR6/6赤褐色、黄褐色	良好	1段残存	
266	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(27.4)				3.0	8.25	内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR3/3黄褐色、10YR5/2灰色、黒灰土	良好	中部1段・口縁部大半残存	
267	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(31.8)				7.85	14.8	内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR2/2灰白色、黒灰土	良好	口縁部1段残存	
268	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(32.2)				(8.35)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR4/4黄褐色、10YR2/2灰白色、黒灰土	良好	口縁部1段・上半1段残存	
269	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(33.2)				(8.6)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR2/2灰白色、黒灰土	良好	約1段残存	
260	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(30.2)				(10.15)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR4/4黄褐色、5YR7/6褐色	良好	口縁部1/2段残存	
261	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(7.8)				(11.2)	12.7	内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR4/4黄褐色、7.5YR7/6褐色	良好	口縁部1段・残存	
262	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	14.4				(17.3)	18.8	内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/2灰褐色、黄褐色	良好	口縁部1段・残存	
263	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(13.7)				(7.8)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR7/2灰褐色、黄褐色	良好	口縁部1段・残存	
264	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(12.8)				(12.85)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR5/1灰褐色、5YR6/6褐色	良好	口縁部1段残存	
265	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(20.1)				(18.7)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR6/2灰黄褐色	良好	口縁部全段・残存	
266	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(15.0)				(8.4)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/2灰褐色、黄褐色	良好	口縁部1段残存	
267	118	91	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	(17.8)				(11.8)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/2灰褐色、黄褐色、10YR2/2灰白色、黒灰土	良好	口縁部全段	
268	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(13.0)				(8.6)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR2/2灰白色、10YR7/2灰褐色、黄褐色	良好	口縁部全段・残存	
269	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(18.8)				(8.2)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/1灰白色	良好	口縁部残存、口縁部約1段残存	
270	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(10.8)				(8.95)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR7/2黄褐色、1YR6/4黄褐色、黒灰土	良好	口縁部1段残存	
271	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	12.0				(7.2)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR4/4黄褐色、10YR7/2灰褐色、黄褐色、黒灰土	良好	口縁部全段残存	
272	118	80388	1階土庫下層	土師器・小形丸底甕	土師器・小形丸底甕	(10.7)				(4.86)		内外両方?	褐色、全周黄褐色・少量赤土	7.5YR8/2灰白色	良好	腹・肩部1/2残存
273	118	80388	1階土庫下層	土師器・小形丸底甕	土師器・小形丸底甕	(3.7)				(3.7)		内外両方?	褐色、無施彩・破れわずかに赤土	7.5YR4/2灰白色	良好	小破片
274	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(11.7)				(4.4)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR4/2灰黄褐色	良好	口縁部1段残存	
275	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(18.6)				(4.86)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR4/4黄褐色、5YR7/6褐色	やや赤い良好	口縁部1段・残存	
276	118	91	80388	1階土庫下層	土師器・甕	16.1				(8.6)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/1灰白色、10YR7/2灰褐色、黄褐色(破れ付)	良好	口縁部1段・上半部残存	
277	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(12.2)				(8.7)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR6/1灰白色	良好	口縁部1段残存	
278	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(18.5)				(10.0)	(8.4)	内外両方? 内外両方? 内外両方?	5YR7/6黄褐色、7.5YR7/2黄褐色	良好	下半部1/4段残存	
279	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(16.5)				(3.76)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR4/4黄褐色	わずかに赤い	口縁部1/4段残存	
280	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(4.0)				(2.48)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/2灰褐色、黄褐色	良好	下半部1段残存	
281	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(13.7)				(8.3)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR7/2灰褐色、黄褐色	良好	口縁部1段残存	
282	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(8.8)				(3.85)		内外両方?	8YR6/6褐色	良好	口縁部全段残存	
283	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(10.1)				(3.4)		内外両方?	10YR6/2灰白色	良好	口縁部1段残存	
284	118	91	80388	1階土庫下層	土師器・甕	(14.6)				8.8		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/1灰白色、又は付着	良好	約1段残存	
285	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(17.8)				(8.6)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR6/4黄褐色(口縁部)~10YR6/2灰褐色	良好	約1段残存	
286	118	80388	1階土庫下層	土師器・甕	土師器・甕	(1.0)				2.8		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR4/4黄褐色、7.5YR7/2灰褐色	良好	口縁部1段・残存	
287	118	91	80388	1階土庫下層	土師器・甕	(7)				7.6	(8.6)	内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR6/2灰白色、2.5YR7/6褐色	良好	口縁部1段・残存	
288	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(13.6)				(15.4)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	7.5YR7/2灰褐色、黄褐色	良好	口縁部1段・残存	
290	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(27.8)				(15.0)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/1灰白色、10YR6/2灰褐色、黄褐色	良好	口縁部1段・残存	
290	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(14.5)				(8.7)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR7/1灰白色、10YR6/2灰褐色	良好	腹・肩部1段残存	
291	118	91	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	(14.3)				(20.4)	(17.66)	内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR6/2灰白色、黒灰土	やや赤い	口縁部1段・残存	
292	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(21.4)				(12.8)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR6/2灰白色、10YR2/2灰白色、黒灰土	良好	口縁部1段・残存	
293	118	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	衛生土庫・鉢	(26.4)				(8.2)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	8YR6/2灰白色、5YR6/6黄褐色	良好	口縁部1段・残存	
294	118	91	80388	1階土庫下層	衛生土庫・鉢	(25.0)				(8.95)		内外両方? 内外両方? 内外両方?	10YR6/2灰白色、黒灰土	良好	口縁部1段残存、3X436と結合	



債券番号	Fg	PL	社名/業種	仕土/業種	募集額	償還 (円)		返済	募集	償還	満期	仕土	外債償還		返済	返済状況
						元金	利息						元金	利息		
295	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	100,000						(8.9)	内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR04債/償還	良好	円借14期済
296	117	81	80386	1区土建	1区土建-高層下層	債権4.0				(14.35)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借3期済、円借3方満引
297	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(12.8)					(4.18)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	円借16期済
298	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(12.4)					(8.8)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	5YR02債/償還	良好	約1/2償、償内債V償済
299	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層					1.9	(3.3)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	良好	償内債0.4期済
300	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(10.2)					(8.86)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	円借1上準備1/3期済
301	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(9.4)					(16.8)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
302	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(13.8)					(3.86)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
303	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(19.5)					(3.86)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
304	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(16)					(3.2)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
305	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層						(7.6)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	小破片
306	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層						(5.2)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
307	117	81	80386	1区土建	1区土建-高層下層	10.5				(13.35)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
308	117	81	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(8.4)				(10.3)	11.0	内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
309	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(18.4)					(8.0)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
310	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層						(5.2)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
311	117	81	80386	1区土建	1区土建-高層下層	2.9-3.4				(8.2)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	良好	約3期済
312	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層	3.2				1.6	2.3		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借3.04期済
313	117	80386	1区土建	1区土建-高層下層					11.0	(3.95)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	償内債0.4期済
314	118	81	80386	2区土建	2区土建-高層下層	(8.2)	8.8	8.3				内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	良好	円借1.0期済
315	118	80386	2区土建	2区土建-高層下層	(14.8)					(4.6)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	償内債1.0期済
316	118	80386	1区土建	1区土建-高層下層	(8.2)					(4.8)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
317	118	81	80386	2区土建	2区土建-高層下層	15.8	25.8	25.3				内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
318	118	80386	2区土建	2区土建-高層下層	(14)					(3.7)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	良好	約1.0期済
319	118	81	80386	2区土建	2区土建-高層下層	(13.2)	5.95	6.1				内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	約1.0期済
320	118	81	80386	2区土建	2区土建-高層下層					10.4		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	償内債0.1期済
321	118	82	80386	2区土建	2区土建-高層下層	13.8	7.05	4.9				内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
322	118	80386	2区土建	2区土建-高層下層	(9.2)					(8.8)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	不換	上半期1/4期済
323	118	80386	2区土建	2区土建-高層下層						(8.8)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	良好	円借1.0期済
324	118	80386	2区土建	2区土建-高層下層	債券付最大額(11.2)					(8.95)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
325	118	80	80386	3区土建	3区土建-高層下層		12.8	(12.2)				内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
326	118	80386	4区土建	4区土建-高層下層	(9.5)	(9.6)	(5.7)					内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
327	118	80386	1号ベタ上層	1号ベタ上層	(20.8)					(2.4)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
328	118	80	80386	4区土建	4区土建-高層下層	(17)				(5.2)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
329	118	80	80386	1号ベタ上層	1号ベタ上層					(10.1)	(3.78)	内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
330	118	80386	4区土建	4区土建-高層下層	(12.8)					(2.7)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
331	118	80386	1号ベタ上層	1号ベタ上層	(13.8)					(8.2)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
332	118	82	80386	1号ベタ上層	1号ベタ上層	(18.8)				(5.6)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	良好	円借1.0期済
333	118	80386	1号ベタ上層	1号ベタ上層						(8.1)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	上半期1/10期済
334	118	82	80386	1号ベタ上層	1号ベタ上層	7.88				(5.3)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	円借1.0期済
335	120	SD444	1号ベタ上層	1号ベタ上層						(4.05)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
336	120	SD444	1号ベタ上層	1号ベタ上層						(3.28)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	良好	円借1.0期済
337	120	SD444	1号ベタ上層	1号ベタ上層	(10.2)					(1.8)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR02債/償還	良好	円借1.0期済
338	120	SD444	1号ベタ上層	1号ベタ上層	(9.8)					(12.4)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	7.5YR02債/償還	不換	円借1.0期済
339	120	SD444	1号ベタ上層	1号ベタ上層	(9.8)					(7.75)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	良好	円借1.0期済
340	120	SD444	1号ベタ上層	1号ベタ上層	(9.8)					(7.75)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	10YR01債/償還	不換	円借1.0期済
341	120	SD444	1号ベタ上層	1号ベタ上層						(7.2)		内外債0.12%	債、短期債-全額償還少額含む	2.5YR02債/償還	不換	円借1.0期済

図号 番号	Fig.	PL	山土建機	出土位置	掘削・掘削 機種・部材	掘削 深さ (m) (掘削高さ)				掘削	出土	外周色調	地況	備考状況	
						中心	半径	高さ	深さ						
341	120	SD444			内周土掘削機				(1.4)	外周及鉄条線、内周の工具片、掘削機、内周掘削機	磁石砂中多量土	2.5YR6/0鉄屑~2.5YR6/4褐色	良好	磁石砂破片	
342	120	SD444			内周土掘削機			(2.2)	(1.4)	外周及鉄条線、内周の工具片、掘削機、内周掘削機	磁石、金鋼屑中多量土、角石七少量土	5YR7/0鉄屑~7.5YR6/4褐色	良好	磁石砂破片	
342	120	SD451			土掘削機	(14.8)			(2.2)	外周掘削機、内周の工具	磁石、金鋼屑中多量土	10YR7/2鉄屑、黄褐色	良好	口掘削140センチ、磁石砂破片	
343	120	SD451			粘土土掘削機				(3.1)	外周掘削機、内周の工具片、内周掘削機	粘土、磁石、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑~7.5YR6/2灰白色	良好	口掘削170センチ	
344	120	SD451			土掘削機				(7.4)	外周掘削機、内周の工具片、内周掘削機	粘土、金鋼屑中多量土	5YR7/0鉄屑、黄褐色(角石入り)	良好	掘削機破片	
345	120	SD451			土掘削機				(8.8)	外周掘削機、内周の工具片、内周掘削機	磁石砂少量土	5YR7/0鉄屑	良好	掘削機破片、磁石砂破片	
346	120	SD451			粘土土掘削機	(12.6)			(3.2)	土掘削機、工具片	粘土、磁石、金鋼屑中多量土	7.5YR6/0鉄屑黄褐色	良好	口掘削140センチ	
347	120	SD451			粘土土掘削機	(15.6)			(8.0)	外周掘削機、口掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
348	120	SD451			粘土土掘削機	(22.4)			(3.1)	土掘削機	磁石砂少量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
349	120	SD471			内周土掘削機	(10.2)			(8.1)	外周及鉄条線、内周の工具片、掘削機	磁石、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
350	120	SD471			粘土土掘削機			7.0	(8.8)	土掘削機	磁石砂中多量土	2.5YR6/0鉄屑~7.5YR6/2褐色(磁石)	不良	磁石砂破片	
351	120	SD481			土掘削機	(12.6)			(4.8)	外周掘削機、内周掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
352	121	SD482			粘土土掘削機	(13.6)			(3.8)	内外掘削機	磁石、磁石砂中多量土	5YR6/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
353	121	SD482			粘土土掘削機	(16.6)			(7.4)	外周掘削機、内周掘削機	粘土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
354	121	SD482			粘土土掘削機	(24.8以上)			(7.4)	外周掘削機、内周掘削機	粘土、磁石砂中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	掘削機破片	
355	121	SD482			粘土土掘削機			7.0	(1.2)	外周掘削機	粘土、磁石、金鋼屑中多量土	10YR7/2鉄屑~10YR7/1褐色	良好	磁石砂破片	
356	121	SD482			粘土土掘削機	(19.6)			(11.6)	内外掘削機、口掘削機	磁石、金鋼屑中多量土	5YR7/0鉄屑、褐色	不良	口掘削機破片	
357	121	SD482			粘土土掘削機	(23.2)			(8.8)	下掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR6/0鉄屑、土付層	良好	口掘削機破片	
358	121	SD482			内周土掘削機	(23.2)			(4.1)	外周及鉄条線、内周掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	5YR7/0鉄屑、土付層	良好	口掘削機破片	
359	121	SD482			内周土掘削機	(18.6)			(11.2)	外周掘削機、内周掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色、土付層	良好	掘削機破片	
360	121	SD482			内周土掘削機				(4.5)	外周及鉄条線、内周掘削機	磁石砂少量土	5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
361	121	SD482			内周土掘削機	(19.6)			(4.5)	外周及鉄条線、内周掘削機	磁石砂中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	掘削機破片	
362	121	SD482			内周土掘削機	(14.4)			(5.0)	外周掘削機、内周掘削機	粘土、磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
363	121	SD482			粘土土掘削機	(23.2)			(8.0)	内外掘削機	粘土、磁石砂中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
364	121	SD482			粘土土掘削機				(12.7)	外周掘削機	磁石砂、赤褐色中多量土	5YR6/0鉄屑	不良	掘削機破片	
365	121	SD493			土掘削機				(13.7)	内外掘削機	磁石、磁石砂中多量土	10YR6/3鉄屑、褐色	良好	掘削機破片	
366	121	SD493			内周土掘削機				(3.4)	内外掘削機	磁石砂中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
367	121	SD493			粘土土掘削機				(8.7)	外周掘削機、内周掘削機	磁石、金鋼屑中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色(土付層)	良好	口掘削機破片	
368	121	SD493			粘土土掘削機				(8.7)	外周掘削機、内周掘削機	磁石、金鋼屑中多量土	5YR7/0鉄屑、褐色、土付層	良好	磁石砂破片	
369	121	SD497			粘土土掘削機			8.7	(5.1)	外周掘削機	磁石砂中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
370	121	SD497			粘土土掘削機				6.7~7.2	外周掘削機	磁石砂中多量土	10YR7/2鉄屑、黄褐色	不良	口掘削機破片	
371	121	SD510			土掘削機	(8.4)	(8.4)		(3.6)	外周掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	10YR7/2鉄屑、黄褐色	良好	口掘削機破片	
372	121	SD510			粘土土掘削機	(8)			(3.7)	2.1	口掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片
373	121	SD521			粘土土掘削機	(13.6)			(3.7)	外周掘削機、内周掘削機	磁石砂、赤褐色中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色(口掘削機)	良好	口掘削機破片	
374	121	SD540			粘土土掘削機	(16.4)			(8.2)	土掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	掘削機破片	
375	121	SD543			土掘削機	(10.4)			(3.2)	土掘削機	磁石砂、赤褐色中多量土	10YR7/2鉄屑、黄褐色	良好	口掘削機破片	
376	122	SD506			内周土掘削機	(21.6)			(3.7)	口掘削機	磁石砂少量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色、土付層	良好	口掘削機破片	
377	122	SD506			内周土掘削機			(19.4)	(3.8)	外周及鉄条線、内周掘削機	磁石砂、赤褐色中多量土	7.5YR6/0鉄屑黄褐色~7.5YR6/2褐色	良好	掘削機破片	
378	122	SD506			内周土掘削機				(8.0)	外周掘削機	磁石、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
379	122	SD506			内周土掘削機				(8.7)	外周及鉄条線、内周掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	5YR7/0鉄屑、土付層	良好	口掘削機破片	
380	122	SD506			粘土土掘削機	(17.2)			(8.0)	外周掘削機、内周掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色、土付層	良好	口掘削機破片	
381	122	SD506			粘土土掘削機				(1.3)	内外掘削機	磁石砂中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
382	122	SD506			粘土土掘削機	(20.6)			(3.3)	口掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色~7.5YR6/0褐色	良好	口掘削機破片	
383	122	SD506			粘土土掘削機			(21.9)	(8.4)	外周掘削機、内周掘削機	磁石、金鋼屑中多量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色、土付層	良好	掘削機破片	
384	122	SD506			粘土土掘削機				(4.7)	土掘削機	磁石砂、赤褐色中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	掘削機破片	
385	122	SD506			粘土土掘削機				(24.9)	外周掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	10YR6/3鉄屑黄褐色~7.5YR6/2褐色、土付層	不良	掘削機破片	
386	122	SD506			土掘削機	(20.3)			(4.4)	口掘削機	磁石砂少量土	7.5YR7/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
387	122	SD506			粘土土掘削機	(19.6)			(8.2)	口掘削機	磁石砂、赤褐色中多量土	7.5YR6/0鉄屑、褐色	良好	口掘削機破片	
388	122	SD506			土掘削機	(11.2)			(4.4)	内外掘削機	磁石砂、金鋼屑中多量土	7.5YR6/0鉄屑黄褐色	良好	口掘削機破片	
389	124	SD507			内周土掘削機	21	23.7	23.3		外周掘削機、内周掘削機	磁石砂中多量土	5YR7/0鉄屑~7.5YR7/4褐色、土付層	良好	掘削機破片	

種名 番号	Fg	PL	土土種別	土土性質	標本-種別	設置 cm				用途	肥料	開成色	開成	備考状況
						口	厚	幅	高さ					
390	134	90	SO607		関東文土-赤	18.6	20.7	6.8	20.4	外周具縁条、下等は赤縁条 コナダ、内周具縁条縁条 コナダ	磁砂赤-赤褐色色子-黒 色赤子や多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐 褐色、内周上半全土入付	良好	磁砂赤
391	134	90	SO607		関東文土-赤	17.8	19	7.2	24.2	内周具縁条、内周具縁条 縁条とコナダ	磁砂赤-黒褐色赤子多く 含む、赤土層、赤褐色 赤子多く含む	7.5YR7/4黄赤-褐 褐色、土層上部全土入付、 黒子多量含む	良好	磁砂赤
392	134	90	SO607		関東文土-赤	(19.8)	(20.2)	(6.8)	(15.9)	外周具縁条、内周コナダ	磁砂赤-黒褐色赤子や中 少に含む	7.5YR7/4黄赤-褐褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10残存
393	134	90	SO607		関東文土-赤	(20)	(20)	(6.8)	(6.8)	外周具縁条、内周コナダ	磁砂赤-黒褐色赤子少量 含む	6YR7/3黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10残存
394	134	90	SO607		関東文土-赤	21	22.5	7.3	26.7	外周具縁条縁条、内周コナ ダ	磁砂赤や中少に含む	10YR7/4黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	磁砂赤
395	134	90	SO607		関東文土-赤	20.8	24.2	(6.8)	(6.8)	外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子中 少に含む	7.5YR7/6黄赤-褐褐色、赤土層 土層上部	良好	胴下半部10残存
396	134	90	SO607		関東文土-赤	(21.6)	(21.6)	(4.6)	(4.6)	外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部11残存
397	134	90	SO607		関東文土-赤	(16)	(16)	(6.8)	(6.8)	外周具縁条縁条、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
398	134	90	SO607		関東文土-赤	21.8	(16.6)	(16.6)	(16.6)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
399	134	90	SO607		関東文土-赤	19.8	(21)	(21)	(21)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子、赤 褐色赤子少量含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
400	134	90	SO607		関東文土-赤	(16)	(16)	(6.8)	(6.8)	外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10残存、 一帯残存
401	134	90	SO607		関東文土-赤	14.6	(11)	(11)	(11)	外周具縁条、内周コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子-赤 褐色赤子や中少に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部4.5、胴部 以外残存
402	134	90	SO607		関東文土-赤	(11.2)	(11.2)	(11.2)	(11.2)	外周具縁条、内周コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子多量 含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部縁部、胴部 残存
403	134	90	SO607		関東文土-赤	(7)	(6.8)	(6.8)	(6.8)	内外周具縁条、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
404	125	90	SO607		粘土土-赤	21.8	19.8	7.2	26	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子多量 含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	磁砂赤
405	125	90	SO607		粘土土-赤	(27)	(27)	(6.8)	(6.8)	外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10残存、 磁砂赤
406	135	90	SO607		関東文土-赤	(40.4)	(39.4)	(17.0)	(17.0)	口縁部コナダ、胴部コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子多量 含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10残存、 胴部残存
407	125	90	SO607		粘土土-赤	19.8	37.3	10	37.1	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子、赤 褐色赤子多量に含む	外-内周コナダ、赤褐色赤子 多量に含む	良好	磁砂赤
408	125	90	SO607		粘土土-赤	(32.2)	(32)	(32)	(32)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部、大蓋、磁砂赤
409	125	90	SO607		粘土土-赤	(11)	(4)	(4)	(4)	内外周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10残存
410	125	90	SO607		粘土土-赤	(6.4)	(6.4)	(6.4)	(6.4)	内外周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	10YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部縁部、磁砂赤
411	125	90	SO607		粘土土-赤	(32)	(8.4)	(17.1)	(17.1)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部半分以下、 胴部以下以外残存
412	135	90	SO607		粘土土-赤	(14.6)	(14.6)	(14.6)	(14.6)	内外周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
413	125	90	SO607		粘土土-赤	(20)	(21.4)	(21.4)	(21.4)	外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤-黒褐色赤子多量 含む	2.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
414	127	94	SO605		粘土土-赤	5.4	12.6	4.8	12.6	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤-赤褐色赤子少量 含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
415	127	94	SO605		粘土土-赤	(13.0)	(6.8)	(6.8)	(6.8)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
416	127	94	SO605		粘土土-赤	(12.1)	(6.8)	(6.8)	(6.8)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10残存
417	127	94	SO605	20x下蓋	粘土土-赤	11.4	16.0	(3.6)	14.7	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤-赤褐色赤子少量 含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋3/4 残存
418	127	94	SO605		粘土土-赤	13.7	17.2	3.8	17.7	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤-黒褐色赤子多量 含む	10YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
419	127	94	SO605	30x上蓋	粘土土-赤	(13.6)	(10.6)	(10.6)	(10.6)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
420	127	94	SO605	向山部	粘土土-赤	13.7	18	18.4	18.4	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	10YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
421	127	94	SO605		粘土土-赤	(16)	(18.1)	(14.2)	(14.2)	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	10YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
422	127	94	SO605		粘土土-赤	19.4	25.3	(7.4)	26.1	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	6YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
423	127	94	SO605		粘土土-赤	25.5	7.0	(26.0)	(26.0)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10、大蓋1/2 残存
424	127	94	SO605	25x上蓋	粘土土-赤	(20)	(6.8)	(6.8)	(6.8)	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
425	127	94	SO605	突出部分	粘土土-赤	(27.4)	(17.7)	(17.7)	(17.7)	内外周コナダ、内周コナ ダ	磁砂赤赤子多量に含む	2.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部縁部
426	127	94	SO605		粘土土-赤	14.6	15.9	4.9	20.2	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10、大蓋1/2 残存
427	128	98	SO605		粘土土-赤	17.3	18.9	4.7	24.3	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
428	128	98	SO605	25x	粘土土-赤	(18.2)	(4.8)	(4.8)	(4.8)	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	口縁部10、大蓋1/2 残存
429	128	94	SO605		粘土土-赤	20.4	23.0	8.9	32.7	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10、大蓋1/2 残存
430	128	94	SO605		粘土土-赤	20.8	23.1	7.8	(30)	口縁部外周コナダ、胴部上 半コナダ、下半コナダ、 胴部内周コナダ	磁砂赤赤子多量に含む	7.5YR7/6黄赤-褐色、赤土層 土層上部	良好	胴部10、大蓋1/2 残存

通訳番号	Fg.	PL	山土通称	山土位置	種類・部材	距離 cm (山内位置)				用途	禁止	外観色調	産地	備考・取引	
						口内	口外	山内	山外						
431	128	85	SO606	衛生土層-樹			(20.0)	8.1	(23.2)	外周部は上中層付着付、下層付着付あり、外周付、内周部は樹皮、中央部、樹皮付、下層付着付あり	紙粉砕少量含む	7.5YR6/6黄褐色→7.5YR4/6暗褐色、黒褐色	良好	銅線100g貯	
432	128	85	SO606	衛生土層-樹			14.2	23.5	(28.0)	口縁部は付着付、外周部は付着付、中央部、樹皮付、下層付着付あり	紙粉砕-全量付着付少量含む	7.5YR6/6黄褐色→7YR7/6暗褐色、黒褐色	良好	産地不明産地不明に類似、文相付下層付着付あり	
433	128		SO605	3区下層			(25.4)		(10.4)	口縁部内外周付、外周部は付着付、中央部、樹皮付、下層付着付あり	紙粉砕-赤褐色粒子少量含む	5YR7/6暗褐色→5YR7/3暗褐色、黒褐色	良好	口縁部-赤褐色上層1/12貯	
434	128	85	SO605	衛生土層-樹			27.1	7.9	7.3	外周部は付着付、内周付、口縁部は付着付、中央部、樹皮付	紙粉砕少量含む	5YR7/6暗褐色	良好	口縁部-赤褐色上層1/12貯	
435	129		SO605	衛生土層-樹皮					(14.1)	外周部付、内周付、口縁部は付着付、中央部、樹皮付	砂粒、金属屑や多量含む	5YR6/6暗褐色→7.5YR6/3暗褐色	良好	銅線100g貯	
436	128		SO605	3区下層			(9.8)		(7.5)	口縁部内外周付、外周部付、内周付、中央部、樹皮付	紙粉砕わずかに含む	10YR8/1灰白色	良好	口縁部1/14貯	
437	128	85	SO606	3区下層			13		4.8	口縁部内外周付	紙粉砕少量含む	7.5YR6/6黄褐色	良好		
438	129		SO606	3区上層			13.6	4.2	4.5	内外周付	紙粉砕少量含む	10YR8/4黄褐色	良好		
439	129		SO608	3区下層			13.4		3.1	内外周付	紙粉砕少量含む	5YR7/6暗褐色→5YR6/2暗褐色	良好		
440	129		SO605	3区下層					(3.2)	付着付、黒褐色付	紙粉砕多量含む、黒褐色粒子・赤褐色粒子少量含む	7.5YR6/6黄褐色	良好	銅線貯	
441	129		SO487	衛生土層-樹					(8.2)	外周部は付着付、内周付	硝子、砂粒、金属屑をわずかに含む	5YR6/4暗褐色	良好	銅線小破片	
442	129		SO605	3区上層			(27.1)			外周付、内周付	硝子砂粒-金属屑や多量含む	5YR7/4暗褐色→5YR6/6暗褐色、赤褐色	良好	口縁部1/1貯	
443	129		SO605	3区上層			(18.1)		(12.0)	口縁部内外周付、外周部は付着付、内周付	紙粉砕及び金属屑や多量含む	7.5YR6/6暗褐色→7.5YR6/3暗褐色	良好	口縁部-黒上層1/12貯	
444	129		SO605	3区下層			(25.4)		(8.6)	内外周部は付着付、内周付	紙粉砕少量含む	7.5YR6/6暗褐色→7.5YR6/2暗褐色(5)	良好	口縁部-黒上層1/12貯、銅線貯	
445	129		SO605	3区上層			(23.4)		(4.35)	内外周部は付着付、内周部は付着付	硝子、砂粒、金属屑や少量含む	7.5YR6/6黄褐色	良好	口縁部1/10貯、銅線貯	
446	131	90	SO388	1区土層付上層	土製品-椰子	長(3.7)		約径7.4	厚6(2.6)	椰子殻、椰子殻の皮	紙粉砕多量含む	2.5Y5/2灰白色	良好	口縁部付着付、銅線貯	
447	131	90	SO388	1区土層付上層	土製品-椰子	長(5.9)		約径8(5.3)	厚6(2.7)	椰子殻	紙粉砕少量含む	10YR6/2灰白色	良好	内周部付着付、銅線貯	
448	131		SO388	1区土層付下層	土製品-椰子の残片	長(5.5)				椰子殻の皮	砂粒少量含む	10YR6/2灰白色	良好	内周部付着付、銅線貯	
449	131		SO388	1区下層	不明物土層	長(6.1)		幅(2.5)	厚6(2.5)	椰子殻	紙粉砕少量含む	5YR1/1灰白色	良好		
450	131		SO388	1区土層付下層	不明物土層	長(7.4)		幅(2.6)	厚6(2.4)	椰子殻	紙粉砕少量含む	2.5Y6/1灰白色	普通	灰化する	
451	131		SO471	土製品-鉄器	長(2.6)		幅(1.9)	厚(0.6)	厚(0.7)	鉄器	硝子	10YR6/2灰白色	普通	2区貯	
452	131	90	SO607	土製品-鉄器			幅(1.5)	厚(0.4)	厚(1.5)	丁子木(1)	硝子貯	2.5Y5/2灰白色	良好	3区貯	
453	136		SK984	衛生土層-高坪						硝子、硝子内周付	紙粉砕多量含む	10YR6/3黄褐色	普通	銅線貯	
454	136		SK984	土層部-混合					(14.2)	外周部は付着付、内周付、中央部、樹皮付	硝子	7.5YR7/6暗褐色	普通	銅線貯	
455	136		SK984	土層部-高坪					(11.4)	外周部は付着付、内周付	硝子	7.5YR6/6暗褐色	普通	銅線貯	
456	136		SK984	衛生土層-高坪						外周部	紙粉砕わずかに含む	5YR6/4暗褐色	良好	銅線	
457	136		SK984	3区下層	土層部-高坪			(13.1)		内外周付、中央部、樹皮付	砂粒多量含む	10YR7/2暗褐色	良好	銅線貯	
458	136		SK984	土層部-高坪			(10.2)		(4.8)	外周部	紙粉砕少量含む	7.5YR6/2暗褐色	良好	口縁部1/10貯	
459	136		SK984	土層部-高坪			(2.9)			内外周付	紙粉砕多量含む	7.5YR6/6暗褐色	良好	口縁部1/10貯	
460	136		SK984	3区下層	土層部-高坪			(4.3)		外周付、内周付	硝子	7.5YR7/6暗褐色	良好	口縁部1/14貯	
461	136		SK984	3区下層	土層部-高坪			(12.2)		外周部、内周付	硝子	7.5YR7/6暗褐色	良好	口縁部1/10貯	
462	136	87	SK984	衛生土層-高坪			(11.5)	(11.8)	(7.3)	外周部は付着付、内周部は付着付	砂粒少量含む	7.5YR6/1黄褐色	良好	銅線	
463	136		SK984	3区下層	土層部-高坪			(19.2)		外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕少量含む	2.5Y5/2灰白色	良好	1/8貯	
464	136	87	SK984	3区下層	土層部-高坪	(17)		(21.4)		外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕少量含む	10YR7/2暗褐色	良好	口縁部-黒上層1/12貯	
465	136		SK984	3区下層	土層部-高坪			(17.4)		内外周付	硝子貯	10YR7/2暗褐色	良好	口縁部1/10貯	
466	136		SK648	衛生土層-樹						内外周付	硝子貯	10YR6/3黄褐色	普通	底面貯	
467	136		SK608	衛生土層-樹						外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕多量含む	5YR6/4暗褐色	普通	銅線	
468	139	87	SK680	衛生土層-樹			23.2	22.8	20.3	外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕、黒褐色粒子少量含む	7.5YR6/6暗褐色、入付層	良好	口縁部-銅線貯	
469	139	87	SK680	衛生土層-樹			21	23.2	22	内外周部は付着付、内周部は付着付	砂粒少量含む	10YR6/2黄褐色→10YR7/3暗褐色、黄褐色	良好	口縁部-銅線貯	
470	139	87	SK680	衛生土層-樹			(18)	(20)	(13.5)	内外周付、二条角等	紙粉砕や多量含む	7.5YR6/6暗褐色→7.5YR6/3暗褐色、入付層	良好	口縁部-銅線貯	
471	139		SK680	衛生土層-樹					(4)	外周部は付着付、内周部は付着付	砂粒少量含む	10YR7/2暗褐色	良好	口縁部破片	
472	139	87	SK680	衛生土層-樹			22	20.6	7.8	25.5	外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕や多量含む、黒褐色粒子・金属屑や多量含む	10YR6/3黄褐色→10YR6/4暗褐色、銅線貯	良好	口縁部1/1貯
473	139	87	SK680	衛生土層-樹			21	20.4	8.8	28	外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕-赤褐色粒子少量含む	10YR7/2暗褐色	良好	口縁部1/1貯
474	139	87	SK680	衛生土層-樹			(22.6)	(20.2)	(7.8)		外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕-全量付着付多量含む	10YR6/1灰白色	良好	口縁部-銅線貯
475	139	87	SK680	衛生土層-樹					(7.9)	外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕-黒褐色粒子少量含む	7.5YR6/4暗褐色	良好	底面-銅線貯	
476	139		SK680	衛生土層-樹			(41.6)	(26.3)	(21.8)	内外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕多量含む	7.5YR6/6暗褐色→10YR6/4暗褐色、口縁部破片	良好	口縁部-銅線貯	
477	139		SK680	衛生土層-高坪			(25.4)		(15.8)	(17)	内外周部は付着付、内周部は付着付	紙粉砕-黒褐色粒子・黒褐色粒子少量含む	10YR7/2暗褐色	良好	口縁部-銅線貯
478	139	87	SK680	衛生土層-高坪			(28.4)	(23.4)	(12.4)	内外周部は付着付、内周部は付着付	砂粒、金属屑、金属屑少量含む	2.5YR7/2黄褐色→2.5YR6/3暗褐色	良好	口縁部-銅線貯	

報告番号	Fig.	PL	出土遺跡	出土位置	遺物・遺跡	数量 (個)			用途	粘土	片割線	焼成	保存状況	
						口	底	蓋						
479	139	SK460	弥生文土層-高野山遺跡	(西)	弥生土器-須賀			(2)	(8)	内外両面黒色染	黒色粘土少量含む	10YR7/3黒黄緑-10YR7/1黒黄緑	良好	口縁部1/10焼存
480	139	SK460	弥生文土層-高野山遺跡	(西)	弥生土器-須賀			(2)	(8)	内外両面黒1.5.染あり	磁粉粘土多量含む	10YR7/3黄黄緑-10YR7/3黄黄緑	良好	肩上部1/10焼存
481	139	SK460	弥生土器-須賀	(西)	弥生土器-須賀			(2)	(3)	内外両面黒色染	磁粉粘土多量. 黒黄緑土. 全量焼く少含む	口縁部7.5YR7/3黄黄緑. 他7.5YR7/3黄黄緑	良好	口縁部1/10焼存
482	139	SK460	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(2)	(1)	内外両面赤1.5	内外両面赤1.5	10YR7/3黄黄緑-10YR7/1黒黄緑(内面染あり)	良好	口縁部破片. 小破片. 骨付1式
483	139	SK460	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(2)	(2)	内面赤1.5. 磁石	内面赤1.5. 磁石	10YR7/3黄黄緑	良好	口縁部1/10焼存
484	139	SK460	弥生土器-須賀	(7)	弥生土器-須賀			(2)	(2)	内外両面赤1.5	内外両面赤1.5	10YR7/3黄黄緑-10YR7/3黄黄緑	良好	肩上部1. 骨付1. 口縁部1/10焼存
485	139	SK460	弥生土器-須賀	(14)	弥生土器-須賀			(2)	(2)	内外両面赤1.5	磁石	10YR7/3黄黄緑. 内外両面赤1.5	良好	口縁部1/4焼存. 骨付1式
486	139	SK460	弥生土器-須賀	肩田(2)	弥生土器-須賀			(2)	(2)	外赤1.5	磁石	10YR7/3黄黄緑-10YR7/2-4黄黄緑. 黒色染あり	良好	肩田破片. 骨付1式
487	139	SK460	弥生土器-須賀	肩田(2)	弥生土器-須賀			(2)	(7)	外赤1.5	磁石	2.5YR7/4黄黄緑. 赤少量含む	良好	肩田1. 骨付1式
488	139	SK460	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(2)	(1)	外赤1.5	磁石	2.5YR7/4黄黄緑. 赤少量含む	良好	肩田1. 骨付1式
489	139	SK460	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(2)	(8)	内外両面赤1.5	磁粉粘土. 黒色粘土多量含む	10YR7/3黄黄緑. 黄黄緑. 内外上方面. 外赤少量染あり	良好	底部のみ
490	140	SK462	弥生土器-須賀	(21)	弥生土器-須賀			(2)	(8)	内外両面赤1.5	磁粉粘土. 黒色粘土多量含む	2.5YR7/4黄黄緑-10YR7/4黄黄緑	良好	底部1/10焼存
491	140	SK462	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(2)	(7)	内外両面赤1.5	磁粉粘土多量含む	10YR7/3黄黄緑-10YR7/4黄黄緑	良好	口縁部1/10焼存
492	140	SK462	弥生土器-須賀	(10)	弥生土器-須賀			5.4	8.6	内外片	磁粉粘土含む	7.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部3/4. 肩田1/2含む
493	140	SK462	弥生土器-須賀	(20)	(21)			(10)	(8)	外赤1.5	磁粉粘土. 黒色粘土多量含む	5YR7/3黄黄緑-10YR7/3黄黄緑	良好	口縁部1. 肩中部1/10焼存. 骨付1式
494	140	SK462	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			8.4	(7)	外赤1.5	磁粉粘土多量含む	10YR7/4黄黄緑-10YR7/3黄黄緑	良好	肩部1. 肩下部. 骨付1式
495	140	SK462	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(2)	(2)	外赤1.5	磁粉粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部破片
496	140	SK462	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(4)	(4)	外赤1.5	磁粉粘土	2.5YR7/4黄黄緑	良好	頸部破片1/10焼存
497	140	SK462	弥生土器-須賀	(2)	(2)			(2)	(2)	内外赤1.5	磁粉少量含む	10YR7/3黄黄緑-10YR7/3黄黄緑	良好	口縁部破片. 骨付1式
498	140	SK468	弥生土器-須賀	(2)	(2)			(2)	(2)	内外両面赤1.5	磁石	10YR7/3黄黄緑	良好	口縁部1. 4/10焼存
499	140	SK468	弥生土器-須賀	(2)	(2)			(7)	(7)	内外赤1.5	磁粉粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑-7.5YR7/3黄黄緑	良好	口縁部1/10焼存. 骨付1式
500-500	140	SK468	弥生土器-須賀	肩田(2)	弥生土器-須賀			(2)	(2)	外赤1.5	磁粉粘土多量. 黒黄緑粘土. 赤少量. 赤褐色粘土少量含む	2.5YR7/4黄黄緑-2.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部破片. 肩上部1/10焼存
501	140	SK468	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			11.8	(8)	外赤1.5	磁粉粘土多量含む	5YR7/3黄黄緑-5YR7/4黄黄緑	普通	肩部. 大破片. 骨付1式
502	140	SK468	弥生土器-須賀		弥生土器-須賀			(10)	(2)	外赤1.5	磁粉粘土多量含む	5YR7/3黄黄緑	良好	底部1/4. 破片. 骨付1式
504	142	SK488	弥生土器-須賀	20	22.4	7.8	(19)			外赤1.5	磁粉粘土多量. 黒色粘土. 赤褐色粘土. 赤少量含む	5YR7/3黄黄緑. 又付録	良好	破片2形
505	142	SK488	弥生土器-須賀	18.8	20	7.8	23.8			外赤1.5	磁粉粘土多量(赤). 黒色粘土多量含む	10YR7/3黄黄緑-10YR7/3黄黄緑	良好	底部
506	142	SK488	弥生土器-須賀	18	18		(17.6)			外赤1.5	磁粉粘土多量(赤). 黒色粘土多量含む	5YR7/3黄黄緑. 又付録	良好	口縁部1. 肩中部焼存
507	142	SK488	弥生土器-須賀	21	19.8	7.5	22.8			外赤1.5	磁粉粘土多量(赤). 黒色粘土多量含む	5YR7/3黄黄緑. 又付録	良好	底部
508	142	SK460	弥生土器-須賀	19	16.2	(5)	20			外赤1.5	磁粉少量. 黒色. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑-7.5YR7/4黄黄緑	良好	破片2形
509	142	SK460	弥生土器-須賀	22	18.2	7.2	21.6			外赤1.5	磁粉少量含む	6YR7/3黄黄緑. 上赤少量含む	良好	底部
510	142	SK460	弥生土器-須賀	20	18.8	7.4	(20)			外赤1.5	磁粉少量含む. 黒色. 赤褐色粘土多量含む	5YR7/3黄黄緑-6YR7/3黄黄緑	良好	破片2形
511	142	SK468	弥生土器-須賀	22	20.8	7.2	25.2			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	5YR7/4黄黄緑. 又付録	良好	底部
512	142	SK468	弥生土器-須賀	18	19		(24.8)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	2.5YR7/4黄黄緑-2.5YR7/4黄黄緑	良好	底部破片2形
513	143	SK468	弥生土器-須賀	(19.2)	18.4		(16.1)			外赤1.5	磁粉少量. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑. 他. 全赤. 又付録	良好	口縁部1. 肩上部焼存
514	143	SK468	弥生土器-須賀	19.8	20.8		(18.8)			外赤1.5	磁粉少量. 赤褐色粘土多量含む	2.5YR7/4黄黄緑-2.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部1. 肩上部1/4焼存
515	143	SK460	弥生土器-須賀		18.4	7	(17.2)			外赤1.5	磁粉少量. 赤褐色粘土多量含む	6YR7/4黄黄緑. 又付録	良好	肩上部1. 骨付1/10焼存
516	143	SK468	弥生土器-須賀	22			(20.8)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑-7.5YR7/4黄黄緑	良好	破片2形
517	143	SK460	弥生土器-須賀	(20)			(22.2)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	6YR7/4黄黄緑. 他. 又付録	良好	口縁部1. 肩中部1/4
518	143	SK468	弥生土器-須賀	15.8			(10.4)			外赤1.5	磁粉少量. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑-7.5YR7/3黄黄緑	良好	口縁部1. 肩上部1/10焼存
519	143	SK468	弥生土器-須賀	(20)			(4.7)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	6YR7/4黄黄緑-7.5YR7/3黄黄緑	良好	口縁部破片
520	143	SK468	弥生土器-須賀	(20)			(3.8)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部破片
521	143	SK468	弥生土器-須賀	(20)			(1.1)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部破片
522	143	SK468	弥生土器-須賀	(14)			(2)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑. 他. 骨付1式	良好	口縁部破片
523	143	SK468	弥生土器-須賀	(18.8)			(3.3)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	6YR7/1黄黄緑	良好	口縁部破片
524	143	SK468	弥生土器-須賀	(20)			(3.8)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	6YR7/4黄黄緑-7.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部破片
525	143	SK468	弥生土器-須賀	(17)			(3)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑-7.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部破片
526	143	SK468	弥生土器-須賀				(3.3)			外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	7.5YR7/4黄黄緑-7.5YR7/4黄黄緑	良好	口縁部破片
527	143	SK468	弥生土器-須賀				9.1	(2)		外赤1.5	磁粉少量含む. 赤褐色粘土多量含む	6YR7/4黄黄緑-7.5YR7/4黄黄緑	良好	底部

符号番号	Fig.	FL	出土遺跡	出土位置	器種・器材	直径 cm (口径・高さ)				用途	胎土	外装色調	焼成	保存状況
						口径	高さ	口径	高さ					
526	143	SK466	弥生文土器					(7)	(2.1)	外周12? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	SYR06黄褐色	良好	底面破片
529	143	SK466	弥生土器					(8)	(10.4)	外周19? 内周10? 2?	磁器胎多量含む、黄色胎土多量含む	2.SYR7/20黄褐色→2.SYR7/30黄褐色、黒褐色	良好	胴下第一直線1/2破片、板付式
530	144	SK466	弥生土器	(10.6)				(8.9)		外周19? 内周10? 2?	残片、磁器胎多量含む	7.SYR02黒色、内外黄褐色	良好	口縁破片
531	144	SK466	弥生土器					(4.9)		外周12? 内周10? 2?	残片、磁器胎多量含む	7.SYR04黄褐色、黒褐色	良好	口縁破片、板付式
532	144	SK466	弥生土器					(3.7)		内周10? 内周10? 2?	磁器胎多量含む、赤褐色胎土多量含む	2.SYR5黄褐色、内外内黄褐色	良好	口縁破片
533	144	SK466	弥生土器				8	(1.8)		内周10? 2?	残片、磁器胎多量含む	6.YR11黄褐色	良好	底面、板付式
534	144	SK466	弥生土器					(8.1)		外周12? 内周10? 2?	残片、磁器胎多量含む	7.SYR02黄褐色、黒褐色	良好	頸部破片1/4破片
535	144	SK466	弥生土器					(12.1)		内周10? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR04黄褐色→7.SYR06黄褐色	良好	口縁部、胴部、底面破片、板付式
536	144	SK466	弥生土器				19.5	7.4	(10.8)	外周19? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	10.YR6黄褐色、黒褐色	良好	胴部第一直線1/2破片
537	144	SK466	弥生土器					(4.4)		外周19? 内周10? 2?	残片、磁器胎多量含む	6.YR22白→5.YR7.2黄褐色	良好	胴部破片、板付式
538	144	SK466	弥生文土器					(4.5)		内外残片	磁器胎、黄色胎土含む	7.SYR02黒色、黄色胎土	良好	胴部破片
539	144	SK466	弥生土器					(7.5)		外周12? 内周10? 2?	残片、磁器胎多量含む	7.SYR02黄褐色→7.SYR04黄褐色	良好	胴部破片
540	144	SK466	弥生土器					(1.9)		外周19? 内周10? 2?	残片、磁器胎多量含む	7.SYR7/20黄褐色→7.SYR02黄褐色	良好	胴部破片
541	144	SK466	弥生土器	(40)				(23.7)		外周19? 内周10? 2?	磁器胎多量含む、赤褐色胎土多量含む	10.YR6黄褐色、丹色、黒褐色	良好	胴部1/4破片、底面
542	144	SK466	弥生文土器	(18.6)	(17.8)			(9)		内外周19? 2?	残片、磁器胎多量含む	7.SYR02黒色、内外黄褐色	良好	口縁破片
543	144	SK466	弥生文土器	(16.6)	(16.4)			(8.3)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む、赤褐色胎土多量含む	5.YR11黄褐色	良好	口縁部一隅1/2破片
544	144	SK466	弥生文土器	(21)	(18.4)			(4.5)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	10.YR7.2黄褐色	良好	口縁部1/2破片、底面の写像のみ
545	144	SK466	弥生土器	(18.4)	(18)			(8.8)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む、黒褐色胎土多量含む	10.YR6黄褐色→7.SYR02黄褐色、丹色	良好	口縁部1/2破片、板付式
546	144	SK466	弥生土器	(22.4)	(18.4)			(8.1)		内外周19? 2?	残片、磁器胎多量含む	10.YR11黄褐色、外周黄褐色	良好	口縁部1/2破片、板付式
547	148	SK462	弥生土器	(13.6)				(4.3)		外周19? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	6.YR4黄褐色→5.YR7.2黄褐色	良好	口縁部1/2破片
548	148	SK462	弥生土器	(13.6)				(4.3)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	6.YR4黄褐色→6.YR4黄褐色、スズ付	良好	口縁部1/2破片
549	148	SK464	弥生土器					(8.2)		外周12? 内周10? 2?	磁器胎少量含む	10.YR6黄褐色	良好	口縁破片、板付式
550	148	SK464	弥生土器					11.2	(7.7)	外周12? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR06黄褐色	良好	胴部、大股部、板付式
551	148	SK464	弥生文土器					(9)		外周12? 内周10? 2?	磁器胎少量含む	10.YR11黄褐色	良好	口縁破片
552	148	SK464	弥生文土器					(2.9)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR7/20黄褐色→7.SYR06黄褐色	普通	口縁破片
553	148	SK464	土層					(9.4)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	10.YR6黄褐色→2.SYR7.2黄褐色	良好	底面
554	148	SK464	土層					(8.9)	(2.2)	外周12? 2?	磁器胎多量含む	10.YR6黄褐色→10.YR7.2黄褐色	良好	底面1/2破片
555	148	SK464	土層					(8.4)	(8.8)	内周12? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR7/20黄褐色→7.SYR04黄褐色	良好	底面、板付式?
556	148	SK466	弥生文土器	(20)				(8.8)		内外周19? 2?	磁器胎少量含む	10.YR11黄褐色	良好	口縁部1/2破片
557	148	SK466	弥生文土器					(8.8)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	6.YR11黄褐色→6.YR14黄褐色	良好	口縁破片
558	148	SK466	弥生文土器					(4.7)		外周12? 内周10? 2?	磁器胎少量含む	6.YR11黄褐色→10.YR6黄褐色	良好	口縁破片
559	148	SK466	弥生文土器					(8.5)		外周12? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	10.YR7.2黄褐色、赤褐色、赤褐色	良好	口縁破片
560	148	SK466	弥生文土器					(9)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	10.YR11黄褐色	良好	口縁破片
561	148	SK466	弥生文土器					(8.3)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	10.YR11黄褐色	良好	口縁破片
562	148	SK466	弥生文土器					(8.8)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	6.YR7黄褐色	良好	口縁破片
563	148	SK466	弥生文土器					(6)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR7/20黄褐色→7.SYR7/20黄褐色	良好	胴部破片
564	148	SK466	弥生文土器					(12)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR7/20黄褐色→7.SYR02黄褐色	良好	口縁破片
565	148	SK466	弥生文土器					(2.9)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	10.YR11黄褐色	良好	胴部破片
566	148	SK466	弥生土器					(8.1)		外周19? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	6.YR11黄褐色→6.YR11黄褐色	良好	口縁破片、板付式
567	148	SK466	弥生土器					(8.4)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	10.YR6黄褐色、口縁部近縁部含む	良好	口縁破片、板付式
568	148	SK466	弥生土器					(2.1)		外周12? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR7/20黄褐色→7.SYR14黄褐色	良好	口縁破片、板付式
569	148	SK466	弥生土器					(8.2)		外周19? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	7.SYR11黄褐色→7.SYR14黄褐色、黒褐色	良好	胴部、胴上直線1/2破片、板付式
570	148	SK466	弥生土器					(8)		外周12? 2?	磁器胎多量含む	10.YR6黄褐色→7.SYR14黄褐色、黒褐色	良好	口縁部一隅1/2破片、板付式
571	148	SK466	弥生土器	(24)	(21.5)			(8)		外周12? 2?	磁器胎多量含む	2.SYR06黄褐色→7.SYR14黄褐色、スズ付	良好	口縁部1/2破片、板付式
572	148	SK466	弥生土器	(29)				(4.5)		内外周19? 2?	磁器胎多量含む	6.YR6黄褐色	良好	口縁部1/2破片、板付式
573	148	SK466	弥生土器					7.4	(8.8)	外周12? 2?	磁器胎少量含む	7.SYR06黄褐色	良好	胴部破片、板付式
574	148	SK466	弥生土器					(1.8)		内外周19? 2?	残片	6.YR7.2黄褐色→7.SYR02黄褐色	良好	口縁破片、板付式
575	148	SK466	弥生土器					7	(3.2)	外周12? 2?	残片	10.YR7.2黄褐色→10.YR6黄褐色	良好	胴部、胴上直線1/2破片
576	148	SK466	1区	弥生土器				(8.4)	(4.4)	外周19? 内周10? 2?	磁器胎多量含む	2.SYR06黄褐色→6.YR14黄褐色	良好	底面1/2破片

報告書 番号	Fig.	PL	出土地層	出土位置	器種・磁種	径長 cm (2次元径)				調整	胎土	外側色調	焼成	備考及び注
						口径	底径	高さ	長さ					
577	146	SK486	弥生土層-遺					(1.6)	内外面磁27°	磁砂物多量含C	5YR5/6純い黄褐色	良好	口縁部磁片、腹式1式	
578	146	SK486	弥生土層-遺			(6)	(5.5)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	5YR5/6淡黄褐色	良好	底面14磁片、焼成の様式	
579	147	SK500	弥生土層-遺	23.7	23.8	8.5	24		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	5YR5/6淡黄褐色	良好	磁片	
580	147	SK500	弥生土層-遺	(21.4)	(23.4)	8.8	23.4		外面磁27°	磁砂物少量含C	5YR5/6純い黄褐色	良好	口縁-底面	
581	147	SK500	弥生土層-遺	(18.8)	(22.4)		(18.6)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	5YR5/6純い黄褐色	良好	口縁部110-100部14磁片	
582	147	SK500	弥生土層-遺	(18.8)	(20)		(18.6)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	5YR5/6純い黄褐色	良好	口縁-胴部19磁片	
583	147	SK500	弥生土層-遺	(21.8)	(20.2)		(12.8)		内外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	5YR7/4純い黄褐色	良好	口縁部-胴部13磁片	
584	147	SK500	弥生土層-遺	21.4	22.8		(14.7)		外面磁27°	磁砂物少量含C	10YR5/2灰白～10YR7/2-6灰黄褐色	良好	口縁-胴部29磁片	
585	147	SK500	弥生土層-遺	(21.8)	(23.4)		(8.5)		外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR7/4黄褐色	良好	口縁部-胴上部16磁片	
586	147	SK500	弥生土層-遺	(20)	(25.2)		(8)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	5YR7/4純い黄褐色	良好	口縁部-胴上部14磁片	
587	147	SK500	弥生土層-遺		(25.8)		(8.4)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土・赤色粘土多量含C	7.5YR7/4純い黄褐色	良好	胴部中央-胴中部磁片	
588	147	SK500	弥生土層-遺				(8.6)		外面磁27°	磁砂物少量含C	10YR5/1-4純い黄褐色	良好	口縁部磁片	
589	147	SK500	弥生土層-遺				(8.2)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	10YR5/2淡黄褐色	良好	口縁部磁片と胴部突部磁片	
590	147	SK500	弥生土層-遺				(8.8)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	7.5YR7/4黄褐色	良好	胴部中央等磁片	
591	147	SK500	弥生土層-遺				(8.8)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	7.5YR5/6淡黄褐色	良好	胴部中央等磁片、他に同一器種の破片1片あり	
592	147	SK500	弥生土層-遺				(8.8)		外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR7/4純い黄褐色	良好	胴部中央等磁片	
593	147	SK500	弥生土層-遺				(8.3)		内外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR7/4-6純い黄褐色	良好	口縁部磁片、腹付14式	
594	147	SK500	弥生土層-遺			(7.4)	(2.3)		内外面磁27°	磁砂物・黒色粘土・赤色粘土多量含C	7.5YR5/6淡黄褐色	良好	胴部	
595	147	SK500	弥生土層-遺			(4.9)	(2.7)		外面磁27°	磁砂物・赤褐色粘土多量含C	7.5YR5/6淡黄褐色	良好	底面15磁片	
596	147	SK500	弥生土層-遺			7	(2)		外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR5/6淡黄褐色	良好	底面	
597	147	SK500	弥生土層-遺			7.2	(2)		内外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR5/1黄褐色	良好	胴部2磁片	
598	147	SK500	弥生土層-遺			5.8	(2.6)		外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR5/6淡黄褐色	良好	底面、腹付式少	
599	148	SK500	弥生土層-遺	(7)			(1.7)		外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR5/6淡黄褐色	良好	口縁部14磁片、腹付式	
600	148	SK500	弥生土層-遺		(11.4)		(7.8)		外面磁27°	磁砂物少量含C	10YR5/2灰白、5YR7/4黄褐色	良好	胴部-胴上部13磁片、腹付式	
601	148	SK500	弥生土層-遺	(8.5)			(7.2)		外面磁27°	粘土、砂粒少ない	10YR5/2淡黄褐色	良好	口縁部磁片、胴部14磁片、腹付式	
602	148	SK500	弥生土層-遺		(14.2)		(2.2)		外面磁27°	粘土	5YR7/4黄褐色	良好	胴部磁片、腹付式	
603	148	SK500	弥生土層-遺			7.2	(1.6)		外面磁27°	磁砂物・赤褐色粘土多量含C	10YR7/3純い黄褐色	良好	底面、腹付式	
604	148	SK500	弥生土層-遺			5.2	(1.1)		外面磁27°	磁砂物少量含C	7.5YR7/4純い黄褐色	良好	底面、小腹、腹付式	
605	148	SK500	弥生土層-遺				(8.7)		外面磁27°	磁砂物少量含C	10YR5/2灰白～10YR7/2純い黄褐色	良好	口縁部磁片	
606	148	SK500	弥生土層-遺				(8.2)		外面磁27°	磁砂物少量含C	10YR5/1黄褐色	良好	口縁部磁片	
607	148	SK500	弥生土層-遺	14.8	5.3		(8.8)		内外面丁字型	滑沢、磁砂物・黒色粘土・赤褐色粘土多量含C	10YR5/1-3灰白～7.5YR5/6淡黄褐色	良好	胴部中央-胴部中央等磁片、腹付式	
608	148	SK501	弥生土層-遺				(8.8)		外面磁27°	磁砂物多量含C	8YR5/6暗褐色	良好	底面、腹付式	
609	148	SK502	弥生土層-高野				(8.4)		外面磁27°	磁砂物多量含C、赤褐色粘土・黒色粘土多量含C	10YR7/3純い黄褐色	良好	胴部29-12磁片	
610	148	SK508	弥生土層-遺			(9)	(3.6)		外面磁27°	磁砂物多量含C	10YR5/1黄褐色	良好	底面14磁片、腹付式	
611	148	SK508	弥生土層-遺			(13.8)	(3.8)		外面磁27°	磁砂物少量含C	10YR5/6赤褐色	良好	口縁部-胴部15磁片、胴部中央等磁片	
612	148	SK508	弥生土層-高野			(22)	(4.8)		内外面磁27°	砂粒・赤褐色粘土少量含C	5YR5/6赤褐色	良好	胴部14磁片	
613	148	SK508	弥生土層-遺			(7.8)	(4.7)		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	10YR5/2灰白～黄褐色	良好	底面19磁片	
614	148	SK508	弥生土層-高野				(8.4)		内外面磁27°	砂粒・黒色粘土少量含C	7.5YR5/6純い黄褐色	良好	口縁部磁片	
615	148	SK511	弥生土層-遺	(19.7)	18	8.5	21.3		外面磁27°	磁砂物・黒色粘土多量含C	10YR7/3純い黄褐色	良好	口縁-底面、腹付式	
616	148	SK517	弥生土層-遺				(2.2)		外面磁27°	粘土	2.5YR7/1黄褐色	良好	胴部小磁片、腹付式(腹式)	
617	148	SK517	弥生土層-遺				11.3	(8.4)	外面磁27°	磁砂物・赤褐色粘土多量含C	10YR5/2灰白	良好	底面12磁片	
618	148	SK519	弥生土層-遺			(7.9)	(2.7)		外面磁27°	磁砂物多量含C	7.5YR7/1灰褐色	良好	底面14磁片	

種別 番号	Fp	PL	山土通稱	土仕位置	種類・部位	面積 cm (以下省略)			用途	禁止	外装色調	構造	備考状況
						1F	2F	3F					
818	149		SK300		粘土土層-面	(1.8)		(3.2)	外装中層、内装中層	砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋10段存
828	149		SK300		土層-面	(14.4)		(7.0)	外装中層、内装中層	砂砂り少量含む 7.5YR5/6黄褐色、 外装中層に砂砂り少量含む	良好	扉部-前上層11段 残存	
821	149		SK300		粘土土層-面		幅部 (8.4)	(2.9)	内装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	2.5YR5/6黄褐色	良好	扉部-前上層10段 残存
822	149		SK300		粘土土層-面		(2.4)	(2.4)	外装中層、内装中層、 内装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋10段存
823	149		SK309		土層-小 丸土層	(0.6)	(0.6)	(2.0)	内装中層、外装中層、 内装中層	精流	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋-前上層 17/25残存
824	149		SK344		土層-面	(1.8)		(4.0)	外装中層	砂砂り少量含む	10YR7/2黄褐色	良好	口蓋10段存
826	149		SK344		粘土土層-面			(3.2)	口蓋附近内装中層	砂砂り少量含む 7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部-前上層、 扉部11段	
828	149		SK344		粘土土層-面			(8.4)	外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR7/2黄褐色	良好	扉部-前上層10段 残存
827	149		SK348		粘土土層-面	(12.0)		(3.6)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋17段存、 扉部11段
828	149		SK348		粘土土層-面		幅部 最大 (18.0)		外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	扉部-前上層、 扉部11段
828	149		SK348		粘土土層-面			(4.8)	外装中層、内装中層、 土層中層	砂砂り少量含む	6YR5/6黄褐色	良好	扉部-前上層、 扉部11段
830	149		SK348		陶器土土層- 面			(3.6)	外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部-前上層
831	149		SK348		陶器土土層- 面	(19.2)		(3.6)	外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	2.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋112段存、 扉部11段
832	149		SK348		陶器土土層- 面			(7.2)	外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部-前上層、 扉部11段
833	149		SK348		陶器土土層- 面	(20.7)		(15.0)	外装中層、内装中層、 土層中層	粗砂砂り少量含む 7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部-前上層、 扉部11段	
834	149		SK348		粘土土層-面			(3.6)	外装中層、内装中層、 土層中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部-前上層、 扉部11段
835	149		SK351		粘土土層-面			(6.0)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR7/4黄褐色	良好	口蓋部-前上層
836	149		SK351		粘土土層-面	(20.4)		(2.1)	内外装中層	精流、金砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋112段存
837	149		SK351		粘土土層-面			(0.6)	外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	6YR5/6黄褐色	良好	扉部112段存
838	149		SK352		粘土土層-面	(20.1)		(2.7)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	10YR7/1灰白色	良好	口蓋部112段存
838	149		SK353		粘土土層-面	(17.3)		(0.5)	口蓋部附近中層、 内装中層	粗砂砂り少量含む	10YR8/2灰白色	良好	口蓋部112段存
840	149		SK353		粘土土層-面	(19.3)		(4.8)	口蓋部附近中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部112段存、 扉部11段
841	149		SK353		粘土土層-面	(23.8)		(9.0)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	10YR8/1灰白色	良好	扉部114段存
842	151		SK355		陶器土土層- 面	(18.1)		(1.8)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部14段存、 扉部11段
842	151		SK355		粘土土層-面			(2.4)	内外装中層、口蓋部中層	粗砂砂り少量含む	10YR5/6黄褐色	良好	口蓋14段存、 扉部11段
844	151		SK355		粘土土層-面			(7.3)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	10YR5/6黄褐色	良好	扉部115段存
845	151		SK355		粘土土層-面			(7.5)	内外装中層、外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	扉部115段存
846	151		SK355		粘土土層-面			(11.8)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	6YR5/6黄褐色	良好	扉部115段存
847	151		SK355		粘土土層-面			(12.2)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	10YR7/3黄褐色	良好	扉部115段存
848	151	100	SK355		陶器土土層- 面	27.3	(22.4)	(19.8)	外装中層、内装中層、 土層中層	粗砂砂り少量含む	6YR5/6黄褐色	良好	約11段存、 口蓋部112段存、 扉部11段
849	151		SK355		陶器土土層- 面	(20.0)		(5.9)	外装中層、内装中層、 土層中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部112段存、 扉部11段
850	151		SK355		陶器土土層- 面			(8.8)	外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	6YR5/6黄褐色	良好	口蓋部-前上層、 扉部11段
851	151		SK355		粘土土層-面			(8.0)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部114段存
852	151		SK355		粘土土層-面			(8.2)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	扉部112段存
853	151		SK355		粘土土層-面			(7.2)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	10YR7/3黄褐色	良好	扉部114段存
854	151		SK355		粘土土層-面			(6.0)	内外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	6YR5/6黄褐色	良好	扉部115段
855	151		SK355		粘土土層-面			(7.2)	内外装中層	精流、金砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	扉部115段存
856	151	100	SK355		陶器土土層- 面	(21.4)		(8.2)	内外装中層	精流	10YR3/1黄褐色	良好	口蓋部-前上層14 段存、扉部115段の 可能性あり
857	151		SK355		粘土土層-面	(19.8)		(3.0)	内外装中層、外装中層、 土層中層	砂砂り少量含む	2.5YR7/1灰白色	良好	口蓋部116段存
858	151	100	SK355		粘土土層-面	28.7		(3.3)	内外装中層、口蓋部中層	砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	扉部115段存、口 蓋11段存
859	151		SK355		粘土土層-面	(20.0)		(9.3)	内外装中層、口蓋部中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部115段存
860	151		SK355		粘土土層-面		幅部 最大 (8.1)		内外装中層	粗砂砂り少量含む	2.5YR7/2黄褐色	良好	扉部114段存
861	151		SK355		陶器土土層- 面			(4.0)	外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	10YR8/2灰白色	良好	口蓋部115段存
862	151		SK355		粘土土層-面	(17.2)		(6.8)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部-前上層10段 残存
863	153	100	SK357		粘土土層-面		(18.2)	(18.8)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	約11段存、口蓋 部全欠損
864	153		SK362		粘土土層-面			(12.0)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	10YR8/2灰白色	良好	扉部1112段存
865	153		SK364		粘土土層-面	(29.0)		(2.1)	口蓋部中層	粗砂砂り少量含む	10YR7/2黄褐色	良好	口蓋部117段存
866	153		SK364		粘土土層-面			(7.0)	内外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	2.5YR5/6黄褐色	良好	扉部115段存
867	153		SK364		土層-面	(14.1)		(4.3)	内外装中層、内装中層	粗砂砂り少量含む	2.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部114段存
868	153		SK364		土層-面	(3.0)		(3.8)	内外装中層	砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	口蓋部114段存
869	153		SK366		粘土土層-面			(9.0)	内外装中層	粗砂砂り少量含む	7.5YR5/6黄褐色	良好	扉部
870	154		SK460		土層-面		(4)	(1.1)	??	粗砂砂り少量含む	5YR4/1黄褐色	良好	11段残存
871	154		SK483		土層-面		(3.0)	(?)	??	精流	10YR6/2黄褐色	中々不良	扉部の一部



報告番号	Fig.	PL	土名	土質	採取場所	深さ (cm)			調査	土質	外観色調	構成	保存状況
						口	底	高さ					
872	154	100	SX300	25	土壌計測点	0.0	0.0	0.0	外観: 0.0 "4内面"	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
873	154	100	SX485	15	植物土	0.0	0.0	0.0	崩れ片	褐色	10YR7/1灰白色	塊状	崩れ片
874	154	100	SX300	25	土壌計測点	2.0	2.0	2.0	外観: 0.0 "4内面"	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
875	157	100	SX434	土壌	土壌	11.8	11.8	11.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
876	157	100	SX434	土壌	土壌	14	14	14	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
877	157	100	SX434	土壌	土壌	15.4	15.4	15.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
878	157	100	SX434	土壌	土壌	18.8	18.8	18.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
879	157	100	SX434	土壌	土壌	9.4	9.4	9.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
880	157	100	SX435	土壌	土壌	8	8	8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
881	157	100	SX435	土壌	土壌	8.4	8.4	8.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
882	157	100	SX435	土壌	土壌	11.8	11.8	11.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
883	157	100	SX435-438	土壌	土壌	30.0	30.0	30.0	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
884	157	100	SX435	土壌	土壌	7.4	7.4	7.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
885	157	100	SX435	土壌	土壌	11.2	11.2	11.2	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
886	157	100	SX435	土壌	土壌	11.8	11.8	11.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
887	157	100	SX435	土壌	土壌	34.4	34.4	34.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
888	157	100	SX435	土壌	土壌	8	8	8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
889	157	100	SX435	土壌	土壌	7.0	7.0	7.0	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
890	157	100	SX435	土壌	土壌	7.2	7.2	7.2	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
891	157	100	SX435	土壌	土壌	5.8	5.8	5.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
892	157	101	SX435	土壌	土壌	17.2	17.2	17.2	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
893	158	100	SX435	土壌	土壌	32.0	32.0	32.0	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
894	158	100	SX435	土壌	土壌	20.2	20.2	20.2	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
895	158	100	SX435	土壌	土壌	23.8	23.8	23.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
896	158	100	SX435	土壌	土壌	29.7	29.7	29.7	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
897	158	100	SX435	土壌	土壌	27.8	27.8	27.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
898	158	100	SX435	土壌	土壌	8.8	8.8	8.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
899	158	100	SX435	土壌	土壌	7.8	7.8	7.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
700	158	100	SX435	土壌	土壌	14.8	14.8	14.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
701	158	100	SX435	土壌	土壌	8.4	8.4	8.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
702	158	101	SX436	土壌	土壌	18.8	18.8	18.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
703	158	101	SX436	土壌	土壌	23.8	23.8	23.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
704	158	101	SX436	土壌	土壌	8.4	8.4	8.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
705	158	101	SX436	土壌	土壌	11.8	11.8	11.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
706	158	101	SX436	土壌	土壌	15.8	15.8	15.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
707	158	101	SX436	土壌	土壌	25.8	25.8	25.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
708	158	101	SX436	土壌	土壌	30.7	30.7	30.7	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
709	158	101	SX436	土壌	土壌	41.8	41.8	41.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
710	158	101	SX436	土壌	土壌	23.8	23.8	23.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
711	158	101	SX436	土壌	土壌	13.8	13.8	13.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
712	158	101	SX436	土壌	土壌	22.8	22.8	22.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
713	158	101	SX436	土壌	土壌	15.3	15.3	15.3	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
714	158	101	SX436	土壌	土壌	9.8	9.8	9.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
715	158	101	SX436	土壌	土壌	13.8	13.8	13.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
716	158	101	SX436	土壌	土壌	20.0	20.0	20.0	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
717	158	101	SX436	土壌	土壌	27.4	27.4	27.4	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
718	158	101	SX436	土壌	土壌	28.7	28.7	28.7	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
719	158	101	SX436	土壌	土壌	13.8	13.8	13.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
720	158	101	SX436	土壌	土壌	8.8	8.8	8.8	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
721	158	101	SX436	土壌	土壌	12.0	12.0	12.0	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片
722	158	101	SX436	土壌	土壌	9.5	9.5	9.5	崩れ片	褐色	10YR6/2灰褐色	塊状	崩れ片

報告書番号	Fp	PL	山土濃縮	土土位置	採取・採取	深さ cm (山土深)			採取	抽出	外見色調	性状	備考状況		
						上層	中層	下層							
729	159	101	SK436	下層	山土土層-土層		8.9		3.7	内外混濁砂と土層?	粗砂粒・黒色粘土多量含む	10YR7/2弱い・黄褐色・黒褐色	良好	口縁部堆積物	
724	159	101	SK436	下層	山土土層-土層	(24.0)			(1.8)	内外混濁砂	砂粒多量含む	2.5YR1黄褐色	良好	口縁部1M堆積物	
728	159	101	SK436	下層	山土土層-土層				(8.4)	(13.0)	内外混濁砂?	粗砂粒中量含む	10YR2灰青色	良好	1M堆積物
726	159		SK443		山土土層-土層				(8.2)		外混濁砂・内混濁?	粗砂粒・黒褐色多量含む	10YR2灰青色・口縁部下層に土層	良好	口縁部堆積物
727	159		SK443		山土土層-土層				(8.4)		内外混濁?	粗砂粒多量含む・黒色粘土多量含む	10YR2弱い・黄褐色・土層混濁	良好	口縁部堆積物
728	159		SK458		山土土層-土層				(6.7)		内外混濁砂?	粗砂粒・赤褐色粘土・黒色粘土中量含む	10YR7弱い・黄褐色・土層混濁	良好	口縁部堆積物
729	159		SK458		山土土層-土層				(5.4)		内外混濁砂・黒褐色粘土・黒色粘土中量含む	10YR7弱い・黄褐色・土層混濁	良好	口縁部堆積物	
730	159		SK458		山土土層-土層				10.0	(3.8)	内外混濁砂・黒褐色粘土・黒色粘土中量含む	10YR2弱い・黄褐色・土層混濁	良好	大塚遺跡	
731	159		SK458		山土土層-土層				(8.0)	(8.4)	外混濁?内混濁?	粗砂粒・黒褐色多量含む	10YR2灰青色・10YR7弱い・黄褐色	良好	小塚遺跡
732	159		SK472		山土土層-土層				3.9	(2.2)	外混濁?内混濁?	粘土	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	
733	159		SK484		山土土層-土層				(13.4)	(12.0)	内外混濁?口縁部内混濁?	粘土・赤褐色粘土少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部片
734	159		SK484		山土土層-土層				(15.0)	(4.2)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒多量含む・赤褐色粘土少量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	羽根遺跡14M堆積物
735	159		SK484		山土土層-土層				(15.0)	(5.0)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒多量含む	5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部17M堆積物
736	181	103	SK528		山土土層-土層				(22.8)	(11.8)	内外混濁砂	粗砂粒多量含む	5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部12M堆積物
737	181	103	SK528		山土土層-土層				(21.2)	(7.5)	内外混濁砂	粗砂粒多量含む	10YR2灰青色	良好	口縁部18M堆積物
738	182	102	SK523		山土土層-土層		7.8	8.9	3.0	7.5	外混濁?内混濁?	粘土	10YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
739	182	102	SK523		山土土層-土層		12.9	3.7	8.5		内外混濁?土層内混濁?	粗砂粒多量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部欠損
740	182	102	SK523		山土土層-土層		(7.4)	(11.2)		(8.8)	外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部11M堆積物
741	182	102	SK523		山土土層-土層		11.4	16.4	3.9	14.8	内外混濁?内混濁?	粗砂粒多量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
742	182	102	SK523		山土土層-土層		(18.8)	(18.8)		(8.3)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒多量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
743	182	102	SK523		山土土層-土層		(18.8)	(18.8)		(10.8)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒多量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
744	182	102	SK523		山土土層-土層		(20)			(12.8)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒多量含む	10YR7弱い・黄褐色	普通	口縁部1M堆積物
745	182	102	SK523		山土土層-土層		(28.7)			(19.2)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒多量含む	10YR7弱い・黄褐色	普通	口縁部1M堆積物
746	182	102	SK523		山土土層-土層		(27)	(27.2)	(8.8)	(36.9)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
747	182	102	SK523		山土土層-土層		(12.0)			(5.2)	口縁部堆積物	粗砂粒多量含む	2.5YR2灰白色・黒褐色	良好	口縁部14M堆積物
748	182	102	SK523		山土土層-土層		(14.3)			(10.5)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
749	182	102	SK523		山土土層-土層		(14.8)	(27.0)	(11)	(22.2)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
750	182	103	SK523		山土土層-土層		(26.4)	(8.4)	(23.2)		内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
751	183	103	SK523		山土土層-土層				(14.0)	(8.8)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
752	183	102	SK523		山土土層-土層		(21.0)			(13.2)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	10YR7弱い・黄褐色	普通	口縁部11M堆積物
753	183	103	SK523		山土土層-土層				5.8	(8.1)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
754	183	103	SK523		山土土層-土層				(18.0)	(13.0)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
755	183	103	SK523		山土土層-土層		(12)			3.55	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	10YR7弱い・黄褐色	普通	口縁部
756	183	103	SK523		山土土層-土層		(12)			3.0~3.85	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	10YR7弱い・黄褐色	普通	口縁部
757	183	103	SK523		山土土層-土層		(15.4)			2.7	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
758	183	103	SK523		山土土層-土層		(15.8)			4.2	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
759	183	103	SK523		山土土層-土層		15.7			3.2	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
760	183	103	SK523		山土土層-土層		(14.4)			(4.7)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	12M堆積物
761	183	103	SK523		山土土層-土層		(13.8)			(8.8)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
762	183	103	SK523		山土土層-土層		(12.2)			(7.7)	内外混濁?	粗砂粒中量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
763	183	103	SK523		山土土層-土層		(19.8)			(2.8)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒中量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
764	183	103	SK523		山土土層-土層					(12.0)	内外混濁?	粘土	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
765	183	103	SK523		山土土層-土層					(4)	内外混濁?	粘土	10YR7弱い・黄褐色	普通	口縁部
766	184	104	SK527		山土土層-土層		(8.4)			(5.1)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
767	184	104	SK527		山土土層-土層					(8.0)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
768	184	104	SK527		山土土層-土層					(7.8)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	5YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
769	184	104	SK527		山土土層-土層					(8.0)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	10YR7弱い・黄褐色	良好	羽部
770	184	104	SK523		山土土層-土層		(24.0)			(8.8)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部
771	184	104	SK523		山土土層-土層					(8.0)	内外混濁?内混濁?	粗砂粒少量含む	7.5YR7弱い・黄褐色	良好	口縁部



報告書番号	Fg	PL	山土通称	山土位置	掘削・部材	深さ m (山頂を0)				用途	出土	外観色調	産地	備考状況	
						口徑	厚さ	長さ	高さ						
831	172		SP0012		掘削	(11.8)			8.4	外周穴ノミ掘削、内周掘削	砂砂少し含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	10片	
832	172		SP0031	R-1	掘削			11.0		内周穴ノミ掘削	砂砂少し含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	10片	
833	172	106	SP0063		掘削	26.0	17.0			外周ノミノミ、内周掘削	砂砂少し含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	掘削下半欠損	
834	172		SP0062		掘削					ノミ	砂砂少し含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	12片	
835	172		SP0031		掘削					内周掘削	砂砂少し含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	16片	
836	172	189	SP0080		掘削					内周穴ノミ	砂砂少し含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	16片	
837	172	189	SP0080		掘削					外周掘削、内周掘削	砂砂少し含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	下部欠損	
838	172	189	SP0080		掘削					外周掘削、内周掘削	砂砂少し含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	上部欠損	
839	172		SP0086		掘削					内周掘削、内周ノミ	砂砂少し含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部欠損	
840	172		SP0472		掘削					外周掘削	砂砂少し含む	10YR6/2.3、黄褐色	良好	口縁部欠損	
841	172		SP0602		掘削					口縁部掘削	砂砂少し含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	口縁部欠損	
842	172		SP0189		掘削					掘削(2箇所の内、外周掘削、内周ノミ)	砂砂少し含む	5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部	
843	172		SP0012		掘削					掘削(1箇所の内)	砂砂少し含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部	
844	172		SP0042		掘削					外周掘削、内周ノミ	砂砂少し含む	7.5YR7/2.3、灰黄色	良好	口縁部欠損	
845	172		SP0031		掘削					内周掘削	砂砂少し含む	7.5YR7/2.3、灰黄色	良好	口縁部	
846	172		SP0572		掘削					内周掘削	砂砂少し含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	口縁部欠損	
847	172		SP0297		掘削					内周掘削	砂砂少し含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	口縁部欠損	
848	173		漆黒陶	器類	土師器(平)	(10.6)			(3.8)	??	焼土、わずかに赤褐色の灰を含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部14残存	
849	173		漆黒陶	O-4区	土師器(高)				(3.1)	??	金銅屑を含むわずかに赤く含む	黄褐色	良好	胴部	
850	173		漆黒陶	M-20区	灰土土師器(平)	(14.6)				内周-口縁部外周部、口縁部	砂砂少し含む	10YR4/1、灰白色	良好	口縁部14残存	
851	173		漆黒陶	S-25区	灰土土師器(平)	(24.0)			(4.2)	外周部??、内周部??、内周	粗砂粒・内穴石粒も多少含む	10YR6/2.1、黄褐色、一部2.5YR6/2.1、赤褐色	良好	口縁部1/4残存	
852	173		漆黒陶	N-20区	灰土土師器(平)	(20.8)			(1.7)	口部?	粗砂粒わずかに含む	7.5YR7/2.3、灰黄色	良好	口縁部1/4残存	
853	173		漆黒陶	S-22区	灰土土師器(平)				(7.2)	口縁部外周部、内周部、内周部	粗砂粒少量含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部小欠損	
854	173		漆黒陶	M-20区	灰土土師器(鉢)	(11.8)			(5.5)	外周部??、内周部?	粗砂粒やや多く含む	5YR7/4、黄褐色	良好	胴部1箇所、口縁部全欠損	
855	173		漆黒陶	O-23区	灰土土師器(鉢)	(13.3)			(5)	胴部外周部、内周部、口縁部外周部	砂粒・金銅屑も多少含む	5YR6/4、黄褐色	良好	口縁部14残存	
856	173		漆黒陶	O-21区	灰土土師器(鉢)	(21.6)			(10)	外周部??、内周部??	粗砂粒多く含む	8.5YR6/2.1、黄褐色	普通	口縁部14残存	
857	173		漆黒陶	S-24区	灰土土師器(鉢)				8.7	(4.9)	??	粗砂粒・赤褐色も多少含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	やや不貞	底面4残存
858	173		漆黒陶	O-24区	灰土土師器(鉢)				(6)	外周部多少含む、内周部?	粗砂粒・金銅屑も多少含む	5YR7/4、黄褐色	良好	口縁部小欠損	
859	173		漆黒陶	P-25区	灰土土師器(鉢)				(5.1)	内周部??、内周	砂粒・金銅屑も多少含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部小欠損	
860	173		漆黒陶	O-22区	灰土土師器(鉢)	(10.6)				外周部??、内周部??	砂粒・金銅屑も多少含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部一箇所1/2残存	
861	173		漆黒陶	O-24区	灰土土師器(鉢)				(5.3)	胴部内周部?	粗砂粒・赤褐色も多少含む	5YR7/4、黄褐色	良好	口縁部小欠損	
862	173		漆黒陶	N-20区	灰土土師器(鉢)				(7.5)	(2.7)	胴部内周部、内周部?	粗砂粒・赤褐色も多少含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	底面12残存
863	173		漆黒陶	P-21区	灰土土師器(鉢)				(21.3)	(5.3)	胴部	砂粒・金銅屑も多少含む	7.5YR7/2.3、灰黄色	良好	胴部外周部1/2残存
864	173		漆黒陶	P-20区	灰土土師器(鉢)	(33.5)			(10.3)	口縁部-胴部内周部+内周	砂粒・金銅屑も多少含む	7.5YR6/2.1、黄褐色、一部5YR7/4、黄褐色	良好	口縁部14残存	
865	173		漆黒陶	Q-21区	灰土土師器(鉢)				7.8	(6.4)	胴部内周部、内周部??、外周部??	粗砂粒・赤褐色も多少含む	7.5YR4/1、黄褐色	良好	底面4残存
866	173		漆黒陶	N-24区	土師器(平)	303.2			最大厚	??	粗砂粒少量含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	土器片利用	
867	176		SR491		灰土土師器(鉢)	(28.6)			(15.0)	外周ノミ掘削、内周部、内周部	粗砂粒・赤褐色も多少含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	胴部14残存	
868	176		SR492	R-6	灰土土師器(鉢)	(24.0)			(13.3)	口縁部掘削、胴部ハコ目、内周部ハコ目	粗砂粒少量含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部一箇所1/2残存	
869	176		SR492	R-2	灰土土師器(鉢)	12.3	13.85		13.65	口縁部掘削、胴部ハコ目、内周部ハコ目	粗砂粒少量含む	7.5YR6/2.1、黄褐色	良好	口縁部一箇所1/2残存	
870	176		SR492	R-4	土師器(平)	(18.2)			(7.3)	口縁部掘削、胴部ハコ目	粗砂粒・金銅屑・内穴石も多少含む	10YR6/2.1、黄褐色	良好	胴部14残存	
871	176		SR492	R-5	土師器(平)	403.2	16.4		(10.2)	外周ノミ掘削、内周部、内周部	粗砂粒・赤褐色も多少含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	胴部全欠損	
872	176		SR492	R-1	灰土土師器(鉢)	(10.8)			(12.0)	外周ノミ掘削、内周部	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2.3、灰黄色	良好	胴部14残存	



Tab.4-3 5/ 面出土木製品調査表

調査番号	Fig.	PL.	出土場所	種類	数量m(口)以内-定				特徴	木部材	備考
					高	幅	厚	重			
W1	86	SB579	遺構	枕	(19.2)			(14.7)			
W2	86	SB579	遺構	枕	28.2	17.5	3.8				腐蝕
W3	86	SB579	遺構	枕	(13.7)			(14.7)			漆研材
W4	86	SB579	遺構	枕	22.5	14.1	5.3				腐蝕
W5	86	SB579	遺構	枕	39.8	18.0	3.8				腐蝕
W6	86	SB579	遺構	枕	31.2	(18.3)	4.6				腐蝕
W7	86	SB579	遺構	枕	31.5	18.2	2.8				腐蝕
W8	86	SB579	遺構	枕	30.8	17.4	4.3				腐蝕
W9	86	SB579	遺構	枕	25.4	(15.0)	3.8				腐蝕
W10	86	SB584	付随	枕	(18.3)				18.8	クスノキ科A	漆研材
W11	86	SB584	遺構	枕	36.3	17.2	7.3				腐蝕
W12	86	SB584	遺構	枕	28.4	14.5	4.5				クスノキ属
W13	86	SB584	遺構	枕	30.8	20.8	4.3				クスノキ属
W14	86	SB584	付随	枕	(28.2)				18.7		漆研材
W15	86	SB584	遺構	枕	30.6	17.5	2.7				クスノキ属
W19	86	SB584	付随	枕	(21.8)				16.4		漆研材
W17	87	SB589	遺構	枕	34.8	18.3	3.5				腐蝕
W18	87	SB589	遺構	枕	33.1	18.8	4.3				腐蝕
W19	87	SB589	遺構	枕	37.8	18.5	4.1				腐蝕
W20	87	SB589	遺構	枕	32.5	15.8	2.7				腐蝕
W21	87	SB589	遺構	枕	32.8	18.4	3.8				腐蝕
W22	87	SB589	遺構	枕	28.7	23.8	4.2				腐蝕
W23	87	SB589	遺構	枕	25.7	18.2	6.3				付随
W24	87	SB589	遺構	枕	33.76	15.1	7.8				付随
W25	87	SB589	遺構	枕	(40.3)	7.7	2.7				付随
W26	87	SB589	遺構	枕	(26.1)	12.0	4.7				付随
W27	87	86	SB589	遺構	38.5	18.3	5.5				組合せ式
W28	87	86	SB589	遺構	43.8	11.2	8.2				(漆研材)
W29	87	86	SB589	遺構	58.2	13.0	8.2				組合せ式
W30	87	86	SB589	遺構	58.0	8.8	6.1				漆研材
W31	87	86	SB589	遺構	44.7	13.8	7.7				組合せ式
W32	86	SB589	付随	(28.2)				12.0			組合せ式
W33	86	SB589	遺構	43.75	11.2	8.8					組合せ式
W34	86	SB589	遺構	38.0	18.5	8.8					組合せ式
W35	86	SB589	付随	(28.2)				15.3			漆研材
W36	86	SB589	遺構	38.3	18.7	7.1					組合せ式
W37	86	SB589	付随	(18.2)				12.3			漆研材
W38	86	SB589	遺構	(28.8)	(7.8)	8.1					組合せ式
W39	86	SB589	付随	(28.8)				13.4			漆研材
W40	86	SB589	遺構	38.3	11.4	8.8					コナラ属コナラ属 コナラ属
W41	86	SB589	付随	(28.1)				10.4			漆研材
W42	86	SB589	遺構	(28.0)	8.0	4.8					組合せ式
W43	86	SB589	付随	(21.7)				18.7			漆研材
W44	86	SB589	付随	(42.7)				19.0			(アカガシ属)
W45	86	86	SB589	付随	(27.8)	方幅17.8	方幅30.4				鉄製合子文様
W46	86	86	SB589	遺構	28.7	13.5~14.9					
W47	86	SB589	遺構	8.0	14.2	1.8					付随
W48	100	86	SB589	付随	(138.1)	18.5	2.7				
W49	100	86	SB589	付随	(78.8)	(21.6)	9.3				付随
W50	101	86	SB589	遺構材	(28.7)			8.2X4.8cm			広葉樹
W51	101	86	SB589	遺構材	(28.2)			6~6cm			広葉樹
W52	101	86	SB589	遺構材	18.7			6.2~7.8			広葉樹
W53	101	86	SB589	遺構材	18.4			6.2~7.3			樹皮が剥がれた 付随
W54	101	86	SB589-4E	枕	(78.8)			6.2~9			ツバノ木属
W55	102	86	SB589	遺構材	(118.8)			12.8~13.1			漆研材
W56	102	86	SB589	遺構材	(188.8)			厚径10mm~			漆研材
W57	102	86	SB589	遺構材	245.7			8.8~9.5			漆研材
W58	102	86	SB589	遺構材	284.8			7.5~9			漆研材
W59	118	86	SB589	又蓋	(33.0)	(3.8)	0.8				コナラ属アカガシ 属
W60	118	86	SB589	器具	(13.8)	(13.0)	1.2				コナラ属アカガシ 属
W61	182	86	SB589	遺構	48.1		7.8~8.3				マツ属
W62	187	86	SB589	遺構	18.0	8.0	0.8				スギ
W63	187	86	SB589	遺構	17.7	5.7	0.8~1.0				スギ
W64	187	86	SB589	遺構	(17.8)	2.2	0.2				杉葉付
W65	187	86	SB589	遺構	(13.4)	2.7	1.8				漆研材
W66	187	86	SB589	遺構	(28.1)	(7.8)	1.1				ムクロシ
W67	187	86	SB589	遺構	78.4	7.8	3.2				シラカシ
W68	187	86	SB589	遺構	111.4	15.7	2.8				スギノイ
W69	170	104	SB290	付随	8.0	1.2	0.8				漆研材

## 報告書抄録

書名ふりがな	しもつきぐましいいせきV		
書名	下月限C遺跡V		
副書名	福岡空港周辺整備工事に伴う下月限C遺跡6次発掘調査報告 本文編		
巻次	V		
シリーズ書名	福岡市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	839		
編者名	山崎龍雄・上角智希		
著者名	星澤一男・住藤洋一郎・高橋敦・所一男・新山雅広・三村昌史・山形秀樹・上角智希・山崎龍雄		
編集機関	福岡市教育委員会（埋蔵文化財課）		
発行機関	福岡市教育委員会		
機関所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号		
発行年月日	20050331		
遺跡名ふりがな	しもつきぐましいいせき		
遺跡名	下月限C遺跡V	北緯（日本測地系）	33°34' 02"
所在地ふりがな	ふくおかげんふくおかしはかたくつきぐま		
所在地	福岡県福岡市博多区月隈4丁目	東経（日本測地系）	130°27' 47"
市町村コード	40135	北緯（世界測地系）	33°34' 13"
遺跡番号	022625	東経（世界測地系）	130°27' 38"
調査原因	調査理由	調査期間	20000401～20010330
調査原因	調査理由	調査面積	10,710㎡
種別	集落 倉庫 水田 河川		
主な時代	弥生時代 古墳時代 奈良時代～中世		
主な遺構	竪穴住居・独立柱建物・井戸・土坑・橋列・杭列・河川・溝・堰・護岸遺構・水田		
主な遺物	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・鉄斧・土製品・石製品・木製品・建築部材		
特記事項	弥生時代集落・桑屋水田・古代祭祀遺物・中世集落		

## 下月限C遺跡

## V

—本文編—

福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書  
（第839号）編集・発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神・丁H8-1  
平成17年3月31日  
☎092（711）4667印刷 株式会社マリックス  
福岡市南区水戸2-11-1マリックスビル